

オーナーズマニュアル

MULTISTRADA 950S



オーナーズマニュアル

日本語

MULTISTRADA 950S

本取扱説明書はモーターサイクルを構成する一部であり、使用期間中はモーターサイクルと併せて保管してください。

所有者が変更される場合は、本取扱説明書も併せて新しい所有者に譲渡してください。

本取扱説明書は大切に保管してください。損傷や紛失した場合は、速やかに Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターに新しい取扱説明書をご請求ください。

ドゥカティモーターサイクルの品質と安全性は、デザイン、装備、アクセサリーの開発に伴い絶えず進化しています。本取扱説明書には印刷の時点での最新情報が記載されていますが、Ducati モーターホールディング社は本書内容を予告なしにいつでも変更する権利を有します。そのため、お客様がお持ちのモーターサイクルは本書に記載する参照図と異なる場合があります。

本マニュアルの全部または一部を複製、配布することは禁じられています。すべての権利は Ducati モーターホールディング社に帰属しており、理由を明記したうえで(書面による)許可の申請をしなければなりません。

楽しいライディングを！

目次

はじめに	8
安全性ガイドライン	8
本マニュアルで使用されている警告シンボル	9
用途	10
ライダーの義務	11
ライダーの教育	12
服装	13
安全のための"ベストプラクティス"	14
燃料の補給	16
最大積載時の運転	17
車両への積載に関する注意	17
危険物 - 警告	18
車両識別番号	20
エンジン識別番号	21
オプション / カスタマイズパック	22

インストルメントパネル (ダッシュボード)	31
インストルメントパネル	31
取扱説明書内で使用される頭字語および略語	35
技術用語集	35
機能ボタン	38
パラメーターの設定 / 表示	40
主な機能とサブ機能	52
エンジン回転数表示 RPM	54
車両スピード	56
燃料レベル	57
エンジンクーラント温度	58
時計	59
ライディングモード (Riding Mode)	60
ABS	66
DTC	73
DQS	79
車両のセットアップ	81
DSS	84
ギア	89
オドメーター (TOT)	90
メニュー機能	91
航続可能距離 (RANGE)	93
平均燃費 (CONS.AVG 1)	94
トリップメーター 1 (TRIP 1)	96

トリップタイム (TRIP TIME 1) 97
平均スピード (SPEED AVG 1) 98
トリップメーター 2 (TRIP 2) 100
瞬間燃費 (CONS.) 101
外気温 (T-AIR) 102
トリップメーター (TRIP MASTER) 103
プレーヤー操作 (PLAYER) 105
通話操作 (LAST CALLS) 106
タイヤ空気圧低下表示 (TIRE PRESSURE) - アクセサリー
ー 107
ABS の起動/解除 109
設定メニュー (SETTING MENU) 111
ライディングモードのパーソナライズ (Riding Mode) 114
ライディングモードのパーソナライズエンジン調整 117
ライディングモードのパーソナライズ DTC レベルの設定 119
ライディングモードのパーソナライズ ABS 調整 122
ライディングモードのパーソナライズ : DQS 起動/解除 125
ライディングモードのパーソナライズ DSS サスペンション調整 128
ライディングモードのパーソナライズ車両セットアップ (Load Mode) 132

ライディングモードのパーソナライズデフォルト設定の回復 (DEFAULT) 136
ライディングモードのパーソナライズデフォルト設定の回復 (ALL DEFAULT) 138
表示モード設定 (Info Mode) 139
PIN CODE 141
PIN CODE の変更 146
LAP 152
バックライトの設定 (Backlight) 158
日付の設定 (Date and Clock) 160
時計の設定 (Date and Clock) 163
単位の設定 (Units) 166
サービス期限の表示 (Service) 171
タイヤおよび減速比のキャリブレーション (Tire Calibration) 172
車両セットアップの設定 (Load Mode) 176
Bluetooth デバイス設定 (Bluetooth) 178
空気圧センサー基準空気圧低下値設定 (Tyre Pressures) - アクセサリー 187
ターンインジケーター自動解除の操作 (Turn indicators Off) 190
情報 (Info) 192
インフォテインメント 194
ラップタイム (LAP time) 203
クルーズコントロール 206
ビーカルホールドコントロール (VHC) 208

メンテナンス表示 (SERVICE) 209	フロントブレーキレバー 276
OIL SERVICE ゼロの表示 210	リアブレーキペダル 277
OIL SERVICE、SERVICE DATE、DESMO SERVICE 表示 211	ギアチェンジペダル 278
OIL SERVICE、SERVICE DATE、DESMO SERVICE カウントダウン表示 212	ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルの調整 279
注意 / 警告 (Warning) 213	
エラー表示 229	
ヒーテッドグリップ 230	主要構成部品 / 装備 281
サイドスタンド表示 232	車両上の配置 281
ライトコントロール 233	燃料フィラープラグ 282
フォグラント 241	シートロック 284
イモビライザーシステム 242	シート高の調整 287
キー 243	サイドスタンド 290
アクティブキーのバッテリー交換 246	Bluetoothコントロールユニット 292
キーの複製 250	電源ソケット 293
PIN CODE による車両の解除 251	センタースタンド 295
運転時に必要なコマンド 253	ドゥカティサイドバッグ取り付け 296
コマンド類の配置 253	サイドバッグの使用 301
Hands Free システム 254	USB コネクター 305
ハンドルバー左側スイッチ 268	ウインドスクリーン調節 306
クラッチレバー 272	フロントフォーク調整 307
ハンドルバー右側スイッチ 273	リアショックアブソーバーの調整 308
スロットルグリップ 275	車両設定の変更 309
	運転のしかた 310

慣らし運転の方法 310
走行前の点検事項 312
ABS 装置 314
エンジンの始動/停止 315
車両の発進 320
ブレーキ操作 321
車両の停止 323
パーキング 324
燃料の補給 325
付属アクセサリー 326

主な整備作業とメンテナンス 327
クーラントレベルの点検および補充 327
ブレーキ / クラッチフルードレベルの点検 329
ブレーキパッドの摩耗点検 331
バッテリーの充電 332
トランスミッションチェーン張力の点検 336
チェーンの潤滑 338
ナンバープレートランプ 343
ヘッドライトの光軸調整 344
リアビューミラーの調整 346
チューブレスタイヤ 347
エンジンオイルレベルの点検 350
スパークプラグの清掃と交換 352
車両の清掃 353

長期間の保管 355
重要注意事項 355

メンテナンスプログラム 356
メンテナンスプログラム：ディーラーで行うメンテナンス 356
メンテナンスプログラム：お客様が行うメンテナンス 360

テクニカル仕様 361
重量 361
サイズ 362
補給 364
エンジン 366
タイミングシステム 367
性能データ 368
スパークプラグ 368
燃料供給 368
ブレーキ 368
トランスミッション 369
フレーム 370
ホイール 370
タイヤ 370
サスペンション 371

エキゾーストシステム 371
カラーバリエーション 371
エレクトリカルシステム 373

定期点検メモ 379
定期点検メモ 379

はじめに

安全性ガイドライン

この度は Ducati 製品をご購入いただきありがとうございます。お客様を ドゥカティストの仲間としてお迎えできることは、私達にとって何よりの喜びです。この新しいバイクを日常的に利用されるだけではなく、ロングツーリングも楽しめることと思います。

Ducati モーター・ホールディング社は、そのライディングが常に快適で楽しいものであるよう願っております。

お客様のモーターサイクルは、Ducati モーター・ホールディング社の絶え間ない研究と開発から得られたものです。定期点検を必ず実施し、純正スペアパーツを使用することで品質を維持することが大切です。本取扱説明書には簡単なメンテナンス作業の実施方法が記載されています。より重要なメンテナンス作業は、

Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターでご覧いただけるワークショップマニュアルに記載されております。

お客様ご自身の安全のため、また製品の安全性、信頼性を保証するために、メンテナンスプログラムのすべ

ての作業を Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施していただくことを強くお薦めしますページ 0 参照。

Ducati の熟練したスタッフが、どのような整備作業にも対応できる専用器具と適切な工具を備え、最適な互換性、円滑な作動、ロングライフを保証する Ducati 純正パーツのみを使用し、最善のサービスを提供いたします。

すべての Ducati モーターサイクルには保証書が付属しております。

車両を競技やそれに類する目的に使用する場合は保証の対象外となります。

車両や部品の一部であっても改造または変更した場合、保証は適用されません。メンテナンスが正しく行われなかつたり不十分であった場合、また純正ではないスペアパーツや Ducati が承認していないスペアパーツが使用されている場合、車両に損傷を招いたり、期待される性能が得られないばかりでなく、保証が適用されなくなることがあります。

お客様とその他の人の安全を守ることは非常に重要です。お客様が責任を持ってモーターサイクルをご使用になられますようお願いいたします。

モーターサイクルを初めてご使用になる前に、本取扱説明書を最初から最後までよくお読みになり、記載されているガイドラインに正しく従ってください。正し

い使用方法とメンテナンスに関するすべての情報を得ることができます。車両について不明な点、さらに詳しくお知りになりたい点がある場合は、ご購入先の正規ディーラーにお問い合わせください。

本マニュアルで使用されている警告シンボル

お客様または他の人に負わせる可能性のある危険について、以下のような異なる形式で記載されています。

- モーターサイクルの安全性に関するラベル
- 注意シンボル、および警告または重要シンボルのうちの一つで表わされる安全性に関するメッセージ。

警告

これらの注意事項が守られない場合、ライダーまたは他の人の重大なけがや死亡事故を招くおそれがあります。

重要

車両や車両構成部品に損傷を与える可能性があります。

参考

作業上の追加注意事項。

文中的「右」、「左」の表記は、車両の進行方向に向かっての左右を意味します。

用途

!**警告**

本モーターサイクルはオンロードと軽度のオフロードでの使用が可能です。程度の激しいオフロードでの走行は推奨されません。車両のコントロールを失い事故を招く危険が高くなります。

!**警告**

本モーターサイクルでのトレーラーのけん引やサイドカーの取り付けは行わないでください。車両のコントロールを失い、事故を招くおそれがあります。

本モーターサイクルにはライダーが搭乗し、パッセンジャーを一人乗せることができます。

!**警告**

ライダー、パッセンジャー、荷物、アクセサリーを含めた走行時の総重量は、465kg/1025.15lbを越えてはいけません。

!**警告**

サイドバッグ、トップケース、タンクバッグの総重量が30kg(66lb)を超えないようにしてください。重量配分は以下のとおりです。

各サイドバッグにつき最大10kg(22lb)

トップケースは最大5kg(11lb)

タンクバックは最大5kg(11lb)

!**警告**

サイドバッグ、トップケース、およびタンクバッグ装着時の最高速度は180km/h(112mph)を超えないでください。いずれの場合も法定速度を遵守してください。

!**重要**

ぬかるみや乾燥したほこりっぽい環境など過酷な状況でモーターサイクルを使用すると、トランスミッション、ブレーキシステム、エアフィルター等の部品の摩耗を早める可能性があります。エアフィルターが汚れていると、エンジンが損傷するおそれがあります。そのため規定されている定期点検の間隔より早く、定期点検や摩耗しやすい部品の交換が必要な場合があります。

ライダーの義務

運転者は運転免許証を受けていなければなりません。

!**警告**

無免許運転は違法です。こうした行為は法律で罰せられます。モーターサイクルを運転する前に、運転免許証を携帯していることを必ず確認してください。経験の浅い運転者や運転免許証を有しない人に運転をさせないようにしてください。

アルコールまたは薬物の影響を受けている状態で運転しないでください。

!**警告**

アルコールや薬物の影響が残っている状態で運転するのは違法です。こうした行為は法律で罰せられます。

医師から副作用についての説明を受けずに、運転前に薬を服用しないようにしてください。

!**警告**

薬によっては眠気やその他の症状を引き起こすことがあります。運転者が思うようにモーターサイクルを操縦できず、制御不能に陥り事故を招くおそれがあります。

一部の国では保険への加入が義務付けられています。

!**警告**

現地の法律をご確認ください。保険に加入し、保険証明書はモーターサイクルの他の書類と一緒に大切に保管してください。

運転者および同乗者の安全を守るため、一部の国では基準適合ヘルメットの着用が法律で義務付けられています。

!**警告**

現地の法律をご確認ください。ヘルメットを着用せずに運転すると罰則が科せられることがあります。

! 警告

事故が起こったときヘルメットを着用していないと、重大な傷害を受ける危険性が高くなり、最悪の場合死に至ることがあります。

! 警告

ヘルメットが安全規格に適合していること、十分な視野が取れていること、頭に合ったサイズであること、ご使用になる国の基準適合マークが貼付されることを確認してください。道路交通法は各国で異なります。モーターサイクルを運転する前に現地の法律を確認し、必ずそれに従ってください。

ライダーの教育

多くの事故は経験不足のために起こります。運転、操作、ブレーキは他の車両とは違う方法で行わなければなりません。

! 警告

ライダーの経験不足や車両の不適切な使用は、コントロールを失い、死亡事故や重大な損傷の原因になるおそれがあります。

服装

モーターサイクルを運転する際に着用する装備は安全を確保する上で大変重要な役割を果たします。モーターサイクルは自動車のように乗員を衝撃から守ることはできません。

適切な装備とは、ヘルメット、目を保護するもの、グローブ、ブーツ、長袖ジャケット、ロングパンツからなります。

- ヘルメットは「ライダーの義務」に記載されている要件を満たしていなければなりません。シールドが付いていないモデルの場合は、適切なゴーグルを着用してください。
- グローブは革製もしくは摩擦に強い素材を用いたもので、5本指のものを着用してください。
- 運転する際のブーツやシューズは、アンチスリップソールとアンクルプロテクターを装備しているものを着用してください。
- ジャケットとパンツ、もしくはプロテクトスーツについては、革製のものか摩擦に強い素材を用いたもので、視認性を高めるカラーインサートが付いているものを着用してください。

!**重要**

車両の部品に巻き込まれるおそれがあるような、ゆったりとした衣類やアクセサリーの着用は避けてください。

!**重要**

安全のために夏冬季節に関係なく適切な装備を着用してください。

!**重要**

パッセンジャーも安全のため、適切な服を着用してください。

安全のための"ベストプラクティス"

モーターサイクルの使用前後および使用中には、人の安全を確保し、モーターサイクルを最善の状態に維持するために大切な、簡単にできる作業は必ず実行してください。

!**重要**

慣らし運転期間中は、本冊子の "使用規定" の章に記載されている指示に従ってください。

この条件が遵守されなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮については、Ducati モーター・ホールディング社はいかなる責任も負うものではありません。

!**警告**

運転する上で必要なコマンド類について十分な知識がない状態で運転を行わないでください。

エンジンを始動する前に、本書の「エンジン始動前の点検」で定められた点検を必ず実施してください。

!**警告**

これらの点検を怠ると、車両に損傷を与え、ライダーやパッセンジャーに重大な傷害を招くおそれがあります。

!**警告**

エンジンの始動は必ず換気の良い適切な場所で行ってください。閉めきった場所では絶対にエンジンを始動しないでください。

排出ガスは有毒です。短時間で意識を失ったり、さらには死に至る危険性があります。

走行中は適切な姿勢を保ち、パッセンジャーも同様に正しい姿勢で乗車していることを確認してください。

!**重要**

ライダーはハンドルから絶対に手を離さないでください。

!**重要**

走行中、ライダーおよびパッセンジャーは必ず足をペダルに乗せてください。

!**重要**

パッセンジャーはシート下のフレームの所定のハンドルバーを常に両手で握ってください。

!**重要**

私有地や駐車場からの出口、または高速道路の入口などの交差点では十分に注意してください。

! 重要

相手から良く見えるように心がけ、前方車両の死角に入って走行することは避けてください。

! 重要

右左折や走行車線を変更する際は、常に十分な余裕を持ってターンインジケーターで意思表示を行ってください。

! 重要

モーターサイクルはサイドスタンドを使用して、他の邪魔にならないように駐車してください。路面の悪い場所や柔らかい場所には駐車しないでください。モーターサイクルが転倒する危険があります。

! 重要

タイヤは定期的に点検し、特に側面に傷やヒビがないか、突起、広範囲のシミ、内部の損傷を表すような箇所がないかチェックしてください。損傷が著しい場合はタイヤを交換してください。

トレッドに入り込んだ石や異物は取り除いてください。

! 警告

エンジン停止後でもエンジン、エキゾーストパイプ、サイレンサーは高温な状態が続きます。身体が触れないよう十分注意し、車両を木材や木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにしてください。

燃料の補給

燃料の補給は屋外で、エンジンが停止している状態で行います。
給油中は絶対に喫煙せず、火気を近付けないでください。

エンジンおよびエキゾーストパイプに燃料がかからないように注意してください。

給油の際は燃料タンクを完全に満タンにしないでください。燃料レベルは燃料タンクの給油口より低くなければなりません。

給油中は燃料の蒸気をできるだけ吸いこまないようにし、目、皮膚、服に触れないようにしてください。

!**警告**

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料(E10)のみ使用することができます。

エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

!**警告**

燃料の蒸気を長時間吸い込み気分が悪くなった場合には、屋外にとどまり、医師に相談してください。目に入った場合は大量の水で洗い流し、皮膚に触れた場合は速やかに水と石鹼で洗ってください。

!**警告**

燃料は非常に引火しやすいため、間違って衣服に付着した場合には着替えてください。

最大積載時の運転

このバイクは最大積載時でも長距離を安全に走行できるように設計されています。

車両の重量配分は、安全基準を維持するため、また悪路走行や急な進路変更時のトラブルを避けるためにとても重要です。

⚠ 警告

サイドバッグ、トップケース、およびタンクバッグ装着時の最高速度は180 km/h (112 mph) を超えないでください。いずれの場合も法定速度を遵守してください。

⚠ 警告

最大許容重量を超えないようにしてください。
また以下に記載されている車両への積載に関する注意事項をよくお読みください。

車両への積載に関する注意

⚠ 重要

積み荷は車両の中心に近く、できる限り低い位置に配置してください。

⚠ 重要

車両が不安定になりますので、ステアリングヘッドやフロントマッドガード部に体積や重量のかさむものを固定しないでください。

⚠ 重要

バッグなどの荷物は車体にしっかりと固定してください。確実に固定されていないと、運転が不安定になる危険があります。

⚠ 重要

車両の可動部分の妨げになるおそれがありますので、フレームのすき間に絶対に物を挟まないでください。

⚠ 警告

タイヤの空気圧が適正であり、コンディションが良好であることを確認してください。

「タイヤ」の段落を参照してください。

! 重要

サイドバッグ(ドゥカティスペアーツサービスにてご注文いただけます)を取り付ける場合は、荷物や付属品等を重量に基づいて配分し、サイドバッグ内に均等に収納してください。各サイドバッグを専用のキーロックで閉じてください。

危険物 - 警告

使用済みエンジンオイル

! 警告

使用済みエンジンオイルが長期間わたり繰り返し表皮に触れると、上皮がんの原因になる場合があります。日常的に使用済みエンジンオイルを使用する場合、作業後すぐに水と石鹼で手を十分に洗ってください。お子様の手の届かないところに保管してください。

ブレーキダスト

ブレーキシステムの清掃に圧縮空気を噴射したり、乾いたブラシは絶対に使用しないでください。

ブレーキフルード

! 警告

車両のプラスチック、ゴム製部品、塗装された部品にブレーキフルードがかかると、部品が破損する原因になる場合があります。作業をおこなう場合は、毎回システムのメンテナンスを実施する前にきれいな布をこれらの部品の上にかけてください。お子様の手の届かないところに保管してください。

! 警告

ブレーキフルードは腐食性があります。万一目に入ったり肌に触れたりした場合は、流水でしっかりと洗い流してください。

クーラント

エンジンクーラントに含まれるエチレングリコールは特定の条件下において可燃性があり、その炎は肉眼では見えません。エチレングリコールが発火した場合、その炎が肉眼では見えないため重大な火傷につながるおそれがあります。

! 警告

エンジンクーラントがエキゾーストシステムやエンジン部品にかかるないようにしてください。

これらの部品はクーラントが発火するのに十分な熱を持っている場合があります。そのため、見えない炎で火傷を負うおそれがあります。クーラント(エチレングリコール)は皮膚刺激を起こすことがあります。また飲み込むと有害です。お子様の手の届かないところに保管してください。エンジンが熱いときは、ラジエーターキャップを外さないでください。クーラントは加圧された状態にあり、火傷を引き起こす原因となることがあります。

クーリングファンは自動的に起動しますので、手や衣類を近づけないでください。

バッテリー



警告

バッテリーは爆発性のガスを放出します。火花や炎、タバコを近づけないでください。バッテリーの充電中は作業エリア内の換気が十分に行われ、気温が40°C(104°F)以下であることを確認してください。バッテリーを開封しないでください。バッテリーにはバッテリー液やその他の液体を補充する必要はありません。

車両識別番号



参考 これらの番号は車両モデルを識別するもので、部品を注文する際にも必要です。

以下の欄に自身のモーターサイクルのフレーム番号を控えておくことをお勧めします。

フレーム N.

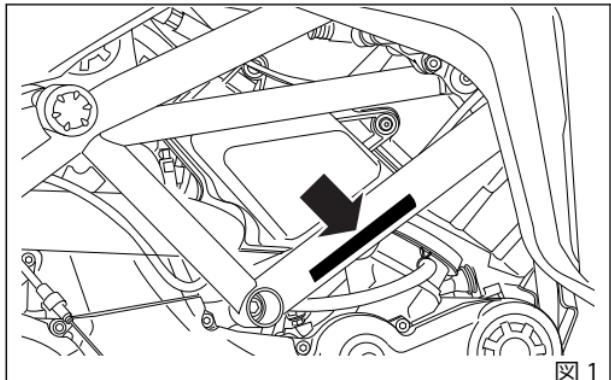


図 1

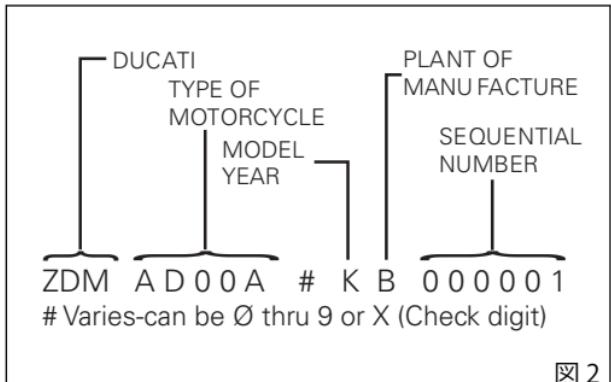


図 2

エンジン識別番号



参考 これらの番号は車両モデルを識別するもので、部品を注文する際にも必要です。

以下の欄に自身のモーターサイクルのエンジン番号を控えておくことをお勧めします。

エンジン N.

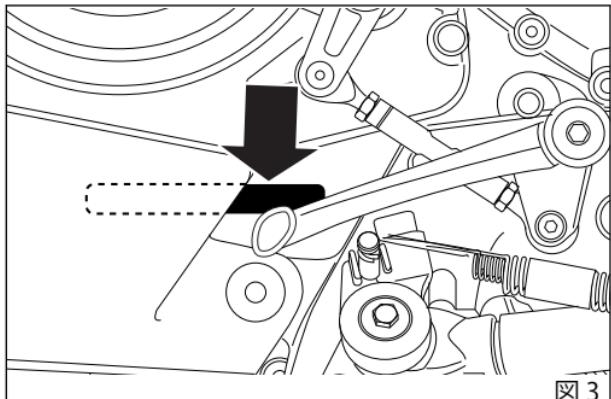


図 3

オプション / カスタマイズパック

4種類のカスタマイズパックはそれぞれが異なるバイクスピリットを表現するために考えられました。組み合わせを自由に選べる4種の装備であなたのパーソナリティを表現する Multistrada に仕上げます。

- TOURING
- SPORT
- URBAN
- ENDURO

本マニュアルに含まれている情報は Multistrada 1260 に関するものになります。それ以外のカスタマイズバージョン (TOURING、SPORT、URBAN、ENDURO) に関する情報については、Multistrada 1260 と異なる場合に限り表記されます。

TOURING

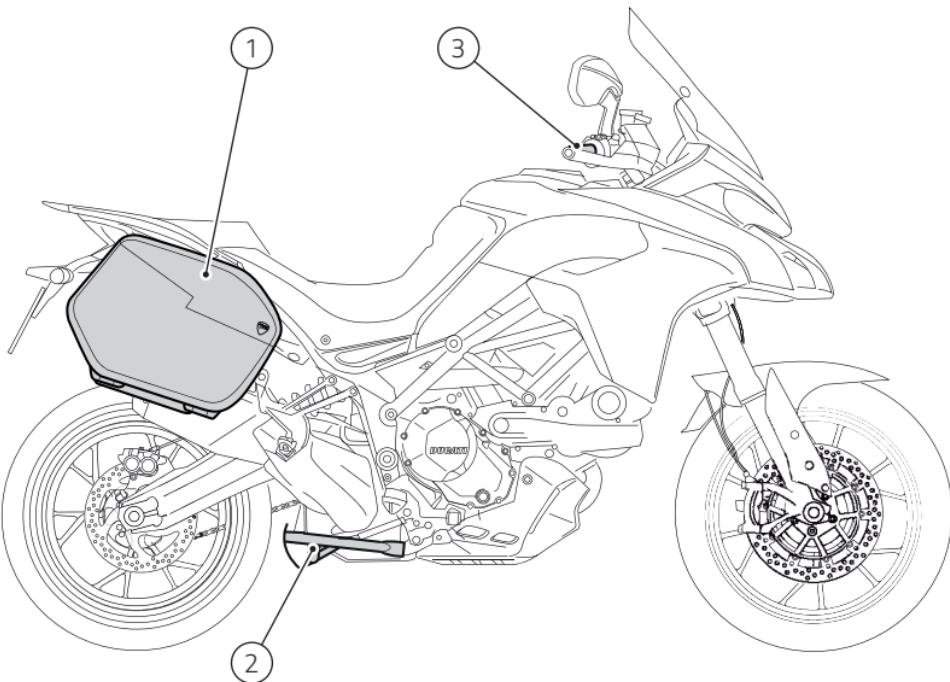


図 4

TOURING

- 1) サイドケースセット 総容量 58 リットル(12.76 UK ガロン)(15.32 US ガロン)
- 2) センタースタンド
- 3) ヒーテッドグリップ

SPORT

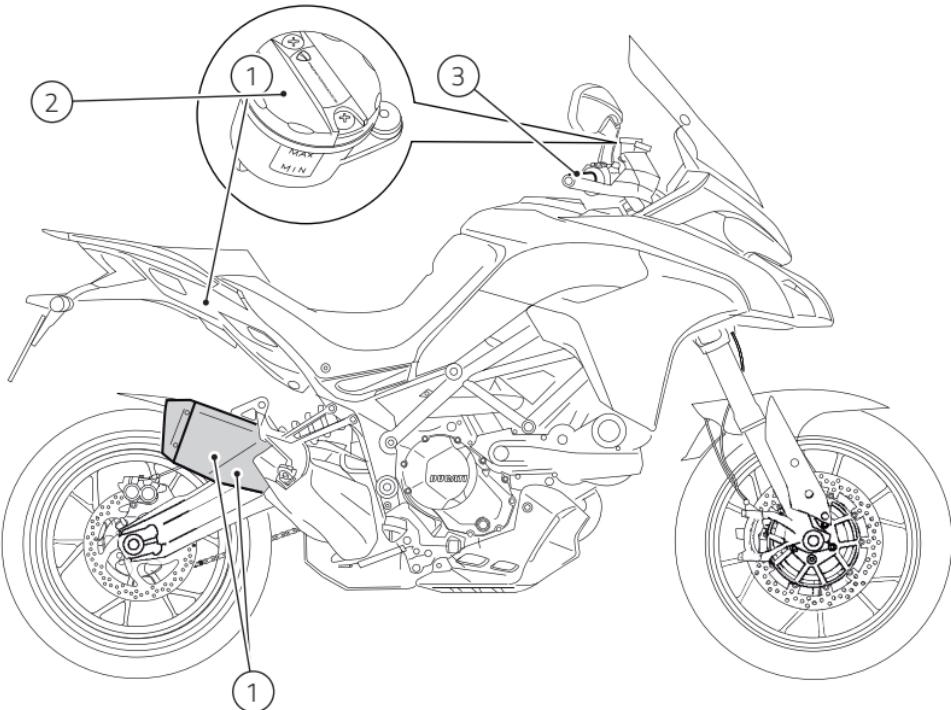


図 5

SPORT

- 1) 基準適合 "テルミニヨーニ" 製カーボンサイレンサー (欧洲規格に準拠)
- 2) ビレットアルミニウム製ブレーキ/クラッチフレードタンクカバー

URBAN

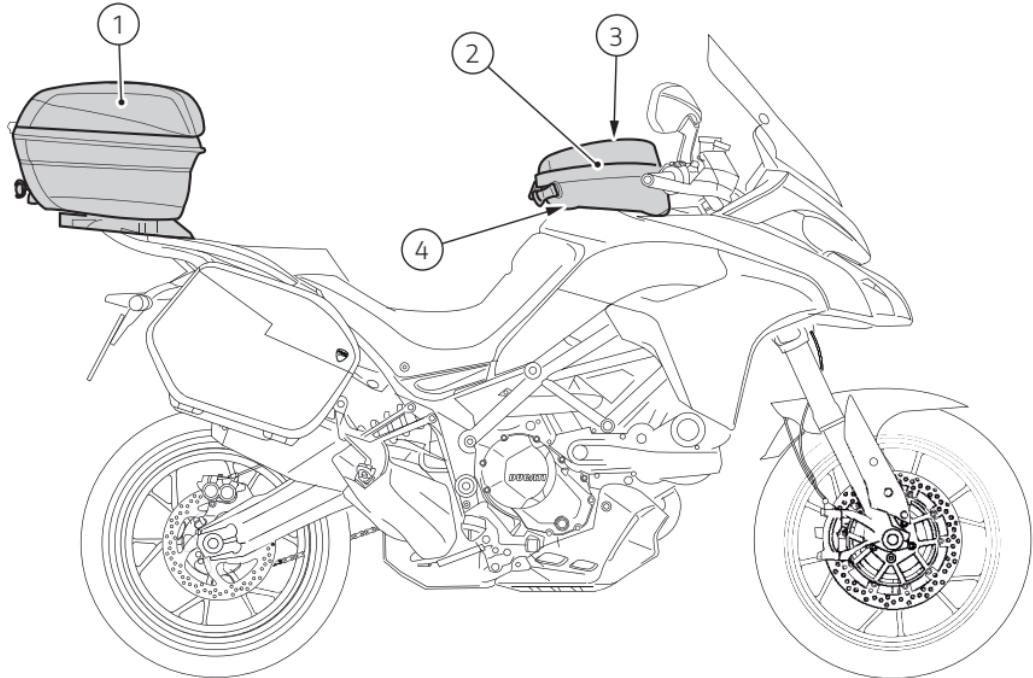


図 6

URBAN

- 1) トップケース 容量 48 リットル (12.98 ガロン)
- 2) セミハードタンクバッグ (クイック取付)
- 3) USB ハブ (電子機器充電用)
- 4) タンクバッグフランジ

ENDURO

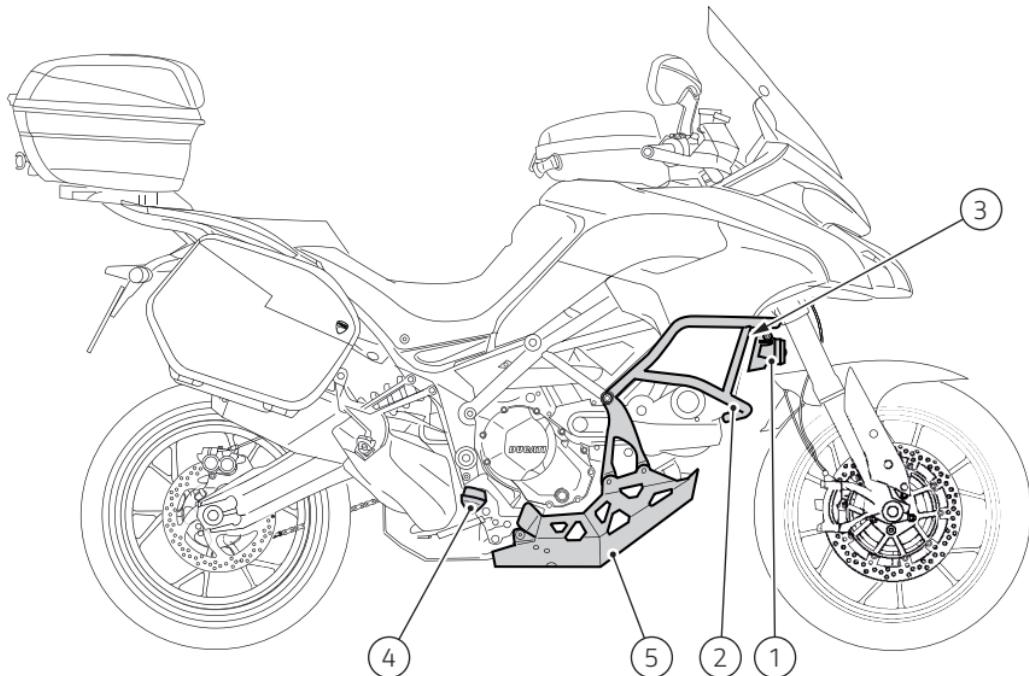


図 7

ENDURO

- 1) アディショナルランプ
- 2) スチールパイプ製エンジンガード
- 3) ラジエータープロテクショングリル
- 4) オフロード仕様フットペグセット
- 5) サイドスタンドエンド

インストルメントパネル(ダッシュボード)

インストルメントパネル

- 1) ディスプレイ。
- 2) ニュートラルランプ N (緑)。
ギアポジションがニュートラルの時に点灯します。
- 3) クルーズコントロールランプ (緑)
クルーズコントロールシステムの作動時に点灯します。
- 4) ハイビーム表示灯  (青)
ハイビーム点灯時およびフラッシュ起動時に点灯します。
- 5) リザーブ燃料警告灯  (琥珀色)
燃料レベルがリザーブ状態になると点灯します。点灯時点の燃料残量は約 4 リットルです。
- 6) ターンインジケーター表示灯  (緑)
ターンインジケーターを ON にすると点滅します。
- 7) エンジンオイル圧警告灯  (赤)
エンジンオイルの圧力が低下すると点灯します。
"KEY-ON" 時に点灯しますが、エンジンを始動してから数秒後に消灯します。エンジン温度が高い時に、場合によって数秒間点灯することがありますが、回転数が上がると消灯します。

合によって数秒間点灯することがありますが、回転数が上がると消灯します。



重要

エンジンオイルランプが点灯し続ける場合は、エンジンが破損するおそれがありますので車両を使用しないでください。

8) DTC ランプ (琥珀色)

DTC システムの起動または解除を表示します。

- ランプ OFF : DTC 機能作動中
- ランプ ON 点滅 : DTC は起動しているが、性能が制限されている
- ランプ ON : コントロールユニット不具合のため、DTC は解除されているか作動していない

9) "エンジン診断 - MIL" ランプ (琥珀色)

エンジンに関連するエラーがあると点灯しますが、場合によってはエンジン停止につながることもあります。

10) ABS ランプ (琥珀色)

ABS 機能の状態を示します。

- ランプ OFF : ABS 機能作動中
- ランプ ON 点滅 : ABS は自己診断中あるいは起動しているが、性能が制限されている

- ランプ ON : ABS コントロールユニット不具合のため、ABS が解除されているか作動していない

11) 一般的エラー警告灯

車両に関連するエラーがあると点灯、エンジンコントロールユニットとは異なるコントロールユニットに起因するエラーに対して点灯します。

12) DTC 介入 (琥珀色)

	DTC
介入なし	ランプ OFF
点火の進角カット	ランプ ON
燃料噴射カット	ランプ ON

13) OVER REV / イモビライザー停止

	Over rev
介入なし	ランプ OFF
第一起点値(リミッターに到達前 N RPM)	ランプ ON
リミッター	ランプ ON 点滅



参考

エンジンコントロールユニットの各キャリブレーションで起点値とリミッター値の設定が異なる場合があります。

	イモビライザー
車両 KEY-ON	ランプ OFF
車両 KEY-OFF	ランプ ON 点滅
24 時間以上車両 KEY-OFF	ランプ OFF

14) VHC ビークルホールドコントロール

VHC システムが起動すると点灯します。Multistrada が搭載する ABS にはビークルホールドコントロール (VHC) システムが組み込まれています。このシステムは積極的にリアブレーキをかけることで車両の停止した状態を保ちます。ランプは点滅ではなく点灯します。VHC システムがリアブレーキへの圧力を低下させる、すなわち車両の停止状態が解除される時にランプが点滅を始めます。ブレーキへの圧力は段階的に滑らかに解除されます。VHC システムの機能が停止するとランプも消灯します。

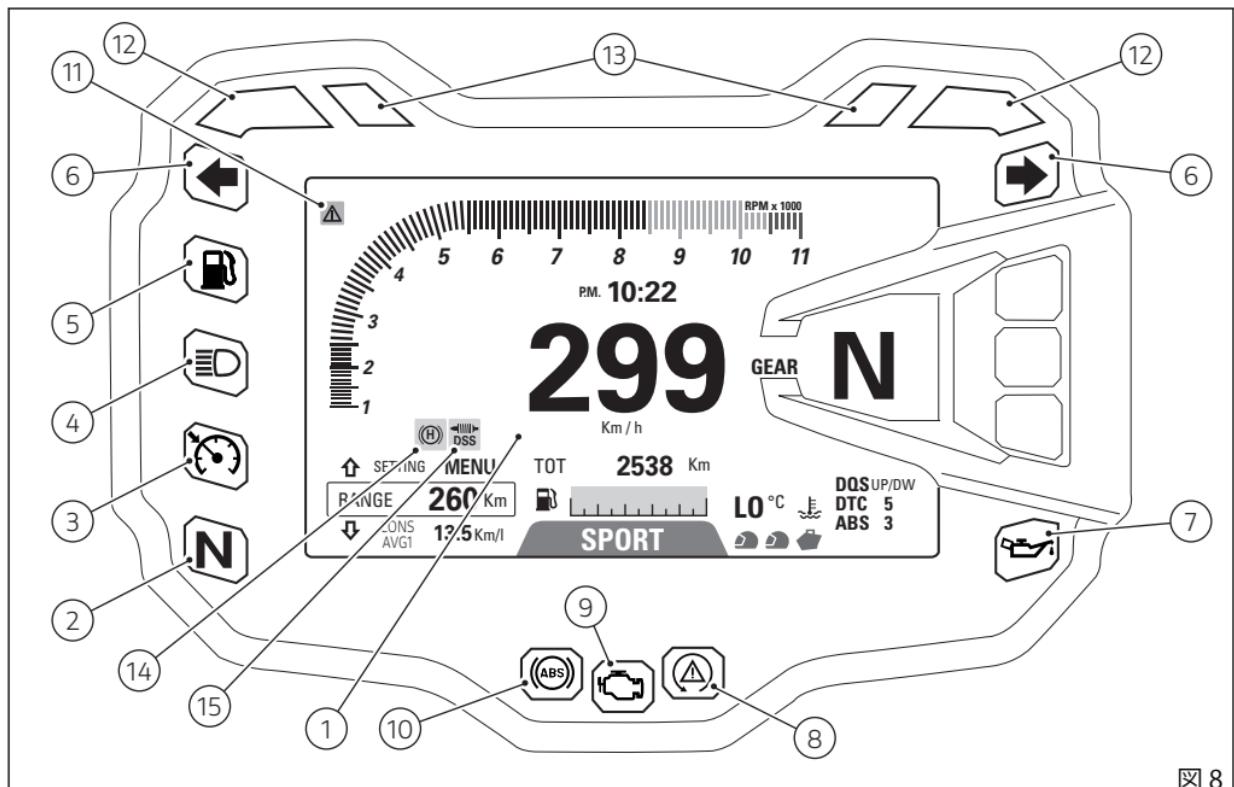
15) DSS ランプ (琥珀色)

DSS	
DSS システムが非作動	ランプ OFF
DSS システムの不具合発生	ランプ ON
DSS システムが作動	ランプ ON 点滅



重要

ディスプレイに“TRANSPORT MODE”的文字が表示されている場合は、直ちにドゥカティ正規ディーラーにご連絡ください。正規ディーラーにてこの項目を削除し、バイクの完全な機能の保証を受けてください。



取扱説明書内で使用される頭字語および略語

ABS

アンチロックブレーキシステム

BBS

ブラックボックスシステム

CAN

コントローラーエリアネットワーク

LIN

ローカルインターネットワーク

DSB

インストルメントパネル

DSS

ドゥカティスカイフックサスペンション

DTC

ドゥカティトラクションコントロール

ECU

エンジンコントロールユニット

GPS

グローバルポジショニングシステム

VHC

ビークルホールドコントロール

技術用語集

アンチロックブレーキシステム (ABS) 9.1ME

Multistrada 950 が搭載する ABS 9.1ME は、バイクの直立走行中に車輪がロックするのを防止するセーフティシステムです。さらに、Multistrada 950 が搭載する ABS は「コーナリング」機能を備えており、バイクを倒している時に、車両と路面状況により決定される物理的限界の範囲内で車輪のロックおよびスリップを防止します。

ブレーキング時の短い制動距離に加えて、可能な限り高い安定性を確保するために、Multistrada 950 の ABS では後輪のリフトアップ制御、前後輪連動ブレーキが作動します。

この機能には 3 通りのレベルが設定され、それぞれがひとつのライディングモードと連動しています。レベルの詳細については以降の章を参照してください。ABS システムは解除が可能です。

Multistrada 950 が搭載する ABS にはビークルホールドコントロール(VHC)システムが組み込まれています。このシステムを起動すると、車両を停止した状態に保ちます。これにより、再発進時にライダーはクラッチとスロットルの操作にだけ集中することができます。一方 VHC はリアブレーキの圧力を段階的に滑らかに解除します。

デスマドロミック可変タイミング (DVT)

DVT システムは、エンジン負荷と速度に応じて、カムシャフトの回転を調整してエキゾーストバルブとイン

テークバルブのタイミングを継続的に進角または遅角することで最善のタイミングに調節することができます。これにより低回転域においても最善のトルク曲線を実現し、あらゆる回転域での最大効率を確保しながら、高速走行時に極限の性能を発揮します。

ドゥカティクルーズコントロール

Multistrada は走行速度を一定に維持するドゥカティクルーズコントロールを搭載します。システムは 50 Km/h (30 mph) ~ 200 Km/h (125 mph) の範囲で起動して車両速度を制御します。

ドゥカティクイックシフト (DQS)

UP/DOWN 機能を備える DQS システムでは、クラッチを操作せずにシフトアップおよびシフトダウンが可能です。ペダルの作動機構に内蔵された双方向マイクロスイッチからなり、このマイクロスイッチがエンジンコントロールユニットにシフト操作に対応する信号を送信します。システムはシフトアップとシフトダウンで動作が異なります。シフトアップシステムでは点火進角と燃料噴射に作用し、シフトダウン時にはスロットルバルブオープニングを制御します。

ドゥカティスカイフックシステム (DSS)

Multistrada には新しいサスペンション制御システム DSS (ドゥカティスカイフックシステム) が搭載されて

います。DSS はサスペンションダンピング、つまりサスペンションの吸収能力に作用する力を制御するシステムです。車両のサスペンションにはダイナミック性能の点から通常 2 つの目的があります。車体 (ライダー) への影響を考慮して、路面の起伏を吸収すること、そしてホイールとアスファルトとの接地を高めることです。DSS システムには、性能を維持しながら通常のパッシブサスペンションで得られるコンフォートを向上させる目的があります。

ドゥカティトラクションコントロール (DTC)

ドゥカティトラクションコントロール (DTC) はリアホイールのスリップ制御を行い、8 つのレベルを基に機能します。各レベルでリアホイールのスリップに対して異なる許容値が設定されています。それぞれのライディングモードにはあらかじめ設定された介入レベルが割り当てられています。レベル 8 はごくわずかなスリップを検知しただけでシステムが作動します。一方熟練ライダー用オフロード走行向けのレベル 1 は許容値が高く設定されており、システムの介入が最小限に抑えられます。

慣性計測ユニット (IMU)

Multistrada は慣性計測ユニット (IMU) を装備する Bosch 慣性センサーを搭載しています。IMU は車両の横傾斜角および縦傾斜角を継続して監視します。ABS

とのインターフェースとして機能し、バイクのポジションに関係なくこれらのシステムが最大効率で動作できるようにします。

パワーモード

パワーモードは、ライダー自身のライディングスタイルと路面状況に合わせて出力レベルとパワーデリバリーを選択できるエンジンマッピングです。

3つのパワーモードがあり、それぞれがライディングモードと連動しています。

- LOW、穏やかなパワーデリバリー
- MED、穏やかなパワーデリバリー
- HIGH、瞬間的なパワーデリバリー

ライドバイワイヤ (RbW)

ライドバイワイヤシステムはスロットル開閉をコントロールする電子制御装置です。スロットルグリップとスロットルボディが機械的に接続されておらず、エンジンコントロールユニットがスロットルの開度をコントロールし、出力を調整します。

ライドバイワイヤにより選択したライディングモード(パワーモード)に合わせて出力とパワーデリバリーを変更することが可能になります。また、エンジンブレーキ(EBC)のタイムリーな管理が可能になるため、リアホイールのスリップ制御(DTC)に貢献します。

Riding Mode

ライダーは4つの初期設定(ライディングモード)からライディングスタイルや道路状況に最も適したモードを選択することができます。ライディングモードからエンジン出力(パワーモード)、およびABS、DTCの各介入レベルを瞬時に変更することができます。

選択可能な設定は、SPORT、TOURING、URBAN、ENDUROです。ライダーはそれぞれのライディングモードの初期設定を自由に変更することができます。

機能ボタン

1) コントロールボタン UP "▲"

インストルメントパネルのパラメーター設定および表示に使用するボタン "▲"。

2) コントロールボタン DOWN "▼"

インストルメントパネルのパラメーター設定および表示に使用するボタン "▼"。

3) フラッシュヤーボタン(図 10)

フラッシュヤーランプ機能ボタンは LAP 機能に使用する場合もあります。

4) メニュー決定 / 設定メニューに入るボタン

メニューの操作で決定するときに使用するボタン。

5) クルーズコントロールボタン - ON/OFF

クルーズコントロール機能の起動 / 解除に使用するボタン。

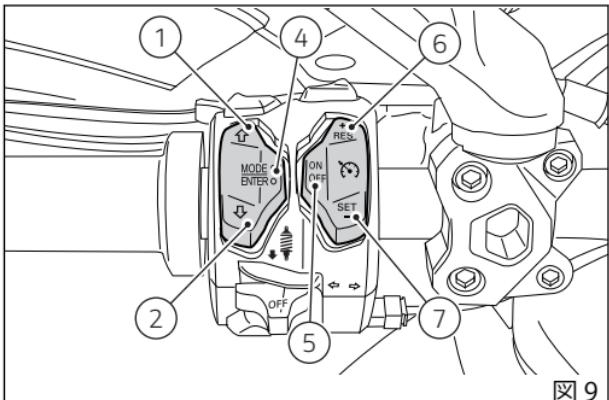


図 9

6) クルーズコントロールボタン - RES (レジューム) / + (増速) (図 9)
クルーズコントロール機能の設定速度を増速する場合に使用するボタン。

7) クルーズコントロールボタン - SET (設定) / + (減速) (図 9)
クルーズコントロール機能の速度を設定、および設定速度を減速する場合に使用するボタン。

8) ハザードボタン
4つのターンインジケーターの起動 / 解除に使用するボタン (ハザード機能)。

9) フォグランプボタン (オプション)
フォグランプ (オプション) の起動 / 解除に使用するボタン。

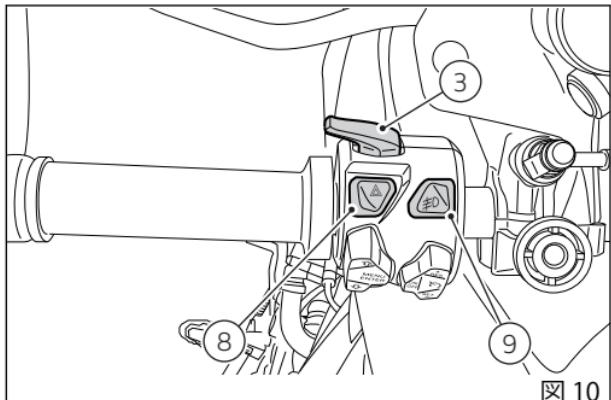


図 10

パラメーターの設定 / 表示

起動時、インストルメントパネルにDUCATIのロゴが表示され、LEDランプが2ステップで点灯します("初期点検")。

点検終了時、インストルメントパネルにはKey-OFF前に使用していた設定モード(TRACK、FULL、CITY、OFF ROAD)のメインスクリーンが表示されます。

点検中に車両速度が5 km/h(3 mph)(実速度)を超えると、インストルメントパネルは以下の点検を中断します。

- ディスプレイの点検。更新情報をスタンダードスクリーンに表示します。
- 警告灯の点検。その時点で実際に起動しているもののみ点灯します。

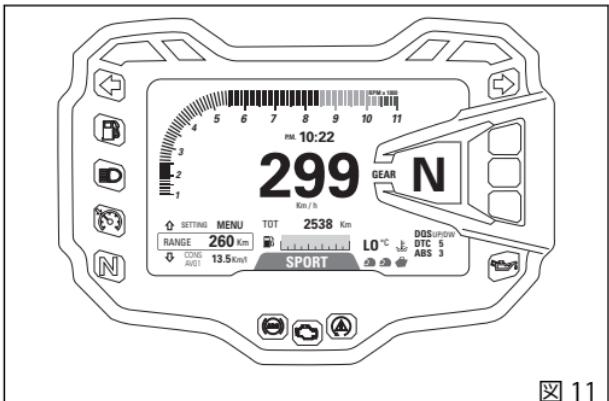


図 11

メインスクリーンのレイアウトには次の4種類があります。TRACK、FULL、CITY、OFF ROAD。

TRACK表示モードのメインスクリーンには以下の情報が表示されます。

- 1) 車両スピード
- 2) オドメーター
- 3) 燃料レベル
- 4) エンジンクーラント温度
- 5) 設定ライディングモード (Riding Mode)
- 6) 起動しているABSレベル、またはABS解除の表示
- 7) 起動しているDTCレベル、またはDTC解除の表示
- 8) 起動しているDQSレベル、またはDQS解除の表示
- 9) LOAD設定(車両セットアップ)
- 10) ギア表示
- 11) 時計
- 12) タコメーター
- 13) メニュー
- 14) クルーズコントロール表示
- 15) Bluetooth表示
- 16) LAP表示(起動している場合のみ)
- 17) フォグランプ(装備している場合)

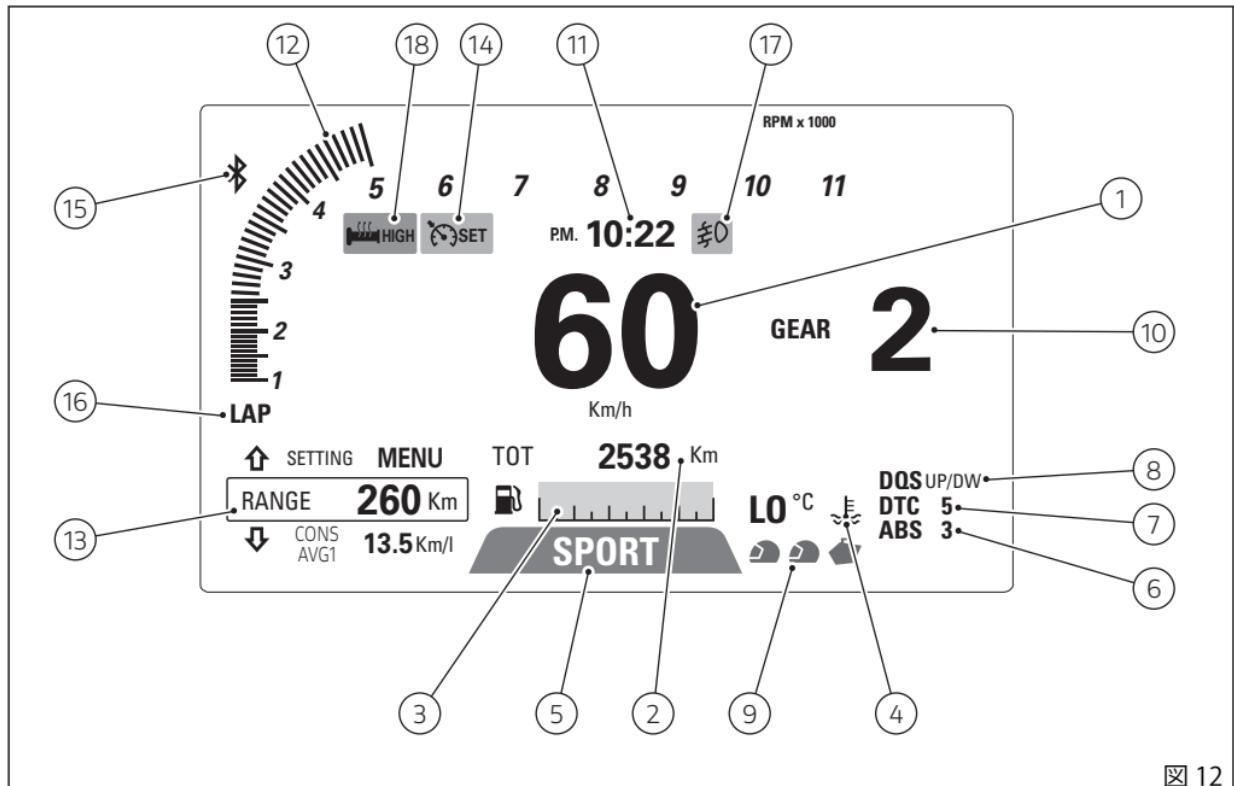


図 12

FULL 表示モードのメインスクリーンには以下の情報
が表示されます。

- 1) 車両スピード
- 2) オドメーター
- 3) 燃料レベル
- 4) エンジンクーラント温度
- 5) 設定ライディングモード (Riding Mode)
- 6) 起動しているABS レベル、またはABS 解除の表
示
- 7) 起動しているDTC レベル、またはDTC 解除の表
示
- 8) 起動しているDQS レベル、またはDQS 解除の
表示
- 9) LOAD 設定 (車両セットアップ)
- 10) ギア表示
- 11) 時計
- 12) タコメーター
- 13) メニュー
- 14) クルーズコントロール表示
- 15) ヒーテッドグリップ (装備している場合)
- 16) Bluetooth 表示
- 17) インフォテインメントメニュー—接続デバイス
- 18) インフォテインメントメニュー—発信者の電話
番号 / 氏名
- 19) インフォテインメントメニュー—不在着信また
は受信したSMS / MMS / Eメール
- 20) インフォテインメントメニュー—プレーヤー
(音量 / 選曲)
- 21) フォグラング (装備している場合)

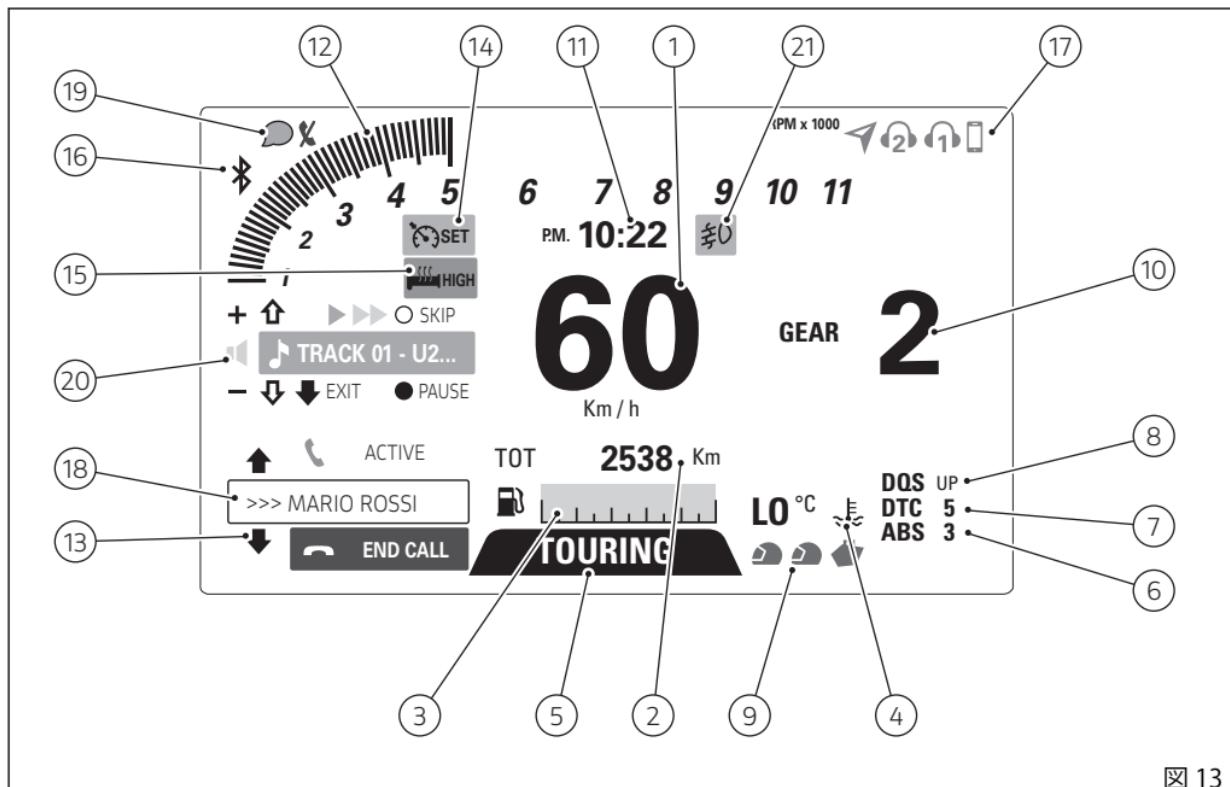
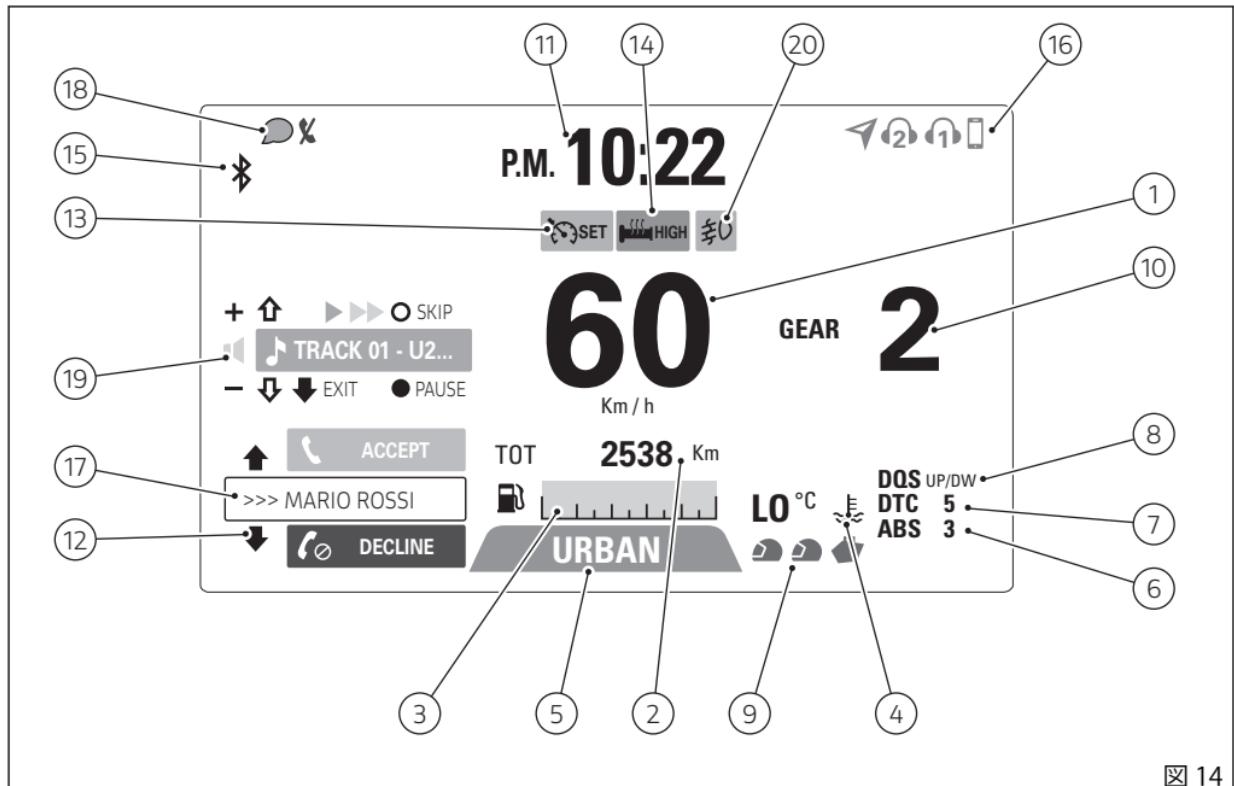


図 13

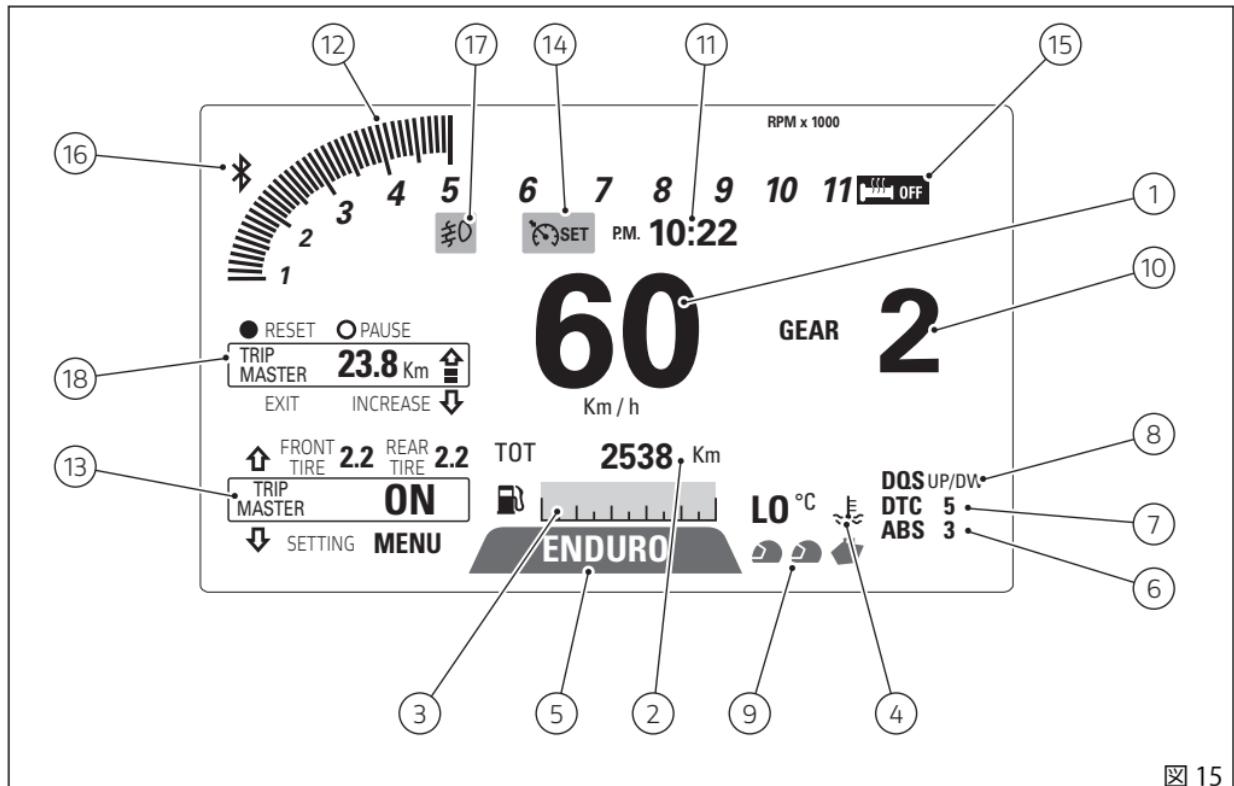
CITY表示モードのメインスクリーンには以下の情報が表示されます。

- 1) 車両スピード
- 2) オドメーター
- 3) 燃料レベル
- 4) エンジンクーラント温度
- 5) 設定ライディングモード (Riding Mode)
- 6) 起動しているABSレベル、またはABS解除の表示
- 7) 起動しているDTCレベル、またはDTC解除の表示
- 8) 起動しているDQSレベル、またはDQS解除の表示
- 9) LOAD設定(車両セットアップ)
- 10) ギア表示
- 11) 時計
- 12) メニュー
- 13) クルーズコントロール表示
- 14) ヒーテッドグリップ(装備している場合)
- 15) Bluetooth表示
- 16) インフォテインメントメニュー—接続デバイス
- 17) インフォテインメントメニュー—発信者の電話番号/氏名
- 18) インフォテインメントメニュー—不在着信または受信したSMS/MMS/Eメール
- 19) インフォテインメントメニュー—プレーヤー(音量/選曲)
- 20) フォグラント(装備している場合)



OFF ROAD 表示モードのメインスクリーンには以下の情報が表示されます。

- 1) 車両スピード
- 2) オドメーター
- 3) 燃料レベル
- 4) エンジンクーラント温度
- 5) 設定ライディングモード (Riding Mode)
- 6) 起動しているABS レベル、またはABS 解除の表示
- 7) 起動しているDTC レベル、またはDTC 解除の表示
- 8) 起動しているDQS レベル、またはDQS 解除の表示
- 9) LOAD 設定 (車両セットアップ)
- 10) ギア表示
- 11) 時計
- 12) タコメーター
- 13) メニュー
- 14) クルーズコントロール表示
- 15) ヒーテッドグリップ (装備している場合)
- 16) Bluetooth 表示
- 17) フォグランプ (装備している場合)
- 18) トリップマスター (メニューから起動した場合のみ)



SPORT、TOURING、URBAN のいずれかのライディングモードでインフォモード TRACK を表示している場合、ボタン(1)および(2)を使ってメニューから以下の機能を利用することができます。機能の順番は以下のとおりです。

- RANGE
- CONS.AVG 1
- TRIP 1
- TRIP TIME 1
- SPEED AVG 1
- TRIP 2
- CONS.
- T AIR
- TIRE PRESSURE – アクセサリー、搭載している場合のみ
- SETTING MENU

ライディングモード ENDURO でインフォモード TRACK を表示している場合、ボタン(1)および(2)を使ってメニューから以下の機能を利用することができます。機能の順番は以下のとおりです。

- RANGE
- CONS.AVG 1
- TRIP 1
- TRIP TIME 1

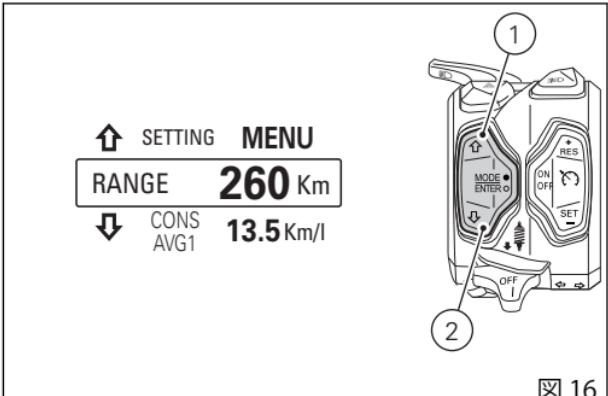


図 16

- SPEED AVG 1
- TRIP 2
- CONS.
- T AIR
- TIRE PRESSURE – アクセサリー、搭載している場合のみ
- ABS (OFF または ON)
- SETTING MENU

SPORT、TOURING、URBAN のいずれかのライディングモードでインフォモード FULL または CITY を表示し

ている場合、メニューから以下の機能を利用することができます。機能の順番は以下のとおりです。

- RANGE
- CONS.AVG 1
- TRIP 1
- TRIP TIME 1
- SPEED AVG 1
- TRIP 2
- CONS.
- T AIR
- プレーヤー (OFF または ON) (BT モジュールが搭載されており、スマートフォンが接続されている場合のみ)
- LAST CALLS (Bluetooth モジュールが搭載されており、スマートフォンが接続されている場合のみ)
- TIRE PRESSURE – アクセサリー、搭載している場合のみ
- SETTING MENU

ライディングモード ENDURO でインフォモード FULL または CITY を表示している場合、メニューから以下の機能を利用することができます。機能の順番は以下のとおりです。

- RANGE
- CONS.AVG 1

- TRIP 1
- TRIP TIME 1
- SPEED AVG 1
- TRIP 2
- CONS.
- T AIR
- プレーヤー (OFF または ON) (BT モジュールが搭載されており、スマートフォンが接続されている場合のみ)
- LAST CALLS (Bluetooth モジュールが搭載されており、スマートフォンが接続されている場合のみ)
- TIRE PRESSURE – アクセサリー、搭載している場合のみ
- ABS (OFF または ON)
- SETTING MENU

SPORT、TOURING、URBAN のいずれかのライディングモードでインフォモード OFF ROAD を表示している場合、メニューから以下の機能を利用することができます。機能の順番は以下のとおりです。

- RANGE
- CONS.AVG 1
- TRIP 1
- TRIP TIME 1
- SPEED AVG 1

- TRIP 2
- CONS.
- T AIR
- TRIP MASTER (OFF または ON)
- TIRE PRESSURE – アクセサリー、搭載している場合のみ
- SETTING MENU

ライディングモード ENDURO でインフォモード OFF ROAD を表示している場合、メニューから以下の機能を利用することができます。機能の順番は以下の通りです。

- RANGE
- CONS.AVG 1
- TRIP 1
- TRIP TIME 1
- SPEED AVG 1
- TRIP 2
- CONS.
- T AIR
- TRIP MASTER (OFF または ON)
- TIRE PRESSURE – アクセサリー、搭載している場合のみ
- ABS (OFF または ON)
- SETTING MENU

インストルメントパネルには Key-OFF 時に使用していたメニューの設定が記憶されます。次の Key-ON 時、前回記憶されていた機能が表示されます。急な Key-OFF (電源供給が突然途絶えた) の場合、次の Key-ON 時にインストルメントパネルはメニュー内に RANGE (航続可能距離) 機能を表示します。



参考

Key-ON する度に、インストルメントパネルは RANGE 機能を 10 秒間表示してから、前回の Key-OFF 時に保存された機能表示画面に移ります。この最初の 10 秒間にボタン(1)を押すと、10 秒間強制的に表示される RANGE 表示を中止して、Key-OFF 時に記憶していた機能表示画面に移ります。



参考

点検が終了すると、インストルメントパネルは航続可能距離 (RANGE) を 10 秒間表示する前に、“Service” (カウントダウン) に関する情報を表示します。

主な機能とサブ機能

スタンダードスクリーンに表示される機能
メイン機能

- タコメーター (TRACK、FULL、OFF ROAD モードのみ)
- 車両スピード
- 燃料レベル
- エンジンクーラント温度
- 時計
- 設定ライディングモード (Riding Mode)
- ABS
- DTC
- DQS
- ギア表示
- 車両セットアップ表示
- オドメーター

- メニューには以下の機能が表示されます。

- 航続可能距離 (RANGE)
- 平均燃費 (CONS. AVG 1)
- トリップメーター 1 (TRIP 1)
- トリップタイム (TRIP 1 TIME)
- 平均速度 (SPEED AVG 1)
- トリップメーター 2 (TRIP 2)
- 瞬間燃費 (CONS.)
- 外気温 (T-AIR)
- トリップマスター (TRIP MASTER)
- プレーヤー操作 (PLAYER) (Bluetooth モジュールが搭載されており、スマートフォンが接続されている場合のみ)
- 通話操作 (LAST CALLS) (Bluetooth モジュールが搭載されており、スマートフォンが接続されている場合のみ)
- タイヤ空気圧表示 (TIRE PRESSURE) - アクセサリー (搭載している場合のみ)
- ABS の起動/解除 (ABS)
- 設定メニュー (SETTING MENU)

サブ機能

- Bluetooth インフォテインメント
- ラップタイム LAP
- クルーズコントロール

- ビークルホールドコントロール (VHC)
- SERVICE 表示
- SERVICE カウントダウン表示
- 注意 / 警告表示 (Warning)
- ヒーテッドグリップ (H.Grips)
- サイドスタンドの状態 (Side Stand)

設定メニューのうち以下の機能はユーザーによる変更が可能です。

- ライディングモードのパーソナライズ：パーソナライズメニューから以下の設定が可能です。
 - エンジン調整 (Engine)
 - DTC レベルの設定 (DTC)
 - ABS レベルの設定 (ABS)
 - DQS レベルの設定 (DQS)
 - エレクトロニックサスペンション調整 (DSS)
 - リアスプリングプリロード設定 (Load Mode)
 - デフォルト設定の回復 (DEFAULT)
- 表示モードのパーソナライズ (Info Mode)
- PIN CODE の起動および変更 (Pin Code)
- ラップタイム (Lap)
- バックライトの設定 (Backlight)
- 日時の設定 (Date and Clock)
- 単位の設定 (Units)
- サービス期限の表示 (Service)

- タイヤ設定 (Tire Calibration)
- 車両セットアップの変更 (Load Mode)
- ペアリングデバイスの表示、デバイスのペアリング、デバイスの削除、Bluetooth バージョン表示 (Bluetooth) – Bluetooth モジュールが搭載されている場合のみ
- 空気圧センサー基準空気圧値設定 (Tyre Pressures)
 - アクセサリー、搭載している場合のみ
- ターンインジケーター自動解除の停止 (Turn indicators Off)
- 情報 (Info)
 - バッテリー表示 (BATTERY)
 - エンジン回転数表示 (RPM)

エンジン回転数表示 RPM

インストルメントパネルがエンジン回転数情報を受信すると、そのデータをディスプレイに棒グラフで表示します(表示モードがTRACK、FULL、OFF ROADの場合のみ)。データはエンジン回転数に相当する左から右へ点灯する棒グラフの目盛りと、千単位の数字(例えばRPMの値が"8000"以上の場合、数字"8"が大きい文字で表示)で表示されます。

回転数が12,000 rpmに到達すると、数字は大きく表示されなくなります。

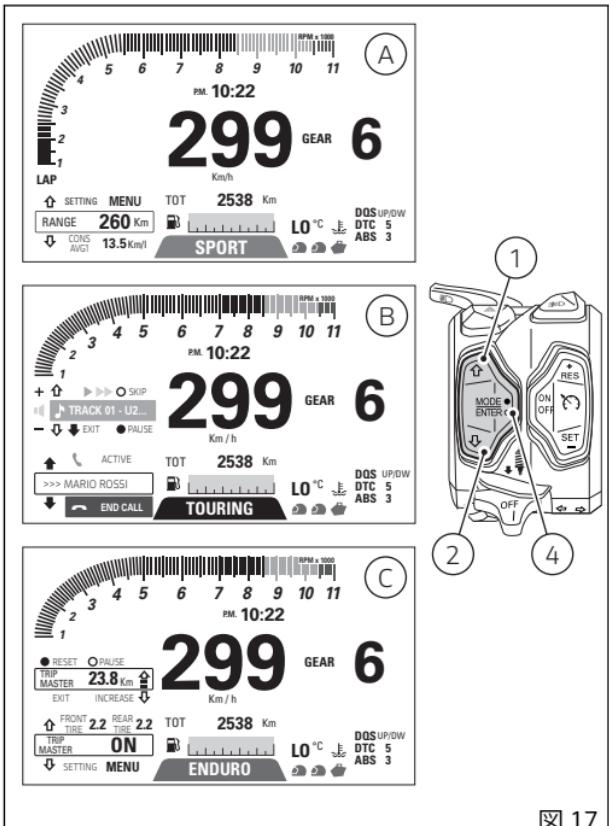
回転数が8,500から10,000の場合(予告ゾーン)、棒グラフの目盛りがディスプレイにオレンジ色で表示されます(オレンジゾーン)。

回転数が10,000から11,000の場合(警告ゾーン)、棒グラフの目盛りディスプレイに赤色で表示されます(レッドゾーン)。

TRACK表示モード(A)のエンジン回転数表示はFULL表示モード(B)とOFF ROAD表示モード(C)のエンジン回転数表示とは異なります。

CITY表示モードにはエンジン回転数表示はありません。

リミッター手前の起点値に達すると、該当する警告灯が点灯します。



オドメーターが最初の1,000 km (600 mi)に達するまで
(慣らし運転期間中)は、ディスプレイに回転数の「仮想」リミッターが表示されます。タコメーターは
6,000 rpm から「オレンジゾーン」になります。慣らし運転期間中はオレンジゾーンまで回転数を上げない
ようにしてください。

慣らし運転期間が終了すると、「仮想」リミッターは
エンジンが十分温まっていない状態でエンジン回転数
を抑える指示として表示されます。「仮想」リミッターはエンジン温度に応じて変化します。

車両スピード

インストルメントパネルは車両の実速度 (km/h で算出) 情報を受信し、それに 5% 上乗せしたデータを設定した単位 (km/h または mph) で表示します。

以下の場合には "---" と単位が表示されます。

- スピード = 299 km/h (186 mph) の場合、または インストルメントパネルがスピード情報を受信しない場合 ("---" 点灯)
- リアスピードセンサーに異常がある場合 ("---" 点滅)



参考 インストルメントパネルが単位情報を受信できない場合は、最後に設定した単位を点滅表示します。

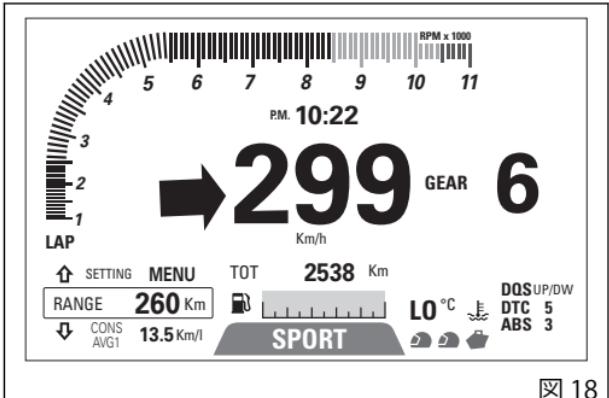


図 18

燃料レベル

この機能は燃料残量を表示します。

燃料レベルが2目盛りまで下がるとリザーブランプ(ランプ5、図8)が点灯します。また目盛りがオレンジ色に変わり、燃料ポンプマークがオレンジ色に点灯します。この時点のフューエルタンク内の燃料残量は約4リットルです。

レベルがさらに下がると、最後の目盛りが赤色に点滅し、燃料ポンプマークが赤色に点灯します。

参考

レベルセンサーにエラーや異常が発生した場合は、目盛りは表示されません。燃料ポンプマークが赤色に点滅し、一般的エラー警告灯が点灯します。

重要

燃料がリザーブ状態に入りランプが点灯している場合は、給油の際に車両を停止(Key-OFF)することが推奨されます。車両を停止せずに(Key-ONでエンジンOFFの状態)給油を行うと、燃料データがすぐに更新されないことがあります。

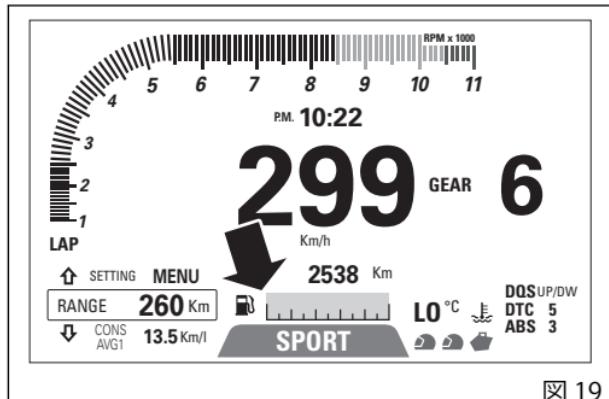


図 19

エンジンクーラント温度

インストルメントパネルはエンジン温度の情報 (° C) を受信し、設定単位 (° C または ° F) に変換したデータ、単位、エンジン温度のシンボルを表示します。エンジン温度の表示範囲は 40 ° C ~ +120 ° C (+104 ° F ~ +248 ° F) です。

データが以下の場合：

- 40 ° C (-40 ° F) 以下の場合、"---" が点滅表示されます。
- 39 ° C (-38 ° F) ~ +39 ° C (+102 ° F) の場合、"LO" が点灯します。
- +40 ° C (+104 ° F) ~ +120 ° C (+248 ° F) の場合、データが固定表示されます。
- +121 ° C (+250 ° F) 以上の場合、"HI" が赤色で点滅します。また、温度マークが赤色に点灯します。

クーラント温度センサーホーの場合、設定単位と共に "---" が点滅表示されます。さらに MIL ランプ (ランプ 9、図 8) が点灯します。

インストルメントパネルがクーラント温度のデータを受信しない場合、単位と共に "---" が固定表示されます。

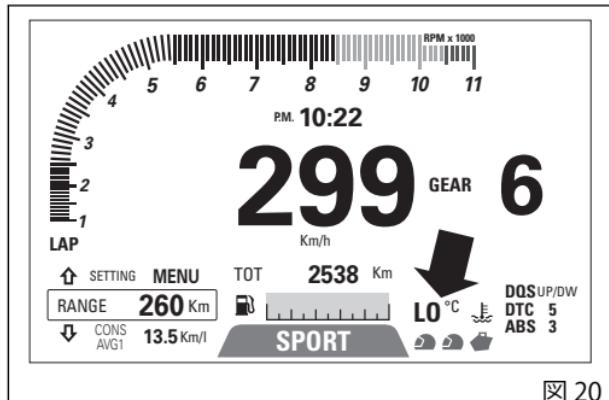


図 20



参考

インストルメントパネルが単位情報を受信できない場合は、デフォルト単位を点滅表示します。

時計

インストルメントパネルは時間を次のように表示します。

- A.M.(12:00 から 11:59)、または P.M.(12:00 から 11:59)。
- hh (時間) : mm (分)

電源供給が中断された場合 (Battery OFF) は、次回の Key-ON 時に 4 本の点線 "----" が表示され、設定メニューから時計が設定されるまで中央のコロンが点滅します。

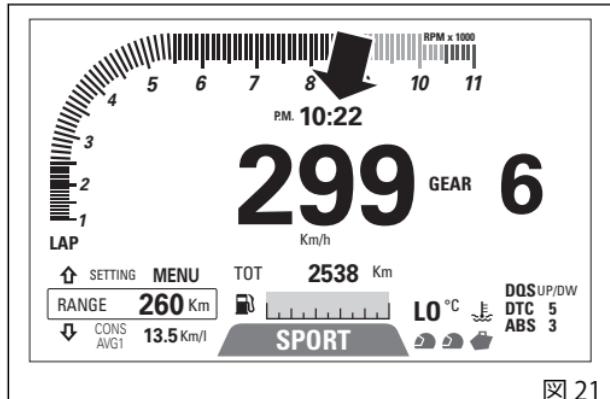


図 21

ライディングモード (Riding Mode)

インストルメントパネルから好みのライディングモードを選択することが可能です。あらかじめ設定された次の4通りのライディングモード SPORT、TOURING、URBAN、ENDURO です。

選択、設定されたライディングモードが、ディスプレイの中央下側に表示されます。



警告

ライディングモードの変更は車両停止時に行うことをお勧めします。運転中にライディングモードの変更を行なう場合は十分にご注意ください(低速での変更をお勧めします)。

それぞれのライディングモードには以下のドゥカティが設定したパラメーター、またはユーザーが設定機能ページから変更したパラメーターが連動しています。

- DTC ドゥカティトラクションコントロールの介入レベル(1、2、3、4、5、6、7、8、OFF)
- ABS システムの許容値(1、2、3、OFF)
- DQS レベル(UP/DW、OFF)
- スロットル作動を変更するエンジン出力(HIGH、MEDIUM、LOW)

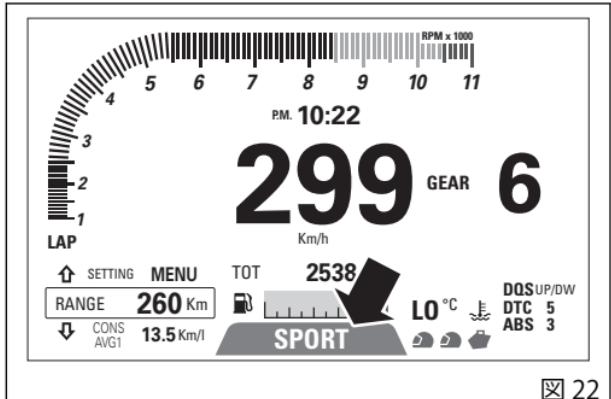


図 22

- DSS サスペンションの設定値(フロント/リアのダンピング、リアショックアブソーバーのスプリングプリロード)

ライディングモードを変更した際にABSシステムの状態がON/OFFまたはOFF/ONに変更された場合、インストルメントパネルは選択されたライディングモードの承認時に、「ABSの起動/解除」の章に記載されるとおり"ABSの起動/解除の手続き"も実行します(ライディングモード ENDURO でのみ可能)。

各ライディングモードには情報を表示する標準画面がそれぞれ設定されています(TRACK、FULL、CITY、

OFF ROAD)。標準画面はドゥカティ社の初期設定、もしくはユーザーが設定機能ページから変更することができます。ドゥカティ社が設定する表示モードは以下の各ライディングモードと連動しています。

- TRACK 表示モードとライディングモード SPORT
- FULL 表示モードとライディングモード TOURING
- CITY 表示モードとライディングモード URBAN
- OFF ROAD 表示モードとライディングモード ENDURO

ライディングモード変更機能

この機能では、車両の静止時および走行時にライディングモードを変更することができます。パーソナライズ可能な4つのライディングモードは、SPORT、TOURING、URBAN、ENDUROです。

ライディングモードを選択するには、ボタン(4)を1秒間押してライディングモードメニューに入ります。インストルメントパネルには速度が表示(ディスプレイの右側)されたまま、ライディングモード名(ディスプレイの左側)が表示されます。

- SPORT
- TOURING
- URBAN
- ENDURO

最後に保存した現在使用中のライディングモード名が強調表示されます。さらに"EXIT"の文字が表示されます。この表示を選択している時にメニュー決定ボタン(4)を押すと、新しいライディングモードを保存せずに終了します。

強調表示されたライディングモードには、それに連動したいくつかの以下のパラメーターに関連する情報が表示されます。

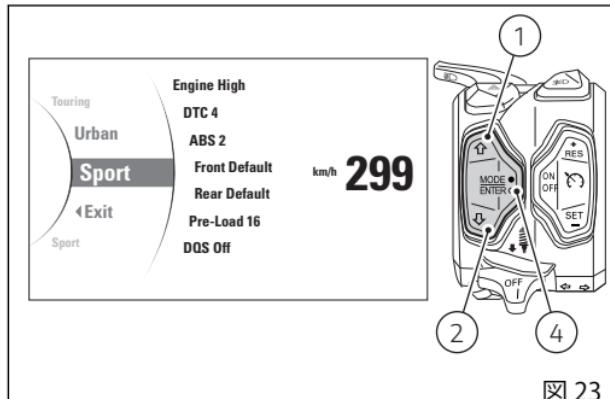


図 23

- エンジン出力(ENGINE)："ENGINE"の文字に続いて設定エンジン出力("HIGH"、"MED"、"LOW")。
- DTCシステム：DTCシステムがONの場合は"DTC"の文字に続いて設定介入レベル("1"、"2"、"3"、"4"、"5"、"6"、"7"、"8")、DTCシステムがOFFの場合は"DTC"の文字に続いて"off"の文字。
- ABSシステム：ABSシステムがONの場合は"ABS"の文字に続いて設定レベル("1"、"2"、"3")、ABSシステムがOFFの場合は"ABS"の文字に続いて"off"の文字。

- DSS フロントサスペンションシステム："FRONT" の文字に続いて、フロントフォークに設定しているコンプレッションダンピング値とリバウンドダンピング値(電子制御サスペンション搭載バージョンのみ)
- DSS リアサスペンションシステム："REAR" の文字に続いて、リアショックアブソーバーに設定しているコンプレッションダンピング値とリバウンドダンピング値(電子制御サスペンション搭載バージョンのみ)
- リアサスペンションスプリングプリロード："PRE-LOAD" の文字に続いて、リアショックアブソーバーに設定しているスプリングプリロード値(レベル01～レベル24)(電子制御サスペンション搭載バージョンのみ)
- DQS システム：DQS システムが ON の場合は "DQS" の文字に続いて設定介入レベル("UP/DW")、DQS システムが OFF の場合は "DQS" の文字に続いて "off" の文字。

表示される情報は、各ライディングモード毎に記憶されている値です。保存されている値はドゥカティが設定した値、またはユーザーがパーソナライズした値です。

この時点で、ボタン(1)またはボタン(2)を1回押すごとに、ライディングモード(SPORT, TOURING, URBAN ed ENDURO)と"◀ EXIT"表示をスクロールします。例えば、最初のライディングモードがSPORTの場合、ボタン(2)を押すとTOURING、URBAN、ENDURO、"◀ EXIT"の順に強調表示が切り替わり、再びSPORTに戻ります。一方ボタン(1)を押すと"◀ EXIT"、ENDURO、URBAN、TOURINGの順に強調表示が切り替わり、SPORTに戻ります。

希望のライディングモードを選択したら、ボタン(4)を押してライディングモードを保存します。

走行速度 5 km/h (3 mph) 以下の時、インストルメントパネルはスロットルグリップの位置だけを点検します。

- スロットルグリップが閉じている場合、インストルメントパネルは選択したライディングモードを承認します。ライディングモード名が 3 秒間点滅してから、スタンダードスクリーンに戻ります。
- スロットルグリップが開いている場合、インストルメントパネルは "CLOSE THROTTLE" (スロットルを開じてください) と表示します。スロットルグリップが閉じられた場合にのみ、選択したライディングモードを承認し、スタンダードスクリーンに戻ります。

走行速度が 5 km/h (3 mph) を超えている場合、インストルメントパネルはスロットルグリップ位置、フロントブレーキおよびリアブレーキの圧力を確認します。

- スロットルグリップが閉じており、ブレーキがかっていない、または車両が停止している場合、インストルメントパネルは選択したライディングモードを承認します。ライディングモード名が 3 秒間点滅してから、"スタンダードスクリーン" に戻ります。

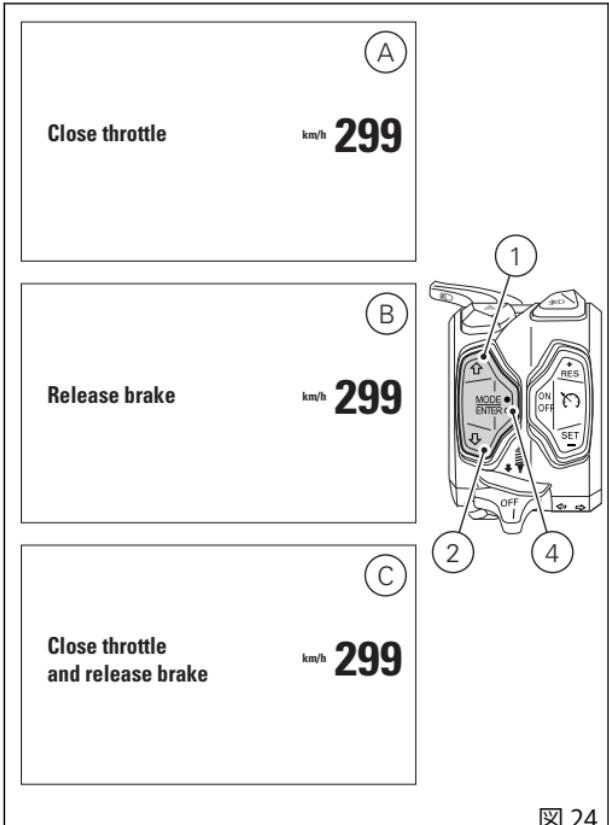


図 24

- スロットルグリップが開いている場合、インストルメントパネルは "CLOSE THROTTLE" (スロットルを閉じてください)(A、図24)と表示します。スロットルグリップが閉じられた場合にのみ、選択したライディングモードを承認し、スタンダードスクリーンに戻ります。
- スロットルグリップが閉じているもののブレーキがかかっている場合、"RELEASE BRAKES" (ブレーキを放してください)(B、図24)と表示します。ブレーキが放された場合にのみ、選択したライディングモードを承認し、スタンダードスクリーンに戻ります。
- スロットルグリップが開いている、あるいはブレーキがかかっている状態で車両が動いている場合、インストルメントパネルは "CLOSE THROTTLE AND RELEASE BRAKES" (スロットルを閉じてブレーキを放してください)(C、図24)と表示します。すべての条件が確認された場合にのみ(ガスグリップが閉じており、ブレーキがかかっていないか車両が停止している)、インストルメントパネルは選択したライディングモードを承認し、"スタンダードスクリーン" に戻ります。

ライディングモードを変更した際にABSシステムの状態がON/OFFまたはOFF/ONに変更された場合、インストルメントパネルは選択されたライディングモード

の承認時に、「ABSの起動/解除」の章に記載されるとおり "ABSの起動/解除の手続き" も実行します(ライディングモード ENDURO でのみ可能)。

"CLOSE THROTTLE"、"RELEASE BRAKES" または "CLOSE THROTTLE AND RELEASE BRAKES" の表示が現れてから 5 秒以内にライディングモード変更を有効にする上記の条件が満たされなかった場合は、選択手順は中止されます。インストルメントパネルは設定を変更せずに前の表示、ライディングモード選択入口画面に戻ります。

ボタン(4)を押して "EXIT" 表示を選択した場合は、新しい設定(新しいライディングモード)を保存せずにメイン画面に戻ります。

ABS

車両にはABSシステムが搭載されています。インストルメントパネルはABSランプ(ランプ10、図8)を消灯、点滅、点灯させてABS機能のステータス(ONまたはOFF)を表示します。

インストルメントパネルの表示：

- "ABS"の文字と設定介入レベル1から3までの数値。
- 異常が発生したためシステムが機能制限モード(「コーナリング」機能がない)である場合は、"ABS"の文字と設定介入レベル1から3までの数値が点滅、さらにABSランプ(ランプ10、図8)が点滅します。
- ABSの状態に関する情報を受信できない場合は、"ABS"の文字と線"-"が表示されます。
- ABSエラーの場合は、"ABS"の文字と"Err"の文字が赤色で表示され、さらにABSランプ(ランプ10、図8)が点灯します。
- ABSがOFFの場合(ライディングモードENDUROでのみ可能)は、"ABS"と"OFF"の文字が点灯、さらにABSランプ(ランプ10、図8)が点灯します。

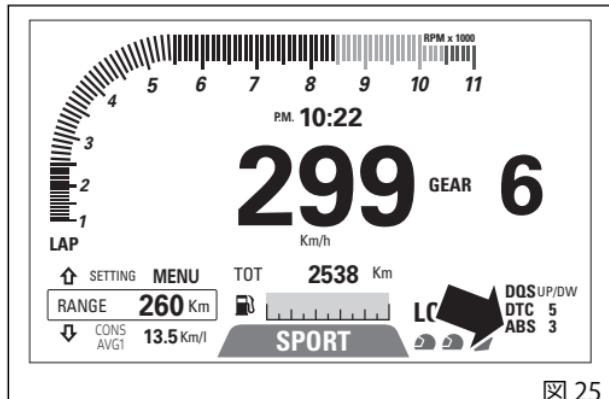


図 25



警告

システム異常の場合には、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

困難な条件下でのブレーキ操作は、非常に慎重に行わなければなりません。ブレーキ操作は二輪車の運転で最も難しく危険な瞬間です。ブレーキ操作中に転んだり事故を起こす可能性が統計的に最も高くなっています。フロントホイールがロックされると、グリップによるバランス力を失うため車両のコントロールを失います。

アンチロックブレーキシステム(ABS)は、緊急時や悪路、悪天候下での走行時にブレーキ性能を最も効果的に発揮させるために開発されたものです。ABSは電子制御油圧システムです。ホイール上のセンサーから送られた信号をコントロールユニットが分析し、いずれかのホイールがロックしそうであることを検知すると、ブレーキ回路内の油圧を制御します。この場合には、ブレーキ回路内の油圧を低下させることでホイールを回転させ続け、路面とのグリップを最適に維持します。

続いて、コントロールユニットはブレーキ回路内の油圧を戻してブレーキをかけます。問題が完全に解消されるまで、このサイクルを繰り返します。ブレーキング時ABSが作動状態に入ると、ブレーキレバーとブレーキペダルに軽く振動する抵抗を感じられます。フロントブレーキシステムおよびリアブレーキシステムは個別に制御されません。本車両が搭載するABSシステムは、フロントブレーキが操作されるとリアブレーキシステムも作動する電子制御による連動ブレーキングを行います。ただし逆の動作は実行されません。すなわち、リアブレーキ操作はフロントブレーキシステムには作用しません。

Multistrada 950が搭載するABSシステムは、車両を倒した状態においてもABS機能が作動する「コーナリング」機能も備えます。この機能は、車両の傾斜角度に応じてフロントブレーキとリアブレーキに作用しま

す。車両と路面状況により決定される物理的限界の範囲内で、車輪のロックおよびスリップを防止することを目的としています。インストルメントパネルを操作し、システムを解除したいライディングモードENDURO内でのみレベルOFFを選択すれば、システムの解除が可能です。



警告

たとえ連動ブレーキ機能(フロントブレーキを操作するとリアブレーキも作動)が装備されていても、二つのうち片方のブレーキを独立して使用すると車両のブレーキ性能は低くなります。

過度の力をかける急激なブレーキ操作はしないでください。後輪が浮き上がり(リフトアップ)、車両のコントロールを失うおそれがあります。雨天時や滑りやすい路面の走行ではブレーキ力が著しく低下します。このようなコンディションでは慎重に優しくブレーキ操作をしてください。

急ブレーキを掛けると車両のコントロールを失う危険があります。長く急な下り坂を走行する際にはシフトダウンしてエンジンブレーキを使用し、ブレーキは短く断続的に使用するようにしてください。ブレーキを長時間連続して使用すると、ブレーキパッドの過熱を招き、ブレーキ性能の著しい低下の原因となります。規定空気圧に満たないタイヤ、もしくは規定空気圧を

超えるタイヤでの走行はブレーキ性能を低下させるだけでなく、正確な運転とカーブでの安定性を損ないます。

下記の表は、各ライディングタイプに適したABSレベルと、ユーザーが選択可能な"ライディングモード"のどれにデフォルト設定されているかを示します。

ABS	ライディングタイプ	特徴	DEFAULT
OFF(*)		ABS システム解除	NO
1	OFF-ROAD	このレベルは熟練ライダー向けオフロード走行専用に設計されています(ストリートでの使用は推奨されません)。このレベルでは、リアホイールをロックし、ABSはフロントホイールにのみ作用します(オフロードでのブレーキングをアシスト)。 このレベルでは、システムはリフトアップ制御は行わず、前後輪連動ブレーキ機能は作動しません。また、コーナリング機能も作動しません。	ライディングモード "ENDURO" のデフォルトレベル

ABS	ライディングタイプ	特徴	DEFAULT
2	SPORT	<p>このレベルはグリップの良い路面でのストリート走行用に設計されています。このレベルでは、ABSは両方のホイールに作用します。フロントブレーキを操作するとリアブレーキキャリアーにも圧力がかかります(連動ブレーキ)。また、コーナリング機能も作動します。</p> <p>このレベルでは、システムはリフトアップ制御は行いません。このキャリブレーションは制動力を優先し、ライダーがホイールのリフトアップを管理できるようになっています。</p>	ライディングモード "SPORT" のデフォルトレベル
3	SAFE & STABLE	<p>このレベルはあらゆる状況下での使用に適し、安全かつ安定したブレーキングを可能にするよう設定されています。このレベルでは、ABSは両方のホイールに作用します。フロントブレーキを操作するとリアブレーキキャリアーにも圧力がかかります(連動ブレーキ)。また、コーナリング機能およびリフトアップ制御機能も作動します。</p>	ライディングモード "TOURING" および "URBAN" のデフォルトレベル

警告 (*)

- 1) ライディングモードがENDUROに設定されている場合にのみ、ABS OFF レベルを有効にすることができます。
- 2) 車両が停止している場合にのみ、ABS OFF レベルを有効にすることができます。走行中のレベル設定はできません。
- 3) 前回の使用時にABSをOFFに設定していた場合であっても、インストルメントパネル起動時にABSは自動的に再起動します。

レベルの選択に際しての注意事項



警告

選択可能な全レベルにおいて、標準装備またはドゥカティ社が推奨するブレーキシステムとタイヤを装着している場合においてのみ、ABSシステムの最適な動作が保証されるものです。特にタイヤは標準装備タイヤ、Pirelli Scorpion Trail II のサイズ：フロント120/70 ZR19、リア170/60 ZR17になります。標準装備のタイヤやドゥカティ社推奨タイヤとサイズや特徴の異なるタイヤを使用すると、システムの機能特性に影響を与え、機能の安全性が低くなることがあります。基準適合サイズと異なるサイズのタイヤの装着は推奨されません。

レベル3を選択すると、ABSシステムはリフトアップ制御と前後輪連動ブレーキを行うことで非常に安定したブレーキングが可能になり、全てのブレーキングにおいて高い車体安定性を維持します。

レベル3において、ABSシステムのコーナリング機能が作動します。この機能により、バイクを倒している時に、車両と路面状況により決定される物理的限界の範囲内で車輪のロックおよびスリップを防止します。

レベル2を選択すると、ABSシステムは安定性やリフトアップ制御よりもブレーキ力を優先します。リフト

アップ制御はレベル2では作動しません。レベル2では前後輪連動ブレーキとコーナリング機能が作動します。

ABSシステムのレベル1の使用はオフロード走行専用になります。オフロードでのブレーキングを重視してABSはフロントホイールにのみ作用します。このレベルにおいてはリフトアップ制御、前後輪連動ブレーキ、コーナリング機能のいずれも作動しません。

主に以下のパラメーターを考慮して正しいレベルを選択します。

- 1) タイヤ/路面のグリップ(タイヤタイプ、タイヤの磨耗状態、アスファルトの種類、気候など)。
- 2) ライダーの経験と感覚：熟練ライダーは制動距離を最小限に抑えるためリフトアップを制御することができますが、経験の少ないライダーには、急なブレーキングでも車体の安定性が維持できるようレベル3の使用が推奨されます。

DTC

インストルメントパネルはディスプレイにDTC機能の状態を以下のように表示します。

- DTCがONの場合、"DTC"の文字と設定介入レベル1から8までの数値。
- DTCがONの時に機能制限モードである場合は、"DTC"の文字と1から8までの数値が点滅、さらにDTCランプ(ランプ8、図8)が点滅します。
- DTCエラーの場合は、"DTC"の文字と"Err"の文字が赤色で表示されます。
- DTCがOFFの場合は、"DTC"と"OFF"の文字が点灯、さらにDTCランプ(ランプ8、図8)が点灯します(図8)

警告

システム異常の場合には、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

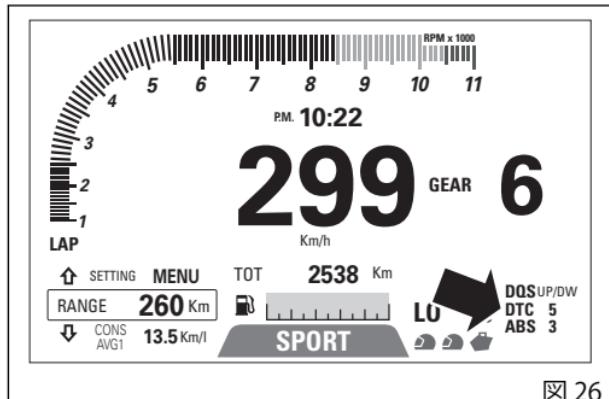


図 26



警告

DTCはライダーをアシストするシステムです。一般道走行時、サーキット走行時、オフロード走行時のすべてにおいて使用できます。アシストシステムとは、より確実で安心な運転を可能にすることを目指したメカニズムであり、ライダーが運転に際し正しく扱うべき注意義務に取って代わるものではありません。自身の過失だけでなく他者の過失も防止するため、道路交通法が定める緊急時の回避を可能にする慎重な運転を心がけてください。

この安全システムは事故予防のためのシステムです。これらの機能は車両の運転を助け、その制御を簡単で確実なものにします。車両が走行している路面状況や道路交通法など各種規制範囲を超えていたり、合理的に許容されるスピードを超えていたりするような運転に寄与するシステムではありません。

下記の表は、各ライディングタイプに適したDTC介入レベルと、ユーザーが選択可能な "ライディングモード" のどれにデフォルト設定されているかを示します。

DTC	ライディングタイプ	用途	DEFAULT
OFF		DTC システムは解除されています。	NO
1	OFF-ROAD Professional	このレベルは特に熟練したライダー向けオフロード走行専用に設計されています(ストリートでの使用は推奨されません)。このモードでは、DTCはリアホイールの激しいスピンを許容します。システムがこのレベルに設定されているときは、アスファルト上でグリップを失っても適切なコントロールを保証できません。	NO
2	OFF-ROAD	このレベルは初級ライダー向けオフロード走行専用に設計されています(ストリートでの使用は推奨されません)。システムがこのレベルに設定されているときは、アスファルト上でグリップを失っても適切なコントロールを保証できません。	ライディングモード "ENDURO" のデフォルトレベル
3	SPORT / TRACK	このレベルは特に熟練したライダー向けにグリップの良い路面でのサーキット走行用に設計されています。このモードにおいて DTC はスリップを許容します。	NO

DTC	ライディングタイプ	用途	DEFAULT
4	SPORT	このレベルはグリップの良い路面でのサーキット走行用およびストリート走行用に設計されています。	ライディングモード "SPORT" のデフォルトレベル
5	TOURING	このレベルはグリップの良い路面でのストリート走行用に設計されています。	ライディングモード "TOURING" のデフォルトレベル
6	SAFE & STABLE	このレベルはあらゆる状況下での使用に適し、グリップの良好なストリート走行用に設定されています。	ライディングモード "URBAN" のデフォルトレベル
7	RAIN	このレベルは濡れたアスファルト路面でのストリート走行用に設計されています。	NO
8	HEAVY RAIN	このレベルは濡れたアスファルトや滑りやすい路面での一般道走行用に設定されています。	NO

レベルの選択に際しての注意事項



警告

選択可能な全レベルにおいて、標準装備タイヤまたはドゥカティ社が推奨するタイヤを装着している場合においてのみ、DTCシステムの最適な動作が保証されるものです。特にタイヤは標準装備タイヤ、Pirelli Scorpion Trail II のサイズ：フロント 120/70 ZR19、リア 170/60 ZR17 になります。標準装備のタイヤとサイズや特徴の異なるタイヤを使用すると、システムの機能特性に影響を与え、機能の安全性が低くなることがあります。基準適合サイズと異なるサイズのタイヤの装着は推奨されません。

レベル8を選択すると、DTCはリアタイヤのわずかなスピンにも介入します。レベル8とレベル1の間には、その他に6つのレベルが存在します。DTCの介入度はレベル8から1に向かい減ります。

レベル1および2はオフロードでの使用を念頭においてるので、アスファルト上でグリップを失っても適切なコントロールを保証できません。

レベル3、4ではDTCコントロールユニットはカーブ出口でのリアタイヤのスピンおよびスリップを許容します。これらのレベルはサーキット内での使用および熟練者の使用時に設定することが推奨されます。

正しいレベルの選択は、3つの観点から行います。

- 1) グリップ(タイヤのタイプ、磨耗状態、アスファルトの種類、気候など)
- 2) レイアウト/行程(同じような、または全く異なるスピードでのカーブ)
- 3) ライディングスタイル(より"スムーズ"に、またはより"シャープ"に)

グリップ状態からのレベル選択

正しいレベルの選択はレイアウト/行程中のグリップ状況と密接に関係しています(後述のサーキットおよび一般道での使用時のアドバイスを参照)。グリップが弱い場合には、DTCが確実に介入するより高いレベルを使用する必要があります。

レイアウトタイプからのレベル選択

レイアウト/行程に同じスピードで走行できるカーブがいくつもある場合、それぞれのカーブで満足できる介入レベルを簡単に見つけることができるでしょう。一方様々なカーブがレイアウト/行程にある場合は、妥当なDTC介入レベルが必要になります。

ライディングスタイルからのレベル選択

カーブ出口で早めに車体を起こし "シャープ" に操縦する場合よりも、バイクを深く倒して "スムーズ" に操縦する場合に DTC はより介入を行う傾向があります。

サーキットでの使用時のアドバイス

システムの作動特性を理解するために、タイヤを温める間の数周はレベル6に設定して走行することをお勧めします。その後、レベルを6、5、4と変えながら最適なDTCレベルに達するまで調整します。

過度な介入が起こる1つか2つの緩いカーブを除けば納得のいくレベルである場合、直ぐに介入レベルの変更を考える前に、緩いカーブ出口で早めに車体を起こすようにし、少し "シャープ" なライディングスタイルで走行してみてください。

オフロードでの使用時のアドバイス

システムの作動特性を理解するために、レベル6(ライディングモード "URBAN" のデフォルトレベル)に設定して走行することをお勧めします。DTCが介入しすぎると感じる場合には、レベルを5、4と変えながら、最適なレベルに達するまで調整します。

グリップ状況や行程の種類、ライディングスタイルを変更した時に、設定レベルでは満足できない場合は次のレベルに変更します。この方法で最も快適なレベルに調整します(例: レベル7ではDTCが介入しすぎる

と感じる場合はレベル6に、レベル7ではDTCの介入が全くないと感じる場合はレベル8に変更します)。

オフロードでの使用時のアドバイス

システムの作動特性を理解するために、レベル2(ライディングモード "ENDURO" のデフォルトレベル)に設定して走行することをお勧めします。DTCが介入しすぎると感じる場合にはレベル1を試してください。

DQS

インストルメントパネルはディスプレイにDQS機能の状態を以下のように表示します。

- DQSシステムが起動している場合は、シフトチェンジを“UP/DW”的文字で示します。
- DQSシステムが機能制限モードにある場合は、シフトチェンジの“UP/DW”的文字が点滅します。
- DQSシステムエラーまたはコントロールユニットエラーの場合は、“Err”的文字が赤色で表示されます。
- DQSシステムが解除されている場合は、“OFF”的文字で示されます。

UP/DOWN機能を備えるDQSシステムでは、クラッチを操作せずにシフトアップおよびシフトダウンが可能です。

ペダルの作動機構に内蔵された双方向マイクロスイッチからなり、このマイクロスイッチがエンジンコントロールユニットにシフト操作に対応する信号を送信します。

システムは、ギアチェンジとシフトダウンで別々に作用します。

この機能を最大限に活用するためのいくつかのヒントを以下に示します。

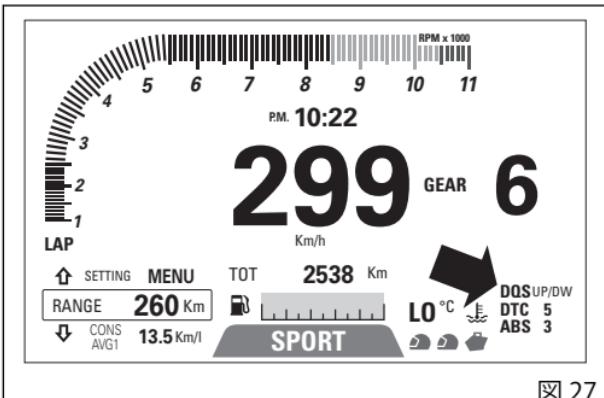


図 27

- 1) ドゥカティクイックシフトでは、このシステムを搭載ない車両と同様にギアチェンジペダルの操作を必要とします。ドゥカティクイックシフトはギアチェンジを自動で行うためのシステムではありません。

- 2) ギアをチェンジする時(シフトアップまたはシフトダウン)は、ギアチェンジペダルを停止している位置からシフトしたい方向に動かしてください。その際、スプリングの反発力に抵抗してペダルを一定距離動かし、ギアが完全に締結されるまでその位置を維持してください。ギアチェンジが完了したら、ドゥカティクイックシフトで次のギアチェンジができるようにペダルを完全に放してください。ドゥカティクイックシフトのリクエスト時にギアチェンジペダルをストロークエンドまで確実に動かさないと、ギアが完全に入らない場合があります。
- 3) クラッチレバーを操作する場合には、ドゥカティクイックシフトのアシストは作動しません。クラッチレバーを引いたとき、ドゥカティクイックシフトは起動しません。
- 4) スロットルが完全に閉じている場合にのみ、ドゥカティクイックシフトはシフトダウンを実行します。
- 5) 万ードゥカティクイックシフトのストラテジーが作動しない場合でも、クラッチレバーを操作してギアチェンジを完了することができます。
- 6) ギアチェンジペダルを上下いずれかの方向に30秒以上押し続けると(誤って操作した場合でも)、不正なエラーとしてコントロールユニットに記録され、ドゥカティクイックシフトの機能が停止することがあります。こうした場合にシステムを再起動するには、インストルメントパネルを一旦切ってからもう一度起動してください。
- 7) ドゥカティクイックシフトは、エンジン回転数2,500 rpm 以上で作動するように設計されています。
- 8) ドゥカティクイックシフトを使ったシフトダウン機能は、すべてのギアにおいて定義された回転数の限界値以下でのみ作動します。これは、シフトダウンした時にエンジンの最高回転数を超えてしまうのを防ぐためです。
- 9) クルーズコントロールシステムの作動中は、DQSシステムによるシフトダウンはできません。

車両のセットアップ

インストルメントパネルは車両セットアップの状態をエレクトロニックサスペンションDSS(ドゥカティスカイフックサスペンション)の設定に基づき表示します。

以下の4通りのセットアップのいずれかを各ライディングモードと連動させることができます。

- ライダーのみ：ヘルメット一個のマーク
- ライダー+荷物：ヘルメット一個と荷物のマーク
- ライダー+パッセンジャー：ヘルメット二個のマーク
- ライダー+パッセンジャー+荷物：ヘルメット二個と荷物のマーク

マークが点滅して表示される場合は、システムがブリードの点検を実施していることを示します。

参考

システムに異常が発生した場合は、セットアップのマークがオレンジ色に表示されます。

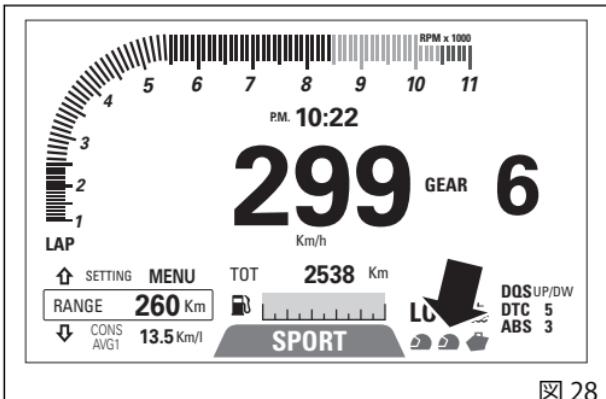


図 28



警告

システム異常の場合には、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

車両セットアップの変更 (Load Mode)

この機能では、静的・動的状況下での車両のセットアップを変更することができます。現在設定されているライディングモードのサスペンション調整を変更して行います。

以下の4通りのセットアップが用意されています。

- ライダーのみ (Rider)
- ライダー + 荷物 (Rider / Baggage)
- ライダー + パッセンジャー (Rider / Passenger)
- ライダー + パッセンジャー + 荷物 (Rider / Passenger / Baggage)

!**警告**

車両セットアップの変更は停車中に行なうことをお勧めします。運転中に車両セットアップの変更を行なう場合は十分にご注意ください(低速での変更をお勧めします)。

各セットアップに対して、特定のフロントコンプレッション/リバウンドダンピング、特定のリアコンプレッション/リバウンドダンピング、特定のリアスプリングプリロードが設定されています。ただし、スプリングプリロードはライディングモードに応じて異なります。

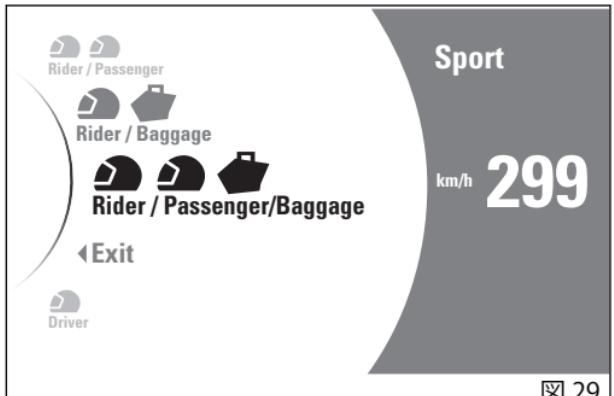


図 29

車両セットアップ機能のメニューを開くには、ボタン(2)を1秒間押します。

この時点で、ボタン(1)と(2)を使用して、各種設定と“◀ EXIT”をスクロール表示することができます。好みの設定を決定するには、ボタン(4)を押します。ボタンを放すと、インストルメントパネルは画面を終了し、新しい設定を保存します。

“◀ EXIT”的表示を選択している時にボタン(4)を1回押すと、インストルメントパネルは変更を実行せずに画面を終了します。



参考

現在使用しているライディングモードのセットアップを変更すると、次にライディングモードを変更した時、インストルメントパネルはライダーのみの設定を維持します。



警告

車両のセットアップを変更することで、ライディングモードも変更されてしまう場合があります。そのため、走行中のセットアップの変更には十分に注意してください(低速での変更をお勧めします)。

DSS

各ライディングモードにはDSSサスペンションの特定設定(フロントおよびリアのダンピング、リアショックアブソーバーのスプリングプリロード)が連動されています。設定はドゥカティ初期設定もしくはユーザーが設定機能ページから変更したものです。ライディングモードを選択するとき、すなわちメイン画面からボタン(4)を1秒間押してライディングモード選択メニューに入ると、各ライディングモードに連動するパラメーターが表示されます。その中に以下のパラメーターも表示されます。

- 1) FRONT(DSSフロントサスペンションシステム)およびフロントフォークのコンプレッション/リバウンドダンピング設定値
- 2) REAR(DSSリアサスペンションシステム)およびリアショックアブソーバーのコンプレッション/リバウンドダンピング設定値
- 3) PRE-LOAD(リアサスペンションスプリングプリロード)とリアショックアブソーバーにスプリングプリロード設定値(レベル01～レベル24)

Multistradaには新しいサスペンション制御システムDSS(ドゥカティスカイフックシステム)が搭載されています。DSSはサスペンションダンピング、つまりサスペンションの吸収能力に作用する力を制御するシス

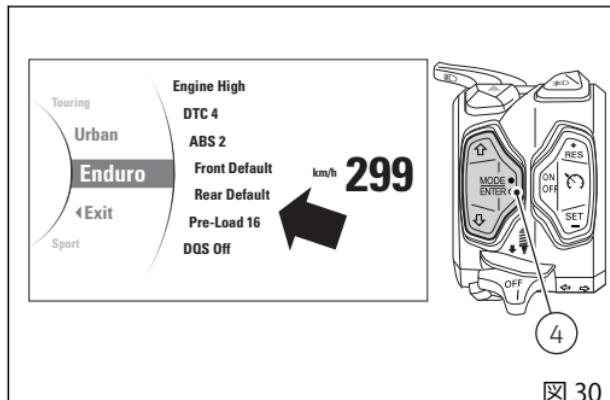


図 30

テムです。車両のサスペンションにはダイナミック性能の点から通常2つの目的があります。車体(ライダー)への影響を考慮して、路面の起伏を吸収すること、そしてホイールとアスファルトとの接地を高めることです。DSSシステムには、性能を維持しながら通常のパッシブサスペンションで得られるコンフォートを向上させる目的があります。

Multistradaには新しいサスペンション制御システムDSS(ドゥカティスカイフックシステム)が搭載されています。DSSはサスペンションダンピング、つまりサスペンションの吸収能力に作用する力を制御するシステムです。車両のサスペンションにはダイナミック性

能の点から通常2つの目的があります。車体(ライダー)への影響を考慮して、路面の起伏を吸収すること、そしてホイールとアスファルトとの接地を高めることです。DSSシステムには、性能を維持しながら通常のパッシブサスペンションで得られるコンフォートを向上させる目的があります。

DSSシステムは車両のライディングモードと完全に一体化されています。ライディングモードを選択することにより、サスペンションの基本動作、特徴、それに伴う車両の特徴を決定することができます。車両の動きに合わせてDSSはその動作を修正します。これはライディングモードとは独立して行われますが、サスペンションの基本動作はやはりライディングモードにより決定されます(すなわち、ライディングモードURBANではより快適に、SPORTではよりハードになります)。ライディングモードURBANとTOURINGを例として考えてみると、さらによく理解できるでしょう。ライディングモードURBANは市街地での運転に適するように設定されています。したがって、サスペンションの基本動作はアスファルトの凹凸を最大限に吸収するよう設定されており、このため一般的により快適なサスペンションになります。ライディングモードTOURINGはツーリング走行のために生まれたものです。ツーリング走行は車両を酷使するため、サスペンションの基本動作にはよりハードでコントロールさ

れたものが要求されます。いずれの場合にも、車両の挙動、特にセットアップや垂直方向・進行方向の動きが、快適さを損なったり車両の性能に影響を及ぼしたりするときは、DSSシステムが介入します。一定速度で運転中、ブレーキング時あるいは加速時等に関わらずシステムは介入を行います。

バッテリーを保護するため、次の2つの条件が想定されています。

- 1) エンジンが起動している状態で、インストルメントパネルを切らずにエンジンを切ると、30秒後にサスペンションへの電源供給が停止します。
- 2) エンジンが停止している状態で、エンジンをかけずにインストルメントパネルを起動すると、30秒後にサスペンションへの電源供給が停止します。



参考

これらのサスペンションは電源が供給されていないと、ダンピングが強くかかるため車両が停止のように非常に硬くなっています。サスペンションに電源が供給されている状態から電源供給が停止した状態への移行は、はっきりと分かります。



参考

Key-OFF(車両停止)の状態では、電源が供給されていないバルブがダンピングを最小限に保持するため、車両はかたくなっています。

下表には Multistrada のライディングモードとそれに対応するサスペンションの動作が記載されています。

ENDURO	ライディングモード ENDURO を選択すると DSS システムはサスペンションの基本動作を設定し、オフロードで典型的な凹凸を吸収し、オフロードで見られるグリップタイプに合わせて進行方向の動きを向上させます。
SPORT	ライディングモード SPORT を選択すると、DSS システムはサスペンションの基本動作をよりハードにし、凹凸の少ない状態の良い路面を走行するための設定を行います。その結果、車両の反応が非常に良いコントロールされたものになり、車両の性能を最大限に活かした運転が可能になります。
TOURING	ライディングモード TOURING を選択すると、DSS システムはサスペンションの基本動作をツーリング走行用に設定します。そのため、快適かつコントロールされた基本動作となります。
URBAN	ライディングモード URBAN を選択すると、DSS システムは市街地の道路の凹凸をよく吸収できるサスペンションの基本動作に設定します。同時に車両の高い動的制御と、レベルの高いコンフォートを実現します。

DSSシステムのデフォルト設定は、インストルメントパネルの専用設定メニューを介して変更することができます。設定メニューではそれぞれのライディングモードに対してフォークおよびショックアブソーバーの挙動を特徴づける基本の硬さを個別に増加または減少させることができます。SOFT設定を選択すると、DSSはよりソフトになるようサスペンションの特性を変更します。逆にHARD設定を選択すると、DSSはより硬くなるようサスペンションの特性を変更します。

さらにDSSシステムは、ライダーのみの設定からライダー+パッセンジャー+バッグの設定まで車両積載設定と相互に作用します。別の積載設定を選択すると、負荷があっても運転中に適切な調整がおこなえるよう、リアショックアブソーバーのプリロードを変更するだけでなく、車両の動的制御を決定するパラメーターにも影響を与えます。そのため車両積載設定の選択することで、こうした車両のダイナミックを最適化してくれます。

ライディングモードENDUROで小さな凹凸のあるオフロードをツーリング走行するには、車両の負荷をライダーのみに設定することが推奨されます。逆に激しい凹凸のあるオフロードをスポーツ走行するには、パッセンジャーと荷物を搭載する設定まで徐々に負荷設定を上げていくことが推奨されます。

プリロードについても、インストルメントパネルの専用メニューから基本設定を変更することができます。

プリローダーアクチュエーターの作動範囲は12 mm (0.47 in)で、インストルメントパネルはプリロードを24のポジションに調整します。ひとつのポジションがプリロード0.5 mm (0.20 in)に相当します。これにより、あらゆる積載条件下で車両の状態を最適にすることができます。

警告

DSSシステムの設定は車両積載の設定に大きく依存しています。実際の負荷と設定積載条件が異なると、システムの最適な動作は保証できません。DSSシステムは車両の標準スプリングで調整されています。システムに関連する部品を変更すると、システムおよび車両の最適な動作を維持できない可能性があります。

ギア

インストルメントパネルは車両のギアに関する情報を受信し、ディスプレイにその値を表示します。

ギアが挿入されている時は1から6の値が表示され、ニュートラルの時は"N"の文字が表示され、ニュートラルランプ(ランプ2、図8)が点灯します。

ギアチェンジを行う必要のある時に、"C"の文字とニュートラルランプ(ランプ2、図8)が点滅します。

以下のような場合には線“-”が表示されます。

- ギアの学習が実施されていない場合は、線“-”とニュートラルランプ(ランプ2、図8)が点滅します。
- ギアセンサーホーネーの場合は、線“-”が点灯し、ニュートラルランプ(ランプ2、図8)が点滅します。
- インストルメントパネルがギアデータを受信できない時は、線“-”が点滅します。

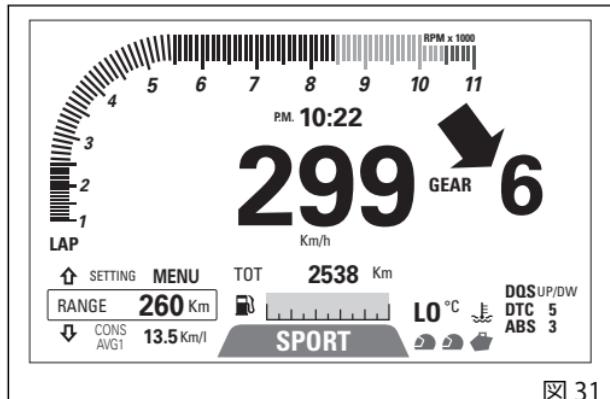


図 31



参考

線“-”が点灯し、ニュートラルランプが消えている場合は、ギアが機械的に安定した位置にない可能性があります。その場合は、ギアが正しく表示されるまで、ギアを操作してください。

オドメーター (TOT)

オドメーターは車両の総走行距離を設定単位(キロまたはマイル)でカウント、表示します。

オドメーターに対応する数値(キロまたはマイル)は、"TOT"の文字と単位で表示されます。最大値(199999 kmまたは199999 mi)に達するとインストルメントパネルにその値が表示されたままになります。

オドメーターの値は常に保存され、いかなる理由でもリセットすることはできません。

電源の供給が中断(バッテリー OFF)してもデータは消去されません。



オドメーター機能で点線"-----"が点滅表示される場合は、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

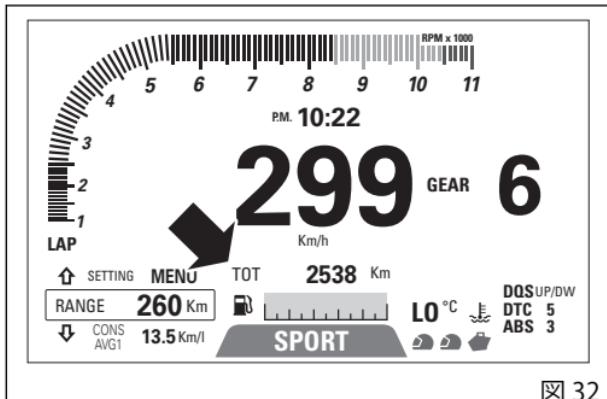


図 32

メニュー機能

左側スイッチのボタン(1)または(2)を押すと、メイン画面にメニュー内の機能をスクロール表示することができます。

ボタン(1)を押すごとに、「位置」が増えていきます(最初の位置から最後の位置までいくと、また最初の位置に戻ります)。ボタン(2)を押すごとに、「位置」が減っていきます(最後の位置から最初の位置までいくと、また最後の位置に戻ります)。

設定されているインフォモードとライディングモードに応じて、メニューには異なる機能が表示されます。メニューには以下の機能が表示されます。

- RANGE (航続可能距離)
- CONS AVG 1 (平均燃費)
- TRIP 1 (トリップメーター 1)
- TRIP TIME 1 (トリップタイム)
- SPEED AVG 1 (平均スピード)
- TRIP 2 (トリップメーター 1)
- CONS. (瞬間燃費)
- T AIR (外気温)
- TRIP MASTER (OFF または ON)
- プレーヤー (OFF または ON) (BT モジュールが搭載されており、スマートフォンが接続されている場合のみ)

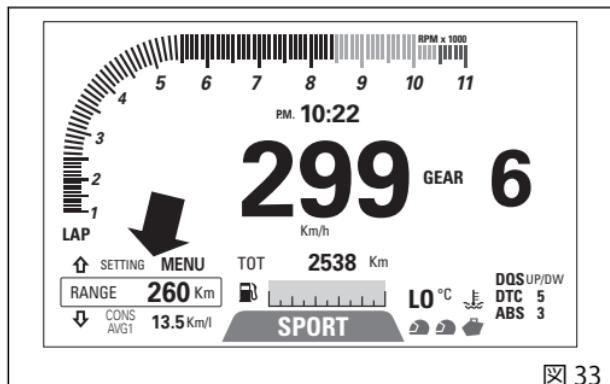


図 33

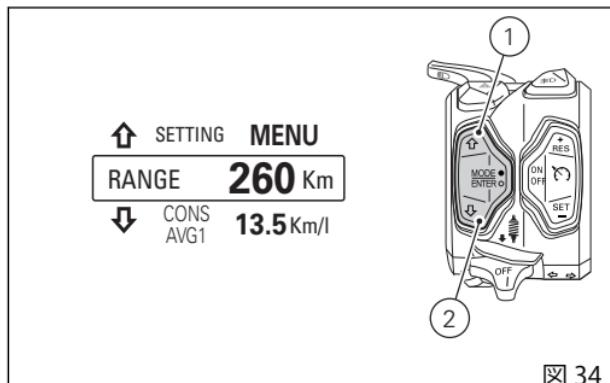


図 34

- LAST CALLS (Bluetooth モジュールが搭載されており、スマートフォンが接続されている場合のみ)
- TIRE PRESSURE (アクセサリー、搭載している場合のみ)
- ABS (OFF または ON)
- SETTING MENU

航続可能距離 (RANGE)

この機能はフューエルタンク内の燃料で走行できる航続可能距離を表示します。

航続可能距離の値(キロまたはマイル)は、"RANGE"の文字と単位で表示されます。

データが最大値(999 km または 621 mi)を超えると、カウンターは自動的にリセットされ、再びゼロからカウントを始めます。

この機能にエラーが検知されると、インストルメントパネルは3本の破線 "---" を点滅させます。

インストルメントパネルが RANGE データを受信できない場合は、3本の破線 "---" が固定表示されます。

インストルメントパネルが単位情報を受信できない場合は、デフォルト単位を点滅表示します。

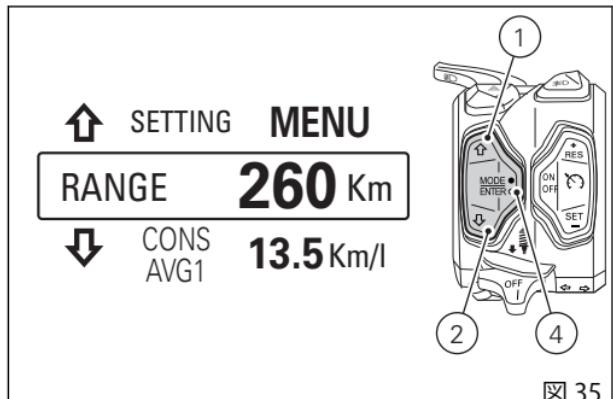


図 35

平均燃費 (CONS.AVG 1)

インストルメントパネルは平均燃費を算出して表示します。

平均燃費は“CONS.AVG 1”の文字と共に単位(リットル/100 km、mpg UK、mpg USA)で表示されます。TRIP 1 が最後にリセットされてからの消費燃料と走行距離から計算されます。

TRIP 1 がリセットされるとデータがリセットされ、最初のデータはリセットから 10 秒後に表示されます。数値が表示されない最初の 10 秒間は 3 本の破線“---”が平均燃費として固定表示されます。

停車中であってもエンジンが作動している場合は時間が計算されます。車両が停車中でエンジンが停止している時間は考慮されません。

平均燃費の表示中にボタン(4)を押すと、データと単位の代わりに“RESET?”(リセットしますか)と表示されます。この表示が起動しているときは、メニューのスクロールはできません。

ボタン(1)またはボタン(2)を押すと、データをリセットせずに CONS.AVG 1 の表示に戻ります。

一方ボタン(4)を押すと、CONS.AVG 1 のデータがリセットされます。インストルメントパネルは CONS.AVG 1 の表示に戻り、“0.0”と設定単位が表示されます。

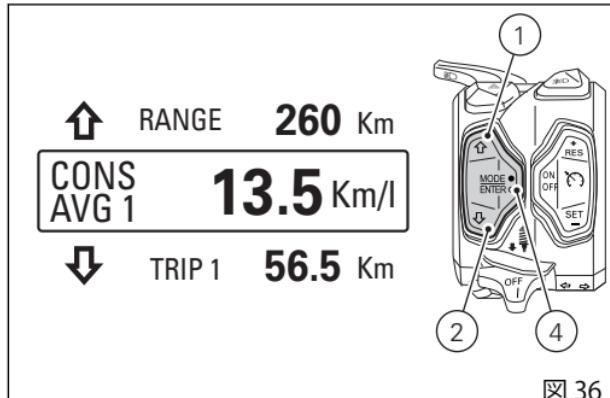


図 36

平均燃費がリセットされると、数値が表示されない最初の 10 秒間は 3 本の破線“---”が表示されます。



参考 平均燃費 (CONS.AVG 1) のデータがリセットされると、トリップメーター 1 (TRIP 1)、平均スピード (SPEED AVG 1)、トリップタイム (TRIP TIME 1) のデータもリセットされます。

 **参考**

スピード(および距離)、または燃費に関する値の単位が変更された場合とバッテリー OFF の後に、平均燃費のデータは自動的にリセットされます。

 **参考**

設定メニューの“UNITS SETTING”機能から、燃費の単位を変更することができます(平均燃費、瞬間燃費を同時に変更)。

トリップメーター 1 (TRIP 1)

トリップメーターは車両の部分走行距離を設定単位(キロまたはマイル)でカウント、表示し、平均燃費、平均スピード、トリップタイムの算出に使用されます。TRIP 1 の値(キロまたはマイル)は、"TRIP 1" の文字と単位で表示されます。

データが最大値 9999.9 km または 9999.9 mi を超えると、カウンターは自動的にリセットされ、再びゼロからカウントを始めます。

トリップメーターの表示中にボタン(4)を押すと、データと単位の代わりに "RESET?"(リセットしますか)と表示されます。この表示が起動しているときは、メニューのスクロールはできません。

ボタン(1)またはボタン(2)を押すと、データをリセットせずに TRIP 1 の表示に戻ります。

一方ボタン(4)を押した場合は、TRIP 1 のデータがリセットされます。インストルメントパネルは TRIP 1 の表示に戻り、“0.0”と設定単位を表示します。

TRIP 1 がリセットされると、平均燃費、平均スピード、トリップタイムのデータもリセットされます。

TRIP 1 のカウントは、システムの単位を手動で変更した場合とバッテリー OFF の後にも自動的にリセット

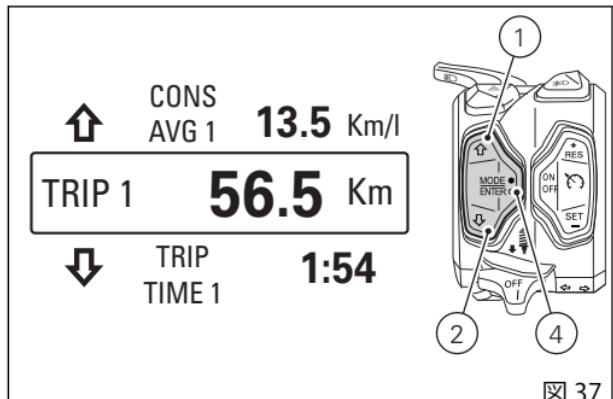


図 37

され、新しく設定した単位でゼロから再びカウントを始めます。

トリップタイム (TRIP TIME 1)

インストルメントパネルは走行時間を計算して表示します。

"hh:mm" 形式のデータを "TRIP 1" の文字と共に表示します。

走行時間 (TRIP 1, ページ 96)、平均燃費 (CONS.AVG 1, ページ 94)、平均スピード (SPEED AVG 1, ページ 98) が最後にリセットされてからの経過時間を用いて計算されます。TRIP 1 がリセットされると、データもリセットされます。

車両が停車中であってもエンジンが作動している場合は時間が計算されます停車中でエンジンが停止している時間は自動的に止まり、エンジンが作動すると自動的に時間計測を再開します。

表示時間が "511:00" (511 時間 00 分) を超えると、カウンターは自動的にリセットされ、再びゼロからカウントを始めます。

トリップタイムの表示中にボタン (4) を押すと、時間の代わりに "RESET?" (リセットしますか) と表示されます。この表示が起動しているときは、メニューのスクロールはできません。

ボタン (1) またはボタン (2) を押すと、データをリセットせずに TRIP TIME 1 の表示に戻ります。

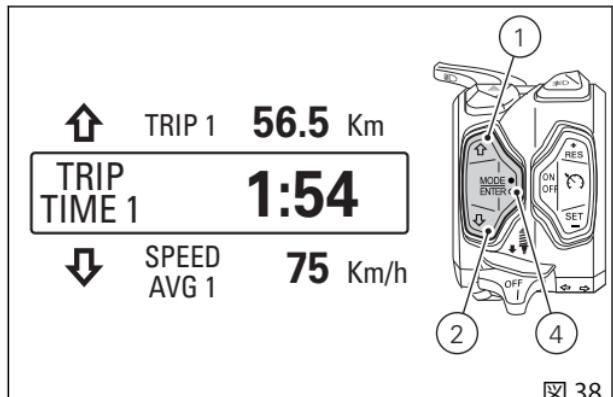


図 38

一方ボタン (4) を押した場合は、TRIP TIME 1 のデータがリセットされます。インストルメントパネルは TRIP TRIP 1 の表示に戻り、“0:00” を表示します。



参考

スピード(および距離)、または燃費に関する値の単位が変更された場合とバッテリー OFF の後に、走行時間のデータは自動的にリセットされます。

平均スピード (SPEED AVG 1)

インストルメントパネルは平均スピードを算出して表示します。

平均速度の値は、“SPEED AVG 1” の文字と単位 (km/h または mph) で表示されます。

平均スピードは車両スピードの表示と同様に、実速度に 5 % 上乗せした値が表示されます。

TRIP 1 が最後にリセットされてからの走行距離と時間から計算されます。TRIP 1 がリセットされるとデータがリセットされ、最初のデータはリセットから 10 秒後に表示されます。数値が表示されない最初の 10 秒間は 3 本の破線 “---” が平均スピードとして固定表示されます。

停車中であってもエンジンが作動している場合は時間が計算されます。車両が停車中でエンジンが停止している時間は考慮されません。

平均スピードの表示中にボタン (4) を押すと、データと単位の代わりに “RESET?” (リセットしますか) と表示されます。この表示が起動しているときは、メニューのスクロールはできません。

ボタン (1) またはボタン (2) を押すと、データをリセットせずに SPEED AVG 1 の表示に戻ります。

一方ボタン (4) を押した場合は、SPEED AVG 1 のデータがリセットされます。インストルメントパネルは

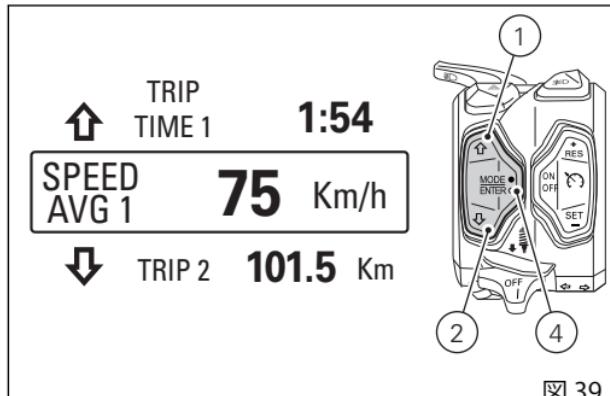


図 39

SPEED AVG 1 の表示に戻り、“0” と設定単位を表示します。

平均スピードがリセットされると、数値が表示されない最初の 10 秒間は 3 本の破線 “---” が表示されます。



平均スピード (SPEED AVG 1) のデータがリセットされると、トリップメーター 1 (TRIP 1)、平均燃費 (CONS.AVG 1)、トリップタイム (TRIP 1 TIME) のデータもリセットされます。

 **参考**

スピード(および距離)、または燃費に関する値の単位が変更された場合とバッテリー OFF の後に、平均燃費のデータは自動的にリセットされます。

 **参考**

設定メニューの "UNITS SETTING" 機能から、"スピード"(および"距離")の単位を Km/h(およびKm)から mph(およびマイル)に変更することができます。

トリップメーター 2 (TRIP 2)

トリップメーターは車両の部分走行距離を設定単位(キロまたはマイル)でカウント、表示します。TRIP 2 の値(キロまたはマイル)は、“TRIP 2”の文字と単位で表示されます。

データが最大値 9999.9 km または 9999.9 mi を超えると、カウンターは自動的にリセットされ、再びゼロからカウントを始めます。

トリップメーターの表示中にボタン(4)を押すと、データと単位の代わりに“RESET?”(リセットしますか?)と表示されます。この表示が起動しているときは、メニューのスクロールはできません。

ボタン(1)またはボタン(2)を押すと、データをリセットせずに TRIP 2 の表示に戻ります。

一方ボタン(4)を押した場合は、TRIP 2 のデータがリセットされます。インストルメントパネルは TRIP 2 の表示に戻り、“0.0”と設定単位を表示します。

TRIP 2 のカウントは、システムの単位を手動で変更した場合とバッテリー OFF の後にも自動的にリセットされ、新しく設定した単位でゼロから再びカウントを始めます。

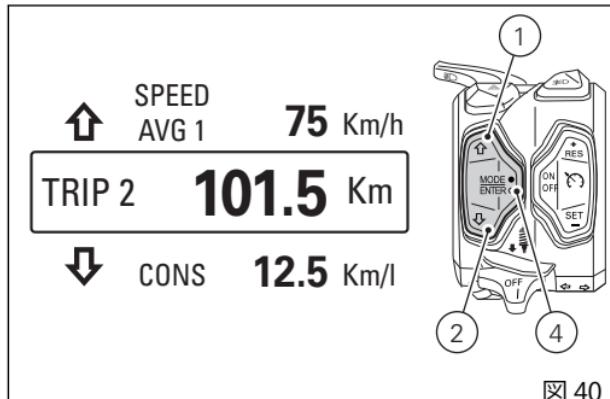


図 40

瞬間燃費 (CONS.)

インストルメントパネルは瞬間燃費を算出して表示します。

瞬間燃費は“CONS.”の文字と共に単位(リットル/100 km、mpg UK、mpg USA)で表示されます。

数値は直前の1秒間の燃料消費量と走行距離から算出されます。

データは設定された単位、リットル/100 km、mpg UK、mpg USAで表示されます。

数値はエンジンが作動しており車両が動いている場合にのみ計算されます(車両速度がゼロ、あるいはエンジン停止状態で車両が停車している間は計算されません)。

計算されていない時は、ディスプレイ上に3本の破線“---”が瞬間燃費として固定表示されます。

参考

設定メニューの“UNITS SETTING”機能から、燃費の単位を変更することができます(平均燃費、瞬間燃費を同時に変更)。

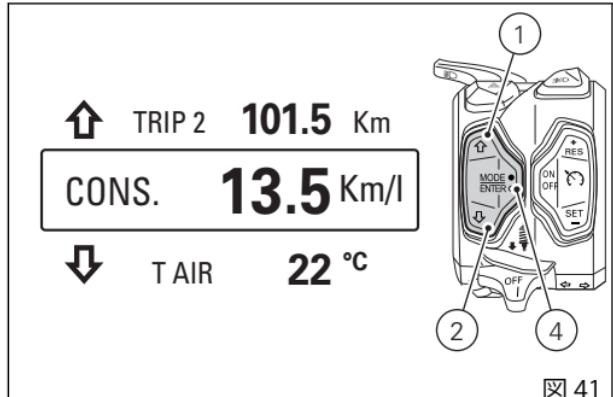


図 41

外気温 (T-AIR)

インストルメントパネルは外気温を "T AIR" の文字と単位 (° C または ° F) で表示します。

温度データは -39 ° C ~ +125 ° C (-38 ° F ~ +257 ° F) の場合に表示されます。

温度が -39 ° C (-38 ° F) 未満あるいは +125 ° C (+257 ° F) を超える場合には 3 本の破線 "---" と単位が表示されます。

インストルメントパネルが気温のデータを受信しない場合、単位と共に 3 本の破線 "---" が固定表示されます。

参考

エンジンの熱が停車中の車両の温度表示に影響を与える場合があります。

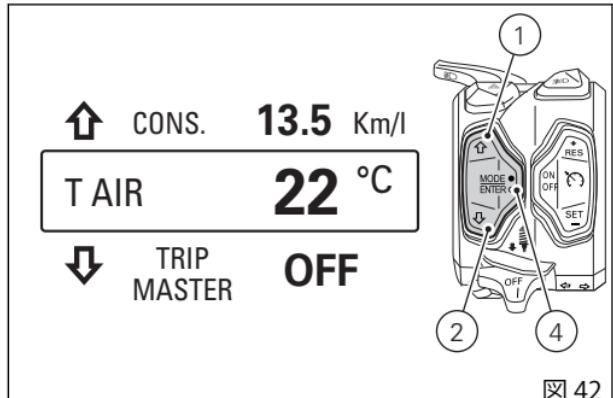


図 42

トリップメーター (TRIP MASTER)

トリップメーター Trip Master は OFF ROAD モードでのみ表示されます。

トリップメーター Trip Master は車両の部分走行距離(キロまたはマイル)をカウント、表示します。Trip Master はカウントアップやリセットだけではなく、一時停止やカウントダウンも可能です。

Trip Master 機能を起動するには、ボタン(1)および(2)でメニュー内の "TRIP MASTER OFF" を選択し、ボタン(4)を押します(図 43)。

この時点では、メニューの上に Trip Master 操作メニューが表示されます。操作はボタン(1)、(2)、(4)を使って行います(図 44)。

カウントアップ時またはカウントダウン時にボタン(4)を1回押すと、カウントが一時停止します。ボタン(4)をもう一度押すと、カウントが再開されます。

ボタン(4)を2秒間押すとデータがリセットされ、カウントアップ式でカウントが自動的に再開されます。

カウントダウン時にボタン(1)を押すと、カウント方法がカウントアップに変わります。

カウントアップ時にボタン(2)を押すと、カウント方法がカウントダウンに変わります。

ボタン(2)を2秒間押すと、Trip Master の操作メニューを終了します。

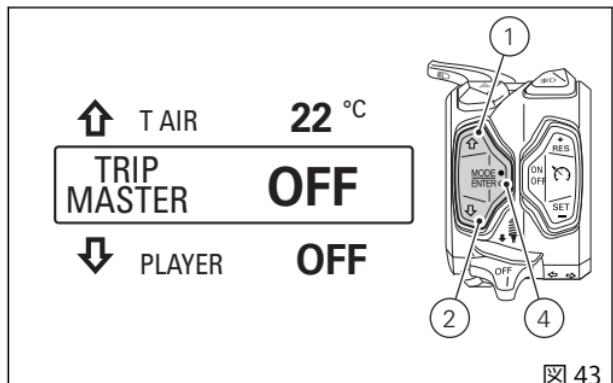


図 43

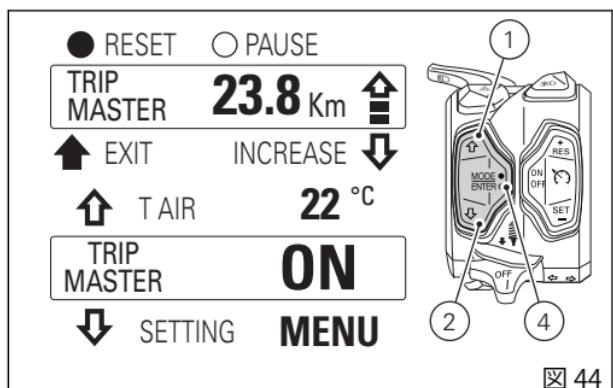


図 44

Trip Master機能を停止するには、ボタン(1)および(2)でメニュー内をスクロールし、"TRIP MASTER ON"を選択してボタン(4)を押します。これによって、インストルメントパネルが機能を中止し、カウントをリセットします。

Trip Masterの操作モードにもう一度入るには、ボタン(1)および(2)でメニュー内をスクロールし、"TRIP MASTER ON"を選択してボタン(1)を2秒間押します。これによって、インストルメントパネルがTrip Master操作メニューを再び開き、ボタンの機能がTrip Master操作専用に戻ります。

Trip Masterは、データが0.0(キロまたはマイル)のときはカウントアップのみが可能です。データが100メートル(0.1マイル)に達するまでは、カウント方法を変えることはできません。

カウントアップでは、データは999.9(キロまたはマイル)までカウントされるとゼロ(0.0)に戻り、カウントアップを続けます。

カウントダウンでは、データは0.0(キロまたはマイル)までカウントされるとカウントは一時停止します。データが点滅し、その後カウントダウンからカウントアップにカウント方法が変わります。

以下の場合においても、データが自動的にリセットされ、カウントアップ方法でのカウントを再開します。

- 電源供給が中断された時 (Battery-OFF)
- "UNIT SETTING" からインストルメントパネルの表示単位を変更した時

Trip Master操作メニューを終了しても、TRIP MASTER機能はカウントを続けます(または、その時の状態に応じて一時停止を維持)。

プレーヤー操作 (PLAYER)

この機能でプレーヤーの操作(起動または停止)が可能です。

Bluetooth モジュールが搭載されており、スマートフォンが接続されている場合にのみ、PLAYER 機能がメニューに表示されます。

プレーヤーが起動していない場合、インストルメントパネルは "PLAYER OFF" の文字を表示します。プレーヤーを起動してプレーヤーメニューに入るには、ボタン(4)を押します(プレーヤーの使い方については「インフォティメント」の章を参照してください)。

プレーヤーが起動している場合は、インストルメントパネルに "PLAYER ON" の文字が表示されます。プレーヤーメニューに入るには、ボタン(1)を 2 秒間押します(プレーヤーの使い方については「インフォティメント」の章を参照してください)。

プレーヤーを停止するには、ボタン(4)を押します。

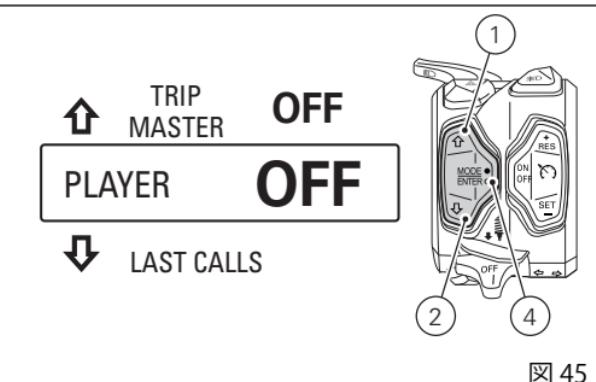


図 45

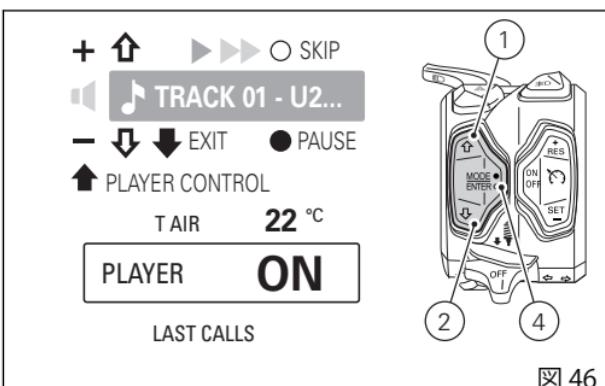


図 46

通話操作 (LAST CALLS)

この機能では最近の不在着信、発信通話、着信通話の履歴を表示します。

Bluetooth モジュールが搭載されており、スマートフォンが接続されている場合にのみ、CALLS 機能がメニューに表示されます。

ボタン(4)を押して機能に入ると、最大7つの通話まで表示されます。これらには不在着信、発信通話、着信通話が含まれます。

インストルメントパネルには氏名または電話番号が表示されます。ボタン(1)および(2)を使用して、通話履歴をスクロール表示することができます。ボタン(4)を押すと、表示されている氏名または電話番号に電話をかけます。

通話履歴が存在しない場合は、メニュー内に“EMPTY”的文字が表示されます。

機能を終了して前の画面に戻るには、ボタン(2)を2秒間押します。

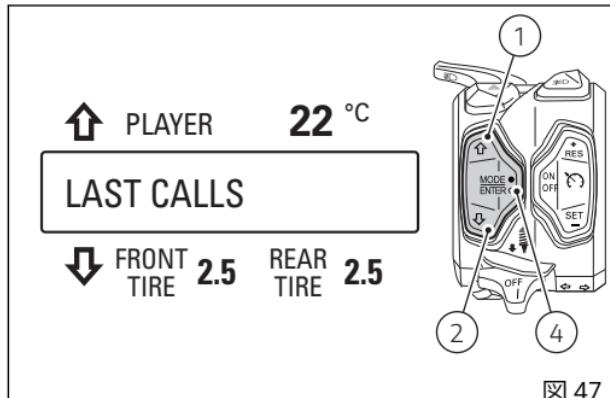


図 47

タイヤ空気圧低下表示(TIRE PRESSURE)-ア クセサリー

この機能は、アクセサリーとして購入いただけるタイヤ空気圧センサーを搭載している場合にのみ利用できます。フロントタイヤとリアタイヤの空気圧値を表示します。

参考

タイヤの空気圧が低下していることをTPMS(タイヤ空気圧)センサーが検知します。

“FRONT TIRE”および“REAR TIRE”的文字と一緒に、それぞれフロントタイヤとリアタイヤに該当する空気圧値が表示されます。

タイヤ空気圧値の単位は「bar」で表示されます。

参考

以下のような場合には破線“-.”が点滅せずに表示されます。

- インストルメントパネルがフロントタイヤ/リアタイヤの有効な空気圧値を受信できない場合。
- ひとつまたは両方の空気圧センサーがオフになっている場合。

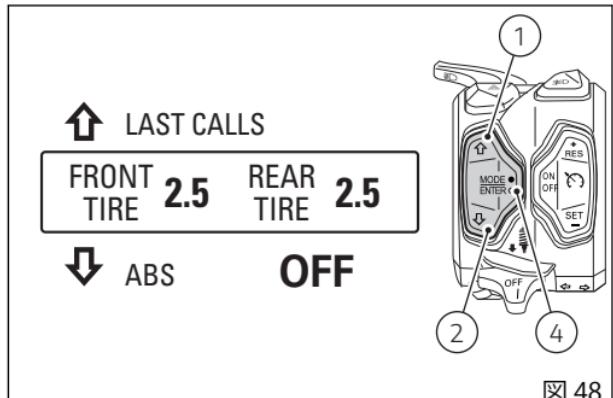


図 48

参考

ひとつまたは両方の空気圧センサーに異常がある場合は、インストルメントパネルのデータが点滅するか、もしくは破線“-.”が点滅します。

! 重要

タイヤ空気圧センサーの設定基準値は、“チューブレスタイヤ”(ページ 347) の記載に従って入力してください。

タイヤを交換したときは必ず、“チューブレスタイヤ”(ページ 347) の記載に従って空気圧値を設定してください。

ABS の起動/解除

この機能は設定メニューに入らずに ABS システムを解除または起動させることができます。

参考

ライディングモードが ENDURO に設定されている場合のみ、ABS システムの手動による解除と起動が可能です。

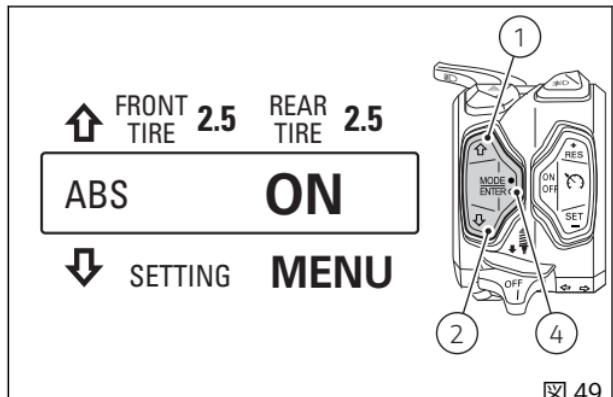
ABS システムを起動したときは、インストルメントパネルに “ABS ON” が表示されます。

ABS システムを解除するには、“ABS ON” が表示されたときにボタン(4)を押します。

参考

ABS の解除プロセスを実行するには、走行速度は 5 km/h (3 mph) 以下でなければなりません。それ以上の速度で走行しているときは、ボタン(1)および(2)でメニューの機能をスクロールすることしかできません。

ボタン(4)を押すと、メニュー内の “ABS ON” 表示の代わりに “WAIT …” が 2 秒間表示されます。この間は、ボタン(1)および(2)を使ってメニューの機能をスクロールすることはできません。



システムを解除すると “ABS OFF” の表示が現れます。さらに ABS ランプ(10、図 8)が点灯して、ABS システムが解除されたことを示します。ボタン(1)およびボタン(2)を使用して再起動することができます。

ABS システムを解除した場合は、インストルメントパネルに “ABS OFF” が表示され、ABS ランプ(10、図 8)が点灯します。ABS システムを起動するには、“ABS OFF” が表示されたときにボタン(4)を押します。



参考

ABS の起動プロセスを実行するには、走行速度は 5 km/h (3 mph) 以下でなければなりません。それ以上の速度で走行しているときは、ボタン(1)および(2)でメニューの機能をスクロールすることしかできません。

ボタン(4)を押すと、メニュー内の“ABS OFF”表示の代わりに “WAIT …” が 2 秒間表示されます。この間は、ボタン(1)および(2)を使ってメニューの機能をスクロールすることはできません。

システムを起動すると “ABS ON” の表示が現れます。さらに ABS ランプ(10、図 8)が点灯して、ABS システムが起動していることを示します。ボタン(1)およびボタン(2)を使用して再起動することができます。

5 秒以内に ABS システムがステータスの変更を実行しなかった場合は、インストルメントパネルはメニュー内に “WAIT …” を表示し、“ABS-ERR” が 3 秒間点滅します。

3 秒後、

- システムの解除を要求していた場合には、インストルメントパネルは自動的に “ABS ON” の表示に戻り、もう一度解除要求を実行することができます。

- システムの起動を要求していた場合には、インストルメントパネルは自動的に “ABS OFF” の表示に戻り、もう一度起動要求を実行することができます。

設定メニュー (SETTING MENU)

このメニューではいくつかの車両機能のON/OFF および設定を行います。

安全上の理由により、車両の実速度が 5 km/h (3 mph) 以下の場合に限り、このメニューに入ることができます。設定メニュー (SETTING MENU) が表示されている時に車両の実速度が 5 km/h (3 mph) を超えると、インストルメントパネルは自動的に設定メニュー (SETTING MENU) を終了し、メイン画面を表示します。

設定メニュー (SETTING MENU) に入るには、ボタン(1) またはボタン(2) でメニュー内の項目 "SETTING MENU" を選択 (メイン位置、中央枠内に表示させる) し、ボタン(4) を押します。

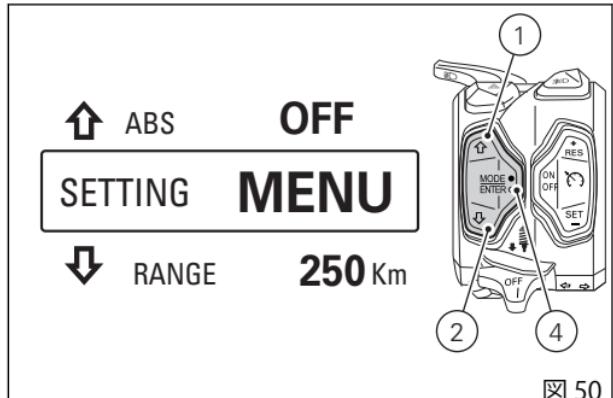


図 50

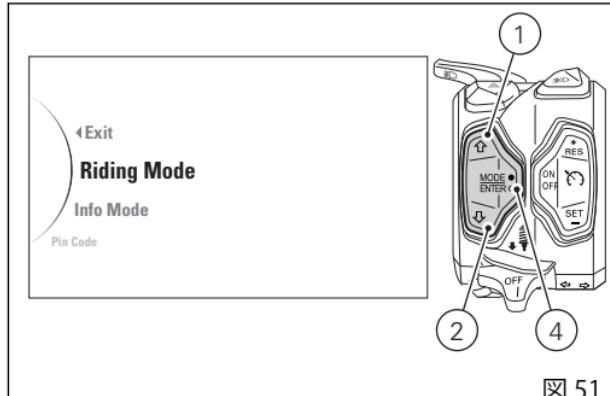
設定メニュー内に表示される表示は次の通りです。

- ◀ Exit
- ライディングモード
- Info Mode
- Pin Code
- Lap
- Backlight
- Date and Clock
- Units
- Service
- Tyre Calibration
- Load Mode
- Bluetooth
- Tyre Pressures
- Turn indicators Off
- Info
 - BATTERY (バッテリー)
 - RPM
- ◀ Exit

⚠ 重要

安全のために、このメニューは車両が停止している状態で使用してください。

以下の機能については設定と参照が可能です。



- Riding Mode (ライディングモード)
- Info Mode (表示モードのパーソナライズ)
- Pin Code (PIN CODE の起動および変更)
- Lap (ラップタイム)
- Backlight (バックライト調整 AUTO、DAY、NIGHT)
- Date and Clock (日付と時計の設定)
- Units (単位の設定)
- Service (サービス期限の表示)
- Tire Calibration (タイヤと減速比のキャリブレーション)
- Load Mode (車両セットアップの変更)

- Bluetooth (ペアリングとペアリングデバイスの削除)
- Tyre Pressures (空気圧センサー基準空気圧低下値設定 – アクセサリー)
- Turn indicators Off (ターンインジケーター自動解除の停止)
- Info
 - BATTERY (バッテリー電圧表示)
 - RPM (エンジン回転数表示)

ボタン(1)および(2)を押して、上記の機能を「メイン」位置に動かすことができます。これによって機能の表示が強調表示されます(例：**Riding Mode**)。希望の機能を「メイン」位置に表示した後にボタン(4)を押すと、選択した機能に対応するメニューページが開きます。

設定メニュー(SETTING MENU)を終了するには、“**◀ Exit**”表示が「メイン」位置にある時にボタン(4)を押します。

ライディングモードのパーソナライズ (Riding Mode)

各ライディングモードのそれぞれの設定をパーソナライズすることができます。

「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。ボタン(1)または(2)を押して "Riding Mode" を選択します。機能を表示したら、ボタン(4)を押します。機能に入ると、選択可能なライディングモード (SPORT, TOURING, URBAN, ENDURO) がディスプレイ左側に、設定されているライディングモードが右側に表示されます。

このページ内に表示される表示は次の通りです。

- ◀ Back
- Sport
- Touring
- Urban
- Enduro
- All Default
- ◀ Back

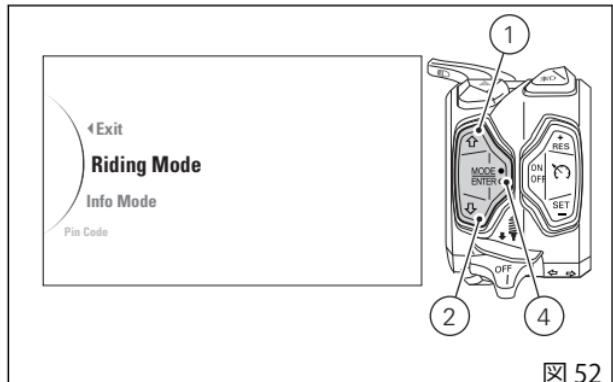


図 52

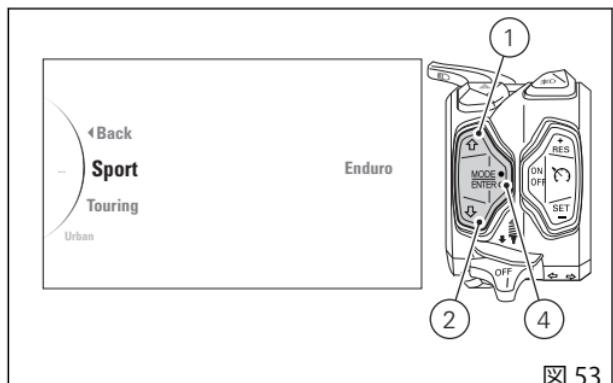


図 53

ボタン(1)、(2)、(4)を使用して、以下の操作を行うことができます。

- ボタン(1)と(2)でパーソナライズしたいライディングモードを選択します。ボタン(4)を押すと、選択したライディングモードのパーソナライズに入ります。
- ボタン(1)と(2)で"◀ Back"の文字を強調して選択します。ボタン(4)を押すと、前の画面に戻ります。
- ボタン(1)と(2)で"All Default"の表示を強調して選択します。ボタン(4)を押すと、4つすべてのライディングモードを工場出荷時の値に回復することができます。

ひとつのライディングモードに連動するパラメーターでパーソナライズできるものは、ENGINE、DTC、ABS、DQS、車両サスペンションのセットアップ、DEFAULT(ライディングモードを工場出荷時の値に回復)です。このページ内に表示される表示は次の通りです。

- ◀ Back
- Engine
- DTC
- ABS
- DQS

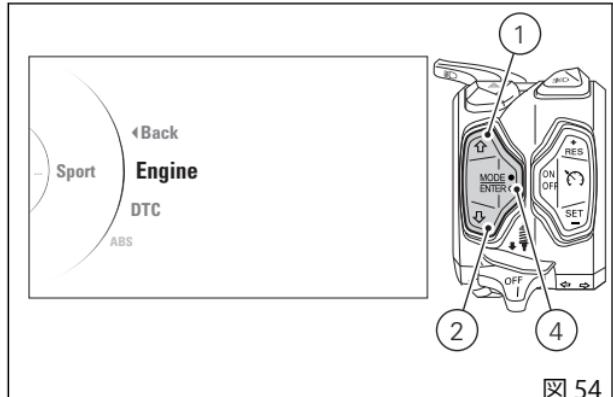


図 54

- Suspension
- Load Mode
- Default(ひとつ以上のパラメーターが初期設定値と異なる場合のみ表示されます)
- ◀ Back

ボタン(1)またはボタン(2)を押すたびに、選択したライディングモードの全パラメーターをスクロールすることができます。パラメーターが強調表示されている時にボタン(4)を押すと、パラメーターのパーソナライズに入り、パラメーターの設定を変更することができます。

変更したパラメーターはバッテリーを切り離してもリセットされません。それぞれのライディングモードをドゥカティ初期設定に戻すには、"Default"機能を選択してボタン(4)を押します。"◀ Back"機能が強調表示された時にボタン(4)を押すと、サブメニューを終了して前の画面に戻ります。

警告

パラメーター変更は、車両のセットアップに充分慣れている方のみにお勧めします。意図せず変更してしまった場合は、"DEFAULT"機能を使用してパラメーターを修復してください。

ライディングモードのパーソナライズエンジン調整

ここでは各ライディングモードに連動したエンジン出力を設定することができます。

「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して "Riding Mode" (A) を選択します。機能を表示したら、ボタン(4)を押します。

ライディングモードメニューに入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して、変更したいライディングモード (SPORT、TOURING、URBAN、ENDURO) (B) を選択します。ライディングモードを選択したら、ボタン(4)を押します。

選択したライディングモード(例：“SPORT”) (C) のパーソナライズメニューに入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して “Engine” の表示を強調して選択し、ボタン(4)を押します。

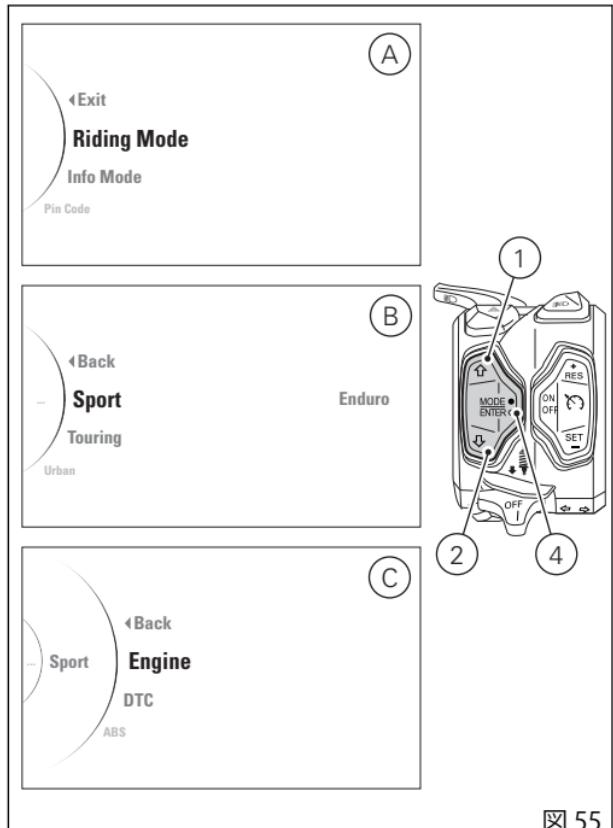


図 55

メニューに入ると、左側に調整が可能な内容、High、Medium、Low が表示され、右側に設定値が表示されます。

このページ内の選択可能な表示は次の通りです。

- ◀ Back
- High
- Medium
- Low
- ◀ Back

さらに、介入する部分を青色でハイライトしたバイクの図が表示されます。

ボタン(1)および(2)を使用して、新しく設定したいエンジン出力を選択します。

レベルを強調すると、そのレベルに連動する値が中央の表に表示されます(黒色背景)。

希望のレベルを強調表示したら、ボタン(4)を押して新しい設定を保存します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"◀ Back" の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

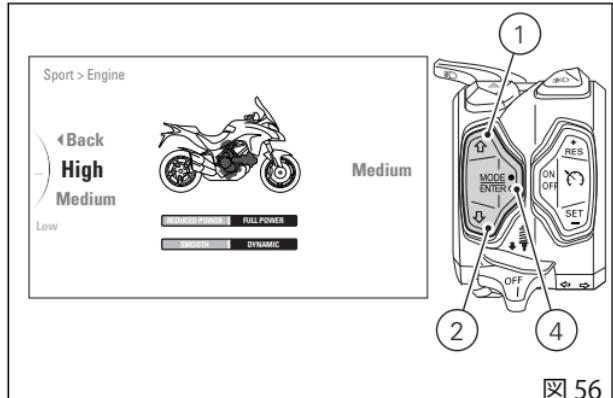


図 56

ライディングモードのパーソナライズ DTC レベルの設定

ここでは各ライディングモードに連動したDTC介入レベルの設定または解除を行うことができます。

「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して "Riding Mode" (A) を選択します。機能を表示したら、ボタン(4)を押します。

ライディングモードメニューに入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して、変更したいライディングモード (SPORT、TOURING、URBAN、ENDURO) (B) を選択します。ライディングモードを選択したら、ボタン(4)を押します。

選択したライディングモード(例：“SPORT”) (C) のパーソナライズメニューに入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して “DTC” の表示を強調して選択し、ボタン(4)を押します。

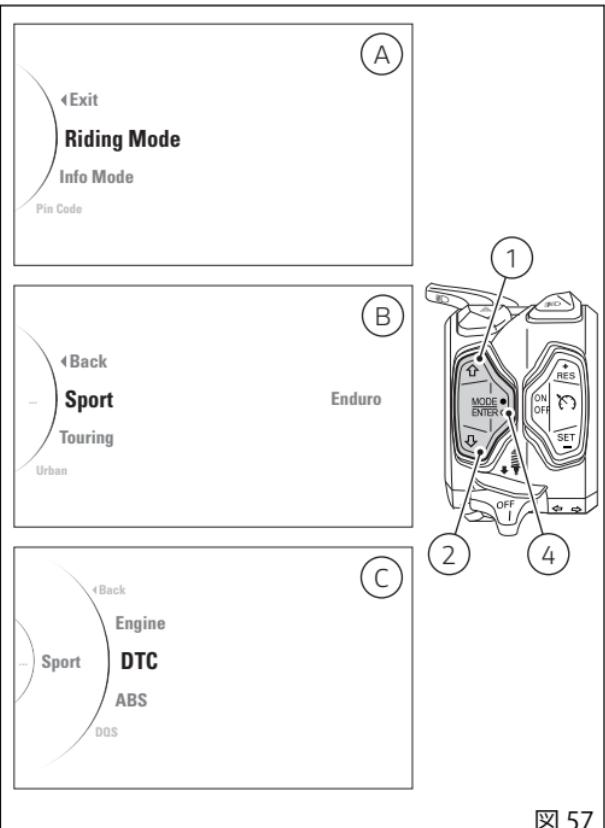


図 57

この機能に入ると、設定可能な全レベル(レベル1から8とOFF)の一覧が左側に、現在設定されているDTCレベル、または状態が右側に表示されます。
このページ内の選択可能な表示は次の通りです。

- ◀ Back
- Off
- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- ◀ Back

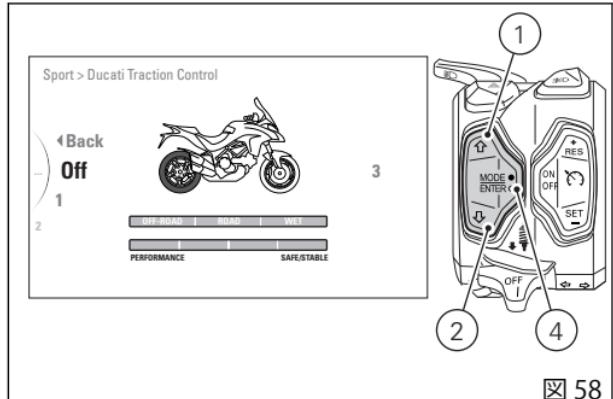


図 58

さらに、介入する部分を青色でハイライトしたバイクの図が表示されます。

ボタン(1)と(2)を使用して、設定したい介入レベルを選択します。レベルを強調すると、そのレベルに運動する値が中央の表に表示されます（黒色背景または黒色矢印で強調表示 ▼）。

希望のレベルを強調表示したら、ボタン(4)を押して新しい設定を保存します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"◀ Back" の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。



参考

"- " (OFF) を選択すると、DTC は解除されます。

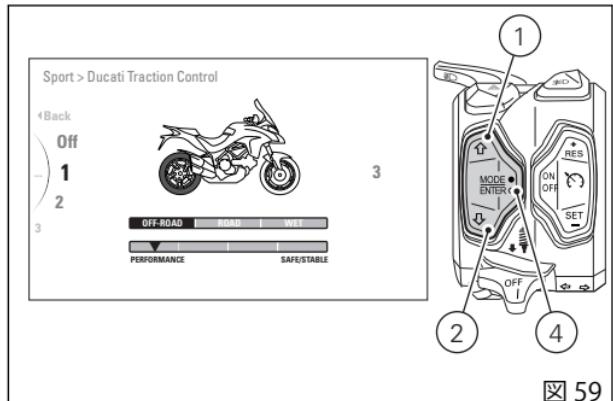


図 59

ライディングモードのパーソナライズ ABS 調整

ここでは各ライディングモードに運動したABS介入レベルの設定または解除を行うことができます。

「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して "Riding Mode" (A) を選択します。機能を表示したら、ボタン(4)を押します。

ライディングモードメニューに入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して、変更したいライディングモード (SPORT、TOURING、URBAN、ENDURO) (B) を選択します。ライディングモードを選択したら、ボタン(4)を押します。

選択したライディングモード(例：“SPORT”) (C) のパーソナライズメニューに入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して “ABS” の表示を強調して選択し、ボタン(4)を押します。

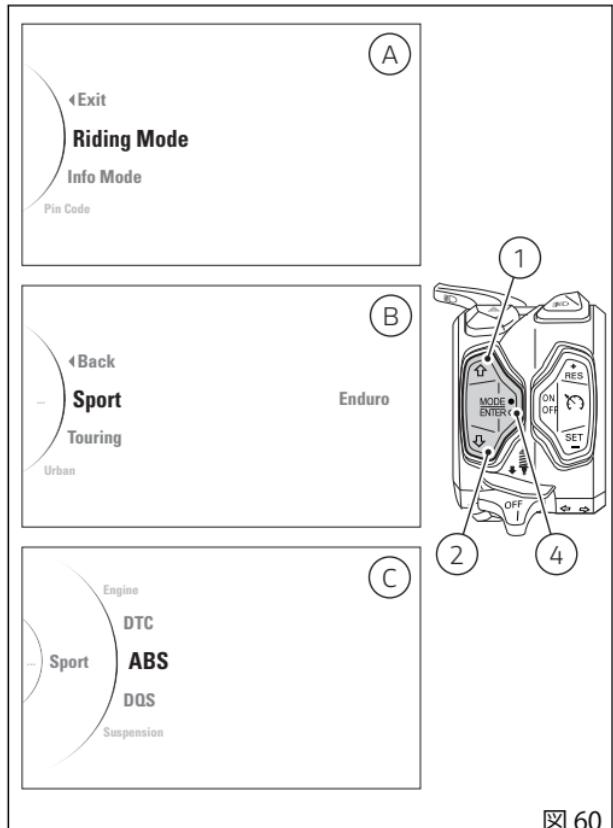


図 60

この機能に入ると、設定可能な全レベル(レベル1から3とOFF)の一覧が左側に、現在設定されているABSレベル、または状態が右側に表示されます。

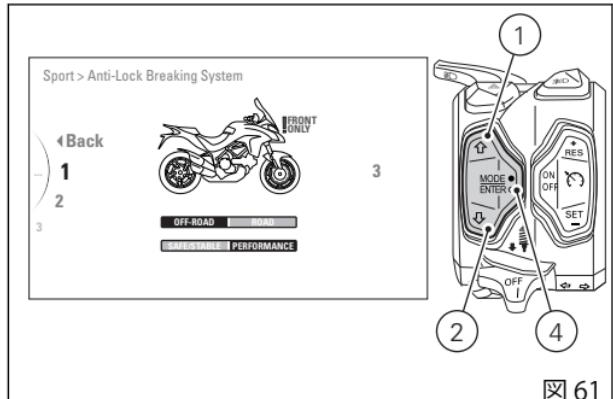
このページ内の選択可能な表示は次の通りです。

- ◀ Back
- Off
- 1
- 2
- 3
- ◀ Back

さらに、介入する部分を青色でハイライトしたバイクの図が表示されます。

⚠ 重要

ABS機能の"OFF"を選択した場合は、運転やブレーキングに細心の注意を払うようしてください。



ボタン(1)と(2)を使用して、設定したい介入レベルを選択します。レベルを強調すると、そのレベルに運動する値が中央の表に表示されます(黒色背景)。さらに、ブレーキシステムの介入レベルが青色で表示され、フロントブレーキだけがONの時は“**IFRONT ONLY**”(図61)の文字、コーナリング機能がONの時は“**CORNERING**”(図62)の文字が表示されます。

希望のレベルを強調表示したら、ボタン(4)を押して新しい設定を保存します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、“**◀ Back**”の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

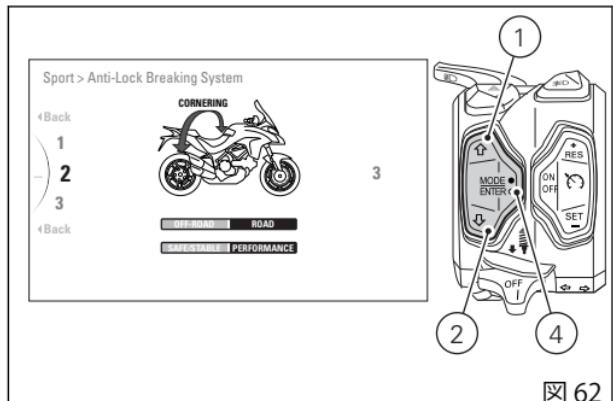


図 62

ライディングモードのパーソナライズ： DQS 起動/解除

ここでは各ライディングモードに連動した DQS 介入レベルの設定または解除を行うことができます。

「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して "Riding Mode" (A) を選択します。機能を表示したら、ボタン(4)を押します。

ライディングモードメニューに入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して、変更したいライディングモード (SPORT、TOURING、URBAN、ENDURO) (B) を選択します。ライディングモードを選択したら、ボタン(4)を押します。

選択したライディングモード(例："SPORT") (C) のパーソナライズメニューに入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して "DQS" の表示を強調して選択し、ボタン(4)を押します。

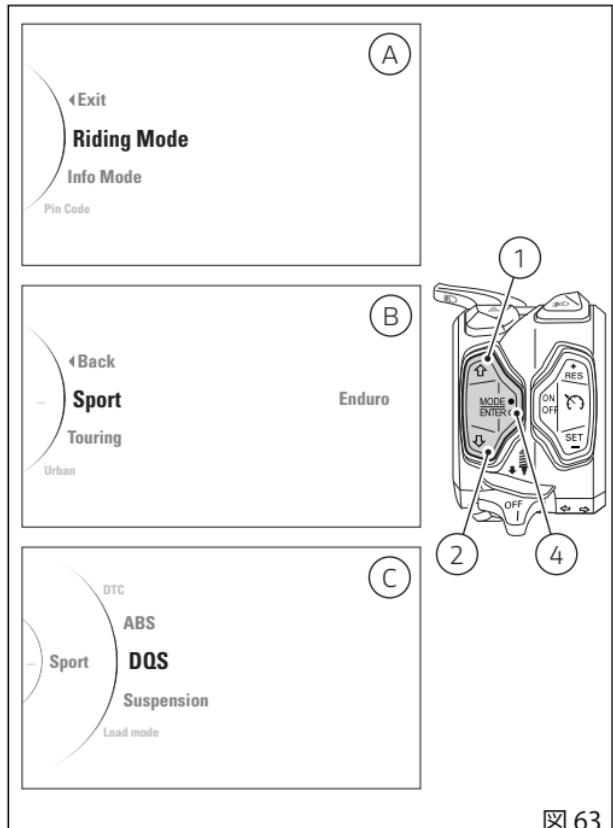


図 63

この機能に入ると、設定可能な全レベル(OFF、UP/DOWN)の一覧が左側に、現在設定されているDQSレベル、または状態が右側に表示されます。

このページ内の選択可能な表示は次の通りです。

- ◀ Back
- Off
- Up/Down
- ◀ Back

さらに、介入する部分を青色でハイライトしたバイクの図が表示されます。

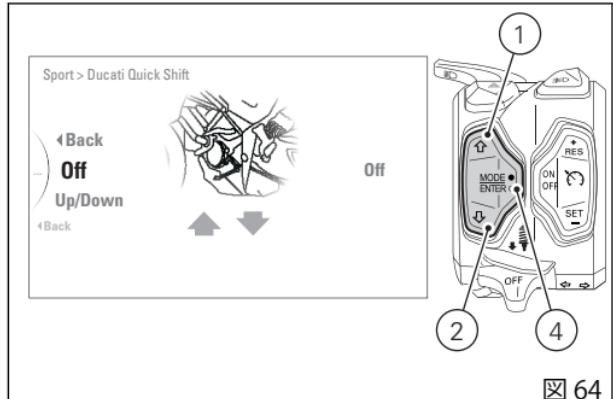


図 64

ボタン(1)と(2)を使用して、設定したい介入レベルを選択します。レベルを強調すると、システムの介入レベルが表示されます(1つまたは2つの黒色矢印で強調表示)。

希望のレベルを強調表示したら、ボタン(4)を押して新しい設定を保存します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、“◀ Back”的表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

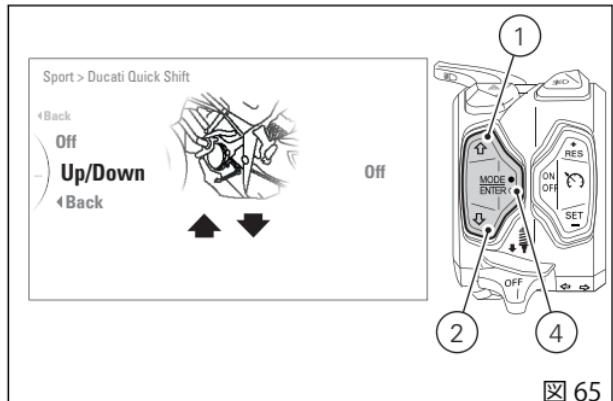


図 65

ライディングモードのパーソナライズ DSS サスペンション調整

この機能は、各ライディングモードに連動したエレクトロニックサスペンションの管理タイプを設定します。

「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。ボタン(1)またはボタン(2)を押して "Riding Mode" (A)を選択します。機能を表示したら、ボタン(4)を押します。

ライディングモードメニューに入ります。ボタン(1)またはボタン(2)を押して、変更したいライディングモード (SPORT、TOURING、URBAN、ENDURO) (B) を選択します。ライディングモードを選択したら、ボタン(4)を押します。選択したライディングモード(例：“SPORT”) (C) のパーソナライズメニューに入ります。ボタン(1)またはボタン(2)を押して “Suspension” の表示を強調して選択し、ボタン(4)を押します。

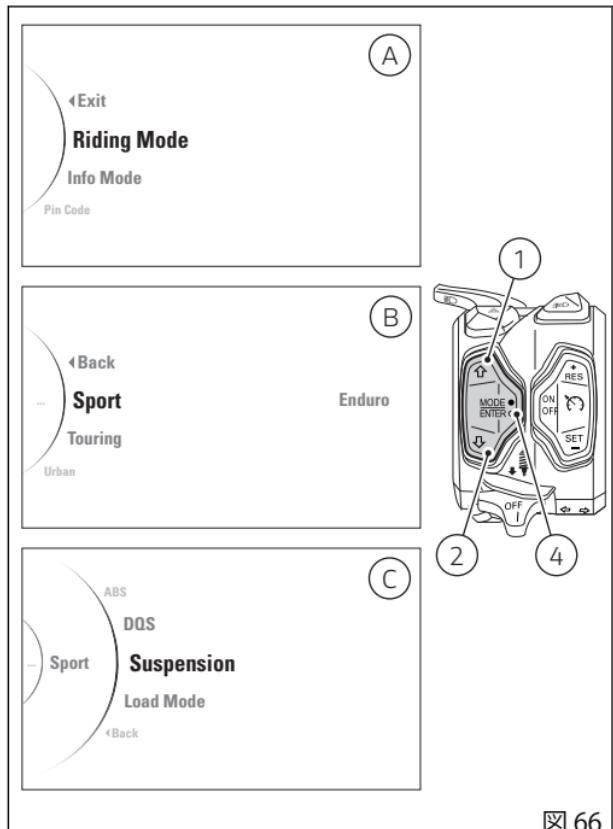


図 66

この機能に入ると、パーソナライズするショックアブソーバー(フロント、リア)を選択することができます。

このページ内の選択可能な表示は次の通りです。

- ◀ Back
- Front
- Rear
- ◀ Back

フロントサスペンションをパーソナライズする場合は "Front" の表示を選択します。詳しくは、フロントフォークのコンプレッション/リバウンドダンピングの調整を参照してください。

リアサスペンションをパーソナライズする場合は "Rear" の表示を選択します。詳しくは、リアショックアブソーバーのコンプレッション/リバウンドダンピングの調整を参照してください。

ボタン(1)または(2)を使用してパーソナライズしたいサスペンションを選択し、ボタン(4)を押します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"◀ Back" の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

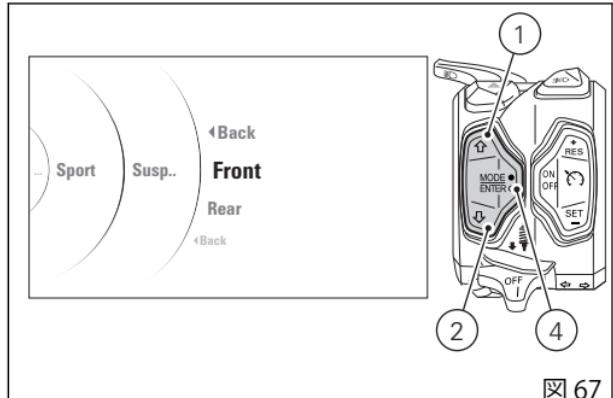


図 67

フロントフォークのコンプレッション/リバウンドダンピング調整

この機能では、エレクトロニックサスペンション(DSS)のフロントフォークのコンプレッションダンピングおよびリバウンドダンピングを調整することができます。調整は個別のライディングモードに対して行うことができます。

パーソナライズのページに入るには、“Front”を選択してボタン(4)を押します。

この機能に入ると、設定可能な全レベル(Hardest、Harder、Medium、Softer、Softest)の一覧が左側に、現在設定されているレベルが右側に表示されます。このページ内の選択可能な表示は次の通りです。

- ◀ Back
- Hardest
- Harder
- Medium
- Softer
- Softest
- ◀ Back

さらに、介入する部分を青色でハイライトしたバイクの図が表示されます。

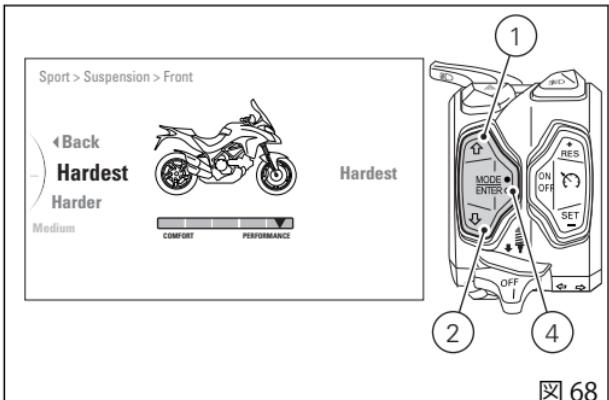


図 68

ボタン(1)またはボタン(2)を使用して、新たに設定したい介入レベルを選択します。レベルを強調すると、そのレベルに連動する値が中央の表に表示されます(黒色矢印で強調表示 ▼)。

希望のレベルを強調表示したら、ボタン(4)を押して新しい設定を保存します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、“◀ Back”的表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

リアショックアブソーバーのコンプレッション/リバウンドダンピング調整

この機能では、エレクトロニックサスペンション(DSS)のリアショックアブソーバーのコンプレッションダンピングおよびリバウンドダンピングを調整することができます。調整は個別のライディングモードに対して行うことができます。

パーソナライズのページに入るには、“Rear”を選択してボタン(4)を押します。

この機能に入ると、設定可能な全レベル(Hardest、Harder、Medium、Softer、Softest)の一覧が左側に、現在設定されているレベルが右側に表示されます。このページ内の選択可能な表示は次の通りです。

- ◀ Back
- Hardest
- Harder
- Medium
- Softer
- Softest
- ◀ Back

さらに、介入する部分を青色でハイライトしたバイクの図が表示されます。

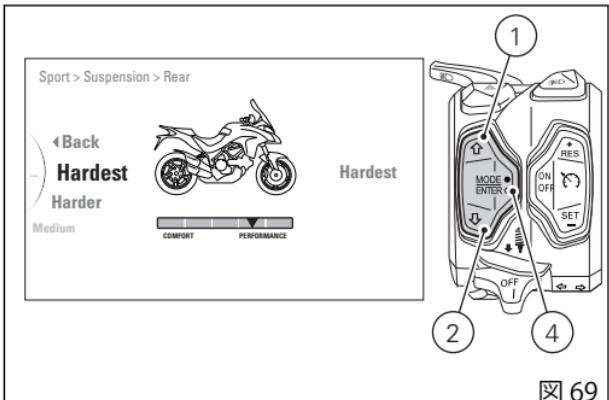


図 69

ボタン(1)またはボタン(2)を使用して、新たに設定したい介入レベルを選択します。レベルを強調すると、そのレベルに連動する値が中央の表に表示されます(黒色矢印で強調表示 ▼)。

希望のレベルを強調表示したら、ボタン(4)を押して新しい設定を保存します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、“◀ Back”的表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

ライディングモードのパーソナライズ車両 セットアップ (Load Mode)

この機能では、各ライディングモードに連動する車両セットアップを設定することができます。ここでは、エレクトロニックサスペンション(DSS)のリアショックアブソーバーのスプリングプリロードを調整することができます。調整は個別のライディングモードに対して行うことができます。

「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。ボタン(1)またはボタン(2)を押して "Riding Mode" (A) を選択します。機能を表示したら、ボタン(4)を押します。

ライディングモードメニューに入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して、変更したいライディングモード (SPORT、TOURING、URBAN、ENDURO) (B) を選択します。ライディングモードを選択したら、ボタン(4)を押します。

選択したライディングモード(例：“SPORT”) (C) のパーソナライズメニューに入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して “Load Mode” の表示を強調して選択し、ボタン(4)を押します。

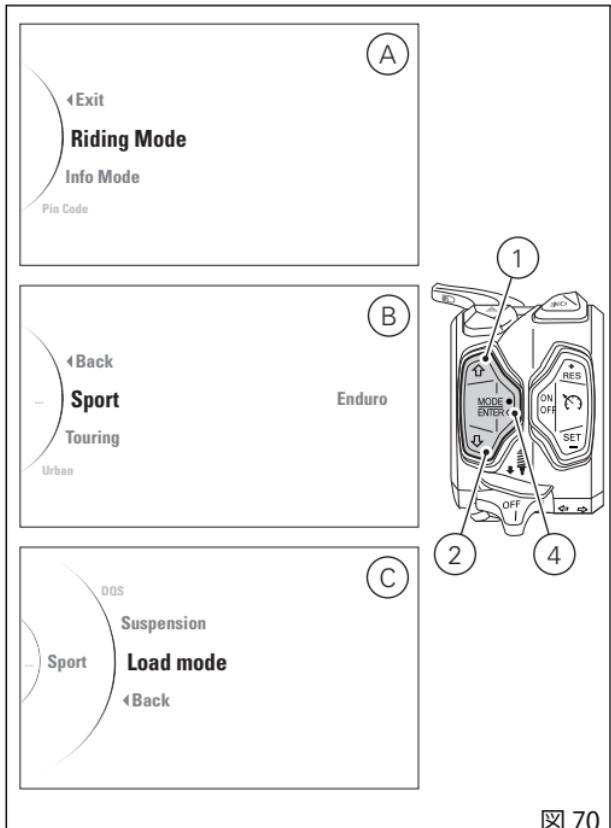


図 70

この機能に入ると、設定可能な全レベル(ライダーのみ、ライダー+荷物、ライダー+パッセンジャー、ライダー+パッセンジャー+荷物)の一覧が表示されます。

選択できるセットアップタイプは以下の4通りです。

- ライダーのみ： ()を使用し、取り外します。
- ライダー+荷物： () ()を使用し、取り外します。
- ライダー+パッセンジャー： () ()を使用し、取り外します。
- ライダー+パッセンジャー+荷物： () () ()。

このページ内の選択可能な表示は次の通りです。

- ◀ Back
- ()
- () ()
- () ()
- () () ()
- ◀ Back

ボタン(1)または(2)を使用してパーソナライズしたいサセットアップを選択します。ボタン(4)を押すと、パラメーターの設定メニューに入ります。メニューを終了して前の画面に戻るには、"◀ Back"の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

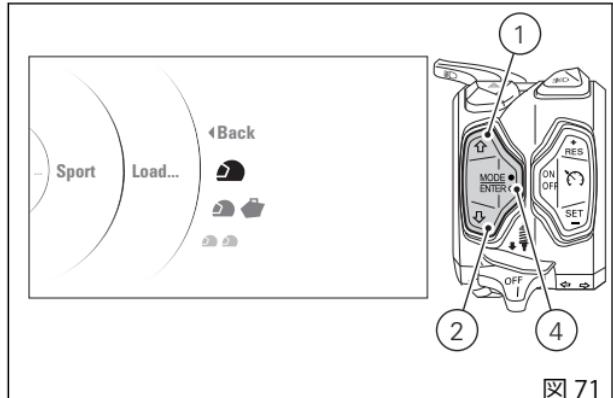
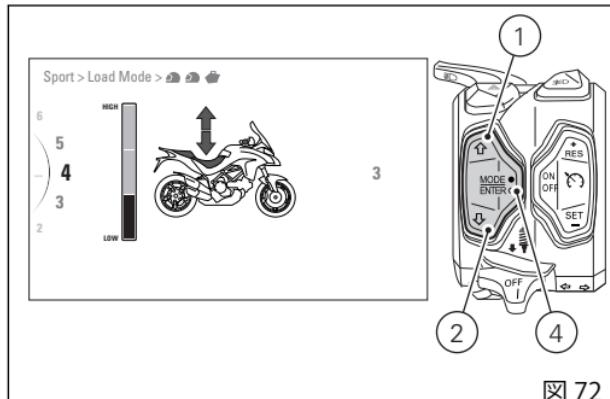


図 71

パーソナライズするセットアップを選択して機能に入ると、設定可能な全レベル(レベル1~24)の一覧が左側に、現在設定されているレベルが右側に表示されます。

このページ内の選択可能な表示は次の通りです。

- ◀ Back
- 24
- 23
- 22
- 21
- 20
- 19
- 18
- 17
- 16
- 15
- 14
- 13
- 12
- 11
- 10
- 9
- 8
- 7
- 6



- 5
- 4
- 3
- 2
- 1
- ◀ Back

さらに、介入する部分を青色でハイライトしたバイクの図が表示されます。

ボタン(1)と(2)を使用して、設定したい介入レベルを選択します。レベルを強調すると、そのレベルに連動

する値が中央の表に表示されます(塗りつぶされた四角)。

希望のレベルを強調表示したら、ボタン(4)を押して新しい設定を保存します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"◀ Back"の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

ライディングモードのパーソナライズデフォルト設定の回復 (DEFAULT)

ここでは個別のライディングモードに連動するパラメーターをドゥカティが設定したデフォルト値に回復させることができます。

"SETTING MENU" (設定メニュー) に入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して "Riding Mode" (A) を選択します。機能を表示したら、ボタン(4)を押します。

ライディングモードメニューに入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して、変更したいライディングモード (SPORT、TOURING、URBAN、ENDURO) (B) を選択します。ライディングモードを選択したら、ボタン(4)を押します。

選択したライディングモード (例："SPORT") (C) のパーソナライズメニューに入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して "Default" の表示を強調して選択し、ボタン(4)を押します。

選択したライディングモードが初期設定値に回復されます。

この時点から、ひとつ以上のパラメーターが変更されるまで、"Default" 表示は見えなくなります。

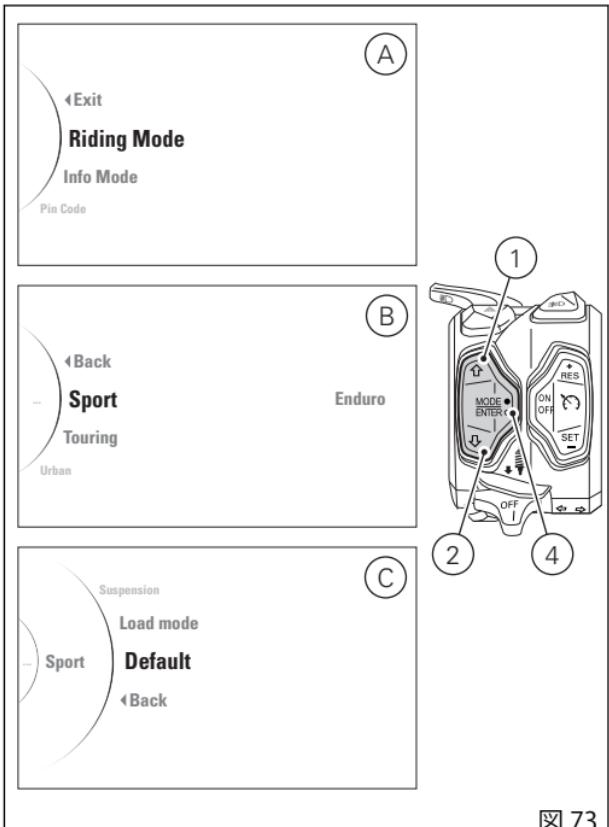


図 73

メニューを終了して前の画面に戻るには、"◀ Back"
の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

ライディングモードのパーソナライズデフォルト設定の回復 (ALL DEFAULT)

ここではすべてのライディングモードに連動する ENGINE、DTC、ABS、DQS のパラメーター値をドウカティ初期設定値に回復させることができます。少なくともひとつのパラメーターが初期設定値と異なる場合にのみ、この機能が表示されます。

「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。

ボタン(1)または(2)を押して "Riding Mode" を選択します。機能を表示したら、ボタン(4)を押します。

ボタン(1)と(2)で "All Default" の表示を強調して選択します。ボタン(4)を押すと、4つすべてのライディングモードを工場出荷時の値に回復することができます。

この時点から、ひとつ以上のパラメーターが変更されるまで、"All Default" の表示は見えなくなります。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"◀ Back" の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

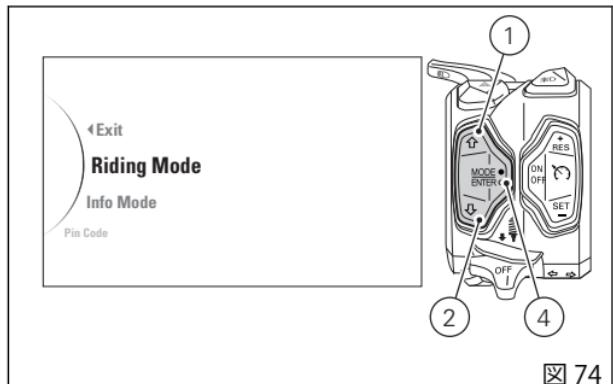


図 74

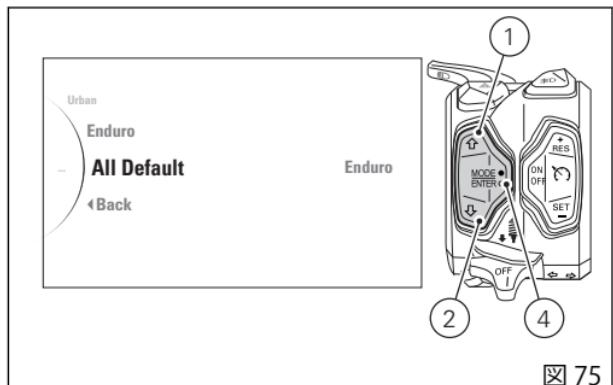


図 75

表示モード設定 (Info Mode)

表示モードをパーソナライズすることができます。TRACK、FULL、CITY、OFF ROADの4種類の表示モードがあります。それぞれ一つのライディングモードに連動しており、"デフォルト"モードではライディングモード変更時に表示モードも変更されます。

各表示モードとライディングモードのドゥカティ初期設定は以下のとおりです。

- TRACK モードとライディングモード SPORT
- FULL モードとライディングモード TOURING
- CITY モードとライディングモード URBAN
- OFF ROAD モードとライディングモード ENDURO

ライディングモードの選択を変更してもインストルメントパネルが同じモードを使用するよう、特定のモードを選択することができます。

希望のモードを選択するには、設定メニューに入ります。

ボタン(1)または(2)を押して "Info Mode" を選択します。機能が強調表示されたら、ボタン(4)を押します。

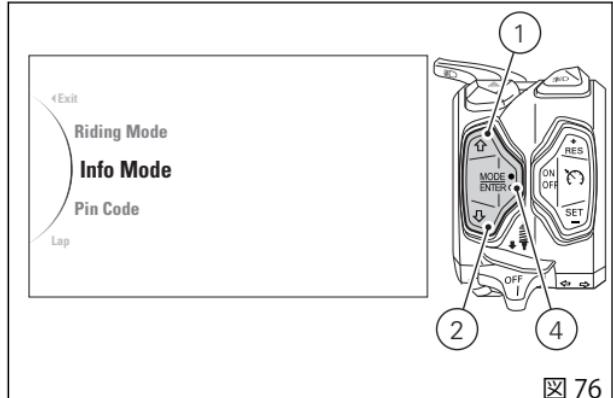


図 76

機能に入ると、選択可能なインフォモード ("Track", "Full", "City", "Off Road") がディスプレイ左側に、設定されているインフォモードが右側に表示されます。このページに入ると、以下が表示されます。

- ◀ Back
- Track
- Full
- City
- Off Road
- デフォルト
- ◀ Back

"Default" 表示は、ひとつ以上のパラメーターが変更されている場合にのみ表示されます。

ボタン(1)と(2)を使用して、新たに設定したいインフォモードを選択します。希望のインフォモードを強調表示したら、ボタン(4)を押して新しい設定を保存します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"◀ Back" の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

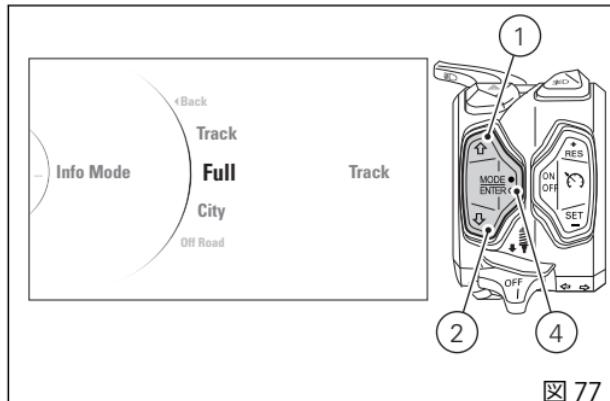


図 77

PIN CODE

この機能でPIN CODEの有効化または変更を行います。PIN CODEは最初車両に登録されていませんので、ユーザーが4桁のPINをインストルパネルに入力して有効にします。これを行わないと、不具合が生じた場合に一時起動することができません。

PIN CODEの起動または変更を行うには、設定メニュー(SETTING MENU)に入れます。

ボタン(1)または(2)を押して"Pin Code"を選択します。

機能が強調表示されたら、ボタン(4)を押します。この機能を有効にするには、以下の"PIN CODEの登録"の手順に従います。

PINを変更するには"PIN CODEの変更"ページ146の手順に従います。

不具合が生じた際に車両を一時的に起動するには、"PIN CODEによる車両の解除"ページ251の手順に従います。

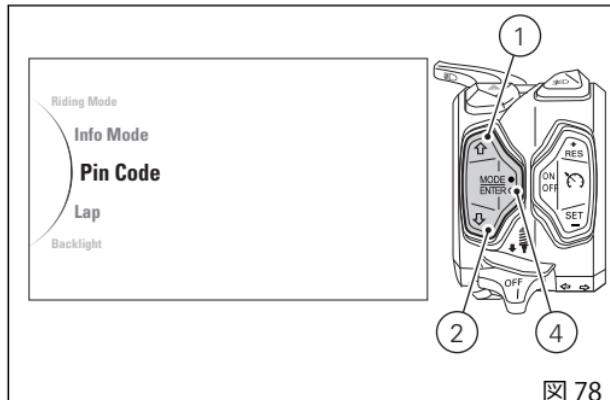


図 78



警告

PIN CODEは車両の所有者が設定(登録)しなければなりません。PINがすでに設定されている場合には、Ducati正規ディーラーに本機能の"リセット"を依頼してください。その際Ducati正規ディーラーは、車両の所有者確認をさせていただくことがあります。

PIN CODE の登録

PIN CODE 機能を有効にし、PIN CODE を入力するには、設定メニュー (SETTING MENU) に入ります。
ボタン (1) または (2) を押して "Pin Code" を選択します。

機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。

この機能に入ると、以下が表示されます。

- ◀ Back
- New Pin

ボタン (1) および (2) で "New Pin" を選択し、ボタン (4) を押して Pin Code 入力機能に入ります。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"◀ Back" の表示を強調表示し、ボタン (4) を押します。

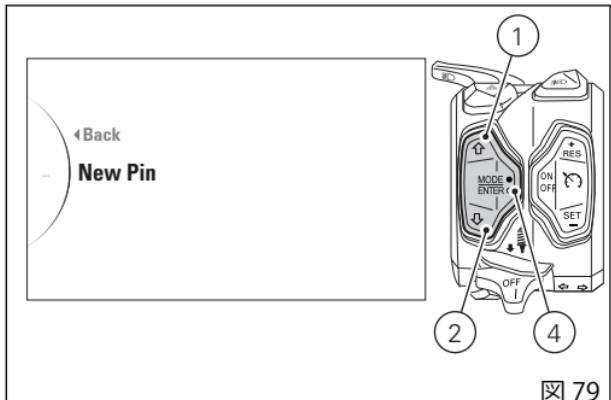


図 79

Pin Code の登録機能 (New Pin) に入ると、“New Pin”の表示と、新しい4桁のPin Codeを入力するスペース“0”と“---”が表示されます。桁の上に2つの矢印があると、設定を実行できることを示します。

コードの入力：

- 1) ボタン(1)を押す度に数字が“9”までひとつずつ大きくなり、その後“0”に戻ります。
- 2) ボタン(2)を押す度に数字が“1”までひとつずつ小さくなり、その後“0”に戻ります。
- 3) ボタン(4)を押して数字を決定し、次の桁に移動します。
- 4) 1)と3)の手順を繰り返し、PIN CODEの4桁すべての数字を決定します。

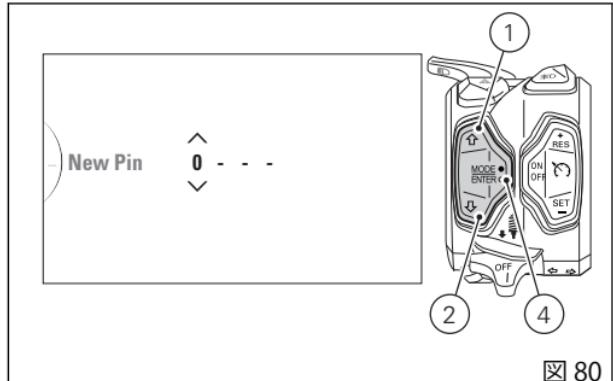


図 80

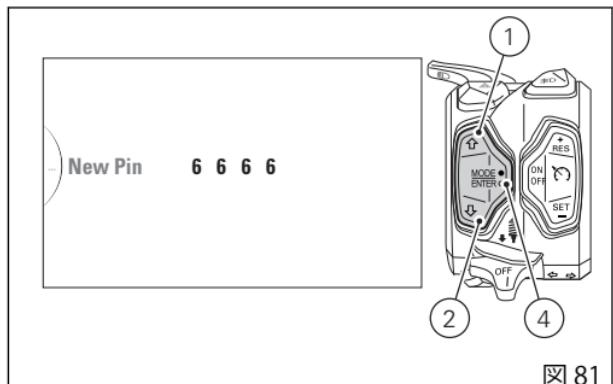


図 81

4桁全ての数字を設定してボタン(4)を押すと、インストルメントパネルに次の表示が点灯します。

- ◀ Back
- Memory (オレンジ色)

メニューを終了して前の画面に戻るには、“◀ Back”の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。コードを保存する場合は、“Memory”(オレンジ色)の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。この時点で、インストルメントパネルは“Memorized”(緑色)を2秒間表示します。

2秒が過ぎると、インストルメントパネルは前の画面に戻ります。この時、“New Pin”的代わりに“Modify Pin”が表示されます(参照、ページ146)。初めてPIN CODEを保存した後は、“New Pin”登録メニューのページは利用できなくなり、PIN CODEの変更ページに代わります。



PIN CODE機能がリセットされた場合(Ducati診断テスターからのみ可能)に限り、PIN CODEの登録ページが再び有効になり、メニューから入ることができます。

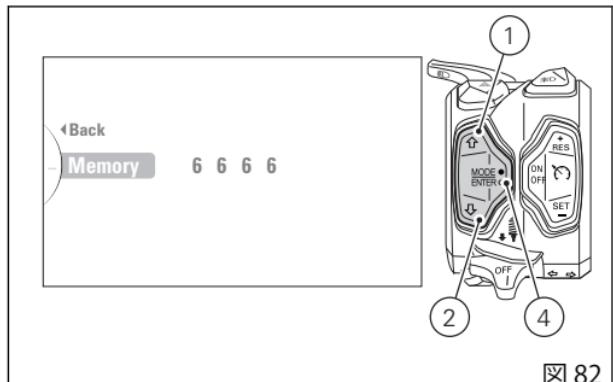


図 82



図 83

メニューを終了して前の画面に戻るには、"◀ Back"
の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

PIN CODE の変更

すでに登録されている PIN を変更し、新しい PIN を有効にするには、設定メニュー(SETTING MENU)に入ります。ボタン(1)またはボタン(2)を使用して "Pin Code" を選択し、ボタン(4)を押します。



PIN CODE を変更するには、現在設定されている PIN を知っている必要があります。

この機能に入ると、以下が表示されます。

- ◀ Back
- Modify Pin

ボタン(1)および(2)で "Modify Pin" を選択し、ボタン(4)を押して Pin Code の変更機能に入ります。メニューを終了して前の画面に戻るには、"◀ Back" の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

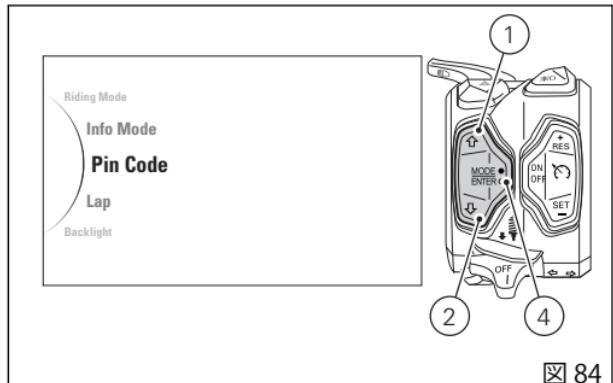


図 84

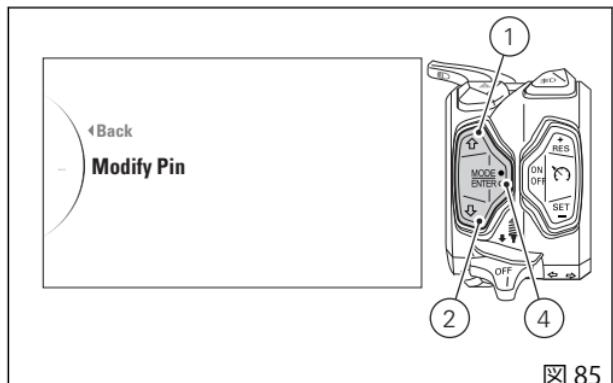


図 85

Pin Code の変更機能 (Modify Pin) に入ると、"Old Pin" の表示と、4 行の Pin Code を入力するスペース "0" と "---" が表示されます。桁の上に 2 つの矢印があると、設定を実行できることを示します。

コードの入力：

- 1) ボタン(1)を押す度に数字が "9" までひとつずつ大きくなり、その後 "0" に戻ります。
- 2) ボタン(2)を押す度に数字が "1" までひとつずつ小さくなり、その後 "0" に戻ります。
- 3) ボタン(4)を押して数字を決定し、次の桁に移動します。
- 4) 1)と 3)の手順を繰り返し、PIN CODE の 4 行すべての数字を決定します。

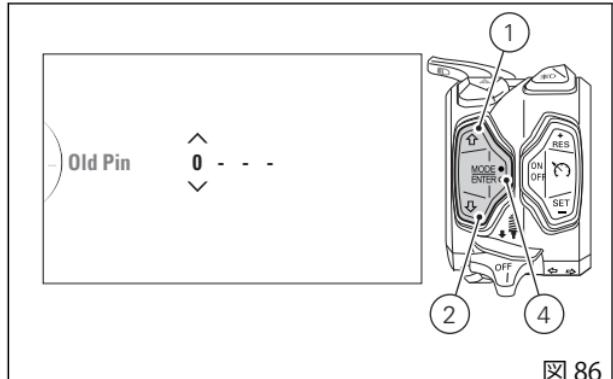


図 86

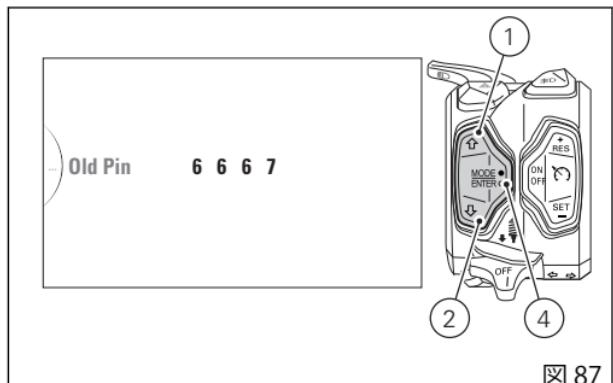


図 87

ボタン(4)を押して最後の桁を決定すると、インストルメントパネルは次の動作を行います。

- PIN CODE が正しくない場合、インストルメントパネルは "WRONG" を 2 秒間表示します。その後メニューに戻り、“Modify Pin”と 4 術のスペースを表示します。もう一度コードを入力してください。
- PIN CODE が正しい場合は、インストルメントパネルは "CORRECT" を 2 秒間緑色で強調表示します。その後新コードを入力できるように、“New Pin”と 4 術のスペースを表示します。

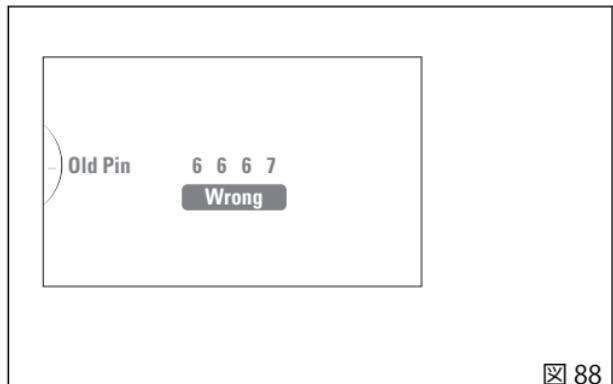


図 88

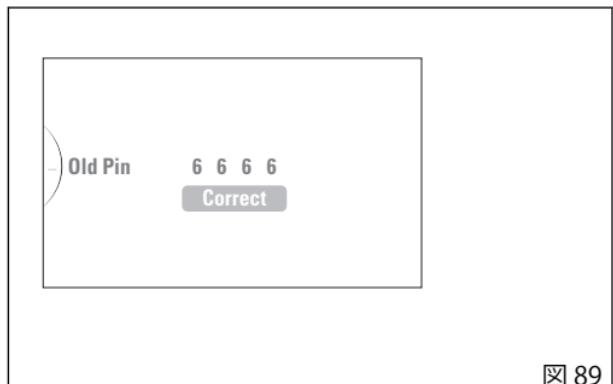


図 89

PIN CODE が正しい場合は、以下が表示されます。

- ◀ Back
- New Pin

ボタン(1)および(2)で“New Pin”を選択し、ボタン(4)を押して Pin Code 入力機能に入ります。

メニューを終了して前の画面に戻るには、“◀ Back”の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

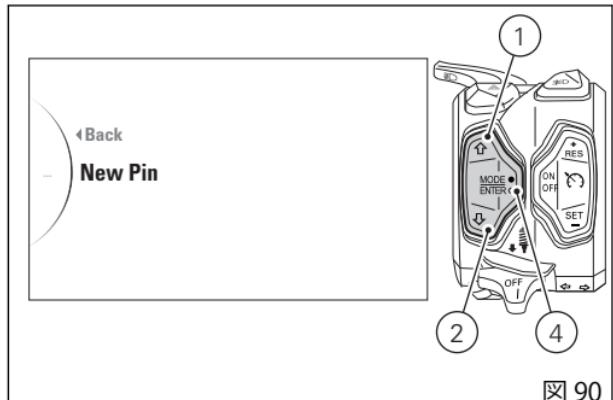
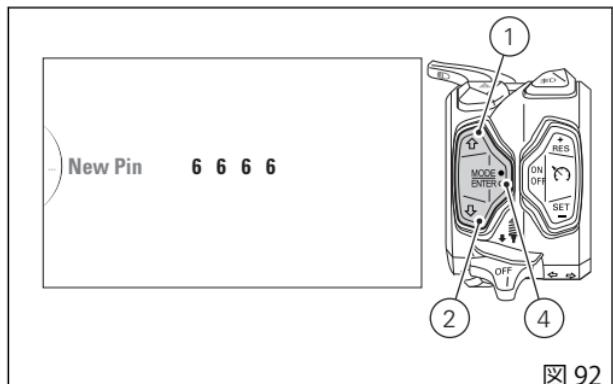
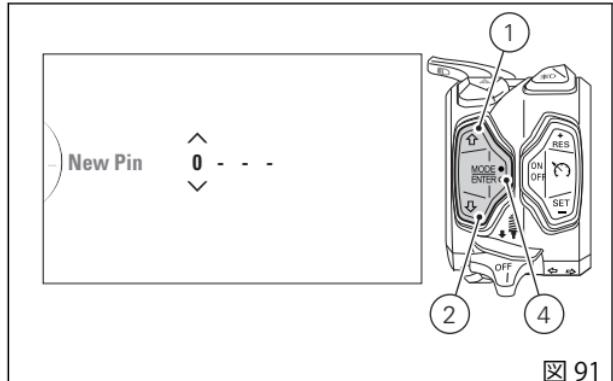


図 90

Pin Code の登録機能 (New Pin) に入ると、“New Pin”の表示と、新しい4桁のPin Codeを入力するスペース“0”と“---”が表示されます。桁の上に2つの矢印があると、設定を実行できることを示します。

コードの入力：

- 1) ボタン(1)を押す度に数字が“9”までひとつずつ大きくなり、その後“0”に戻ります。
- 2) ボタン(2)を押す度に数字が“1”までひとつずつ小さくなり、その後“0”に戻ります。
- 3) ボタン(4)を押して数字を決定し、次の桁に移動します。
- 4) 1)と3)の手順を繰り返し、PIN CODEの4桁すべての数字を決定します。



4桁全ての数字を設定してボタン(4)を押すと、インストルメントパネルに次の表示が点灯します。

- ◀ Back
- Memory (オレンジ色)

メニューを終了して前の画面に戻るには、"◀ Back"の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。コードを保存する場合は、"Memory" (オレンジ色) の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。この時点で、インストルメントパネルは "Memorized" (緑色) を2秒間表示します。

2秒後、インストルメントパネルは前の画面に戻ります。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"◀ Back"の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。



参考

PIN CODE の変更は何度でも可能です。

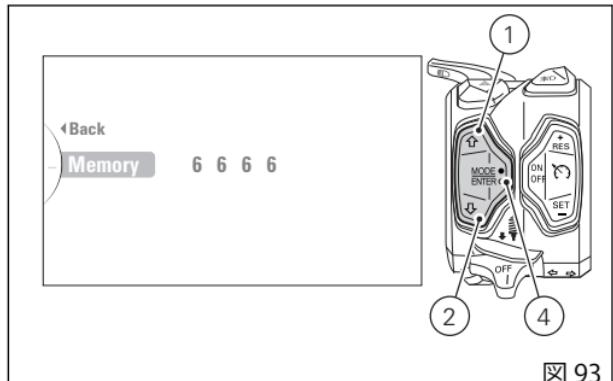


図 93



図 94

LAP

「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。
ボタン(1)または(2)を押して、"Lap"を選択します。
機能を表示したら、ボタン(4)を押します。

"LAP"メニューに入ります。

このページ内に表示される表示は次の通りです。

- ◀ Back
- On (*)
- Off (**)
- Lap Data
- Erase All (***)
- ◀ Back

(*) ラップ機能を停止(OFF)している場合にのみ表示されます。

(**) ラップ機能が起動(ON)している場合にのみ表示されます。

(***) ひとつ以上のラップが記録されている場合にのみ表示されます。

ボタン(1)および(2)を使用して表示を強調し、ボタン(4)を押して機能を作動させます。

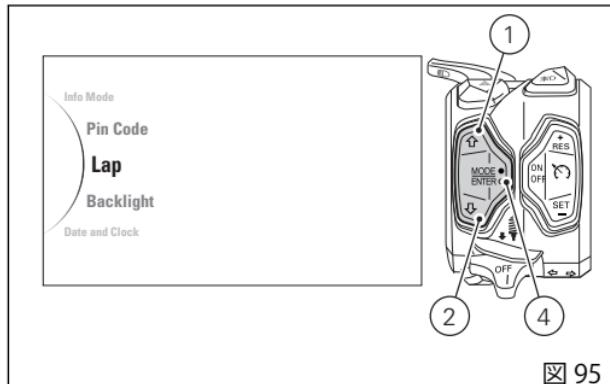


図 95

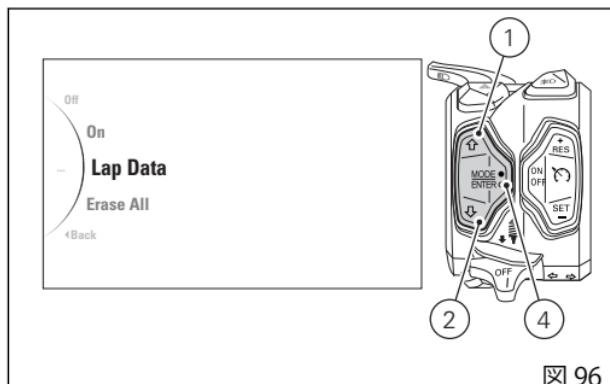


図 96

- “On”の表示を選択すると、ラップ機能が起動します。ラップ機能がONになると、ラップタイムを記録することができるようになります(「**ラップタイム (LAP time)**」を参照)。
- “Off”の表示を選択すると、ラップ機能が停止します。
- “Lap Data”の表示を選択すると、記録されている LAP が表示されます(“**記録済み LAP の表示**”の項を参照)。
- “Erase All”の表示を選択すると、記録されている全 LAP を消去します(“**LAP 記録の削除**”の項を参照)。

参考

バッテリーが中断された場合は、電源回復後の Key-ON 時にラップ機能は自動的に “Off” モードに設定されます。

メニューを終了して前の画面に戻るには、“◀ Back” の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

記録済み LAP の表示

記録済みの LAP をディスプレイに表示することができます。表示可能な情報はラップタイム、最高回転数(rpm)、最高スピードです。

ラップを表示するには、設定メニューに入ります。ボタン(1)および(2)で "Lap" を選択し、ボタン(4)を押します。次に、ボタン(1)および(2)で "Lap Data" を選択し、ボタン(4)を押します。

LAP 記録が存在しない場合は、ページに入ると "Back" の表示と "No Lap" の文字が表示されます。

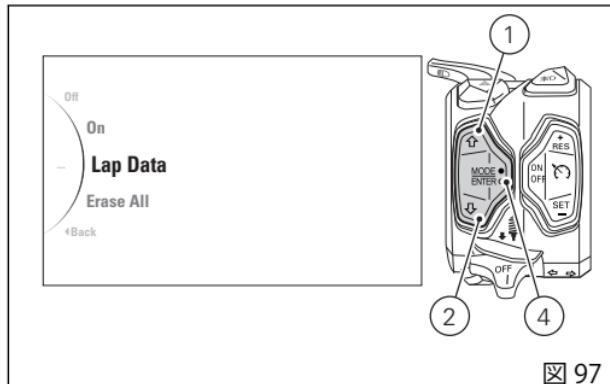


図 97

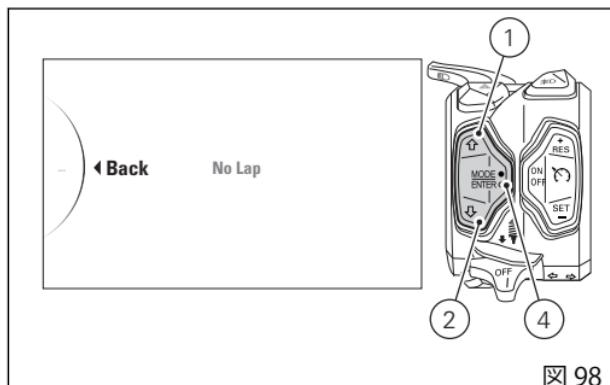


図 98

LAP 記録が存在する場合は、この機能に入ると以下が表示されます。

- ◀ Back
- Lap 01
-
- Lap 15
- ◀ Back

ボタン(1)および(2)を使用して、いずれかを選択することができます。記録されているラップだけが表示されます。各ラップ記録には、さらに以下の情報が示されます。

- "Time" の文字に続いて、記録済みラップタイム(分 - 秒 - 100 分の 1 秒)
- "Speed Max" の文字に続いて、ラップ中に記録された最高速度
- "rpm Max" の文字に続いて、ラップ記録中に記録された最高回転数

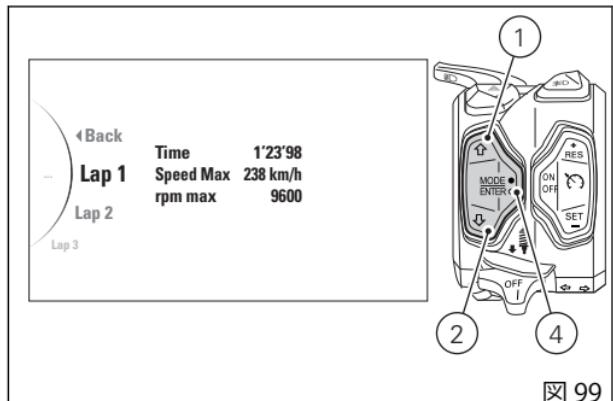


図 99



参考

記録最高スピードはラップ中に到達した速度です(5 % 増大させたもの)。

最大 15 ラップまで記録することができます。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"◀ Back" の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

LAP 記録の削除

“Erase All”機能から記録済みラップを消去することができます。

ラップを消去するには、設定メニューに入ります。ボタン(1)および(2)で“Lap”を選択し、ボタン(4)を押します。次に、ボタン(1)および(2)で“Erase All”を選択し、ボタン(4)を押します。

この表示に入った時に、LAP がひとつも記録されていない場合、インストルメントパネルは消去するための表示を一切起動しません。一方、記録されている LAP がある場合は、ページに入ると LAP を消去できる“Erase All”が表示されます。

ボタン(1)および(2)で“Erase All”を選択し、ボタン(4)を押します。

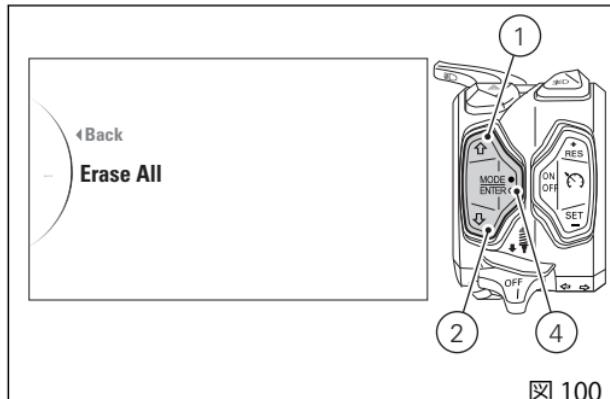


図 100

"Erase All" 機能を決定した後、インストルメントパネルのディスプレイには

- "WAIT..." の文字が 2 秒間表示されます。
- 続いて "Erase Ok" の文字が 2 秒間表示され、削除されたことを示します。

メモリーされているすべてのラップが一度に削除されます。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"◀ Back" の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。



図 101



図 102

バックライトの設定 (Backlight)

この機能ではバックライトの明るさを調整することができます。

バックライトの設定を調節するには、設定メニューからボタン(1)および(2)で "Backlight" を選択して、ボタン(4)を押します。

この機能に入ると、以下が表示されます。

- ◀ Back
- Day
- Night
- Auto
- ◀ Back

ボタン(1)および(2)を使用して、ディスプレイの好みのバックライトタイプを選択できます。

設定したいタイプを強調表示したら、ボタン(4)を押して新しい設定を保存します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"◀ Back" の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

DAY 設定(昼間モード)を選択すると、ディスプレイの背景が読み取りやすい "白" に常時設定されます。強い外光下での使用に適します。

NIGHT 設定(夜間モード)を選択すると、ディスプレイの背景がソフトなコントラストの "黒" に常時設定され

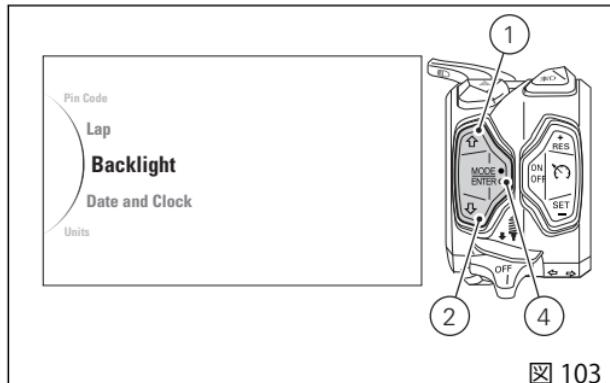


図 103

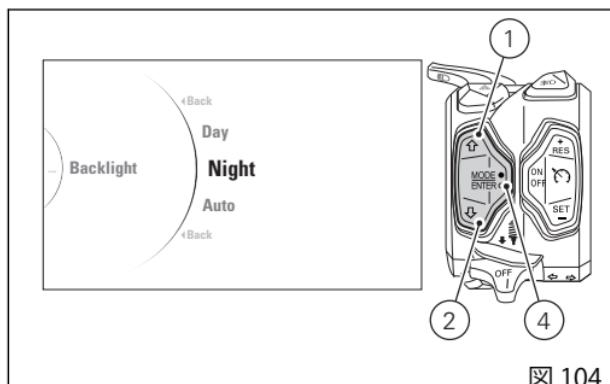


図 104

ます。弱い外光下または暗い環境での使用に適します。

AUTO 設定(自動モード)を選択すると、ディスプレイの背景が外光の強さ(センサーが感知)に応じて自動的に調整されます。外光が強い場合ディスプレイの背景は白になります、外光が弱い場合はディスプレイの背景が黒になります。



参考

バッテリーが中断された場合、電源回復後の Key-ON 時に画面の光調整はリセットされ、"AUTO" モードに設定されます。

日付の設定 (Date and Clock)

この機能は日付の表示、設定/変更を行います。

"SETTING MENU" (設定メニュー) に入ります。

ボタン(1)および(2)で "Date and Clock" を選択し、ボタン(4)を押します。

この機能に入ると、以下が表示されます。

- ◀ Back
- Clock
- Date
- ◀ Back

ボタン(1)および(2)で "Date:" を選択し、ボタン(4)を押します。この表示を強調表示すると、インストルメントパネルは設定されている日付を以下の形式で表示します。YEAR、MONTH、DAY (例：2016/01/20)。



参考 日付を初めて設定する場合、「年」「月」「日」の値には “--” が表示されています。

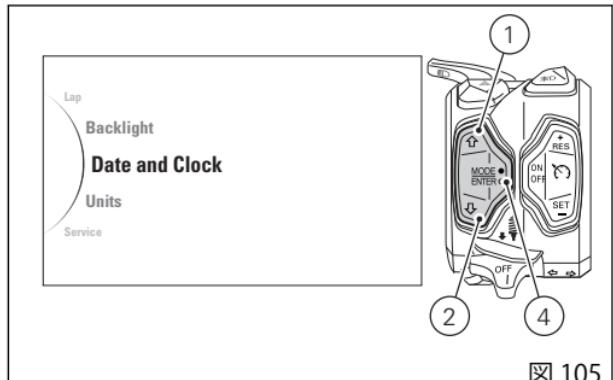


図 105

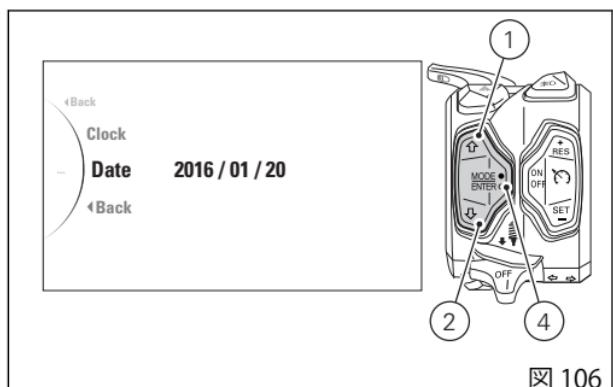


図 106

"Date" の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。
「年」データの上に2つの矢印が表示されると、年の設定が可能であることを示します。

- ボタン(1)を押すと、年の値が1ずつ大きくなります ("2000"、"2001"、.... "2099"、"2000")。
- ボタン(2)を押すと、年の値が1ずつ小さくなります ("2099"、"2098"、.... "2000"、"2099")。
- 設定したい年の値に達したら、ボタン(4)を押して決定します。矢印が移動し、「月」データの設定ができるようになります。

「月」データの上に2つの矢印が表示されると、月の設定が可能であることを示します。

- ボタン(1)を押すと、月の値が1ずつ大きくなります ("01"、"02"、.... "12"、"01")。
- ボタン(2)を押すと、月の値が1ずつ小さくなります ("12"、"11"、.... "01"、"12")。
- 設定したい月の値に達したら、ボタン(4)を押して決定します。矢印が移動し、「日」データの設定ができるようになります。

「日」データの上に2つの矢印が表示されると、月の設定が可能であることを示します。

- ボタン(1)を押すと、日の値が1ずつ大きくなります ("01"、"02"、.... "31"、"01")。

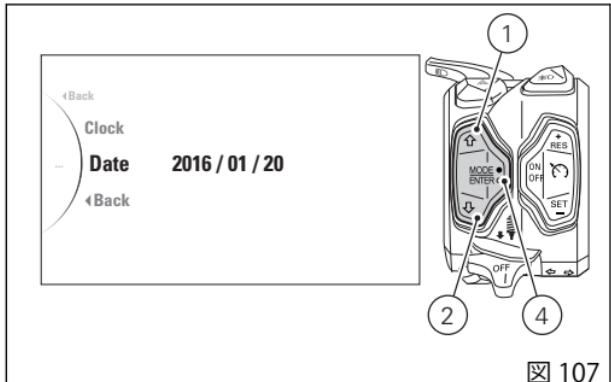


図 107

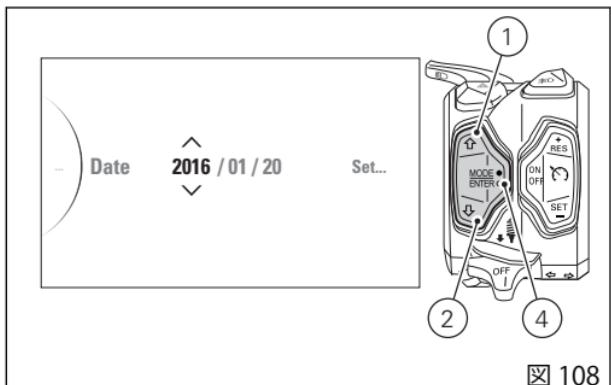


図 108

- ボタン(2)を押すと、日の値が1ずつ小さくなります("31"、"30"、....."01"、"31")。
- 設定したい日の値に達したら、ボタン(4)を押します。

ボタン(4)を押して「日」データを決定すると、インストルメントパネルは設定/変更した日付を保存し、“◀ Back”の表示を点灯します。

日付が正しくない場合、インストルメントパネルは "Wrong" を3秒間表示した後、「年」データが自動的に強調表示されます(2つの矢印)。日付をもう一度設定することができます。

メニューを終了するには、"◀ Back" の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

重要

バッテリーが切断されるたびにカレンダー情報はリセットされるので、その都度設定する必要があります。

時計の設定 (Date and Clock)

この機能は時計の調整/設定をします。

"SETTING MENU" (設定メニュー) に入ります。

ボタン(1)および(2)で "Date and Clock" を選択し、ボタン(4)を押します。

この機能に入ると、以下が表示されます。

- ◀ Back
- Clock
- Date
- ◀ Back

ボタン(1)および(2)で "Clock" を選択します。この表示を強調表示すると、インストルメントパネルは設定されている時間を以下の形式で表示します。AM/PM、HOUR、MINUTE (例 : AM 10:25)



時計を初めて設定する場合、「時間」「分」の値には “--” が表示されています。

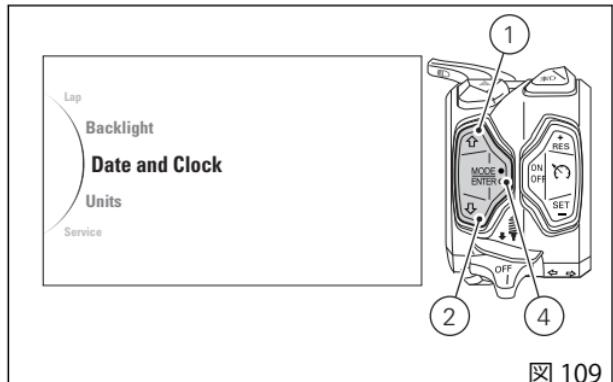


図 109

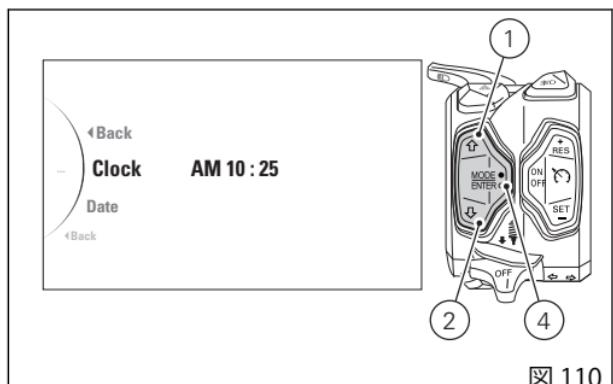


図 110

「Clock」の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。「AM / PM」データの上に2つの矢印が表示されると、この値の設定が可能であることを示します。

- ボタン(1)を押すと、点滅が“PM”から“AM”に切り替わります。
- ボタン(2)を押すと、点滅が“PM”から“AM”に切り替わります。
- 設定したい値に達したら、ボタン(4)を押して決定します。矢印が移動し、「時」データの設定ができるようになります。

「時」データの上に2つの矢印が表示されると、この値の設定が可能であることを示します。

- ボタン(1)を押すと、時間の値が1ずつ大きくなります(AM(午前)では“11”、“0”、“1”.....“11”、PM(午後)では“12”、“1”、“.....”“12”)。
- ボタン(2)を押すと、時間の値が1ずつ小さくなります(AM(午前)では“0”、“11”、“.....”“1”、“0”、PM(午後)では“12”、“11”、“.....”“1”、“12”)。
- 設定したい値に達したら、ボタン(4)を押して決定します。矢印が移動し、「分」データの設定ができるようになります。

「分」データの上に2つの矢印が表示されると、この値の設定が可能であることを示します。

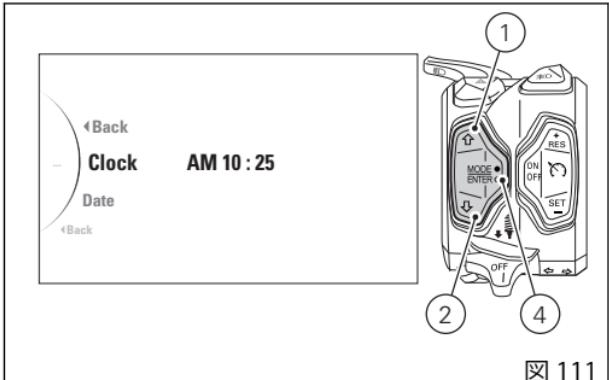


図 111

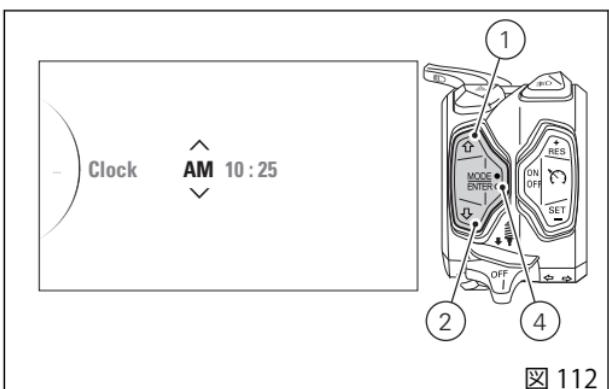


図 112

- ボタン(1)を押すと、分の値が1ずつ大きくなります("00"、"01"、...."59"、"00")。
- ボタン(2)を押すと、分の値が1ずつ小さくなります("59"、"58"、...."00"、"59")。
- 設定したい値に達したら、ボタン(4)を押して決定します。矢印が移動し、「分」データの設定ができるようになります。

ボタン(4)を押して「分」データを決定すると、インストルメントパネルは設定/変更した日付を保存し、“◀ Back”の表示を点灯します。

メニューを終了するには、“◀ Back”の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。



参考 バッテリーが切断される度に時計の情報はリセットされますので、ユーザーは再度設定する必要があります。

単位の設定 (Units)

この機能では表示単位の変更が可能です。

"SETTING MENU" (設定メニュー) に入ります。

ボタン(1)および(2)で "Units" を選択し、ボタン(4)を押します。

この機能に入ると、以下が表示されます。

- ◀ Back
- Speed
- Temperature
- Consumption
- All Default (*)
- ◀ Back

(*)ひとつ以上のパラメーターが変更されている場合にのみ表示されます。

以下の項目の単位を変更することができます。

- スピード (Speed)
- 温度 (Temperature)
- 燃費 (Consumption)

ボタン(1)および(2)を使って変更したい単位を強調表示します。

- 速度の単位を変更したい時は、"Speed" の表示でボタン(4)を押します。

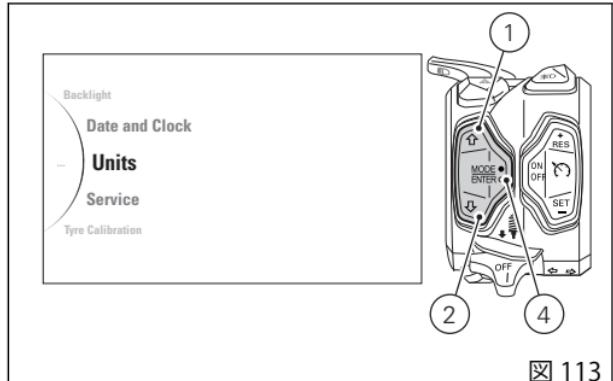


図 113

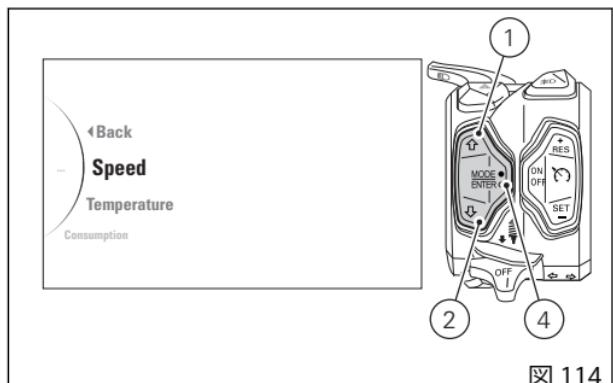


図 114

- 温度の単位を変更したい時は、“Temperature”の表示でボタン(4)を押します。
- 燃費の単位を変更したい時は、“Consumption”の表示でボタン(4)を押します。
- 表示項目すべての全単位を初期設定に戻すには、“All Default”の表示でボタン(4)を押します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、" Back"の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

単位の設定スピード

この機能では速度の単位を変更することができます
(走行距離の単位も同時に変更します)。

この機能に入ると、以下が表示されます。

- ◀ Back
- Km/h
- Mph
- Default (*)
- ◀ Back

(*)ひとつ以上のパラメーターが初期設定値と異なる場合にのみ表示されます。

ボタン(1)および(2)を使用して、変更したい単位を選択するか、初期設定の単位に戻す“Default”表示を選択します。

希望の表示を強調表示したら、ボタン(4)を押して選択した単位を保存します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、“◀ Back”的表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

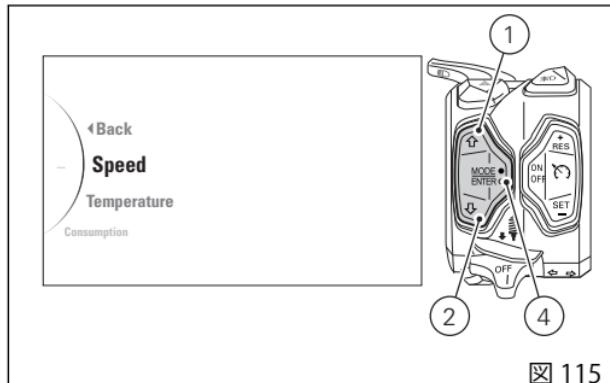


図 115

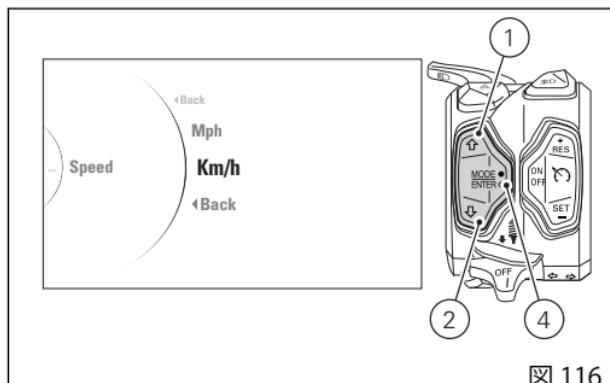


図 116

単位の設定温度

この機能では温度の単位の変更が可能です。

この機能に入ると、以下が表示されます。

- ◀ Back
- ° C
- ° F
- Default (*)
- ◀ Back

(*)ひとつ以上のパラメーターが初期設定値と異なる場合にのみ表示されます。

ボタン(1)および(2)を使用して、変更したい単位を選択するか、初期設定の単位に戻す“Default”表示を選択します。

希望の表示を強調表示したら、ボタン(4)を押して選択した単位を保存します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、“◀ Back”的表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

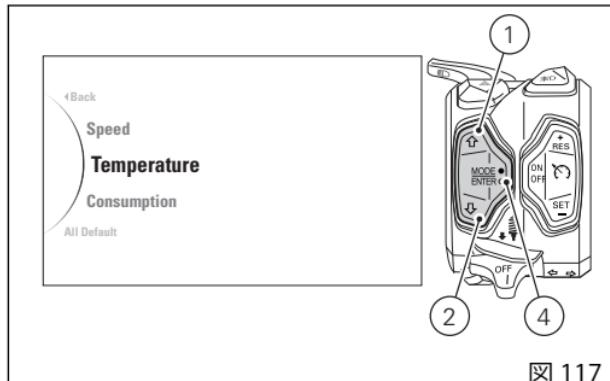


図 117

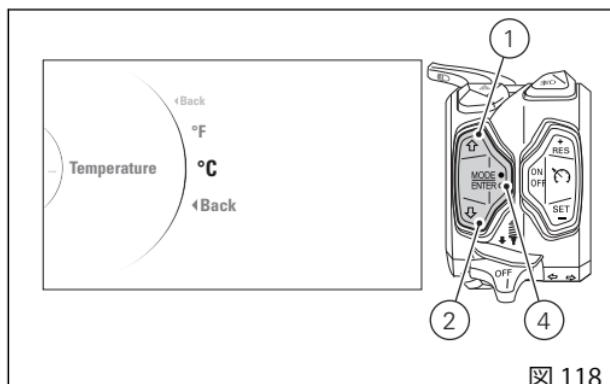


図 118

単位の設定燃費

この機能では燃費の単位を変更することができます。
この機能に入ると、以下が表示されます。

- ◀ Back
- l/100
- Km/l
- mpg UK
- mpg USA
- Default (*)
- ◀ Back

(*)ひとつ以上のパラメーターが初期設定値と異なる場合にのみ表示されます。

ボタン(1)および(2)を使用して、変更したい単位を選択するか、初期設定の単位に戻す“Default”表示を選択します。

希望の表示を強調表示したら、ボタン(4)を押して選択した単位を保存します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、“◀ Back”的表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

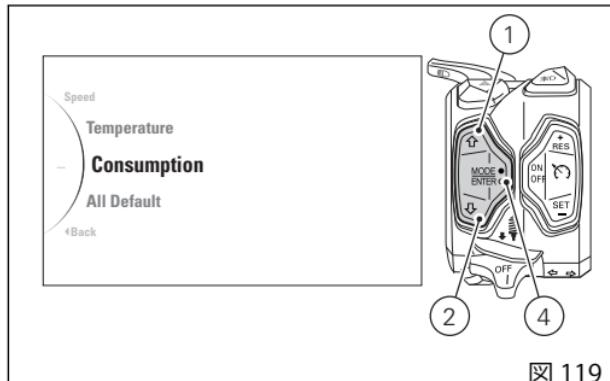


図 119

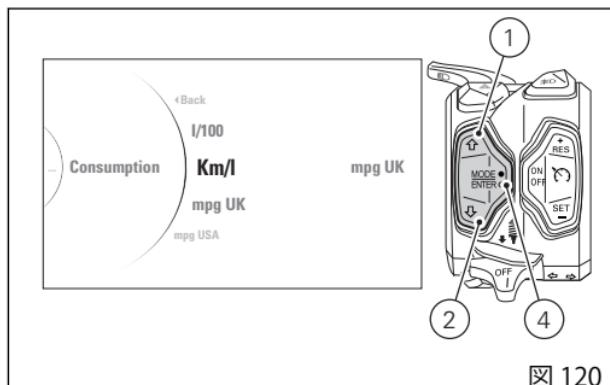


図 120

サービス期限の表示 (Service)

この機能は、Oil Service(キロまたはマイル)、Desmo Service(キロまたはマイル)、Annual Service(日付)の次のサービス期限を通知します。

"SETTING MENU" (設定メニュー)に入ります。

ボタン(1)および(2)で "Service" を選択し、ボタン(4)を押します。

機能に入ると、各種点検ごとに定期点検期限に関する表示が一覧で表示されます。

- Oil Service : OIL SERVICE 期限に到達するまでの残りの走行距離(キロまたはマイル)をカウントダウンとロゴを表示します。
- Desmo Service : DESMO SERVICE 期限に到達するまでの残りの走行距離(キロまたはマイル)をカウントダウンとロゴを表示します。
- Annual Service : Annual Service 期限の日付とロゴを表示します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"◀ Back" の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

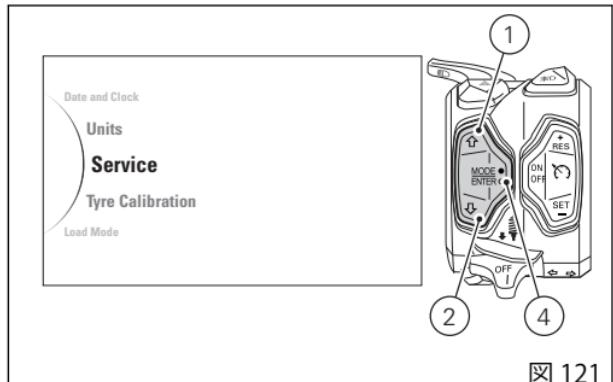


図 121

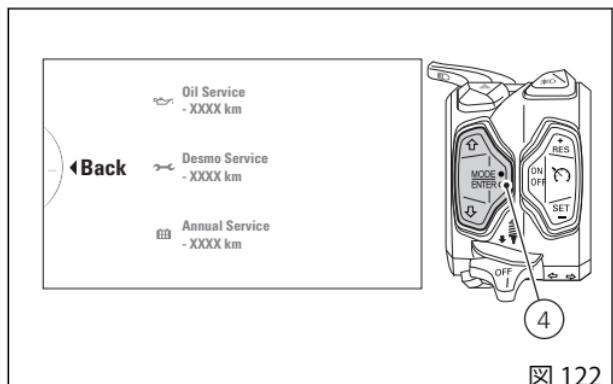


図 122

タイヤおよび減速比のキャリブレーション (Tire Calibration)

この機能でタイヤの円周長と最終減速比のキャリブレーションおよび自己学習の手順を行います。

「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して "Tire Calibration" 表示を選択します。

機能が強調表示されたら、ボタン(4)を押します。
この機能に入ると、以下が表示されます。

- ◀ Back
- Start
- Default (*)

(*)ひとつ以上のパラメーターが初期設定値と異なる場合にのみ表示されます。

メニューを終了して前の画面に戻るには、ボタン(1)または(2)を使用して "◀ Back" の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

タイヤと減速比のキャリブレーションを開始するには、"Start" が強調表示されている時にボタン(4)を押します。

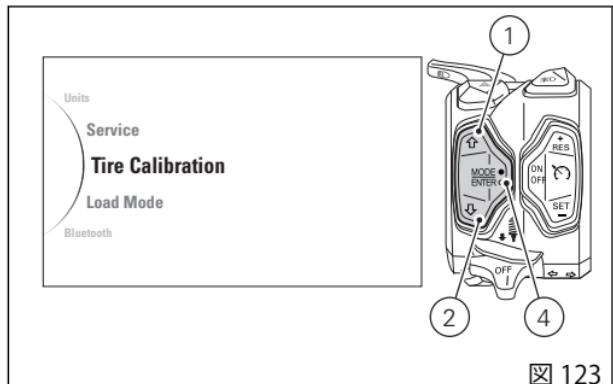


図 123

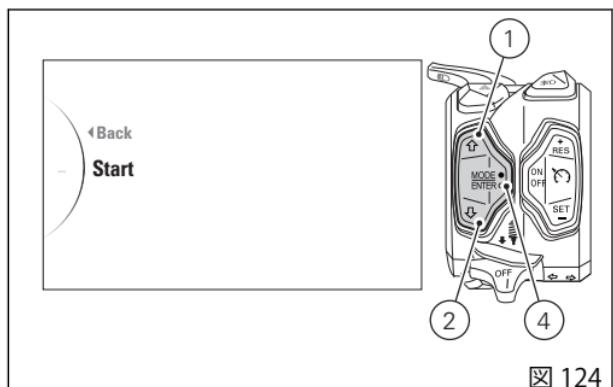


図 124

キャリブレーションプロセスが開始されると、インストルメントパネルには “Ready” の文字が点滅し、“Keep Speed” の文字が表示されます。加えて、自己学習を正常に完了するために維持するべき速度範囲とギアが表示されます。右側には参照しているライディングモード、実速度、ギアが表示されます。

重要

走行速度 49 Km/h (30 mph) ~ 51 Km/h (32 mph) を維持し、ギアを 2速に入れた状態においてのみ自己学習プロセスを実施することができます。

走行速度とギアがディスプレイに指定されている状態になると、システムのキャリブレーションが開始されます。上記すべての情報が表示され、“Ready” の代わりに “In progress” が表示されます。

スピードとギアが指定のパラメーターに 5秒間維持された時にキャリブレーションが実行されます。

自己学習プロセスが正常に終了すると、インストルメントパネルに “Completed” の文字が表示され、数秒後に前の画面に戻ります。

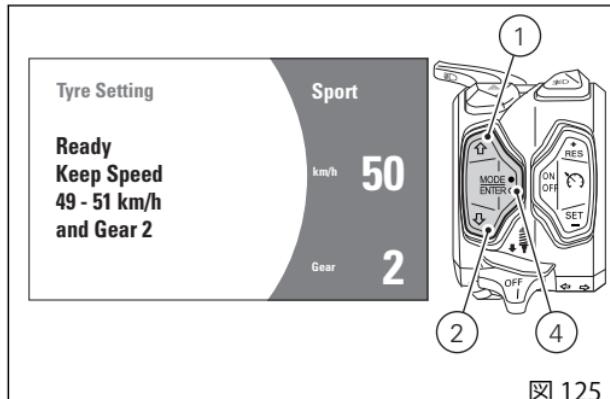


図 125

参考

キャリブレーションプロセスの途中で走行速度が100 km/h(62 mph)を超えると、キャリブレーションは中断されます。

参考

キャリブレーションプロセス中にボタン(1)を2秒間押すと、キャリブレーションを中止してスタンダード画面に戻ることができます。

ユーザーがキャリブレーションを中止した場合は、インストルメントパネルに“**Aborted**”の文字が表示され、数秒後に前の画面に戻ります。

一方、キャリブレーションプロセスの途中でエラーや不具合が検出された場合は、インストルメントパネルに“**Failed**”の文字が表示され、数秒後に前の画面に戻ります。

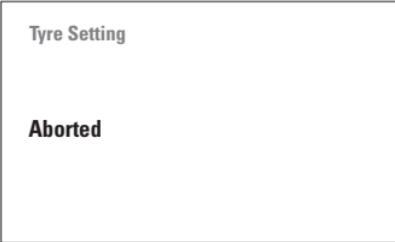


図 126

デフォルト設定を回復するには、ボタン(1)と(2)で "Default" を選択し、ボタン(4)を押してください。この時点でインストルメントパネルには "Default Please Wait..." の文字が表示されます。数秒後に "Default Default Ok" の文字が2秒間表示されて前の画面に戻ります。



参考

キャリブレーションプロセス中に車両を Key-OFF した場合、プロセスは中止され完了せずに終了します。



図 127

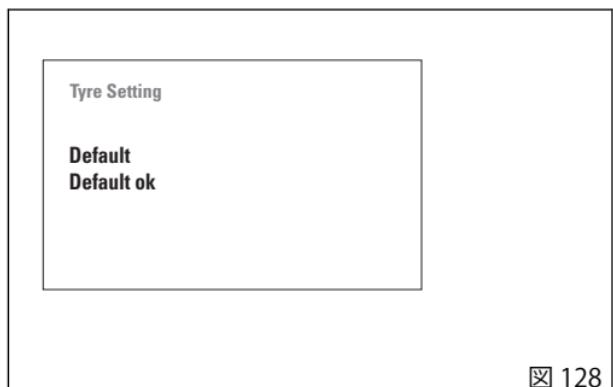


図 128

車両セットアップの設定 (Load Mode)

この機能では車両セットアップを変更することができます。これは、現在設定されているライディングモードのサスペンション調整を変更して行います。
"SETTING MENU" (設定メニュー) に入ります。

ボタン(1)および(2)で "Load Mode" を選択し、ボタン(4)を押します。

この機能に入ると、インストルメントパネルは想定されるセットアップと現在設定されているライディングモードを表示します。

以下の4通りのセットアップが用意されています。

- ライダーのみ (Rider)
- ライダー + 荷物 (Rider / Baggage)
- ライダー + パッセンジャー (Rider / Passenger)
- ライダー + パッセンジャー + 荷物 (Rider / Passenger / Baggage)

警告

車両セットアップの変更は停車中に行なうことをお勧めします。運転中に車両セットアップの変更を行なう場合は十分にご注意ください (低速での変更をお勧めします)。

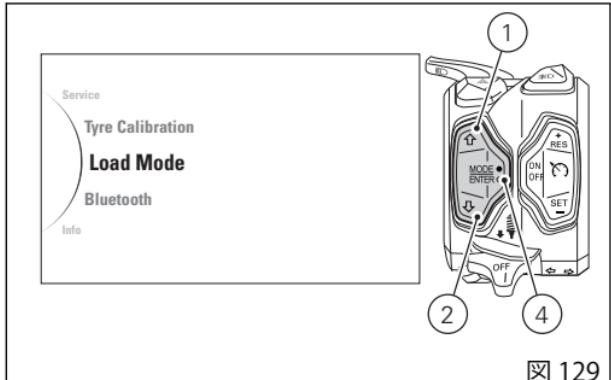


図 129

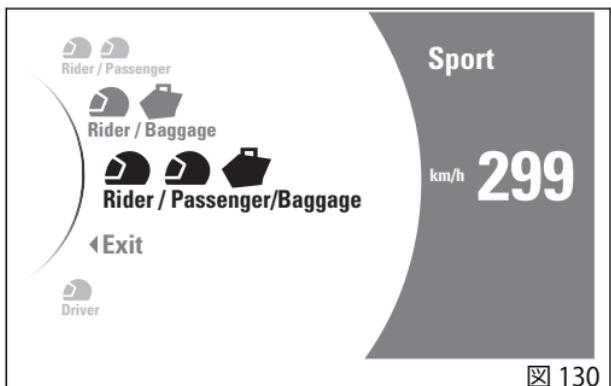


図 130

各セットアップに対して、特定のフロントコンプレッション/リバウンドダンピング、特定のリアコンプレッション/リバウンドダンピング、特定のリアスプリングプリロードが設定されています。ただし、スプリングプリロードはライディングモードに応じて異なります。

車両セットアップ機能のメニューを開くには、ボタン(2)を1秒間押します。

この時点では、ボタン(1)と(2)を使用して、各種設定と“◀ EXIT”をスクロール表示することができます。好みの設定を決定するには、ボタン(4)を押します。ボタンを放すと、インストルメントパネルは画面を終了し、新しい設定を保存します。“◀ EXIT”的表示を選択している時にボタン(4)を1回押すと、インストルメントパネルは変更を実行せずに画面を終了します。

参考

現在使用しているライディングモードのセットアップを変更すると、次にライディングモードを変更した時、インストルメントパネルはライダーのみの設定を維持します。

警告

車両のセットアップを変更することで、ライディングモードも変更されてしまう場合があります。そのため、走行中のセットアップの変更には十分に注意してください(低速での変更をお勧めします)。

Bluetooth デバイス設定 (Bluetooth)

この機能では Bluetooth デバイスのペアリング、およびその解除を行います。

「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。

ボタン(1)および(2)で "Bluetooth" 表示を選択し、ボタン(4)を押します。

この機能に入ると、以下が表示されます。

- ◀ Back
- Associated Devices
- Pairing
- ◀ Back

ボタン(1)および(2)を使用して、希望の機能を選択します。

- "Associated Devices" が強調表示されている時にボタン(4)を押すと、"ペアリングデバイスの表示" の項に記載されているように、ペアリングされている Bluetooth デバイス一覧が表示されます。
- "Pairing" が強調表示されている時にボタン(4)を押すと、"新しいデバイスの検索とペアリング" の項に記載されているように、新しくデバイスのペアリングを行います。

新しいデバイスの検索とペアリング

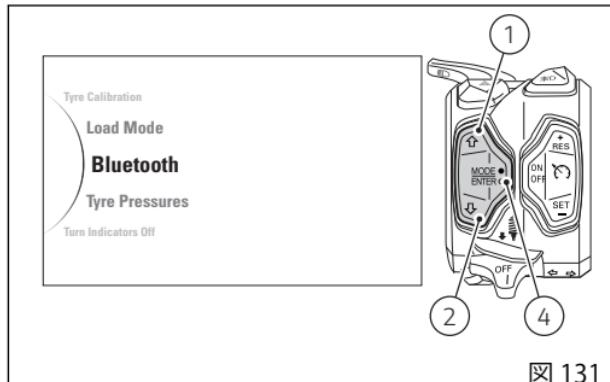


図 131

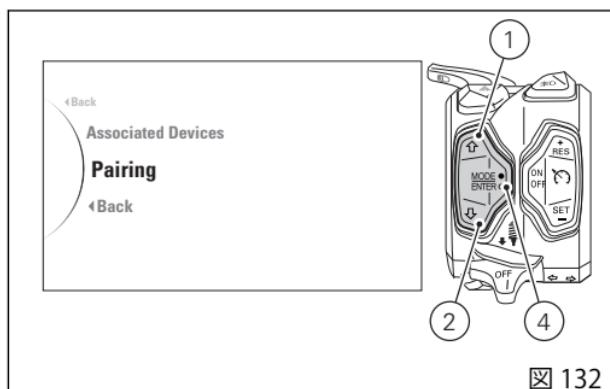


図 132

新しいBluetoothデバイスのペアリング手順を実行するには、コントロールユニットが検出してアクセスできるようにデバイス側を設定する必要があります。デバイスの電源を入れ、識別できるようにしてください。

検出モードにあるとき、Bluetoothデバイスはワイヤレスシグナルを送信し他のデバイスから検出されるようになります。このモードは、ペアリングモードと呼ばれることもあります。

車両にはBluetoothコントロールユニットを装備することができます。これによりBluetoothに対応する電子機器間での通信が可能になります。

警告

ドゥカティ社はこれらの変更に関与していませんので、こうした変更がBluetoothヘッドセット(音楽共有、マルチメディア再生など)の各種機能やいくつかのタイプのスマートフォン(Bluetooth対応プロファイルによる)に影響を与える可能性があります。このためドゥカティ社は、以下についてのマルチメディア再生を保証していません。

- 市販されているヘッドセットとスマートフォンの全機種
- 規定のBluetoothプロファイルをサポートしていないスマートフォン

警告

Bluetoothヘッドセットの製造メーカーは、デバイスの寿命期間中に標準プロトコルに変更を加えることがあります(スマートフォン、ヘッドセット)。

ペアリング手順を実行するには、ボタン(1)および(2)で "Pairing" を選択し、ボタン(4)を押してください。この機能に入ると、以下が表示されます。

- ◀ Back
- Smartphone
- Rider
- Passenger
- Navi
- ◀ Back

インストルメントパネルには、さらに各デバイスの種類に対応する以下のアイコンが表示されます。

- Smartphone ☐
- Rider ⓘ (ライダー用インターホム)
- Passenger ⓘ (パッセンジャー用インターホム)
- Navi ↗ (ナビゲーター)

ボタン(1)および(2)で、デバイス検索を開始するデバイスの種類を選択します。デバイスを強調表示したら、ボタン(4)を押します。

メニューを終了するには、"◀ Back" の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

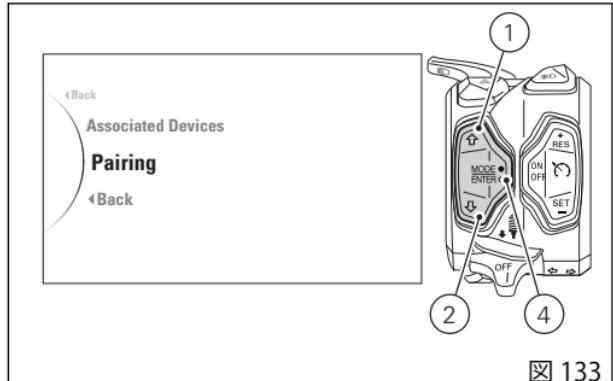


図 133

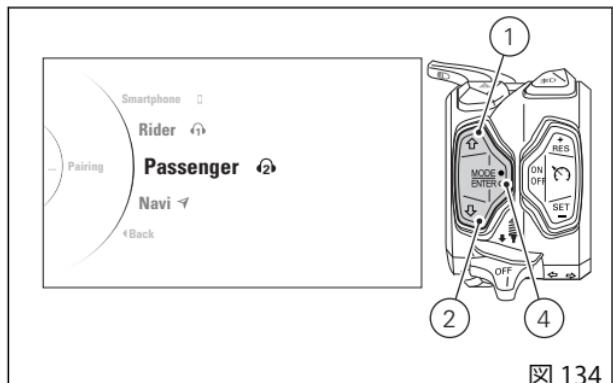


図 134

デバイス検索中は、インストルメントパネルに“Wait...”と表示されます。近くにあるデバイスを検出した時点でペアリングは自動的に終了します。検索には 60 秒かかります。

検索が終了すると、検索で見つかったペアリングが可能な全デバイスが一覧表示されます。一覧に表示できるデバイス数は最大 20 台です。



ペアリング中に検出されたデバイス一覧には、Bluetooth ON 状態であってもすでにペアリングされているデバイスは表示されません。

ボタン(1)および(2)を使用して、ペアリングするデバイスの表示を選択します。

デバイスを選択したら、強調表示してボタン(4)を押します。

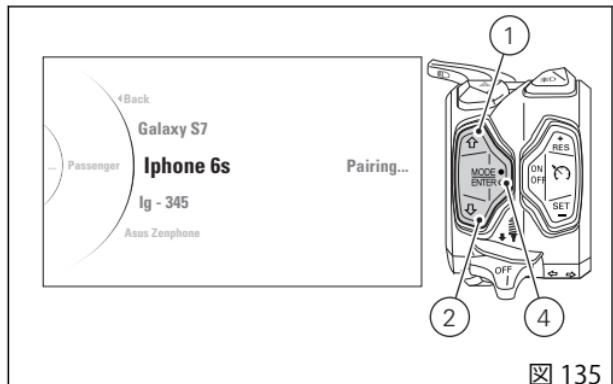


図 135

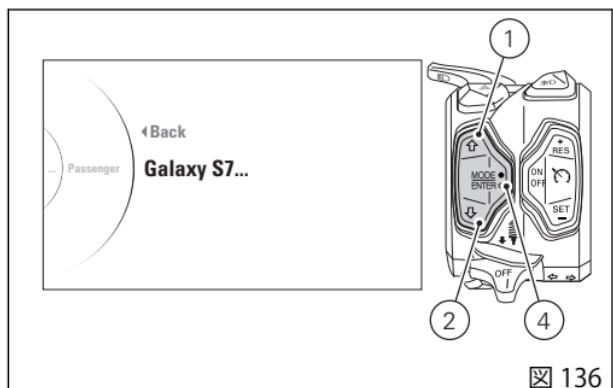


図 136

インストルメントパネルは "Pairing" と表示します。
選択したデバイスのペアリングを決定するには、もう一度ボタン(4)を押します。

ペアリングを実行しない場合は、"◀ Back" の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

デバイスのペアリングを決定すると、インストルメントパネルは "Wait..." の文字を表示します。
ペアリングが終了すると、デバイスがペアリングデバイス一覧に追加されます。

ペアリングに失敗した場合は、"Pairing Error" の文字が現れます。

Bluetooth ナビゲーターを接続する場合は、ナビゲーター本体側で車両の Bluetooth コントロールユニットとの接続を選択して接続プロセスを完了する必要があります。万一 90 秒以内にユーザーがナビゲーター側のペアリングを完了しない時は、ペアリングプロセスを完了することはできません。

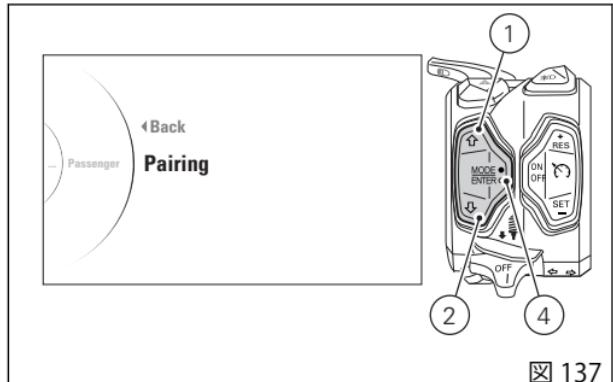


図 137

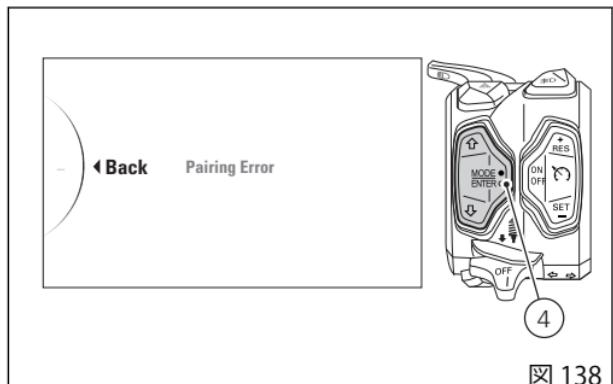


図 138

ペアリングデバイスの表示(Associated Devices)

すでにペアリングされているデバイスを表示するには、設定メニューからボタン(1)および(2)で "Bluetooth" 表示を選択して、ボタン(4)を押します。ボタン(1)および(2)で "Associated Devices" を選択し、ボタン(4)を押します。

ペアリングされている全デバイスが一覧表示されます。一覧に表示できるデバイス数は最大5台です。各デバイスの横には、デバイスの種類を示すアイコンが表示されています。

メニューを終了するには、"◀ Back" の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

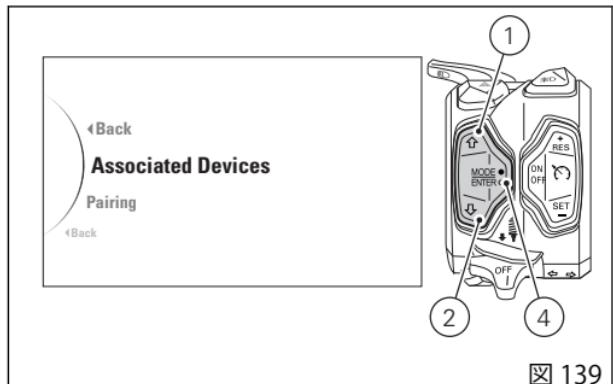


図 139

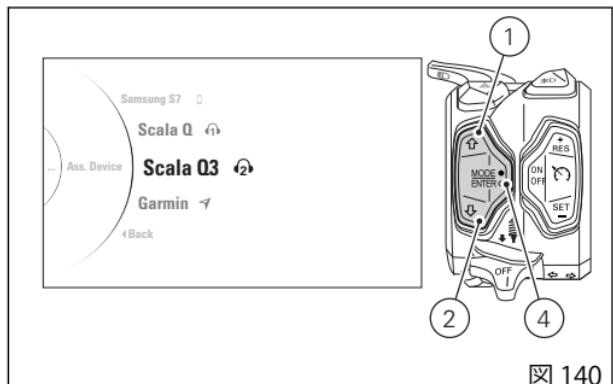


図 140

ペアリングされているデバイスがない場合、インストルメントパネルには "No Device" と表示されます。

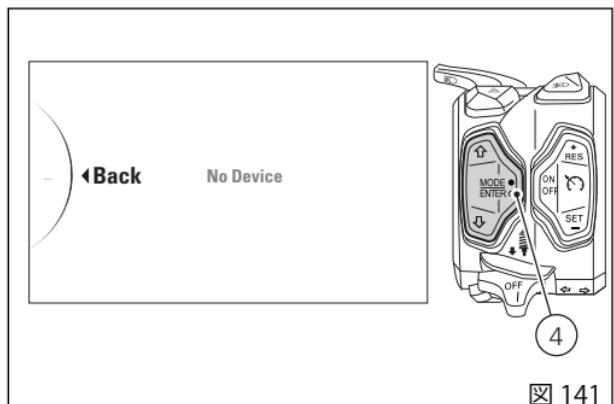


図 141

ペアリングデバイスの削除

ここではペアリングデバイス一覧からペアリングデバイスを削除することができます。

ペアリングデバイスの表示に入るには、ボタン(1)および(2)で"Associated Devices"を選択し、ボタン(4)を押します。

ボタン(1)および(2)を使用して、一覧から消去したいデバイスを強調して選択します。

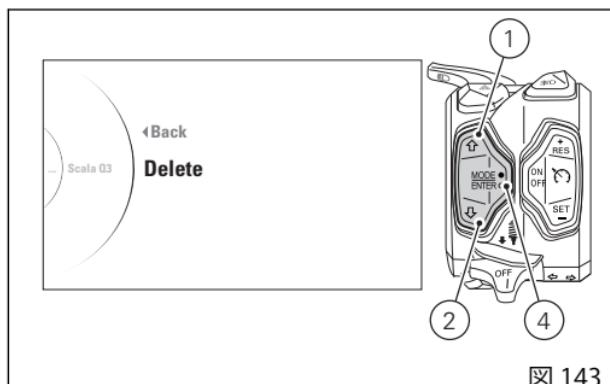
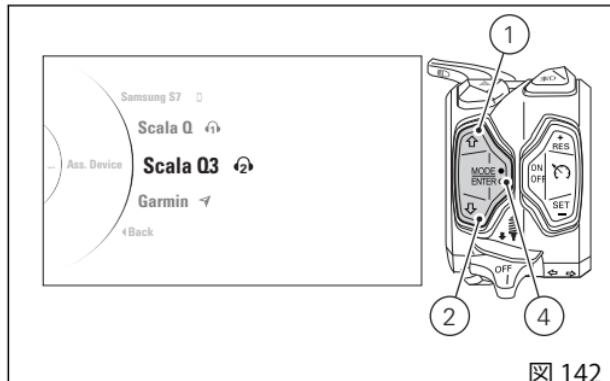
ボタン(4)を押します。

インストルメントパネルに"Delete"の文字が現れたら、もう一度ボタン(4)を押して決定します。

削除を実行しない場合は、"◀ Back"の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

デバイスの削除を決定すると、インストルメントパネルは"Wait..."の文字を表示します。

削除が終了すると、デバイスがペアリングデバイス一覧から消えます。





警告

以下のキットに付属しない Bluetooth 対応のナビゲーターは、ドゥカティマルチメディアシステムに正しく接続できない場合があります。

- Ducati Zumo 350 衛星ナビゲーターキット
- Ducati Zumo 390 衛星ナビゲーターキット
- Ducati Zumo 395 衛星ナビゲーターキット



参考

上記Ducati キットは、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにてお求めいただけます。

空気圧センサー基準空気圧低下値設定(Tyre Pressures) - アクセサリー

この機能から、フロントタイヤとリアタイヤの基準空気圧値をカスタマイズ設定することができます。アクセサリーとして購入いただけるタイヤ空気圧センサーを搭載している場合にのみ利用できます。

「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。

ボタン(1)またはボタン(2)を押して "Tyre Pressures" 表示を選択します。

機能が強調表示されたら、ボタン(4)を押します。

この機能に入ると、インストルメントパネルには以下が表示されます(図145)。

- ◀ Back
- Front Tire
- Rear Tire
- ◀ Back

ボタン(1)と(2)で、基準空気圧値を設定したいタイヤを選択します。“Front Tire”はフロントタイヤ、“Rear Tire”はリアタイヤを示します。

選択したタイヤが強調表示されたら、ボタン(4)を押して基準空気圧値の設定ページに入ります。

メニューを終了して前の画面に戻るには、“◀ Back”的表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

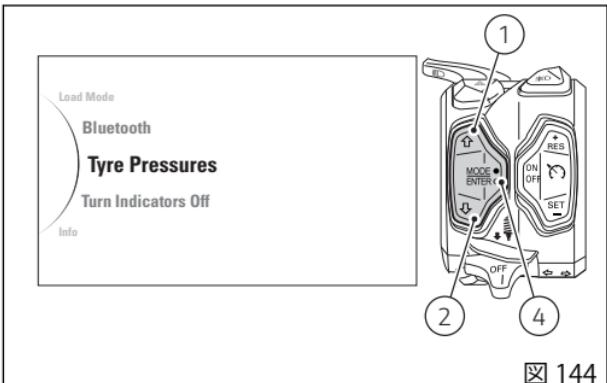


図 144

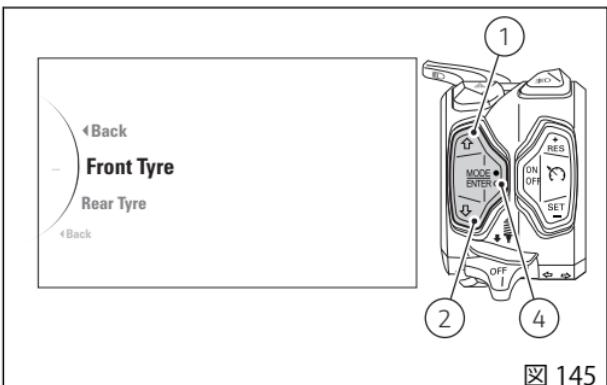


図 145

フロントタイヤ基準空気圧値の設定

フロントタイヤの基準空気圧値設定ページに入ると、基準空気圧データに矢印が2つ表示され、空気圧値を調節できることを示します。

右側には現在の設定値が表示されます。

ボタン(1)を押すと、空気圧値が0.1 bar(1.54 psi)ずつ大きくなります。例えば：

1.5 bar(21.76 psi)、1.6 bar(23.21 psi)、1.7 bar(24.66 psi)のように最大3.0 bar(45.51 psi)まで大きくなります。

ボタン(2)を押すと、空気圧値が0.1 bar(1.54 psi)ずつ小さくなります。例えば：

3.0 bar(45.51 psi)、2.9 bar(42.06 psi)、2.8 bar(40.61 psi)のように最小1.5 bar(21.76 psi)まで小さくなります。

ボタン(4)を押して設定した値を決定し、前の画面に戻ります。

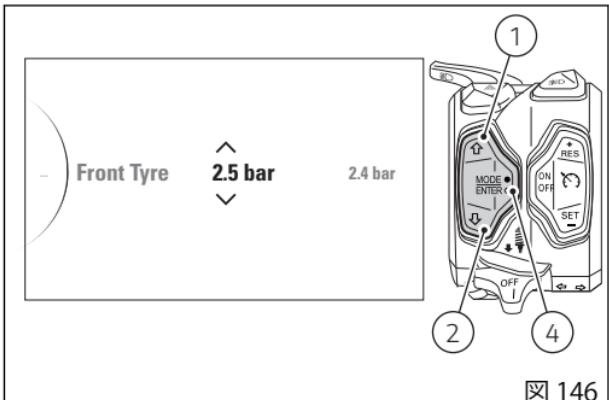


図 146



重要

タイヤ空気圧センサーの設定基準値は、“チューブレスタイヤ”(ページ347)の記載に従って入力してください。

タイヤを交換したときは必ず、“チューブレスタイヤ”(ページ347)の記載に従って空気圧値を設定してください。

リアタイヤ基準空気圧値の設定

リアタイヤの基準空気圧値設定ページに入ると、基準空気圧データに矢印が2つ表示され、空気圧値を調節できることを示します。

右側には現在の設定値が表示されます。

ボタン(1)を押すと、空気圧値が0.1 bar (1.54 psi)ずつ大きくなります。例えば：

1.5 bar (21.76 psi)、1.6 bar (23.21 psi)、1.7 bar (24.66 psi)のように最大3.0 bar (45.51 psi)まで大きくなります。

ボタン(2)を押すと、空気圧値が0.1 bar (1.54 psi)ずつ小さくなります。例えば：

3.0 bar (45.51 psi)、2.9 bar (42.06 psi)、2.8 bar (40.61 psi)のように最小1.5 bar (21.76 psi)まで小さくなります。

ボタン(4)を押して設定した値を決定し、前の画面に戻ります。

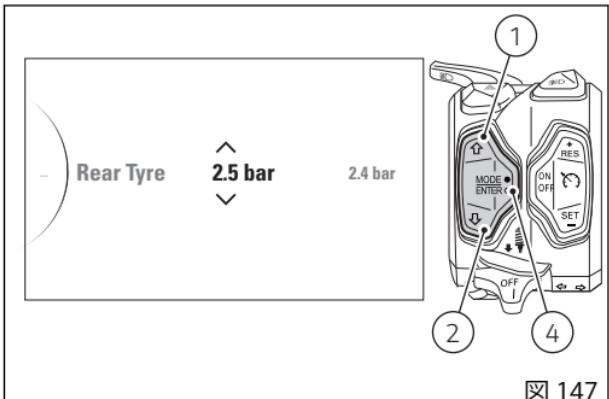


図 147



重要

タイヤ空気圧センサーの設定基準値は、“チューブレスタイヤ”(ページ347)の記載に従って入力してください。

タイヤを交換したときは必ず、“チューブレスタイヤ”(ページ347)の記載に従って空気圧値を設定してください。

ターンインジケーター自動解除の操作 (Turn indicators Off)

この機能では、リーン角度、走行速度、走行距離を基にしたターンインジケーターの自動解除ストラテジーを自動モード(AUTO)、または手動モード(MANUAL)に設定することができます。

「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。

ボタン(1)または(2)を押して“Turn Indicators Off”を選択します。

機能が強調表示されたら、ボタン(4)を押します。

この機能に入ると、以下が表示されます。

- ◀ Back
- Auto
- Manual
- ◀ Back

ボタン(1)および(2)を使用して、好みの設定を選択します。

- “Auto”を選択すると、ターンインジケーターの自動解除ストラテジーが起動します。
- “Manual”を選択すると、ターンインジケーターの自動解除ストラテジーを停止します(ターンインジケーターの解除は専用ボタンを使って手動で行うことになります)。

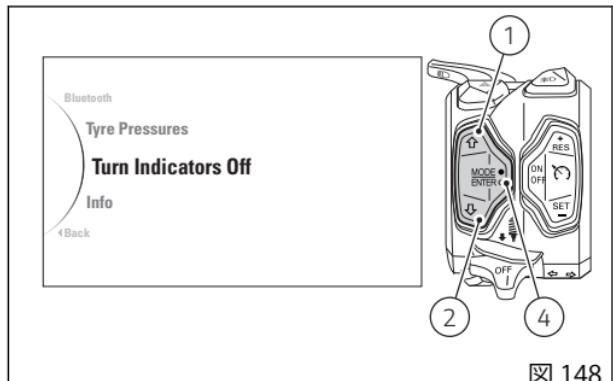


図 148

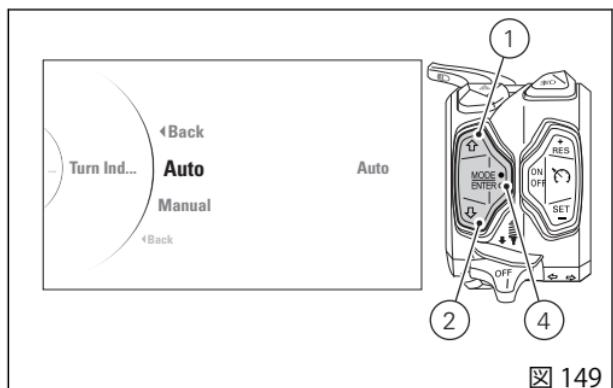


図 149

設定したい表示を強調表示したら、ボタン(4)を押して選択したモードを保存します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"◀ Back"の表示を強調表示し、ボタン(4)を押します。

参考

保存した設定 ("AUTO" または "MANUAL") は Key-OFF 後も維持されます。バッテリーが中断した場合 (Battery OFF) は、電源回復後の Key-ON 時にシステムは自動的に "AUTO" モードに設定されます。

参考

ターンインジケーターをハザードモードで点灯している場合は、ターンインジケーターの自動解除ストラテジーは作動しません。

参考

インストルメントパネルが ABS コントロールユニットのエラーを検出した場合は、自動解除ストラテジーは作動しません (つまり、ターンインジケーターは自動解除されません)。

情報 (Info)

この機能では車両のバッテリー電圧とデジタル表示のエンジン回転数を表示します。

「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。

ボタン (1) または (2) を押して "Info" を選択します。機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。

機能に入ると、インストルメントパネルは以下のように表示します。

- "Battery" の文字とバッテリー電圧値
- "rpm" の文字とデジタル表示のエンジン回転数

メニューを終了して前の画面に戻るには、"◀ Back" の表示を強調表示し、ボタン (4) を押します。

"Battery" 情報は以下のように表示されます。

- バッテリー電圧が 10.9V 以下の場合、"LOW" の文字が赤色で点滅します。
- バッテリー電圧が 11.0V から 11.7V の場合、電圧データが赤色で点滅表示されます。
- バッテリー電圧が 11.8V から 14.9V の場合、電圧データが固定表示され、通常の背景にバッテリーのアイコンが表示されます。
- バッテリー電圧が 15.0V から 16.0V の場合、電圧データが赤色で点滅表示されます。

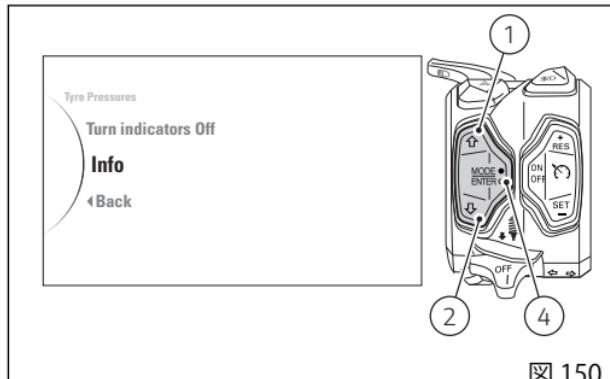


図 150

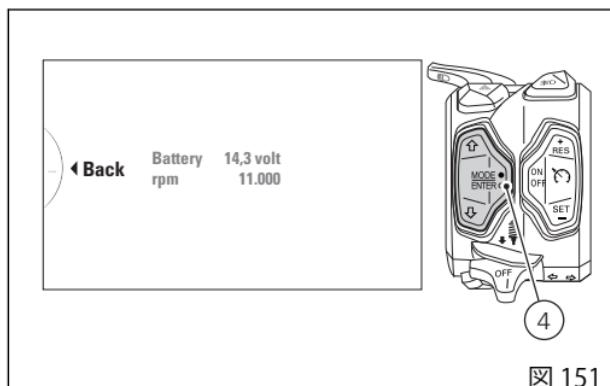


図 151

- バッテリー電圧が 16.1 V 以上の場合、"HIGH" の文字が赤色で点滅します。

エンジン回転数をデジタル表示する "rpm" 表示は、アイドリング調整時により正確な値を得るために使用することが推奨されます。

ディスプレイにエンジン回転数情報が 50 rpm 単位の数字で表示されます。

インストルメントパネルが回転数データを受信していない場合、点線 "----" が表示されます。これは値が表示できないことを示しています。

インフォテインメント

Multistradaは、Bluetoothコントロールユニットを装備している場合に限り、ドゥカティマルチメディアシステム(DMS)を搭載することができます。DMSシステムはBluetoothテクノロジー対応ヘッドフォンを用いて着信通話のほか、音楽を聴いたりSMS受信通知を受け取ったりすることができます。

本モデル用のBluetoothコントロールユニットは、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターでお買い求めいただけます。

またFULLおよびCITY表示モードでは、インフォテインメント機能がデフォルトで表示されます。TRACKおよびOFF ROAD表示モードでは、インストルメントパネルにインフォテインメント機能は表示されません。ただし、表示されていなくても、ボタン(1)およびボタン(2)を使用して、電話の着信通話/拒否/通話終了の操作は可能です。

参考

Ducati Link (iOSおよびAndroid用) アプリをスマートフォンにダウンロードすると、さらに豊富なサービスを利用することができます。その中には、ルート保存、車両データの保存、定期点検データの閲覧、車両パラメーターの設定など、他にも多数用意されています。

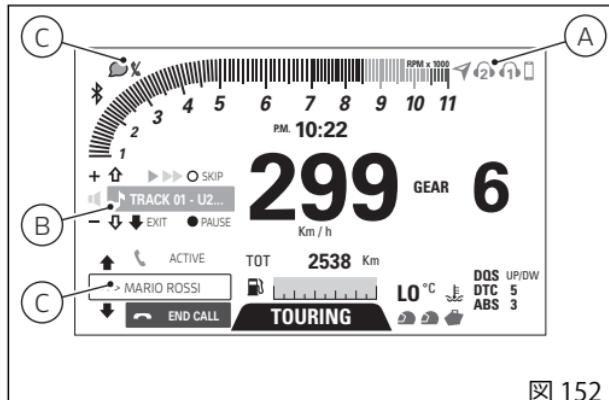


図 152

インストルメントパネルにはインフォテインメント機能の状態、すなわちBluetoothの起動および接続デバイス(スマートフォン、ヘッドセット、ナビゲーター)を表示します。

Bluetoothが起動しているときは、メインスクリーンにBluetoothアイコンが表示されます。

またインフォテインメントの各機能は、専用メニューで確認することができます。

- 接続デバイス (A)
- プレーヤー (B)
- 携帯電話 (C)

Bluetoothが起動している場合は、Bluetoothアイコンのほかに以下の接続デバイスについても表示します。

- 1) スマートフォン
- 2) ライダーヘルメットのヘッドセット
- 3) パッセンジャーヘルメットのヘッドセット
- 4) Ducati ナビゲーター

デバイスは最大4台まで接続が可能です。

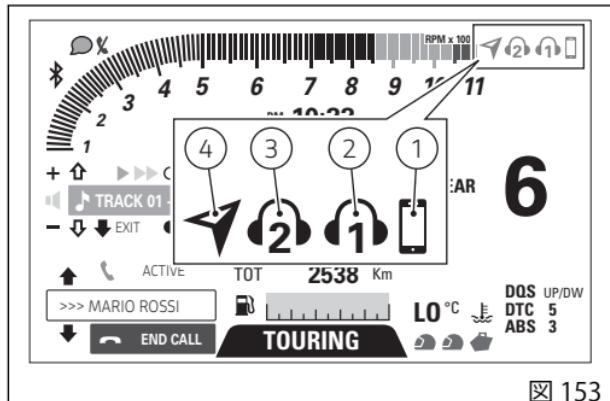


図 153

携帯電話

電話機能を用いて以下の操作が可能です。

- ボタン(1)、ボタン(2)、ボタン(4)を使用して、着信を管理します。
- 通話終了後5秒以内に、最後に通話していた番号へかけ直すことができます(リコール機能)。
- LAST CALLS 機能から最近の7通話の番号へかけ直すことができます(ページ106)。



機能ボタンで電話帳に登録されている氏名/電話番号を選択して電話をかけることはできません。

TRACK および OFF ROAD 表示モードでは、着信中も発信者名や電話番号は表示されません。ライダーには Bluetooth ヘッドセットから着信音が聞こえます。

ボタン(1)を押して着信を受けます。

ボタン(2)を押すと通話を拒否します。

ボタン(2)を押して受けた通話を終了します。

着信時にプレーヤーが作動している場合、通話中はプレーヤーが一時停止になり、通話が終わると再開します。

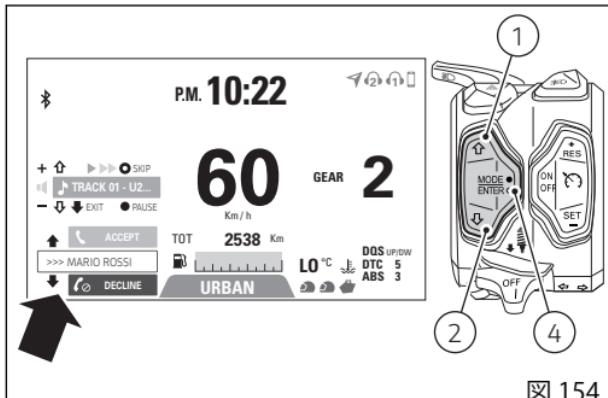


図154

FULL または CITY モードの場合には、電話をかけ直すことができるリコール機能を表す枠が通話終了後5秒間表示されます。5秒が過ぎると、リコール機能枠は解除されます。

リコール機能を使うには5秒以内にボタン(1)を押します。

TRACK および OFF ROAD 表示モードにはリコール機能はありません。



参考

別の通話中の時は、インストルメントパネルに不在着信マークが表示されます。通話中の通話表示は不在着信の表示より優先されます。

スマートフォンが車両に接続された瞬間から接続を切断する瞬間までに応答しなかった着信がある場合は、不在着信マークが表示されます。

不在着信の相手番号は表示されません。

スマートフォンが車両に接続された瞬間から接続を切断する瞬間までに未読の SMS/MMS/EMAIL がある場合は、未読メッセージのマークが表示されます。

未読メッセージ数は表示されません。

両方のマークが3秒間点滅し、インストルメントパネルに57秒間点灯します。



図 155

プレーヤー

スマートフォンが接続されている時は、メニュー内に "PLAYER" 機能が表示されます。

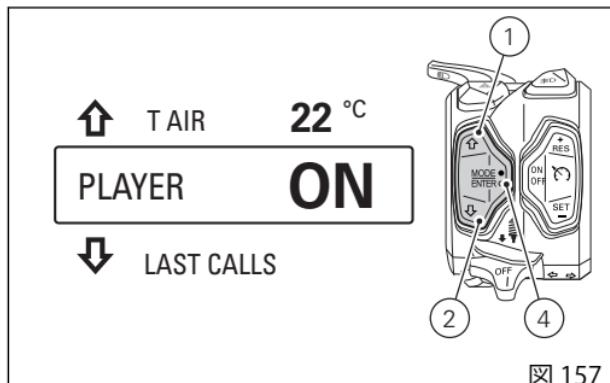
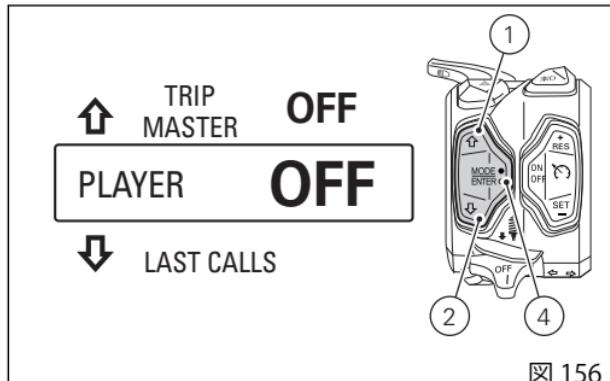
FULL または CITY モード (Info Mode) の時のみ、ボタン(1) またはボタン(2) でメニューの機能をスクロール表示し、PLAYER 機能を表示します。

プレーヤーが起動していない場合、インストルメントパネルは "PLAYER OFF" の文字を表示します (図 156)。起動するにはボタン(4) を押します。インストルメントパネルは "PLAYERON" の文字を表示し、メニューの上にプレーヤーメニューが現れます (図 158)。プレーヤーメニューの表示を解除するには、ボタン(2) を 2 秒間押します。

プレーヤーが起動している場合は、インストルメントパネルに "PLAYER ON" の文字が表示されます (図 157)。

プレーヤーメニューを表示するには、ボタン(1) を 2 秒間押します。

ボタン(4) を押してプレーヤーを停止すると、インストルメントパネルは "PLAYER OFF" (図 156) を表示します。



参考

着信中、通話中、およびリコール中はプレーヤー機能を起動することはできません。スマートフォンの接続が解除された場合、プレーヤーはオフになります。

プレーヤーが ON でプレーヤー操作内にいる時は(図 158)、ボタン(1)、ボタン(2)、ボタン(4)はプレーヤー操作専用ボタンになります。

- 音量大：ボタン(1)を1回押します。
- 音量小：ボタン(2)を1回押します。
- 一時停止 / 再生：ボタン(4)を2秒間押します。
- 次の曲をスキップ：ボタン(4)を1回押します。
ボタンを押すごとに次の曲に移ります。

プレーヤーを ON にしたままでプレーヤー操作(プレーヤーメニュー)から出るには、ボタン(2)を2秒間押します。インストルメントパネルは“PLAYER ON”的表示に戻り、プレーヤーメニューの表示を解除します(図 157)。

プレーヤー操作から出ると、

- プレイヤーと音量をインストルメントパネルから操作することはできなくなります。
- ボタン(1)、ボタン(2)、ボタン(4)は通常の機能に戻ります。

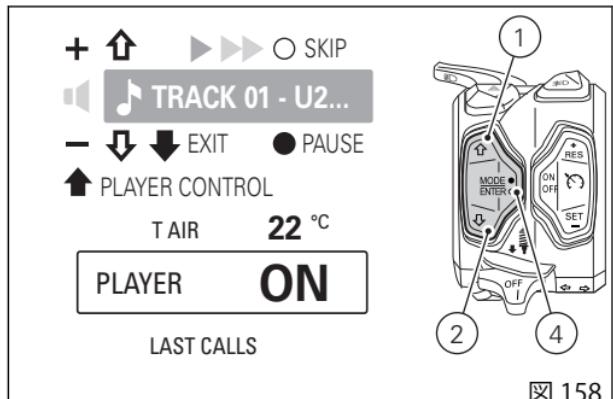


図 158

プレーヤーメニューから出た後にプレーヤーを停止するには、ボタン(4)を押します。インストルメントパネルは“PLAYER OFF”的文字を表示します(図 156)。

よくある質問と回答 (FAQ)

1) Eメール受信通知を受け取れません。

メール受信の通知は、携帯電話のネイティブアプリケーションに設定されている場合にのみ受け取ることができます。また、携帯電話が MAP プロフィールに対応していることを確認してください。

対応している場合には、ドゥカティマルチメディアシステムは接続時にプロフィールへのアクセスリクエストを送信します。このリクエストは、メッセージ通知へのアクセス許可をリクエストするかたちで、ユーザーに明確に通知される場合があります(端末の OS により異なる)。

2) SMS 受信通知を受け取れません。

携帯電話が MAP プロフィールに対応していることを確認してください。

対応している場合には、ドゥカティマルチメディアシステムは接続時にプロフィールへのアクセスリクエストを送信します。このリクエストは、メッセージ通知へのアクセス許可をリクエストするかたちで、ユーザーに明確に通知される場合があります(端末の OS により異なる)。

3) ヘッドセットを接続できません。どうしてですか?

一回ペアリングを行っている場合は、ヘッドセットを一度リセットして再び車両とのペアリングを実施してください(ヘッドセットの取扱説明書参照)。

4) 着信時、インストルメントパネルには発信者の番号は表示されますが、発信者名は表示されません(電話帳に保存している場合も含む)。

携帯電話が PBAP プロフィールに対応していることを確認してください。

対応している場合には、ドゥカティマルチメディアシステムは接続時にプロフィールへのアクセスリクエストを送信します。このリクエストは、携帯電話の電話帳へのアクセス許可をリクエストするかたちで、ユーザーに明確に通知される場合があります(端末の OS により異なる)。

5) インストルメントパネルからプレーヤーを起動しても、音楽がスタートしません。

プレーヤーの起動は携帯電話の設定に依存します。この場合は、インストルメントパネルからプレーヤーを起動したのち、スマートフォンから音楽再生アプリを起動してください。

6) 音楽の音が飛ぶことがあります。

デバイスの接続が悪いと、Bluetooth コントロールユニットがまだデバイスとの接続を完了しようとしているままになる場合があります。また、PBAP プロフィールおよび MAP プロフィールが有効でなければなり

ません。iOS の場合は、項目 7) を参照してください。
Android の場合は、項目 2)、4) を参照してください。

**7) iPhone ではメッセージ受信通知を受け取れません。
どうしてですか？**

「設定」メニューの「Bluetooth」を選択してください。「デバイス」リスト内から「Ducati Media System」の横にある「i」を選択してください。通知の表示を有効にします。

ラップタイム (LAP time)

この機能は、インストルメントパネルがラップタイムを表示、記録する方法を示します。ラップタイム (LAP) は連続最大 15 周回まで記録することができます。

LAP 機能に関する情報は機能が起動している場合に表示されます。

設定メニューから LAP 機能を起動すると、インストルメントパネルは "LAP" の文字を以下のように点灯します。

- 機能が停止している時は消灯
- 機能は起動しているが、進行中のラップ記録がない時は点灯
- 機能が起動し、ラップ記録が進行中の時は点滅

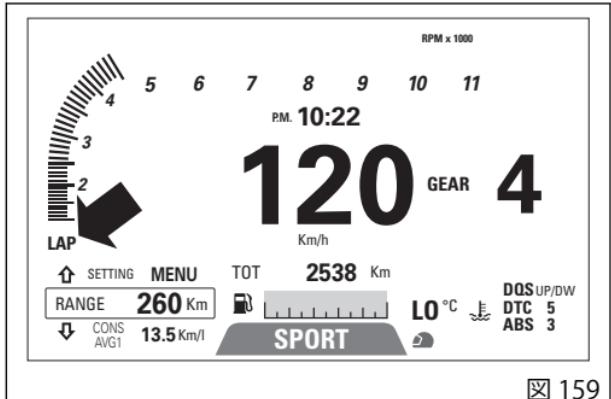


図 159

LAP の記録

LAP 機能が ON の時にボタン(3)を 1 回押すと、最初の LAP の "START" が表示されます。"START" の文字が小さい "LAP" の文字と同期して 4 秒間点滅し、大きい "LAP" の文字が固定表示されます。

その後ボタン(3)を押す度に、大きい "LAP" の文字、直前周回のラップ数が固定表示されます。一方、直前周回のラップタイムは 100 分の 1 秒単位 ("0'00''00") で、小さい "LAP" の文字と同期して 6 秒間点滅表示されます。続いてストップウォッチ、進行中の新しい周回のラップ数が改めて表示されます。

参考

記録されているラップ数、ラップタイムが表示されている時、スピード値はラップ値の下に小さく表示されます。

LAP のメモリー数が 15 に達すると LAP 機能は停止し、ボタン(3)を押す度にインストルメントパネルに "FULL" の文字が小さい "LAP" の文字と同期して 4 秒間点滅します。これは、測定したラップの保存領域がなくなったことを表します。

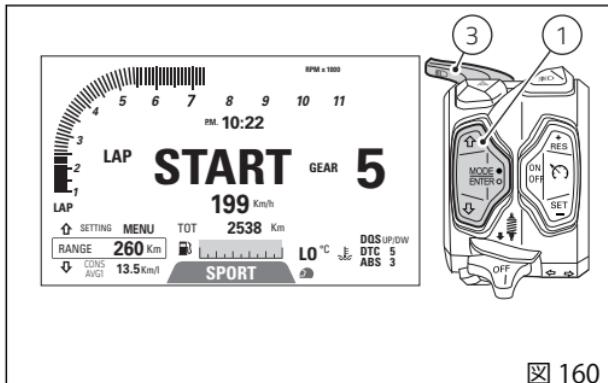


図 160

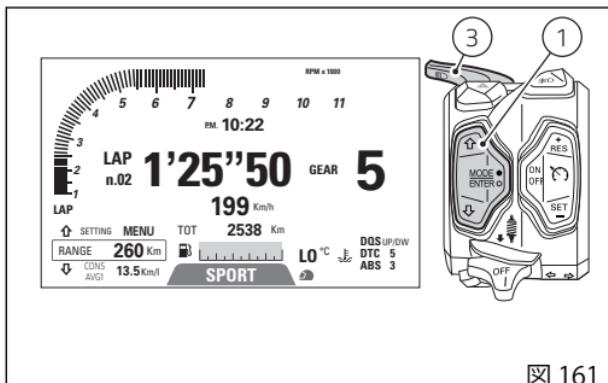


図 161

 **参考**

LAP 機能を停止した時に計測中のラップは保存されません。機能を再び起動すると、前回最後に記録したラップの次にラップタイムが保存されます。

ラップタイムの "ストップ" 指示が出されなかった場合、7分59秒99の時点でストップウォッチはゼロに戻り、ストップ指示が出されるまでラップタイムを測定し続けます。

 **参考**

LAP 機能が起動しているとき、FLASH ボタンはハイビームの点滅機能との両方に使用します。

クルーズコントロール

Multistradaは走行速度を一定に維持するシステム、ドゥカティクルーズコントロールを搭載しています。

この機能はクルーズコントロールの状態と設定速度を表示します。

ボタンON/OFF(5)を押してクルーズコントロールを起動すると、インストルメントパネルにはクルーズコントロールランプ(3、図8)が点灯します。システムが起動すると、インストルメントパネルにクルーズコントロールアイコンが点灯します。

この状態にあるとき、ドゥカティクルーズコントロールの速度を設定することができます。設定速度はスロットルグリップの位置を維持しなくとも自動的に一定に保たれます。

ボタンSET(7)を押すと、現在の走行速度がクルーズコントロール速度に設定されます。

クルーズコントロール速度が正しく設定されると、インストルメントパネルに設定速度が5秒間表示され、その後“Set”アイコンが点灯します。

設定速度の増速および減速は、それぞれボタン(6)および(7)を押して行います。

ワン「クリック」が1Km/hの増速または減速に相当します。

新しく設定された速度は、SETアイコンの代わりに表示されます。

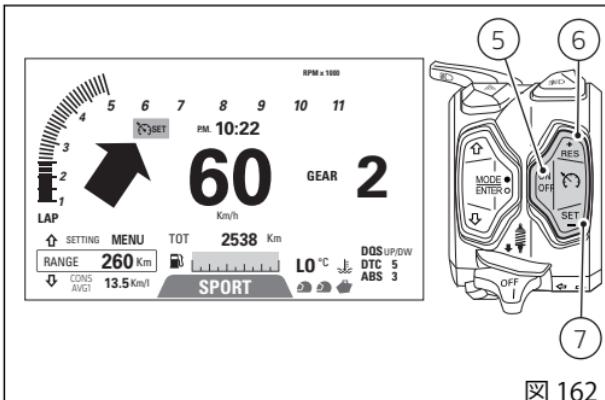


図 162

新しい設定速度が5秒以上変更されない場合は、再びSETアイコンが点灯します。

ドゥカティクルーズコントロール機能を一度解除した場合は、RESボタン(6)を押すと前回のSET速度を呼び出して設定することができます。



重要

DTC(トラクションコントロール)が長時間にわたって介入すると、クルーズコントロール機能は自動的に一時停止します。

一旦システムが起動すると、RES ボタン (6)、または SET ボタン (7) を押して現在の走行速度を設定速度に設定することができます。以前に一度も設定速度を設定していない場合には RES ボタン (6) を押してください。

この場合には、システムは現在の走行速度を記録して、ユーザーがスロットルを操作することなく記録した速度を維持します。設定速度はインストルメントパネルに表示されます。

前回に速度を設定しており、機能条件を満たしている場合に、スタンバイモードから RES ボタン (6) を押すと、システムはユーザーが最後に設定した速度を呼び出してクルーズコントロール機能に戻ります。

以下のすべての条件が確認された場合に限り、ドゥカティクルーズコントロールシステムを起動することができます。

- ギアが 2 速以上に入っている。
- 走行速度 50 km/h (30 mph) 以上もしくは 200 km/h (125 mph) 以下。

以下の方法でドゥカティクルーズコントロールシステムを解除することができます。

- ボタン (5) を押す。
- フロントブレーキレバーを握る。

- リアブレーキペダルを踏み込む。
- クラッチペダルを踏み込む。

ドゥカティクルーズコントロールシステムは 50 Km/h (30 mph) ~ 200 Km/h (125 mph) の範囲で車両速度を制御します。

ビーグルホールドコントロール(VHC)

Multistrada 950 が搭載する ABS にはビーグルホールドコントロール(VHC)システムが組み込まれています。このシステムは積極的にリアブレーキをかけることで、ブレーキレバーとペダルを操作することなく車両の停止した状態を保ちます。再発進時、システムがブレーキにかけた圧力を調整します。これによりライダーはスロットルとクラッチの操作にだけ集中することができ、より快適な発進が可能になります。

この機能は、車両が停車しておりサイドスタンドが上がっている状態でライダーがフロントブレーキまたはリアブレーキを強くかけたときに起動します。インストルメントパネルを起動すればすぐに、この機能を起動することができます。システムは、車両の姿勢情報に基づいて ABS コントロールユニットのポンプとバルブに作用し、リアブレーキシステムに圧力を加えます。

このシステムは ABS のレベルを問わず(OFF 状態も含む)起動します。システムが起動すると、次のランプが点灯します。このランプは、システムがリアブレーキへの圧力を低下させる、すなわち車両の停止状態が解除されるときに点滅を始めます。ブレーキへの圧力は段階的に滑らかに解除されます。

この機能は以下の条件では無効になります。

- 1) 車両の発進時

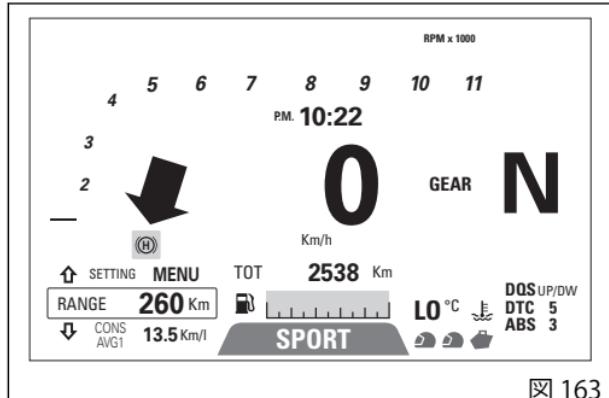


図 163

- 2) フロントブレーキレバーを2回素早く操作した場合
- 3) システムの起動から9秒経過した場合
- 4) サイドスタンドを下ろした時



警告

このシステムはパーキングブレーキのように機能するものではありません。システムの作動中であっても、システムが停止した場合にいつでも車両のコントロールができるように、ハンドルレバーから手を離さないようしてください。

メンテナンス表示 (SERVICE)

この表示は、Ducati 正規サービスセンターで車両のメンテナンス(定期点検)を実施する必要があることをユーザーに通知します。

メンテナンス表示のリセットは、メンテナンスを行う Ducati 正規サービスセンターでのみ行うことができます。

この機能の表示については TRACK 表示モードを例にあげています。FULL、CITY、OFF ROAD 表示モードでも TRACK 表示モードと類似した表示になります。定期点検には 3 つの種類があります。

- OIL SERVICE ZERO : 最初の 1000 km (600 mi) 点検
- OIL SERVICE および SERVICE DATE : オイル点検もしくは一年点検 (どちらも同様の点検作業を実施します)
- DESMO SERVICE

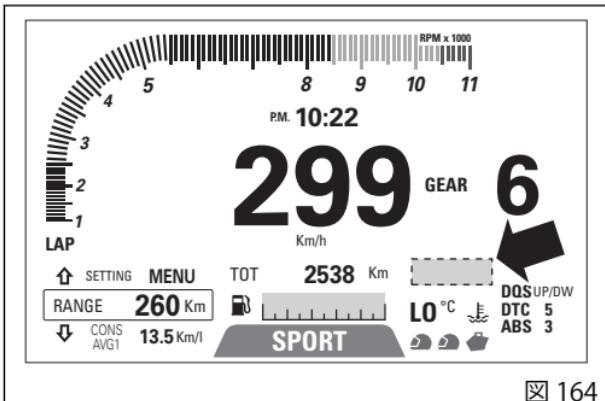


図 164

OIL SERVICE ゼロの表示

最初のメンテナンス表示は、OIL SERVICE ゼロを通知します。オドメーターが最初の 1000 km (600 mi) に達すると表示され、Ducati 正規サービスセンターでのメンテナンスにおいて "リセット" されるまで常時表示されます。



図 165

OIL SERVICE、SERVICE DATE、DESMO SERVICE 表示

メンテナンスを必要とする走行距離に達すると、次のおうち必要なメンテナンスが表示されます。

- OIL SERVICE (A)
- SERVICE DATE (B)
- DESMO SERVICE (C)

実施するメンテナンスの種類が赤色で表示されます。その後 Ducati 正規サービスセンターでのメンテナンスにおいて "リセット" されるまで常時表示されます。

設定メニュー内にサービス期限を表示することができます (Oil Service : キロまたはマイル、Desmo Service : キロまたはマイル、Annual Service : 年/月/日)。詳しくは「サービス期限の表示 (Service Info)」をご覧ください ページ 171。

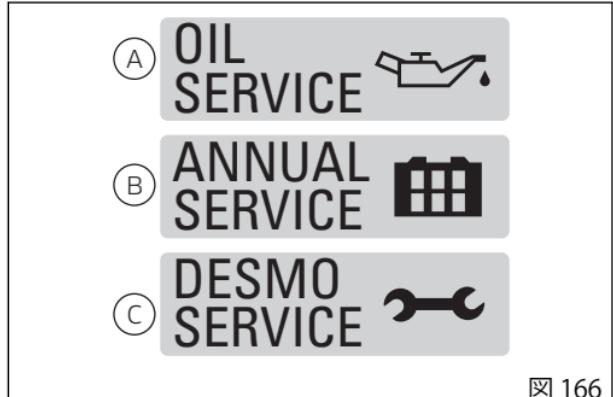


図 166

OIL SERVICE、SERVICE DATE、DESMO SERVICE カウントダウン表示

OIL SERVICE ゼロ (1000 km - 600 mi) 表示の最初のリセットが行われた後、インストルメントパネルはKey-ONごとに以下の表示を黄色で 5 秒間表示します。

- 定期点検までの走行距離が 1000 km (600 mi) を切ると、OIL SERVICE (A) の表示と走行距離カウンター(キロまたはマイル)が、オドメーター(TOT)の代わりに表示されます。
- SERVICE DATE (B) の表示と定期点検までの残りの日数カウンターが、オドメーター(TOT)の代わりに表示されます。
- 定期点検までの走行距離が 1000 km (600 mi) を切ると、DESMO SERVICE (C) の表示と走行距離カウンター(キロまたはマイル)が、オドメーター(TOT)の代わりに表示されます。

設定メニュー内にサービス期限を表示することができます (Oil Service : キロまたはマイル、Desmo Service : キロまたはマイル、Annual Service : 年/月/日)。詳しくは「サービス期限の表示 (Service Info)」をご覧くださいページ 171。

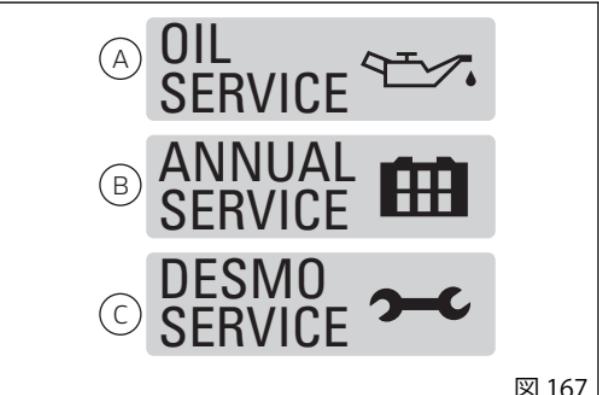


図 167

注意 / 警告 (Warning)

車両使用中にユーザーに有用な情報を提供するため、インストルメントパネルは一連の注意/警告 (warnings) を管理します。

KEY-ON 時に警告が検知されると、インストルメントパネルのディスプレイに警告が表示されます。

車両の通常作動時に警告が検知されると、インストルメントパネルのディスプレイに警告が自動的に表示されます。警告が検知されると最初の 10 秒間はっきりと表示され(大きいアイコン)、その後小さく表示されます(小さいアイコン)。

複数の警告が検知された場合、各警告アイコンが 3 秒ずつ順番に表示されます。

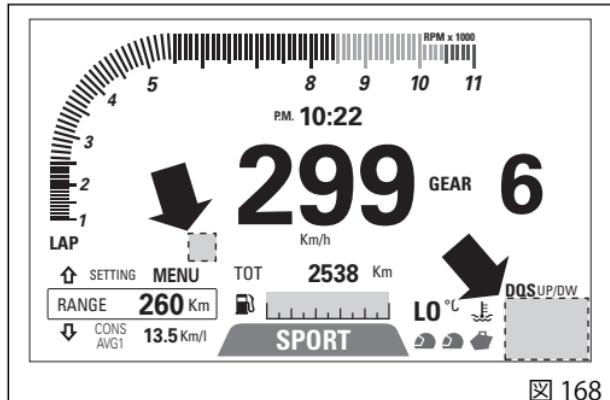


図 168

警告

ひとつ以上の警告灯が点灯すると同時に一般的エラー警告灯が点灯する場合、一般的エラー警告灯が点灯している間は小さい警告アイコンは表示されません。警告アイコンは最初の 10 秒間のみ大きく表示されます。

この機能の表示については TRACK 表示モードを例にあげています。FULL、CITY、OFF ROAD 表示モードでも TRACK 表示モードと類似した表示になります。

路面凍結警告表示 (ICE)

この機能では、外気温が低いため路面凍結の危険があることを表示します。

温度が 4° C (39° F) に下がると表示され、 6° C (43° F) に上がると表示が消えます。



警告

気温が 4° C (39° F) 以上でも道路が氷結している可能性があります。外気温が "低い" 時、特に日陰や橋の上では細心の注意を払って運転してください。



図 169

バッテリーレベルLOW(LOW BATTERY)インジケーター

この機能は車両のバッテリー充電レベルが低下していることを通知します。

バッテリー電圧が11.0V以下になると表示されます。



参考

この場合、車両を始動できなるおそれがありますので、正規チャージャーで速やかにバッテリーを充電してください。

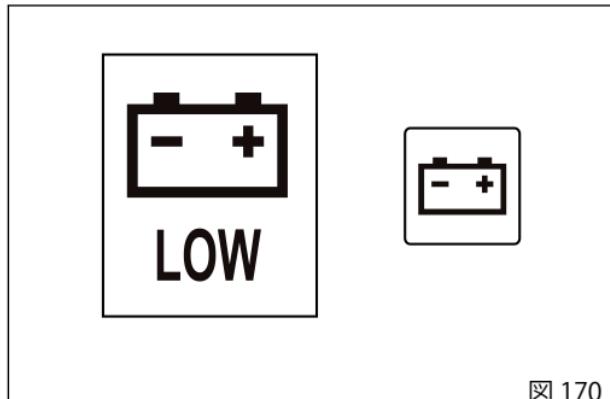


図 170

Hands Free (HF) キー無感知

Hands Free システムが車両付近に "アクティブキー" を感知できないとき、この警告が表示されます。



参考

この場合、アクティブキーが実際に車両付近に存在するか(キーを紛失していないか)、あるいはアクティブキーが正しく作動しているかを確認してください。

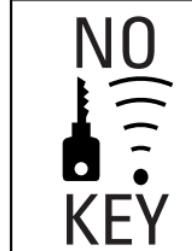


図 171

Hands Free (HF) キーバッテリーレベル "LOW"

情報のやりとりと車両の起動を行うアクティブキーの電池残量が少ないと車両の起動を行うアクティブキーの電池残量が少ないことを Hands Free システムが検知すると、この警告が表示されます。



参考

この場合、早急に電池を交換してください。

電池の交換については "アクティブキーのバッテリーの交換" を参照してください ページ 246。



図 172

フロントタイヤ空気圧低下(アクセサリー)

フロントタイヤの空気圧が 1.6 bar (23.2 psi) 以下に低下すると、この警告が表示されます。



警告

この場合は、停車してフロントタイヤの空気圧の点検を受けてください。

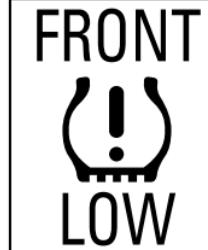


図 173

リアタイヤ空気圧低下(アクセサリー)

リアタイヤの空気圧が 1.6 bar (23.2 psi) 以下に低下すると、この警告が表示されます。



警告

この場合は、停車してリアタイヤの空気圧の点検を受けてください。



図 174

フロントタイヤ空気圧センサーのバッテリー残量低下（アクセサリー）

この警告が点灯すると、フロントタイヤ空気圧センサー内蔵バッテリーの残量が低下しているため、まもなくフロントタイヤ空気圧データの利用ができなくなることを示します。



重要

この場合はセンサー本体を交換する必要がありますので、速やかにドゥカティ正規ディーラーまたはサービスセンターでセンサーの点検を受けてください。

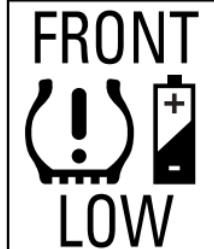


図 175



重要

タイヤ空気圧センサーの設定基準値は、“チューブレスタイヤ”（ページ 347）の記載に従って入力してください。

タイヤを交換したときは必ず、“チューブレスタイヤ”（ページ 347）の記載に従って空気圧値を設定してください。

リアタイヤ空気圧センサーのバッテリー残量低下(アクセサリー)

この警告が点灯すると、リアセンサー内蔵バッテリーの残量が低下しているため、まもなくフロントタイヤ空気圧データが利用できなくなることを示します。



重要

この場合はセンサー本体を交換する必要がありますので、速やかにドゥカティ正規ディーラーまたはサービスセンターでセンサーの点検を受けてください。



図 176



重要

タイヤ空気圧センサーの設定基準値は、“チューブレスタイヤ”(ページ 347) の記載に従って入力してください。

タイヤを交換したときは必ず、“チューブレスタイヤ”(ページ 347) の記載に従って空気圧値を設定してください。

タイヤ空気圧入力(アクセサリー)

この警告が表示されるときは、設定メニュー(SETTING MENU)からタイヤの基準空気圧値を入力する必要があります(ページ 187)。



重要

タイヤ空気圧センサーの設定基準値は、“チューブレスタイヤ”(ページ 347)の記載に従って入力してください。

タイヤを交換したときは必ず、“チューブレスタイヤ”(ページ 347)の記載に従って空気圧値を設定してください。

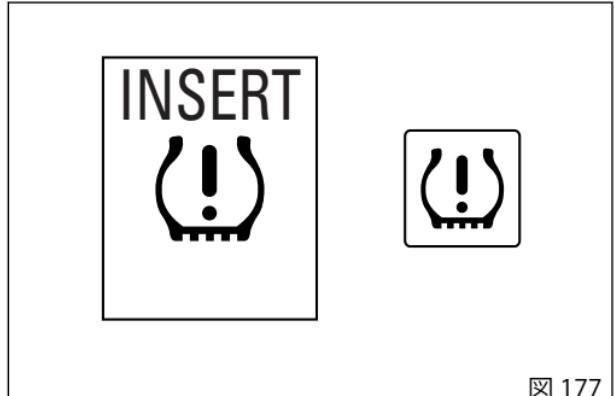


図 177

DTC オフロード設定 (DTC ENDURO)

この警告は、トラクションコントロールが "極値" (オフロード用設定) に設定されているため、アスファルト上での運転には細心の注意を払う必要があることを示します。

DTC(ドゥカティトラクションコントロール)介入レベルが "01" および "02" に設定されている場合に、この警告が点灯します。



警告

この場合は、運転に細心の注意を払ってください。このタイプの DTC(ドゥカティトラクションコントロール) 設定は公道では使用せず、オフロードでのみ使用するようにしてください。

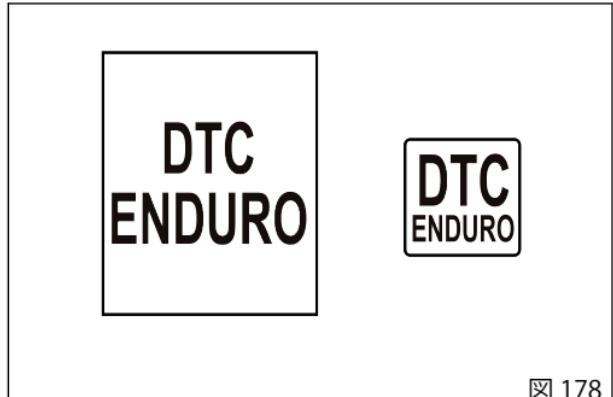


図 178

ABS オフロード設定 (ABS ENDURO)

この警告は、ABS が前輪のブレーキングのみを制御するオフロード用の設定になっているため、アスファルト上での運転には細心の注意を払う必要があることを示します。

ABS 介入レベルが "01" に設定されている場合に、この警告が点灯します。



警告

この場合は、運転に細心の注意を払ってください。このタイプの ABS 設定は公道では使用せず、オフロードでのみ使用するようにしてください。



図 179

日付の入力

この機能は設定メニューから日付を入力する必要があることを通知します。



参考

この場合は一旦停車し、"日付の設定(DATESET)"機能から日付を入力してください。

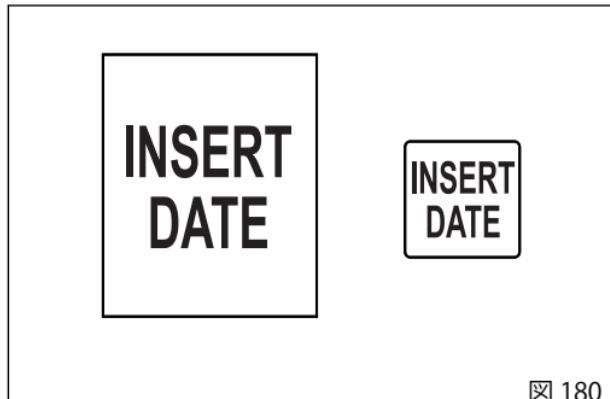


図 180

ステアリングロック解除エラー - ステアリング ロック状態

この警告は、Hands Free システムがステアリングロックを解除できなかつたことを示します。



警告

この場合は、ハンドルレバーを下まで押し下げた状態で車両の停止と再起動 (Key-OFF/Key-ON) を行ってください。もしマークが消えない(つまりステアリングがロック状態のまま)場合は、Ducati 正規サービスセンターにご連絡ください。

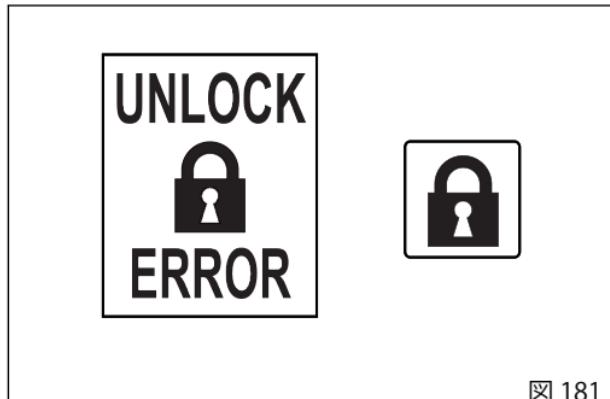


図 181

電子式フィラープラグ開 (Fuel Cap Open) (オプション)

この警告は、電子式フィラープラグ(オプション)が開いていることを示します。

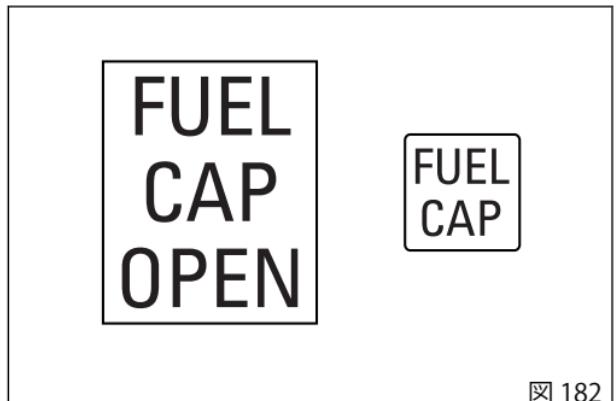


図 182

エラー表示

インストルメントパネルは車両の不具合をリアルタイムに識別するためにエラー信号を管理します。

車両のKey-ON時にエラーが検知されると、インストルメントパネルにはMILランプ(B)もしくは一般的なエラー警告灯(A)が点灯します。

車両の通常作動時にエラーが検知されると、インストルメントパネルにはMIL(B)ランプもしくは一般的なエラー警告灯(A)が点灯します。



警告

ひとつ以上のエラーが表示される場合には、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

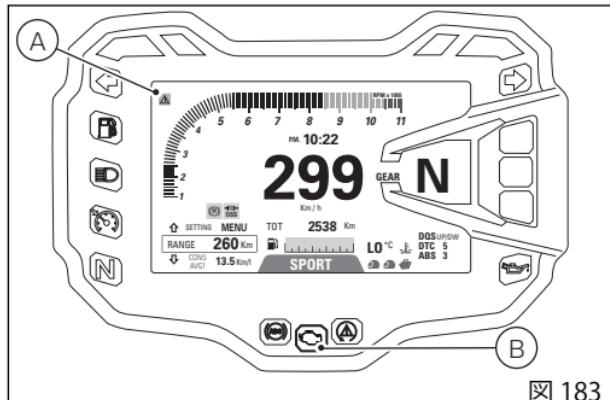


図 183

ヒーテッドグリップ

ヒーテッドグリップを搭載している場合に限り、この機能でヒーテッドグリップの起動と調整を行うことができます。

ヒーテッドグリップを搭載している場合は、インストルメントパネルにマークと設定レベル(OFF、LOW、MED、HIGH)が表示されます。

調整を行うには、ボタン(12)を押します。

ボタン(12)を押すごとに、レベルが“OFF”、“LOW”、“MED”、“HIGH”の順に移動し、再び“OFF”に戻ります。

ヒーテッドグリップはエンジンを始動した時に実際に作動(加熱)を始め、設定レベルを示すアイコンが点灯します。

参考

エンジンがかかっているときのみ、ヒーテッドグリップが実際に作動します(熱くなる)。

ヒーテッドグリップ "ON" 時のレベル設定：LOW、MED、HIGHのレベル調整時、各アイコンは以下の背景色になります(インストルメントパネルの背景設定がDAYモードでもNIGHTモードでも同様)。

- LOW レベルは緑色

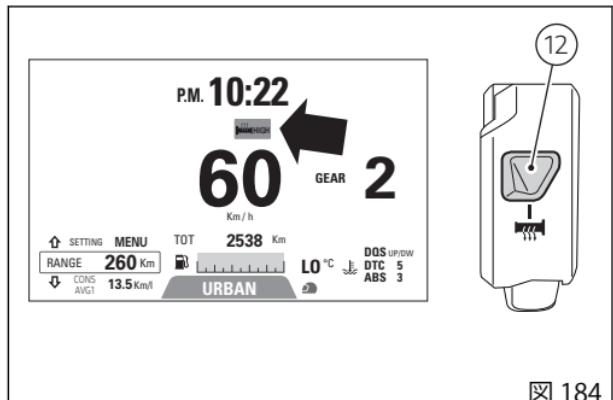


図 184

- MED レベルは黄色
- HIGH レベルは赤色

ヒーテッドグリップ "OFF" 時のレベルの設定：ヒーテッドグリップ機能を解除している場合でも、LOW、MED、HIGHのレベル調整を設定することができます。ただし、アイコンの背景色は白色(インストルメントパネル背景がDAYモードの場合)、もしくは黒色(インストルメントパネル背景がNIGHTモードの場合)になります。

参考

バッテリーが切れた場合(Battery-OFF)は、次回の Battery-O N / Key-O N 時にはデフォルト値の "OFF" に設定されます。

参考

グリップヒーターが起動した状態でエンジンが停止している場合、グリップヒーターは "一時的に" 作動を停止しますが、表示は継続して起動状態を示します。エンジンを再始動するとグリップヒーターは自動的に再起動します。

参考

エンジンがアイドリング中(2,000 rpm 以下)は、バッテリー充電状態を維持するために、ヒーテッドグリップのレベルを "MED" または "HIGH" に調整している場合であっても、実際には "LOW" レベルに調整されます ("LOW" レベル調整時の温度)。エンジンがアイドリング状態でなくなると(2,000 rpm 以上)、調整レベルは実際の設定レベルに戻ります ("MED" または "HIGH")。

参考

ヒーテッドグリップは電力消費が大きいため、エンジン低回転域ではバッテリーが上がるおそれがあります。バッテリーが充電不足(電圧が 13.2 V を下回っている)状態になると、エンジンの始動ができる状態を維持するためにヒーテッドグリップの作動を停止します。バッテリー電圧が前述の電圧値を上回ると、自動的に作動を開始します。

参考

ヒーテッドグリップに問題が検出された場合や気温センサーが故障した場合は、ボタン(12)は機能しません。インストルメントパネルの一般的エラー警告灯が点灯し、ヒーテッドグリップアイコンが消えます。

参考

片方のヒーテッドグリップに問題が発生した場合は、インストルメントパネルの一般的エラー警告灯だけが点灯します。

サイドスタンド表示

インストルメントパネルはスタンドの状態に関するデータを受信し、サイドスタンドが下りている/開いている場合には赤色の背景に "SIDE STAND" アイコンをディスプレイに表示します。

サイドスタンドセンサーエラーが検知されると、インストルメントパネルはサイドスタンドエクステンド/オープンを表示し、MIL ランプ(9、図 8)を点灯します。

インストルメントパネルがサイドスタンドの状態に関するデータを受信しない場合、スタンドが下りている/開いている場合の "SIDE STAND" の表示が点滅し、不明の状態を表します。

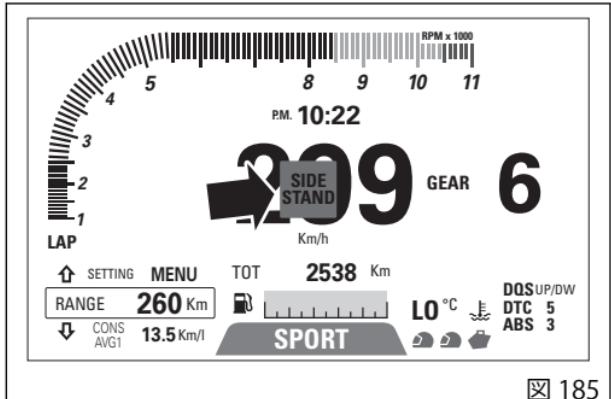


図 185

ライトコントロール

ロービーム/ハイビームランプ

ヘッドライトの点灯および消灯を調整し、バッテリーの消費量を抑えます。

Key-ON 時、ロービームランプおよびハイビームランプは消灯(OFF)したままパーキングランプのみが点灯します。

エンジンを始動するとロービームランプが起動します。エンジンが作動している状態でランプの標準機能が回復します。ボタン(3)のポジション(A)と(B)でロービームとハイビームの切り替えを行います。Key-ON した後にエンジンを始動しない場合でも、左側スイッチのボタン(3)をポジション(C)に押してロービーム/ハイビームランプを起動することができます。

手動でランプを起動してから 60 秒以内にエンジンを始動しないと、ロービームまたはハイビームランプは再び停止します(OFF)。

エンジン始動前に(上記の方法で)ロービームまたはハイビームランプを点灯させた場合、エンジンを始動する際ヘッドライトが自動的に消灯し、エンジンが完全に起動してから再び点灯します。

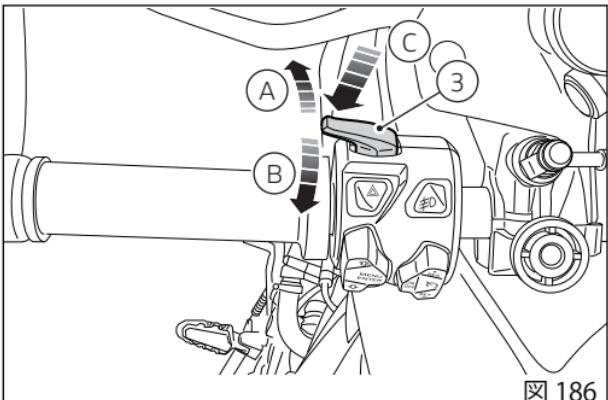


図 186

コーナリングランプの起動 / 解除

この機能でコーナリングランプの自動ON/OFFが可能です。コーナリングランプは、車両がカーブに進入する際に傾斜側前方の角付近の道路を照らして見やすくするためのランプです。右に傾斜すると右側のコーナリングランプが点灯し、左に傾斜すると左側が点灯します。

ターンインジケーター

インストルメントパネルはターンインジケーターの自動リターンを行います。

左ターンインジケーターを起動するにはボタン(10)をポジション(I)に押します。右ターンインジケーターを起動するにはボタン(10)をポジション(L)に押します。左側スイッチのボタン(10)を押してターンインジケーターを解除することができます。

自動解除：

車両速度、リーンアングル、車両の動的制御の分析から右左折の動作の終了を感じて、ターンインジケーターが自動的に消灯します。

自動解除機能は、インジケーターボタンを操作することにより、車両速度が20 km/h(12.4 mph)を超えると作動します。

ターンインジケーターは、車両がかなりの長距離を走行している間作動したままになっている場合にも、自動的に消灯します。ターンインジケーターボタンが操作された時の車両速度に応じて、200~2,000 メートル(656~6,562 フィート)までの範囲で変化します。

ターンインジケーターの作動中、ターンインジケーターを作動させようとしてターンインジケーターボタンを再び押すと、自動解除機能は再度初期化されます。

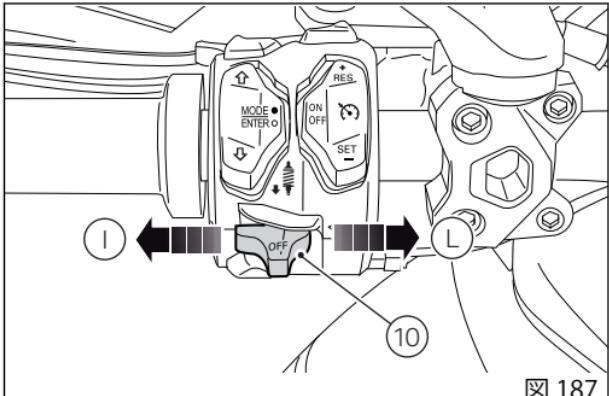


図 187

自動解除システムは設定メニュー(SETTING MENU)の専用メニューから停止することができます。詳しくは「ターンインジケーター自動解除の操作」(TURN INDICATORS OFF)の章をご覧くださいページ190。



警告

自動解除システムは、ライダーがターンインジケーターをより快適に操作できるように助ける、ライダースポーツ支援システムです。こうしたシステムは、ほとんどの運転において動作するように開発されていますが、ライダー自身がターンインジケーターの動作に注意を払わなくてよくなる機能ではありません（必要に応じて手動で作動/停止）。

ハザード機能(ターンインジケーターすべて点滅)

"ハザード"機能は、非常事態を知らせるために4つのターンインジケーターすべてを同時に起動します。ボタン(11)を押して"ハザード"機能を作動することができます。この機能は車両が起動している場合(Key-ON)に限り起動することができます。"ハザード"機能の作動中は、4つのターンインジケーターおよびインストルメントパネルのランプが同時に点滅します。"ハザード"機能は、車両が起動している状態(Key-ON)でのみボタン(11)を押して手動で解除することができます。

"ハザード"機能を起動している状態で車両を停止(キーが"OFF"の位置)すると、ユーザーが手動で解除するまで点灯し続けます。ただし、点灯した状態で1時間が経過すると、バッテリー充電状態を維持するため自動的に消灯します。



"ハザード"機能の作動中に車両をKey-ONした場合、ハザード機能は作動し続けます(ただし、インストルメントパネルの初期点検中にハザード機能が一時的に中断される場合があります)。

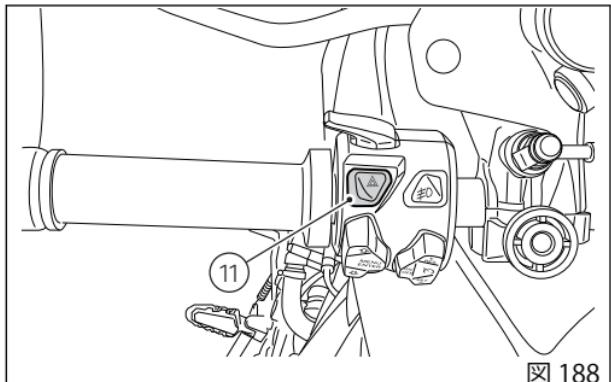


図 188

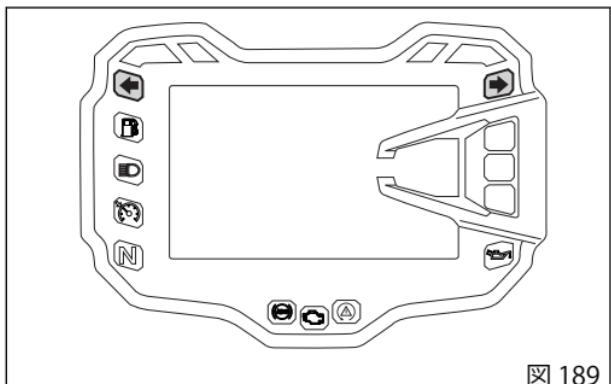


図 189



参考

パーキング機能作動中に突然バッテリーからの電源が遮断された場合、電源回復時にインストルメントパネルは機能を停止します。



参考

"ハザード"機能は、ターンインジケーターの通常機能より優先されます。そのため、"ハザード"機能が作動している場合は左右インジケーターを個別に起動することはできません。

表示"ステアリングをロックするには起動ボタンを押してください" (Key-OFF 時)

この機能は、ステアリングロックを起動させるにはボタンを押す必要があることを示します。

車両を停止してから 60 秒以内に起動ボタンを押すと、ステアリングロック状態になります。

"KEEP PRESSED TO LOCK" の表示は、起動ボタンが少なくとも 1 秒押されると表れます。

Keep pressed to lock



図 190

ステアリングロック起動表示 (Key-OFF 時)

この機能はKey-OFF時にステアリングロック状態に入ったことを示します。
正常にステアリングロック状態に入れば、ディスプレイ上に "STEERING LOCKED" が 5 秒間表示されます。

Steering locked



図 191

フォグランプ

フォグランプ搭載車(オプション)では、フォグランプが点灯するとインストルメントパネルのフォグランプ警告灯が点滅します。

フォグランプエラーが検知されると、インストルメントパネルのフォグランプ警告灯が点滅し、一般的エラー警告灯(11、図8)が点灯します。

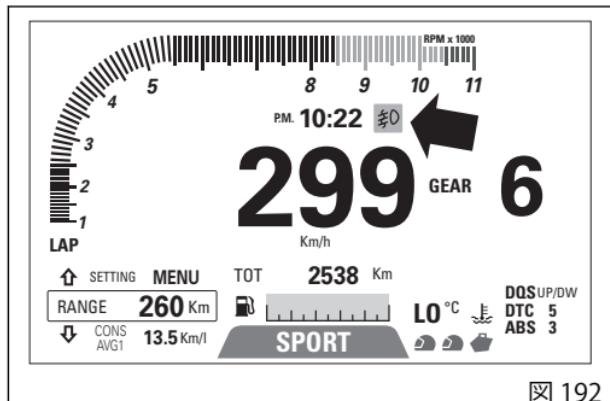


図 192

イモビライザーシステム

盗難防止機能を高めるため、車両にはエンジンをロックする電子システム(イモビライザー)が装備されており、インストルメントパネルを消す度に自動的に起動します。

各キーボディには電子装置が内蔵されています。この電子装置は車両の起動時にヘッドライトフェアリングに組み込まれた特殊アンテナから送られる信号を変調します。この信号はパスワードの役割を果たし、起動のたびに変更されます。CPUがその"パスワード"によってキーを認識した時にのみエンジンが始動します。

キー

車両には、以下のキーが付属します。

- アクティブキー 1本(1)
- パッシブキー 1本(2)

これらのキーは、Hands Free システムにおいて複数の方法で Key-ON するためのコードを備えています。

アクティブキー(1)は通常時に使用します。キーについているボタン(A)を押すとキーの金属部分(B)が外に出ます。

金属部分をボディ内部に押し入れて戻します。

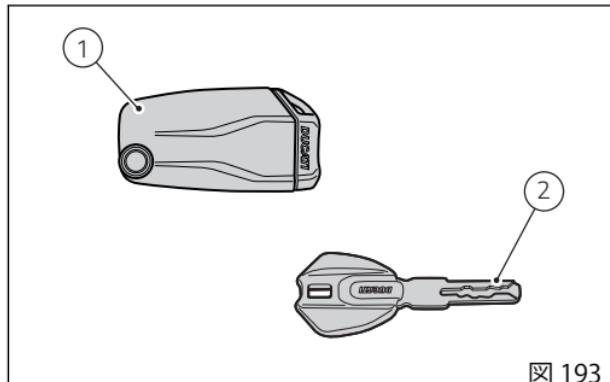


図 193

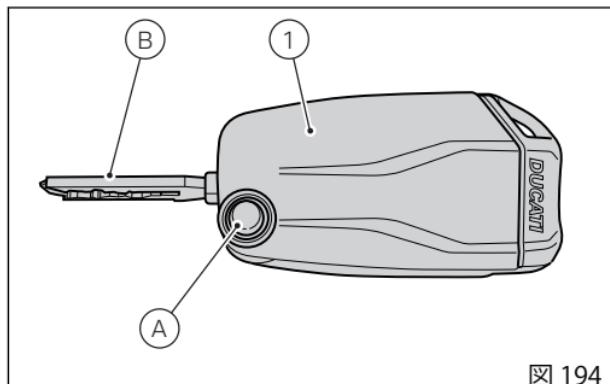


図 194

アクティブキー内部には、バッテリー(3)が内蔵されています。インストルメントパネル起動時に、キーとバッテリーマークが表示される場合はバッテリーを交換する必要があります。

 **参考**

この場合はできるだけ早くバッテリーを交換してください。

バッテリー残量がある程度の限度を下回ると、このキーはパッシブキーモードでのみ作動します。この場合、インストルメントパネルには一切のメッセージが表示されません。

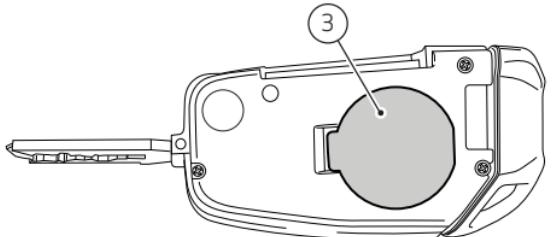


図 195



図 196

⚠ 警告

キー(アクティブキーまたはパッシブキー)をフイラー・プラグのロックやシートロックに差したまま走行しないでください。途中でキーが抜けて思わぬ事故につながるおそれがあります。また、強い衝撃はキーの機械部分や内部回路に損傷を与える可能性があります。

過酷な気象条件下でキーを挿入したまま走行することも、キー内部の回路に損傷を与える可能性があります。

洗車中にキーを車両の上に放置しないでください。防水対応はしておりませんので、損傷するおそれがあります。

アクティブキーのバッテリー交換

キーの電池を取り外す際は十分に注意してください(A)。



警告

電池の誤った取り外しを行うと爆発の危険があります。交換用の電池には、必ず同じ種類の電池もしくは同等品を使用してください。



警告

インストルメントパネル上や直射日光の下など、高温になる場所にキーを置かないでください。



参考

交換後のキーの再設定は必要ありません。

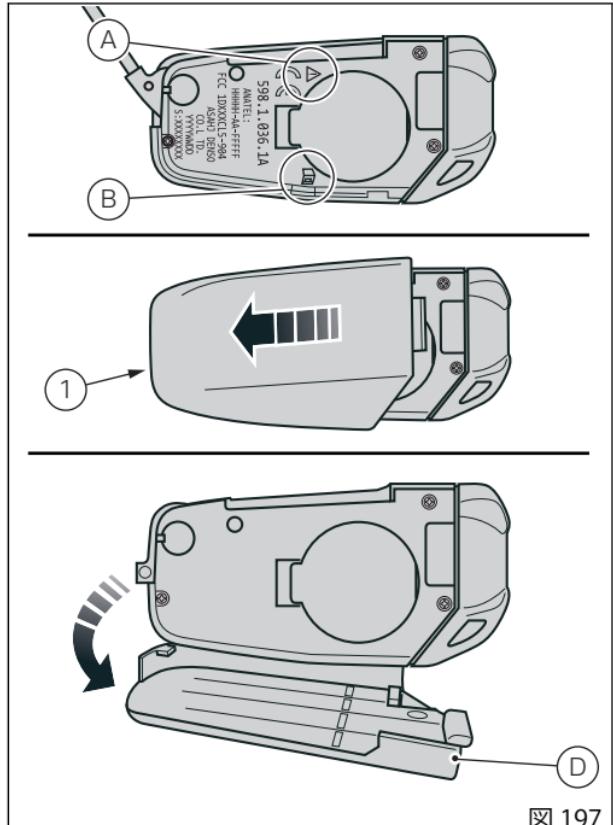


図 197

図のように、ボディ裏側のプラスチックカバー(1)を前方に押し、上に持ち上げて取り外します。

プラスチックカバーが外れたら、タブ(C)を操作して電池(3)の保護カバー(2)を取り出します。

電池(3)を取り出して、新しい電池と交換します。



警告
電池を飲み込まないでください。化学熱傷のおそれがあります。

この製品にはボタン型電池が含まれています。ボタン型電池を飲み込むと、内臓に重い熱傷を引き起こし、2時間で死に至るおそれがあります。

この製品にはボタン型電池が含まれています。ボタン型電池を飲み込むと、内臓に重い熱傷を引き起こし、2時間で死に至るおそれがあります。

万が一ボタン型電池を誤飲したと思われる時や体内に入ったと思われる時は、直ちに医師の診断を受けてください。

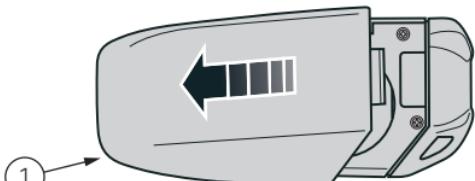


図 198

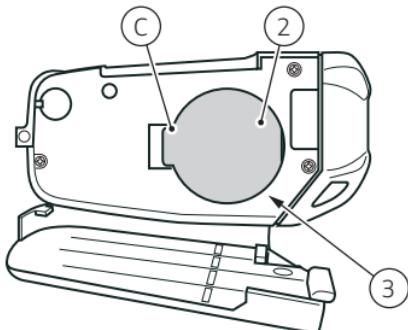


図 199

電池を所定の取り付け位置に入れます。このとき電極に十分に注意し、プラス(+)を必ず上に向けてください。

重要

指定バッテリーのみ、使用してください。

タブ(C)の位置に注意して、電池(3)の固定用カバー(2)を取り付けます。

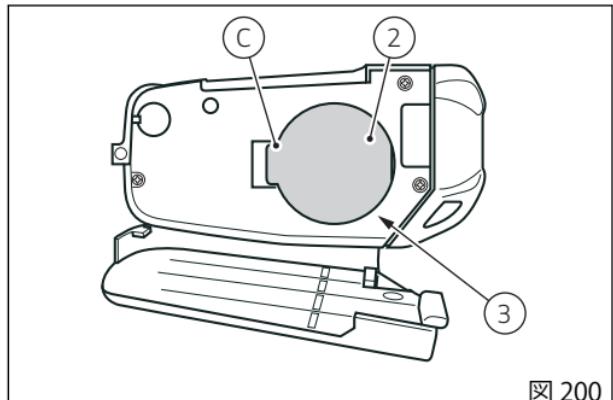


図 200

裏側のプラスチックカバー(1)を図のように軽く押しながら取り付けます。
タブ(D)を取り付け位置に收めます。
カバーがしっかりと閉じられ、キーが確実に閉じていることを確認します。

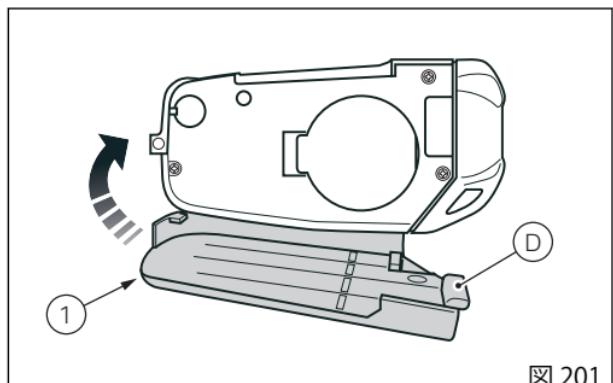


図 201

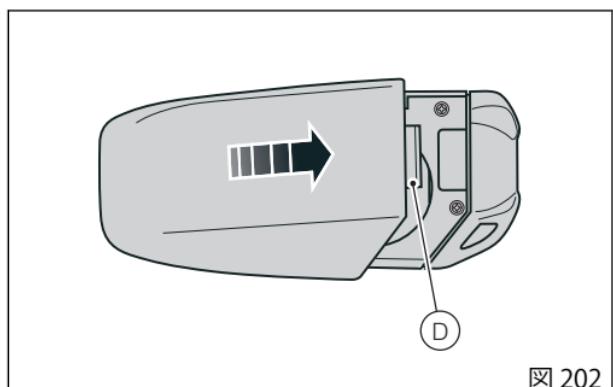


図 202

キーの複製

追加のキーが必要な場合は、Ducati アシスタンスネットワークにご連絡ください。その際、お手持ちのすべてのキーをお持ちいただく必要があります。

Ducati アシスタンスネットワークでは新しいキーとお手持ちのキーすべての登録を行います。

Ducati アシスタンスネットワークではお客様に車両の所有者確認をさせていただく場合があります。

登録作業中に提示されなかったキーの暗号はメモリーから削除されます。これは、紛失したキーでエンジンを始動できなくなるためです。

PIN CODE による車両の解除

キー認識システムの不具合、またはキーの不具合の場合、車両ブロックの一時解除のため PIN CODE の入力ができるようになります。

PIN CODE 機能が有効な場合は、インストルメントパネルに "Insert Pin" の文字と 4 衔の PIN CODE 入力スペース "0" と "—" が表示されます。

コードの入力：

- 1) ボタン(1)を押す度に数字が "9" までひとつずつ大きくなり、その後 "0" に戻ります。
- 2) ボタン(2)を押す度に数字が "1" までひとつずつ小さくなり、その後 "0" に戻ります。
- 3) ボタン(4)を押して数字を決定します。

この手順を繰り返し、PIN CODE の 4 衔すべての数字を決定します。

ボタン(4)を押して 4 衔すべての数字を決定した後、

- PIN CODE の検証中に問題が発生した場合は、インストルメントパネルに "ERROR" の文字が 2 秒間表示され、その後スタンダードスクリーンに戻ります。

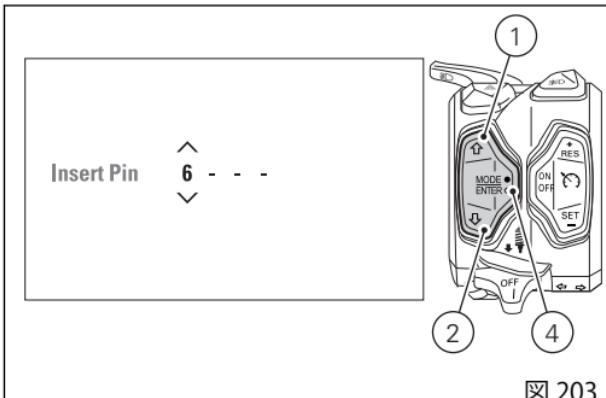


図 203

- PIN CODE が正しくない場合、インストルメントパネルは "WRONG" を 2 秒間表示します。その後 "Insert Pin" の文字と 4 衔の入力スペースを再び表示します。もう一度 PIN CODE を入力してください。
- PIN CODE が正しい場合は、インストルメントパネルは "CORRECT" を 2 秒間表示し、その後画面はスタンダードスクリーンに戻ります。



重要

車両を起動するために上記のプロセスを踏まなければならない時は、早めに Ducati 正規サービスセンターにご連絡ください。

運転時に必要なコマンド

コマンド類の配置



警告

この章では車両を運転する上で必要なすべてのコマンド機能と配置を詳しく説明しています。コマンドを使用する前によくお読みください。

- 1) インストルメントパネル
- 2) Hands Free システム
- 3) 左側スイッチ
- 4) クラッチレバー
- 5) リアブレーキペダル
- 6) 右側スイッチ
- 7) スロットルグリップ
- 8) フロントブレーキレバー
- 9) ギアチェンジペダル

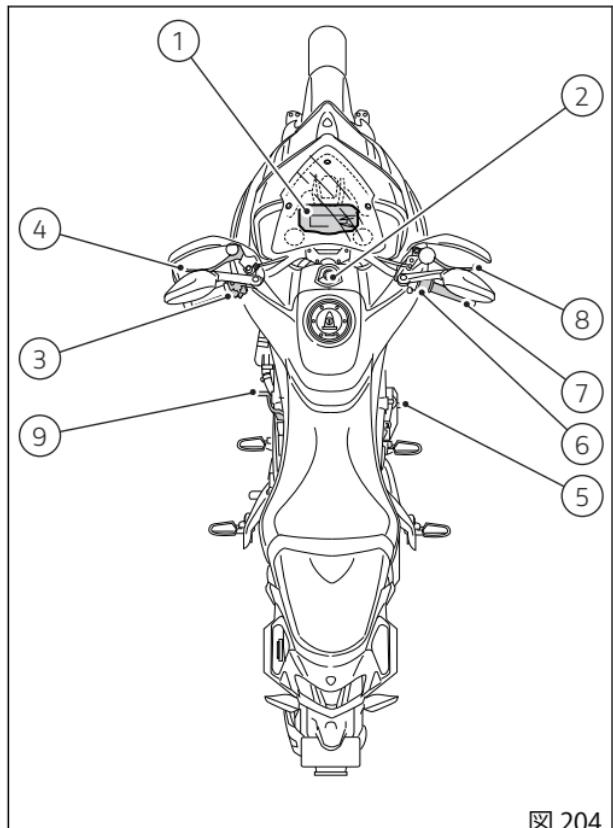


図 204

Hands Free システム

Hands Free システムは、以下で構成されています。

- 1) Hands Free ブロック
- 2) アンテナ
- 3) アクティブキー
- 4) パッシブキー
- 5) 電動フィラープラグ (オプション)

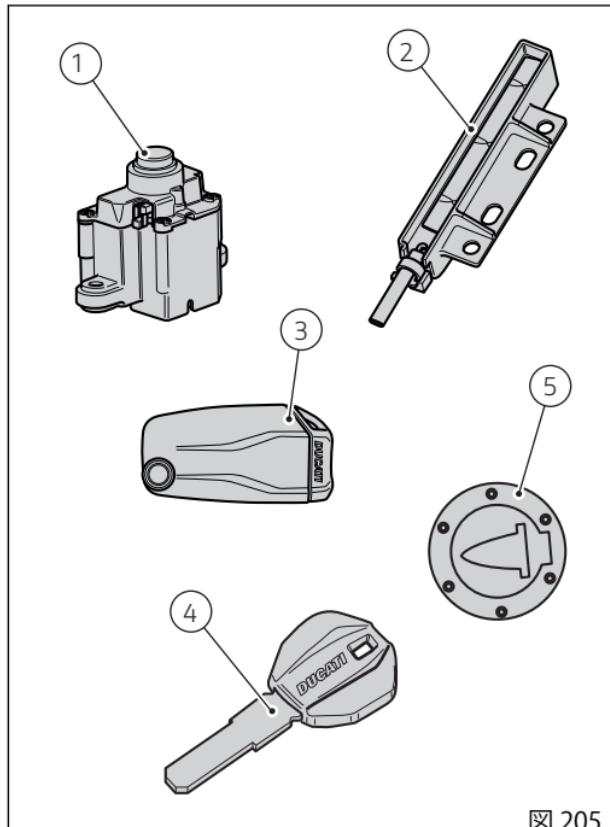


図 205

! 重要

Hands Free システムの正常な機能に影響を与える状況。

以下に記載する状況においては、リモコンが適切に機能しない場合があります。

- テレビ塔、ラジオ局、発電所、ガソリンスタンドなど強い電波を発する場所が近くにある時。
- 携帯ラジオや携帯電話などワイヤレス通信機器を持ち運んでいる時。
- 複数のワイヤレスキーが近くにある時。
- ワイヤレスキーに触れるか金属製の物におおわれた時。
- 電波を発するワイヤレスキーが近くで使用された時。
- パソコンなどの電気機器の近くにワイヤレスキーが置かれている時。

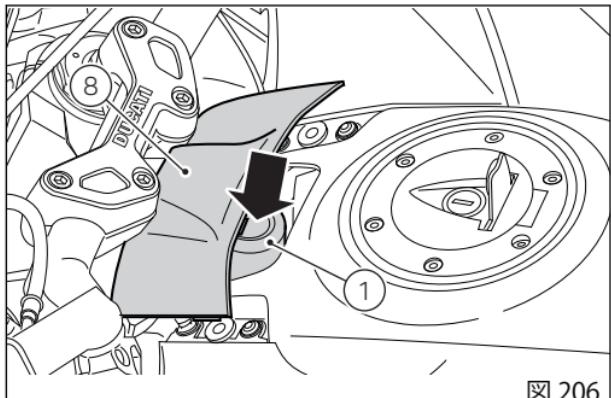


図 206

(図206)はHands Free ブロック(1)と保護カバー(8)の位置を示し、(図207)はダッシュボード(9)のキーマーク下のアンテナ(2)の位置を示します。

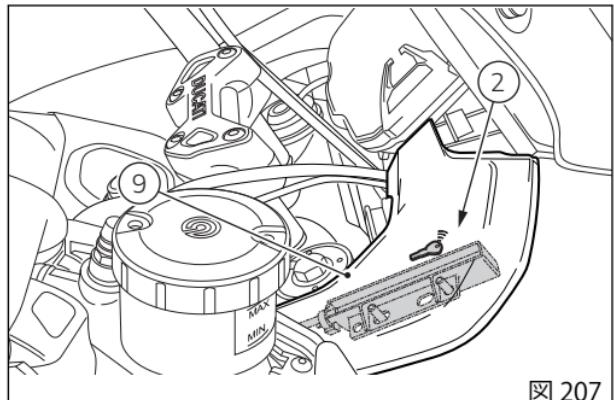


図 207

保護カバーの開閉

Hands Free ブロック (1、図 205) は燃料タンクの前方部に位置し、作業を行うには保護カバー (8) を起こして取り外してください。

保護カバー (8) のピン (A) をそれぞれラバー (B) に確実に挿入し、しっかりとはまるまでタブを押して保護カバーを閉じます。

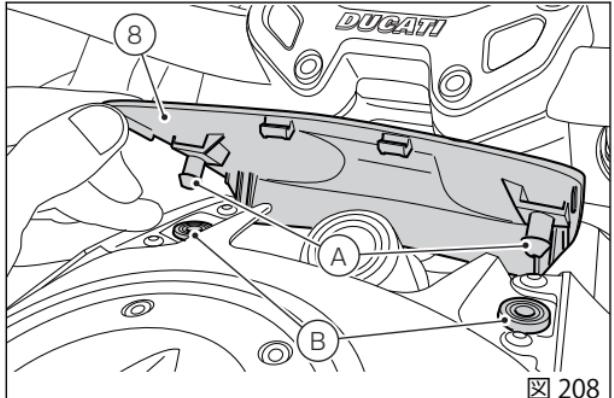


図 208

Hands Free システムの起動 "Key-ON"と停止 "Key-OFF"

Key-ONはHands Freeと全てのエレクトリックデバイスを起動します。

Key-ONするにはハンドルバー右側スイッチのボタン(6)、もしくはHands Free ブロック(1)の緊急ボタンを使用します。

Key-OFFはHands Freeと全てのエレクトリックデバイスを停止し、エンジンを確実に停止します。

Key-OFFするにはハンドルバー右側スイッチのボタン(6)、もしくはHands Free ブロックのボタン(1)を使用します。

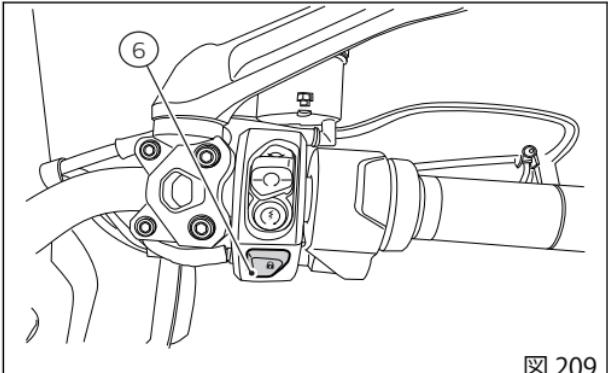


図 209



警告

Hands Free ブロックのボタン(1)は、保護カバー(8)の下に位置しています。Hands Free ブロックのボタン(1)を使用するには、保護カバー(8)を外してください。

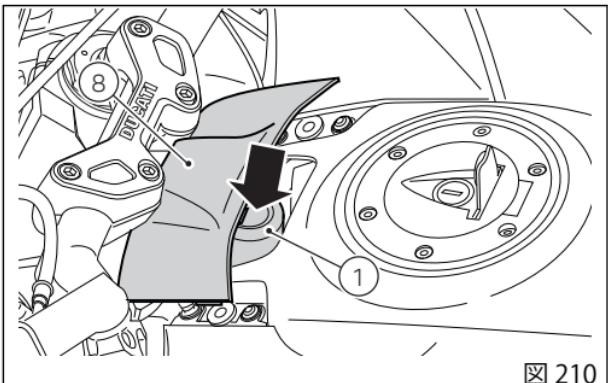


図 210

参考

ハンドルバーのボタン(6)またはHands Free ブロックのボタン(1)はON/OFF どちらにでも使用することができます。例えば、どちらかでONにしてもう片方でOFFにすることができ、その反対も可能です。

2本のキー(3)もしくは(4)のいずれかがあるとき、またはPIN CODE を入力してKey-ONすることができます。

Key-OFF はキー(3)または(4)がなくても可能です。Key-OFFするには、走行速度がゼロのときにハンドルバーのボタン(6、図209)か Hands Free ブロックのボタン(1、図206)を押します。走行速度がゼロでないときのKey-OFFは、Hands Free ブロックのボタン(1、図206)でのみ可能です。

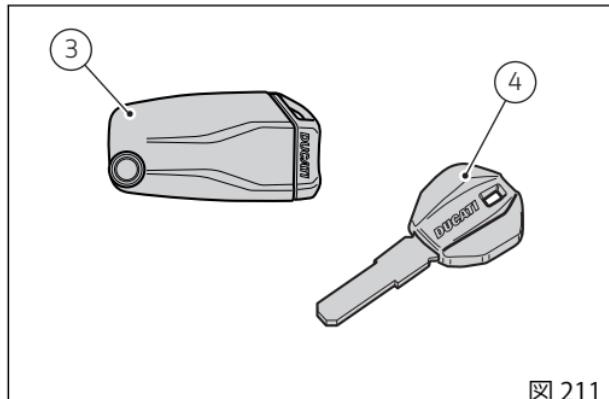


図 211

参考

パッシブキー(4)の作動範囲は半径数センチ(インチ)です。キー(4)を右側ダッシュボード(9)のキーマークの位置、アンテナ(2)の近くに置いてください。

重要

アクティブキーは電池が切れるときパッシブキーのように作動します。作動範囲がアンテナ(2)から半径数センチ(インチ)と短くなります。インストルメントパネルはバッテリーの消耗状態を通知します。アクティブキーの電池が切れた場合でも、パッシブキーモードで使用することが可能です。

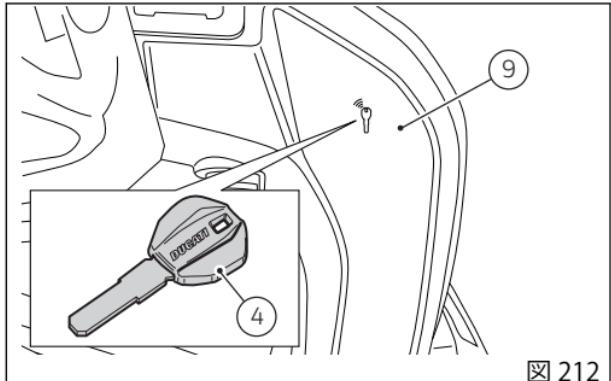


図 212

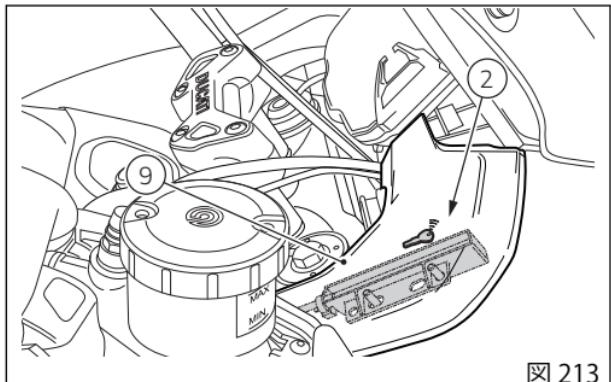


図 213

キー(3)の金属部分(A)は、フィラープラグを開けるときと、シートおよびバッグのロックに使用します。キー(3)の金属部分(A)は、ボタン(B)を押すと柄の内側に隠れます。

 **参考**

車両がKey-ON状態にありエンジンが停止しているときにアクティブキー(3)の存在を15秒間検知できないと、車両はユーザーが何もしなくても自動的に停止します。

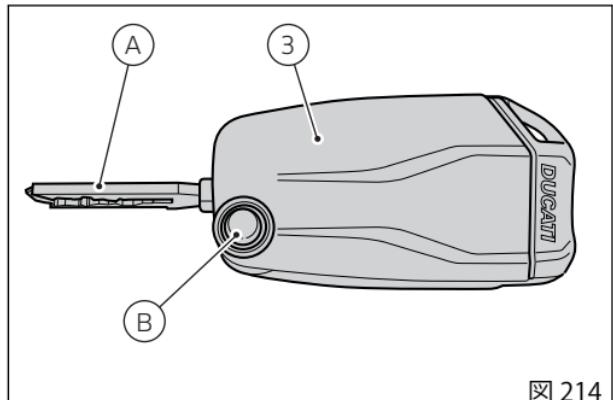


図 214

アクティブキーとハンドルバーのボタンによる Key-ON/Key-OFF

Key-ONするには、アクティブキー(3、図205)があるときにハンドルバーのボタン(6)を押します。



アクティブキー(3)の作動範囲は半径約1.5mです。キーをその圏内に置いてください。

Key-OFFするには、ハンドルバーのボタン(6)を押します。車速がゼロであればキー(3、図205)がなくてもKey-OFFが可能です。

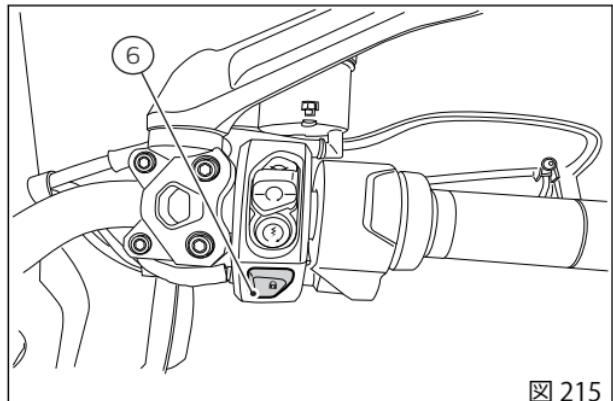


図215

アクティブキーとHands Free ブロックのボタンによるKey-ON/Key-OFF

Key-ONするには、アクティブキー(3、図205)があるときにHands Free ブロック(1、図205)のボタン(7)を押します。



アクティブキー(3)の作動範囲は半径約1.5 mです。キーをその圏内に置いてください。

Key-OFFするにはHands Free ブロック(1、図205)のボタン(7)を押します。キー(3、図205)がなくてもKey-OFFが可能です。

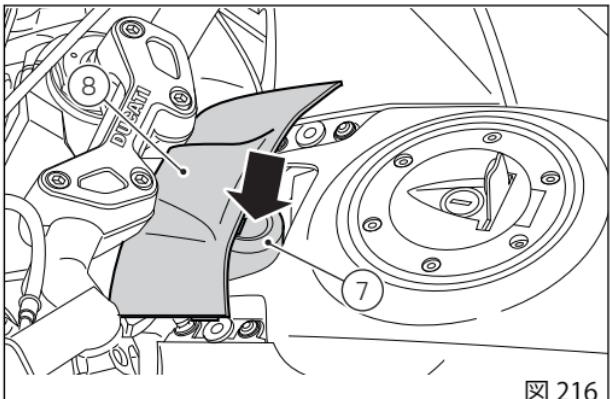


図 216

パッシブキーとハンドルバーのボタンによる Key-ON/Key-OFF

Key-ONするには、パッシブキー(4、図205)があるときにハンドルバーのグレーのボタン(6)を押します。



パッシブキー(4)の作動範囲は半径数cmです。
キー(4)をアンテナ(2)の近くに置いてください。

Key-OFFするには、ハンドルバーのグレーのボタン(6)を押します。車速がゼロであればキー(4、図205)がなくてもKey-OFFが可能です。

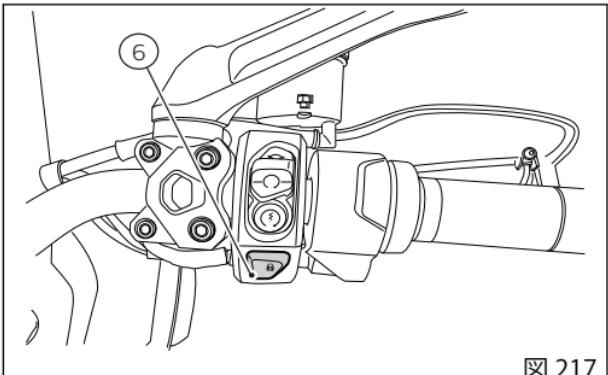


図217

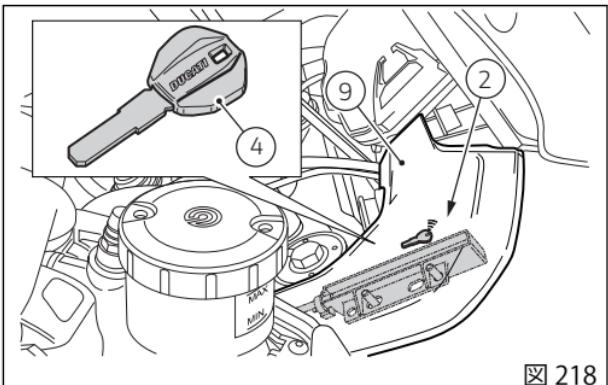


図218

パッシブキーと Hands Free ブロックのボタンによる Key-ON/Key-OFF

Key-ONするには、パッシブキー(4、図205)があるときにHands Free ブロックのボタン(7)を押します。



パッシブキー(4)の作動範囲は半径数cmです。キー(4)をアンテナ(2)の近くに置いてください。

Key-OFFするにはHands Free ブロック(1、図205)のボタン(7)を押します。キー(4、図205)がなくてもKey-OFFが可能です。

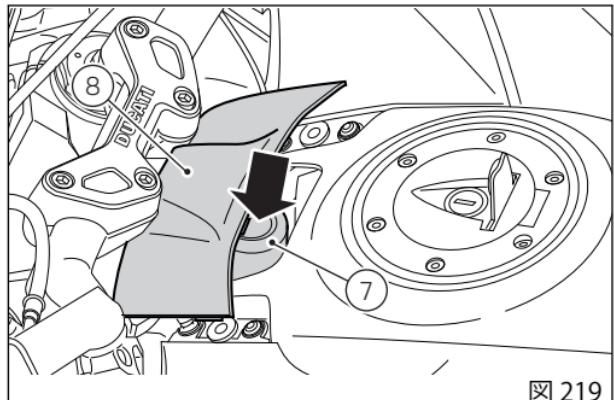


図 219

PIN CODE(イモビライザー解除)によるKey-ON/ Key-OFF

キー(3)および(4)がないときにKey-ONするには、Hands Free ブロック(1、図 205)のボタン(7)を押し、インストルメントパネルからPIN CODEを入力します。Key-OFFするにはハンドルバーのボタン(6)を押します。

Key-OFFした後、次のKey-ON時にキーがない場合はPIN CODEを入力します。PIN CODEは車両受取り後にユーザーが入力します。PIN CODEを入力しないとこの機能は有効になりません。Hands Free ボタン(7)を押すと、インストルメントパネルにバックライトが点灯し、ディスプレイに4桁のPIN CODE入力画面が表示されます。PIN CODEを正しく入力すると、インストルメントパネルが点灯し、エンジンが始動します。PIN CODEの入力は120秒以内に完了してください。それを過ぎると自動的にKey-OFFします。

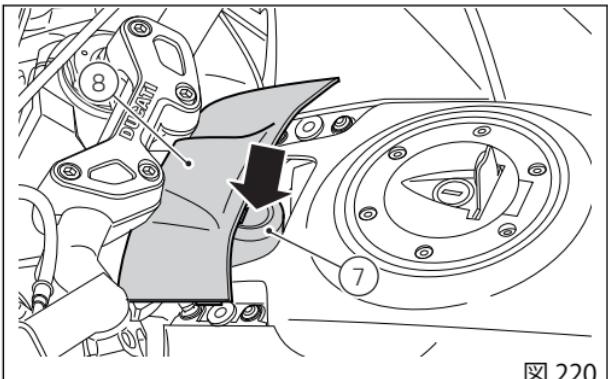


図 220

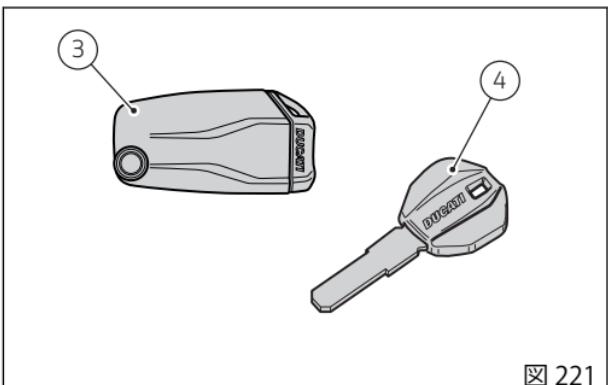


図 221

車両解除のための PIN CODE 入力機能

HF (Hands Free) システムに不具合が生じた場合、この機能を使用して車両を一時的に起動します。

通常の始動ボタンで車両を起動できないときは、パネル (8) を持ち上げて緊急 Hands Free (7) ボタンを押します。

ボタンを押すと、インストルメントパネルはロック解除コードの入力ページを表示します。

"PIN CODE による車両の解除" 手順を参照してください ページ 251。



重要

車両を起動するために上記のプロセスを踏まなければならない時は、早めに Ducati 正規サービスセンターにご連絡ください。

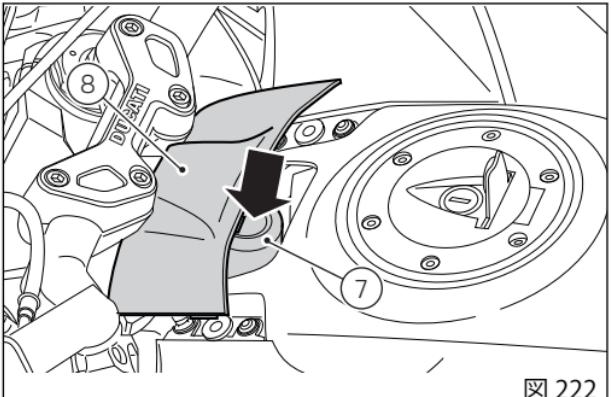


図 222

ハンドルバー左側スイッチ

- 1) ディマースイッチ、ライトの選択、2ポジション:
 - 上(A)に押すとハイビームランプが点灯(■○)、初期位置(B)に戻すとロービームランプが点灯(○■)
 - (C) 横方向に押すと、ハイビームランプ点滅(■○)
 - (FLASH)、"START-STOP LAP"機能
- 2) ハザード ON/OFF ボタン(ターンインジケーターすべて)
- 3) フォグランプ ON/OFF ボタン(オプション)

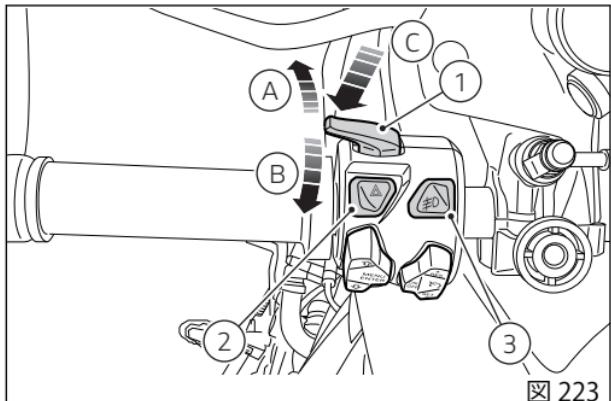


図 223

- 4) メニュー操作ボタン
 5) クルーズコントロールボタン
 6) 3ポジション、ターンインジケーター¹ボタン(↔):
 - 中央 = OFF
 - ポジション(↑) = 左折
 7) ターンインジケーター解除ボタン
 8) ボタン(↓) = 警告ホーン

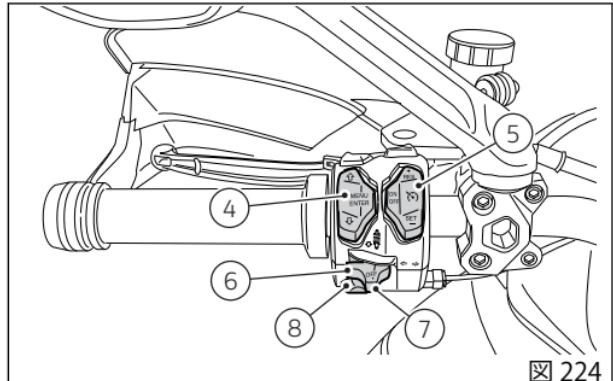


図 224

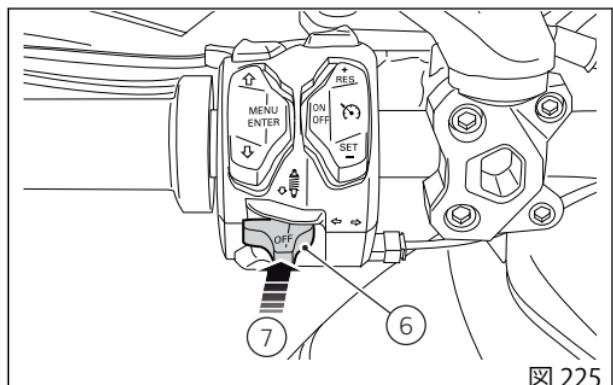


図 225

メニュー操作ボタン(4)には次の3つのポジションがあります。

- (D) メニュースクロール(メニューUP)
- (E) メニュースクロール(メニューDOWN)
- (F) メニュー決定

クルーズコントロールボタン(5)には次の3つのポジションがあります。

- (G) クルーズコントロールON/OFF
- (H) 設定速度の增速、前回の設定速度の再設定
- (I) 設定速度の減速、新しい速度の設定

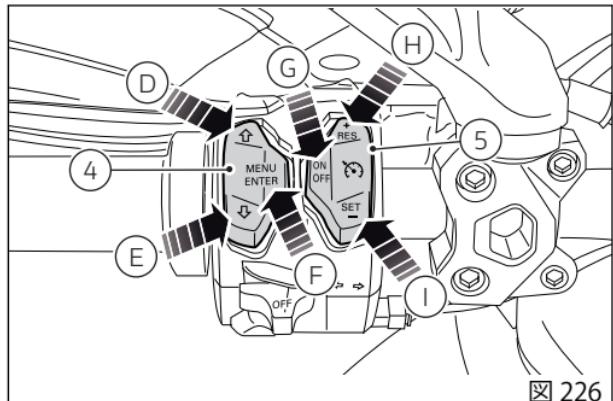


図 226

凡例

- A) ロービームランプ
- B) ハイビームランプ
- C) メニュー UP
- D) メニュー DOWN
- E) 表示メニューの決定
- F) クルーズ ON/OFF
- G) クルーズ 増速
- H) クルーズ 減速
- I) ハザード
- J) フォグランプ
- K) クルーズ
- L) ターンインジケーター
- M) ターンインジケーター OFF
- N) ホーン

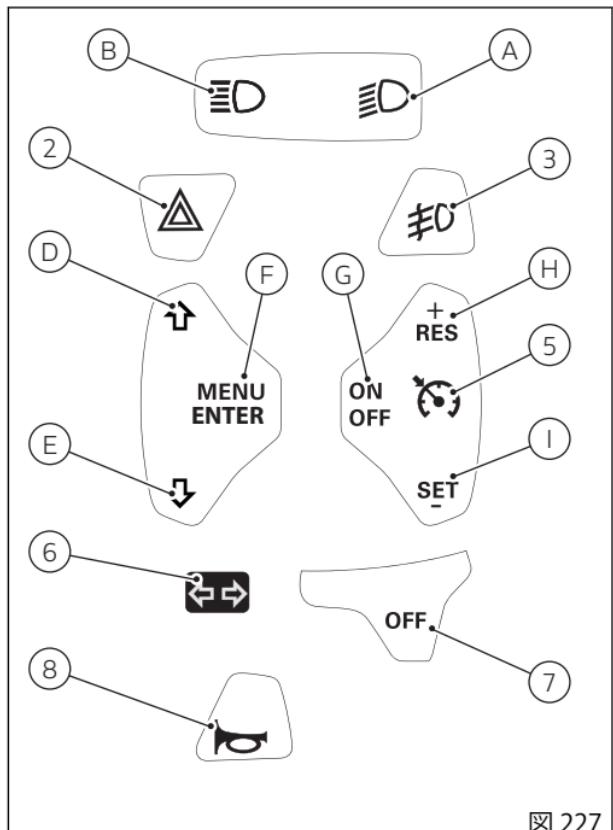


図 227

クラッチレバー

レバー(1)でクラッチの接続を操作します。この機種にはアジャスター(2)がついており、レバーとグリップとの間隔の調整が可能です。レバーの間隔はアジャスター(2)の10クリックで調整できます。時計方向に回すとレバーはグリップから離れます。アジャスターを反時計回りに回すと近づきます。レバー(1)を操作すると、エンジンの回転がトランスミッションおよび駆動輪に伝わらなくなります。クラッチの適切な操作は、スムーズなライディング、特に発進時に重要です。



警告

クラッチおよびブレーキレバーの調整は停車時に行ってください。



重要

クラッチレバーを正しく操作することで、トランスミッションの損傷を避け、エンジンの寿命を延ばすことができます。

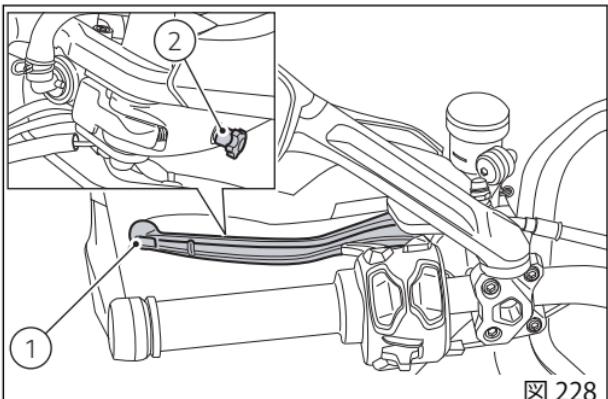


図 228



参考

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動することができます。ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いた状態で行ってください（この時サイドスタンドは上がっていなければなりません）。

ハンドルバー右側スイッチ

1) 赤色スイッチ エンジンの停止

2) エンジンの始動ボタン

3) システムの ON/OFF (Key-ON/Key-OFF) およびステアリングロック起動

4) ヒーテッドグリップボタン

スイッチ (1) には 2 つのポジションがあります。

B) 下に押した場合：エンジンの停止

A) 上に押した場合：RUN ON このポジションでのみ、ボタン (2) を押してエンジンを始動することができます。

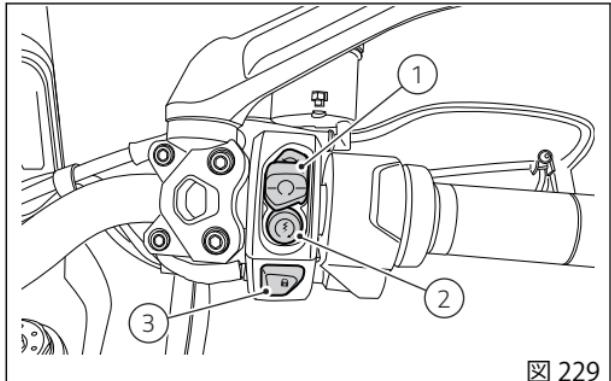


図 229

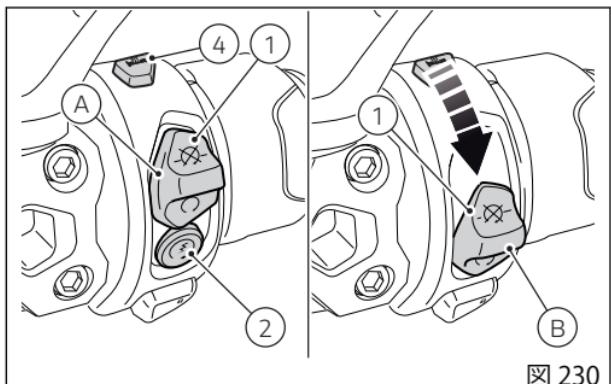


図 230

凡例

- 2) 電動エンジン始動
 - 3) 電子式ステアリングロック
 - 4) ヒーテッドグリップ
- A) RUN ON
 - B) RUN OFF
 - C) 車両電動起動
 - D) 車両電動停止

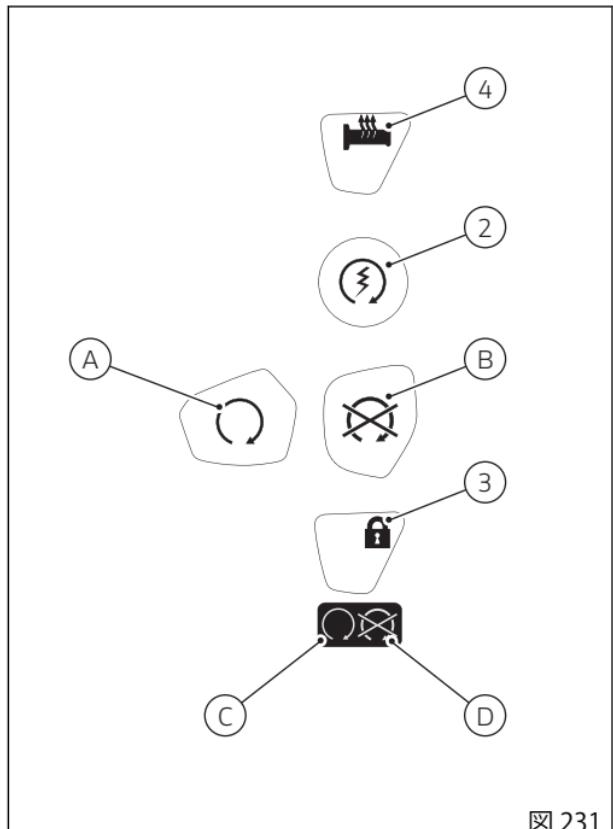


図 231

スロットルグリップ

ハンドルバー右側のスロットルグリップは、スロットルボディの開閉を操作します。グリップを離すと、自動的に元の位置(アイドリング状態)に戻ります。

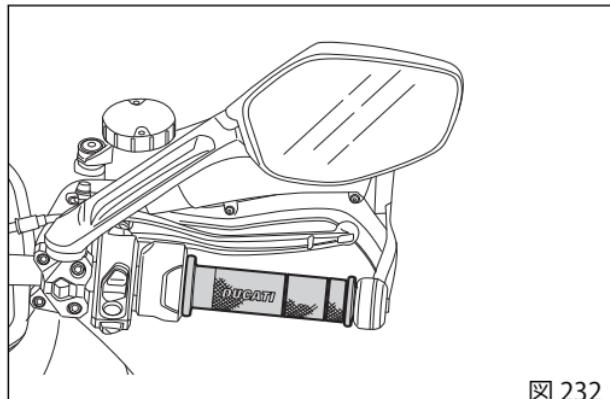


図 232

フロントブレーキレバー

レバー(1)をスロットルグリップの方向へ引くと、フロントブレーキがかかります。このレバーは油圧で作動するため、軽く握るだけで作動します。

コントロールレバー(1)には調整用つまみ(2)が付いており、レバーとグリップとの間隔を調整できます。レバーの間隔はアジャスター(2)の10クリックで調整できます。

時計回りに回すとレバーはスロットルグリップから離れます。アジャスターを反時計回りに回すと近づきます。

フロントブレーキを強くかけた時、起動の条件を満たしている場合は、ページ0 の項に記載されているようにビーカルホールドコントロール(VHC)システムが起動します。

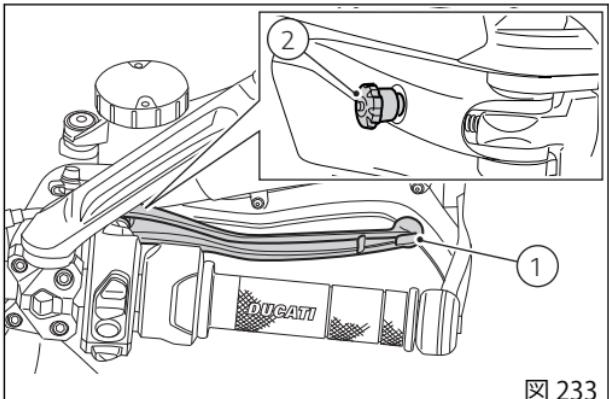


図 233

リアブレーキペダル

ペダルを下に踏むと、リアブレーキが作動します。

制御システムは油圧式です。

リアブレーキを強くかけた時、起動の条件を満たしている場合は、「ビーグルホールドコントロール(VHC)」の記載に従ってビーグルホールドコントロール(VHC)システムが起動します。

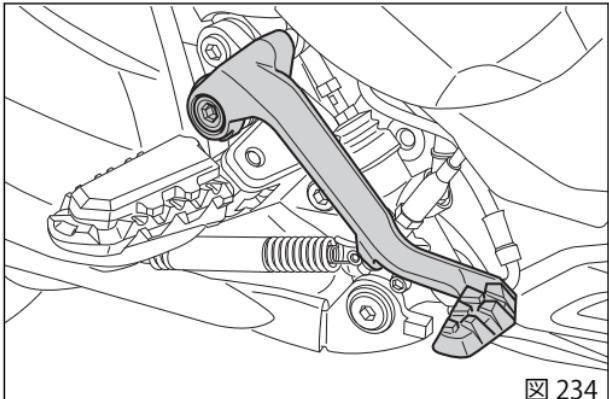


図 234

ギアチェンジペダル

ギアチェンジペダルは中央のニュートラルポジションNに自動的に戻ります。ニュートラルポジションであることはインストルメントパネルのランプNで表示されます。

ペダルは次のように動かせます。

- 下へ=シフトダウンおよび1速へのチェンジは、ペダルを下に押します。この時、インストルメントパネルのランプNが消えます。
- 上へ=ペダルを上へ上げることで、2速から順次3速、4速、5速、6速へとチェンジします。

一回の操作が一速分のチェンジに相当します。

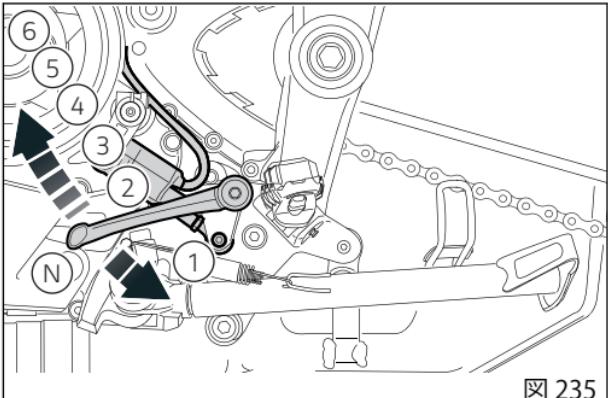


図 235

ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルの調整

ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルのポジションは、ライダーのライディングスタイルとフットペグの位置に合わせて調整することができます。

これらの調整は以下の手順で行ってください。

クイックシフトロッドの調整

DQS コントロール (4) をスクリュー (3) の裏側にあるナット (5) で、ギアチェンジペダルに固定しているスクリュー (3) を緩めます。

クイックシフトロッド (4) を所定のレンチ固定位置 (C) で固定し、ナット (1) を緩めます。この時、クイックシフトロッドを伸縮させ、ギアチェンジペダルを好みの位置に定めます。

位置が定まつたら、ナット (1) を締め付けます。その後、軸間距離 (A) が 101.5 mm (4.00 in) の正しい値になっていることを確認してください。



警告
緩み値が規定の範囲内にない場合は、上記の調整作業を最初から繰り返してください。

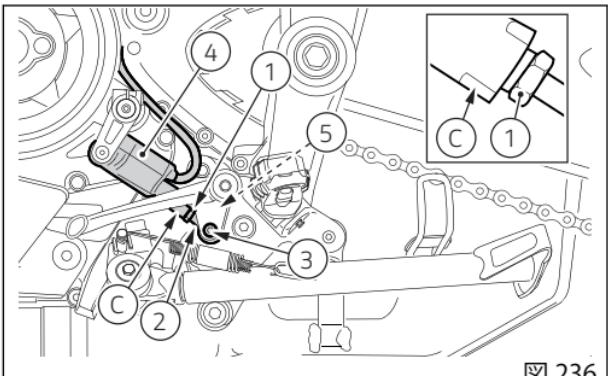


図 236

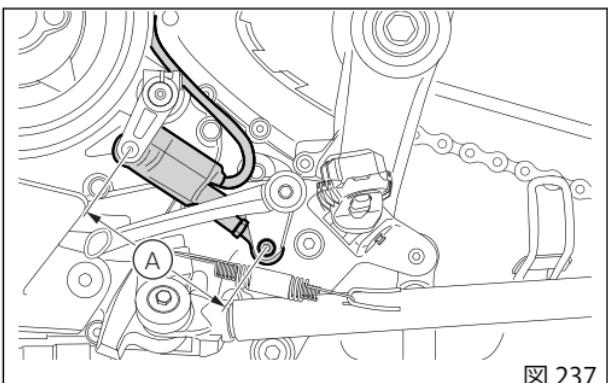


図 237

リアブレーキペダル

ロックナット(6)を緩めます。

ペダルが好みの位置になるまで、調整スクリュー(7)を回します。ロックナット(6)を締め付けます。

ペダルを手で押しながら、ブレーキがかかり始めるまでに(D)=約2~5 mm (0.08~0.19 in)の遊びがあるかを確認します。上記のような遊びが確認できない場合は、レンチ固定位置(E)で操作しながら以下の方法でマスターシリンダーのロッドの長さを調整します。

マスターシリンダーのロッドのロックナット(8)を緩めます。

ロッド(9)をフォーク(10)に締め込むと遊びが増加し、緩めると遊びが減少します。

ロックナット(8)を締め付け、再度遊びを点検します。

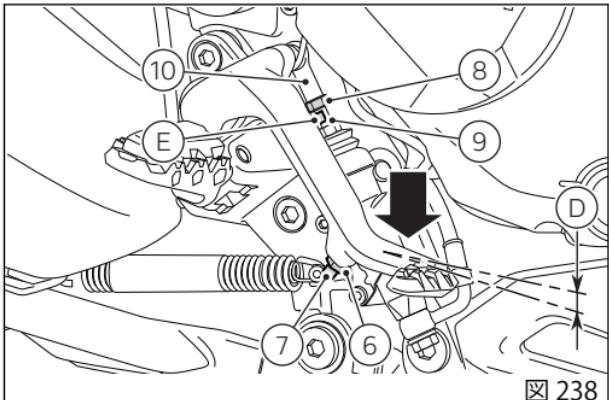


図 238

主要構成部品 / 装備

車両上の配置

- 1) フィラープラグ
- 2) シートロック
- 3) サイドスタンド
- 4) 電源ソケット
- 5) リアビューミラー
- 6) フロントフォークアジャスター
- 7) リアショックアブソーバーアジャスター
- 8) 触媒
- 9) エキゾーストサイレンサー
- 10) USB 接続
- 11) ウィンドスクリーン

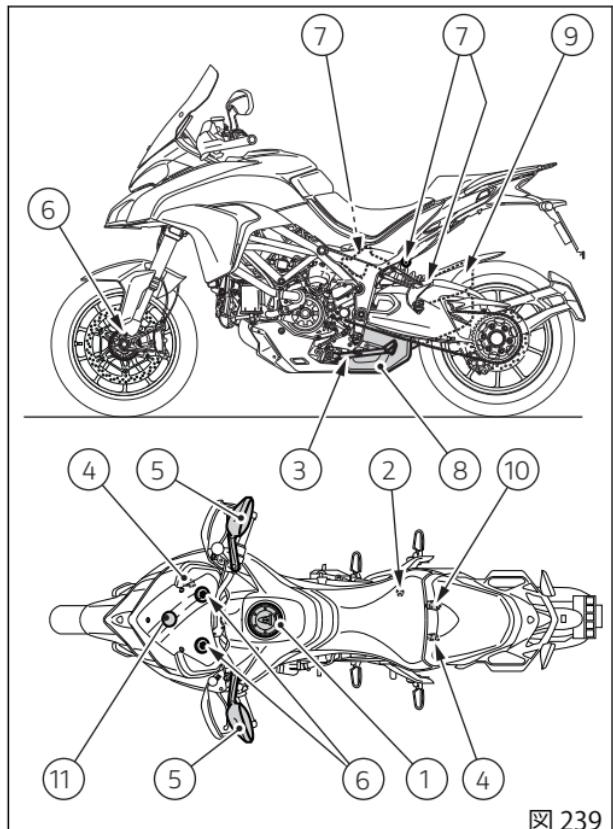


図 239

燃料フィラープラグ

開け方

保護カバー(1)を起こし、アクティブキーまたはパッシブキーをロックに差し込みます。キーを時計回りに1/4回転させ、ロックを解除します。

プラグ(2)を起こします。

閉じ方

差し込んだキーでプラグ(2)を閉じ、プラグを押します。キーを抜き取り、保護カバー(1)を閉じます。

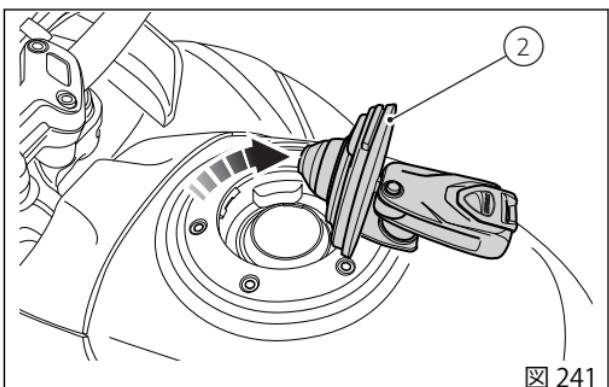
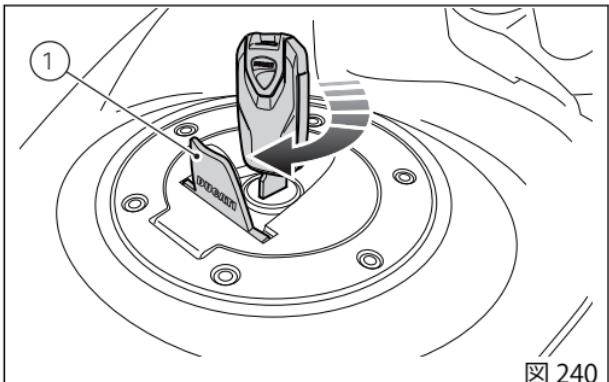


参考
キーが挿入された状態でのみキャップを閉めることができます。



警告
燃料補給後は、必ずキャップが確実に閉じていることを確認してください。

電動フィラープラグの開け方(オプション)





重要

電動フィラープラグの開放は、Key-OFF から 50 秒以内に行ってください。

シートロック

ロック(1)を操作してシートを取り外すことができます。パッセンジャーシートを取り外すと、ツールキットボックスを取り出することができます。ライダーシートを取り外すと、バッテリーやその他の装置で作業を行うことができます。

シートの取り外し

ロック(1)にアクティブキーもしくはパッシブキーを差し込み、カチッと音が鳴りパッセンジャーシートのロックが外れるまで時計方向に回します。

パッセンジャーシート(2)の前部を持ち上げ、前方に引いてシート底のリアフック(3)を外して取り外します。

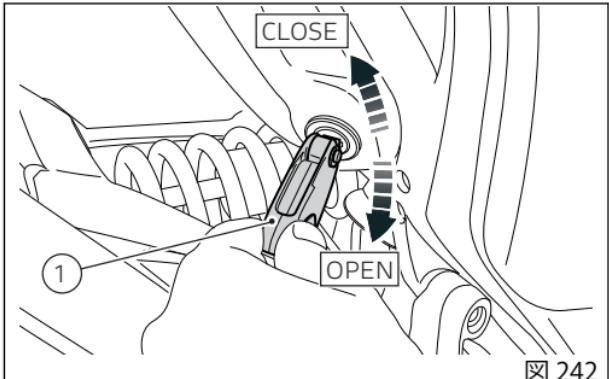


図 242

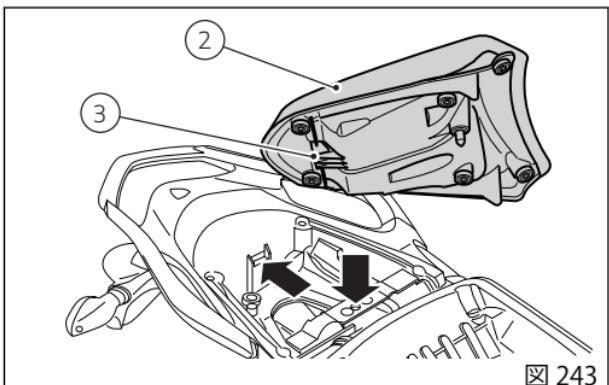
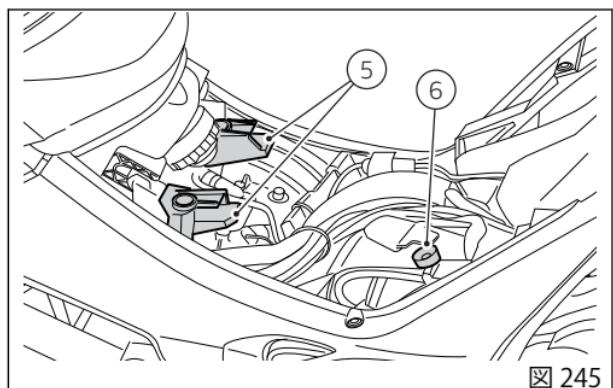
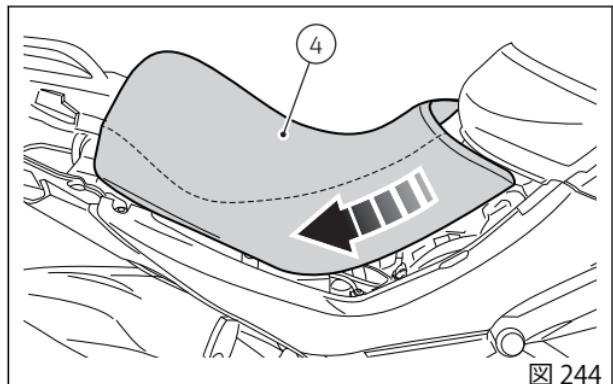


図 243

シートを後方に引いてガイド(5)から引き抜きながら、同時に上に引いてピン(6)から抜き取ります。



シートの取り付け

ライダーシート(4)の溝(7)の付いている前部をガイド(5、図245)に取り付け、ピン(6、図245)を所定の位置(8)に挿入します。

ピン(6、図245)が確実に所定位置(8)内に収まっていることを確認します。

パッセンジャーシートを少し上に引き正しくロックがかかったことを確認します。

ロック(1、図242)からキーを抜き取ります。

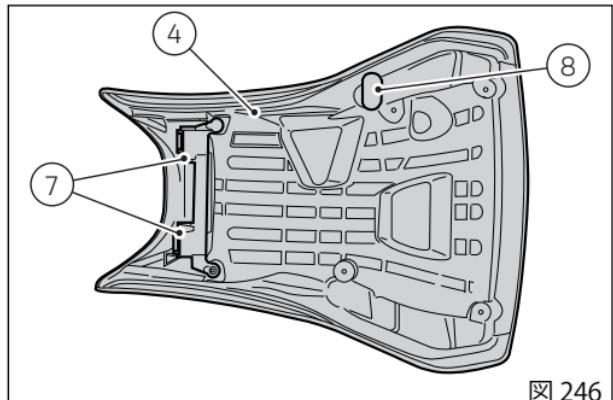


図 246

シート高の調整

本モーターサイクルはハイポジションシートを標準装備します。シートを下げることでシート高の調整が可能です。

シートを下げるには、ページ284の手順でシートを取り外します。

パッセンジャーシートに伸縮性プレート(1)を取り付けます。

スクリュー(4)とスクリュー(5)を緩めて外し、ブラケット(3)、2枚のプレート(2)をパッセンジャーシートから取り外します。

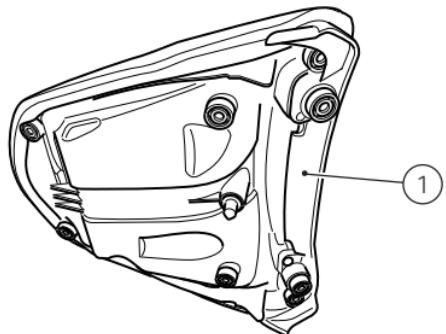


図 247

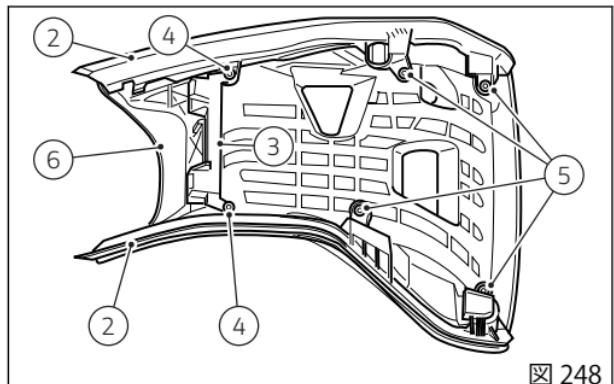


図 248

パッセンジャーシートをそれぞれ車両に配置します。
この時点でシートの位置が下がりました。

シートを上げるには、ページ284の手順でシートを取り外します。

パッセンジャーシートから伸縮性プレート(1)を取り外します。

ツメ(A)および(B)を溝(C)に差し込み、パッセンジャーシートからの2枚のプレート(2)を取り付けます。

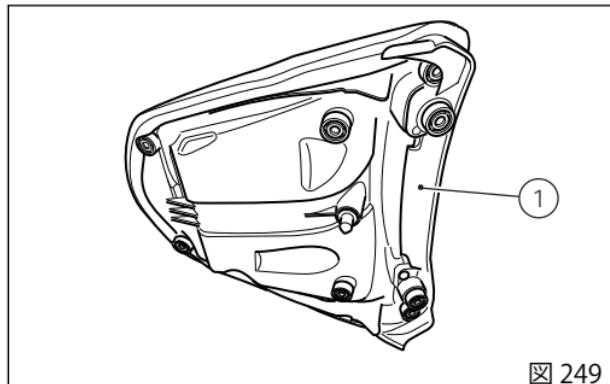


図 249

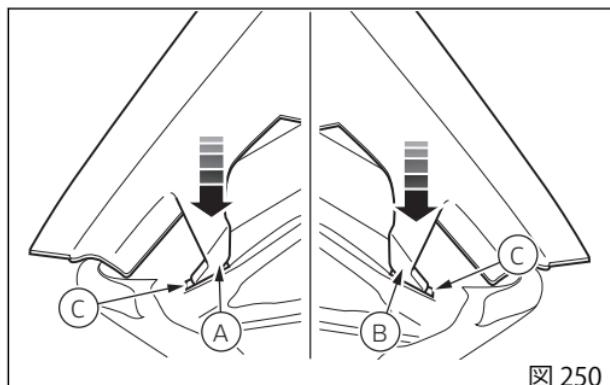


図 250

図の向きにブラケット(3)を取り付けます。このとき、タブ(D)が取り付け位置(E)に収まるようにします。プレート(2)にスクリュー(4)とスクリュー(5)を取り付け、4 Nm のトルクで締め付けます。
両シートを車両に取り付けます。

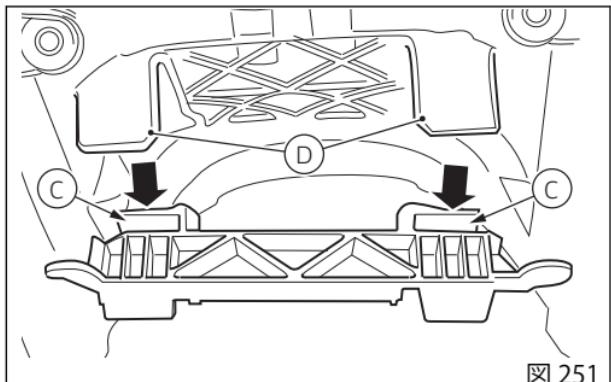


図 251

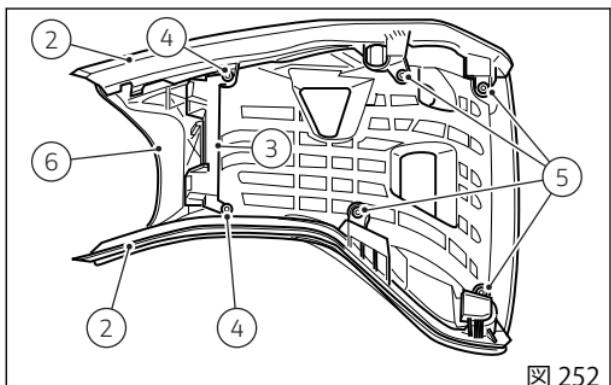


図 252

サイドスタンド



重要

短時間停車する場合に限り、サイドスタンドを使用して車両を支えます。サイドスタンドを使用する前に、地面に十分な固さがあり平らであるかを確かめてください。

柔らかい地面、砂利、日光で柔らかくなったアスファルト等に駐車すると、車両転倒の原因となります。傾斜面に停車する場合は、必ずリアホイールを斜面下側にして駐車してください。

サイドスタンドを使用するには、ハンドルバーを両手で掴み、車体を支えながら、スタンドのフック(1)を足でいっぱいに押します。次に、スタンドがしっかりと地面に着くまで、車体を徐々に傾けます。

サイドスタンドを元の位置（水平位置）に戻すには、車両を右側に傾けながら、足でスタンドのアーム(1)を持ち上げます。

サイドスタンドのジョイント部の円滑な動作を維持するには、汚れをきれいに取り除いた後、摩擦が起きる部分すべてにグリース SHELL Alvania R3 を塗布します。

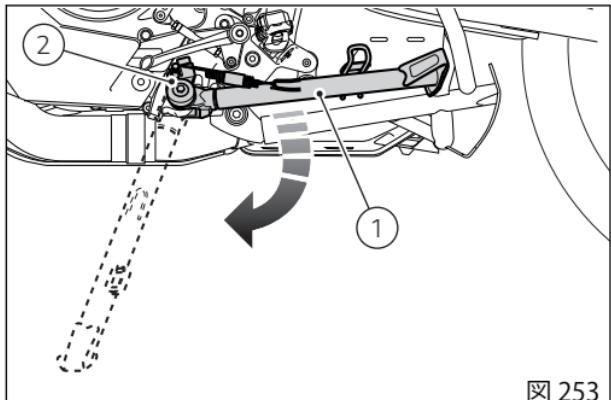


図 253



警告

サイドスタンド使用時には、車両にまたがらないでください。



参考

定期的にスタンド（内側と外側2つのスプリングの状態）と安全センサー(2)の作動を点検することをお勧めします。

 参考

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動することができます。ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いた状態で行ってください(この時サイドスタンドは上がりていなければなりません)。

Bluetooth コントロールユニット

車両には Bluetooth コントロールユニットを装備することができます。これにより Bluetooth に対応する電子機器間での通信が可能になります。

Bluetooth コントロールユニットは、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターでお買い求めいただけます。

警告

Bluetooth ヘッドセットの製造メーカーは、デバイスの寿命期間中に標準プロトコルに変更を加えることがあります(スマートフォン、ヘッドセット)。

警告

ドゥカティ社はこれらの変更に関与していませんので、こうした変更が Bluetooth ヘッドセット(音楽共有、マルチメディア再生など)の各種機能やいくつかのタイプのスマートフォン(Bluetooth 対応プロファイルによる)に影響を与える可能性があります。このためドゥカティ社は、以下についてのマルチメディア再生を保証していません。

- 市販されているヘッドセットとスマートフォンの全機種
- 規定の Bluetooth プロファイルをサポートしていないスマートフォン

スマートフォン本体が以下のプロファイルをサポートしていることを確認します。

- MAP プロファイル：SMS および MMS 受信通知を正しく表示する。
- PBAP プロファイル：スマートフォンの電話帳データを正しく表示する。

警告

以下のキットに付属しない Bluetooth 対応のナビゲーターは、ドゥカティマルチメディアシステムに正しく接続できない場合があります。

- Ducati Zumo 350 衛星ナビゲーターキット
- Ducati Zumo 390 衛星ナビゲーターキット
- Ducati Zumo 395 衛星ナビゲーターキット

電源ソケット

本車両は12V電源ソケット2個を備え、リアヒューズボックス内のヒューズ1個で保護されています。このヒューズは以下のラインを過電流から保護します。

- 電源ソケット(1)
- 電源ソケット(2)
- フォグラント(搭載している場合)
- USBソケット
- Bluetoothコントロールユニット(搭載している場合)

電源ソケットの許容電流は以下のとおりです(許容電流はソケット(1)+ソケット(2)における使用電流の合計です)。

- 5A(フォグラント搭載車)
- 9A(フォグラントなし)

許容電流以上を接続すると、ヒューズが切れます。



重要

エンジン停止状態で、アクセサリーを電源ソケットに接続したまま長時間放置しないでください。バッテリー上がりの原因となるおそれがあります。

電源ソケットはダッシュボード左前側にひとつ(1)、
後部パッセンジャーシート下にもうひとつ(2)が設け
られています。

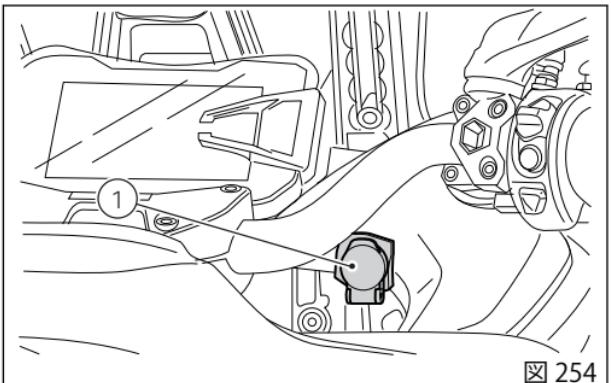


図 254

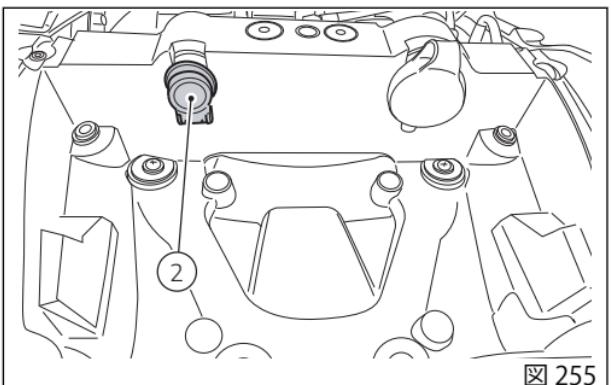


図 255

センタースタンド

車両を安定した状態で停車するには、常にセンタースタンド(1)を使用してください。このスタンドは最大積載時でも確実に車両を支えることができる構造になっています。



警告

センタースタンドを使用する前に、地面に十分な硬さがあり平らであることを確かめてください。

右足でセンタースタンドの接地面(2)が地面に当たるまで押し下げ、同時に車両を上後方に引きます。

センタースタンドを元にもどすには、ハンドルを持ちながらリアホイールが地面に着くまでバイクを前に押します。センタースタンドは自動的に元の位置に戻ります。



警告

発進する前は、必ずセンタースタンドが元の収納位置にあることを確認してください。

定期的にスタンド(内側と外側2つのスプリングの状態)の作動状態を点検することをお勧めします。

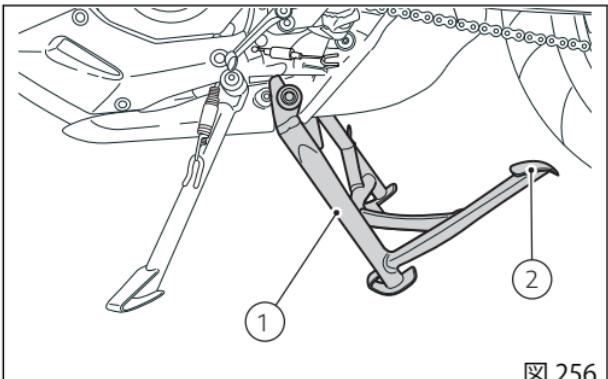


図 256

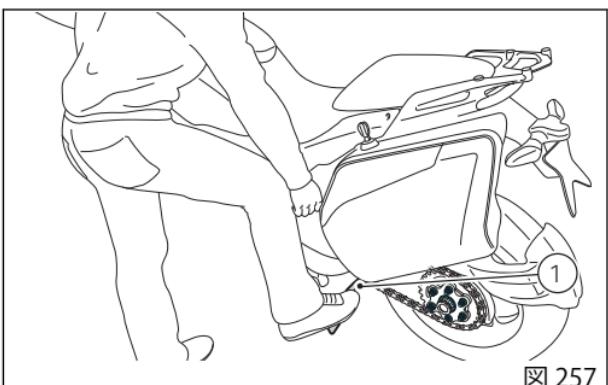


図 257

ドゥカティサイドバッグ取り付け

取り付け位置へのバッグの組み付け

バッグのロックにキーを差し込み、時計回りに回します。

バッグのハンドルを引き上げ、バッグのロック機構を後ろに下げます。

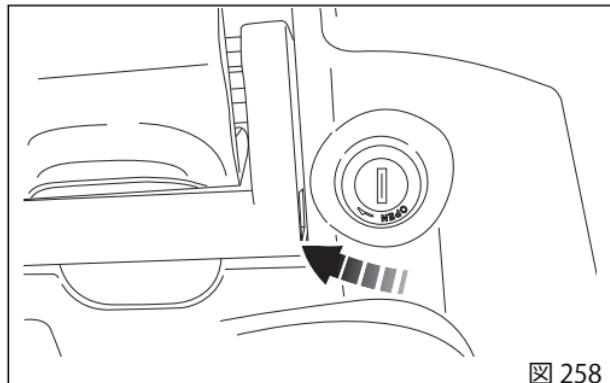


図 258

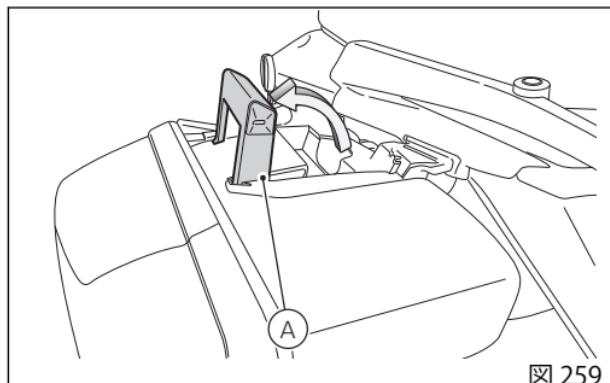
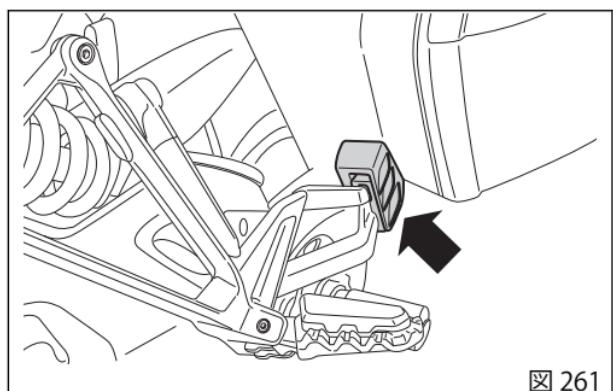
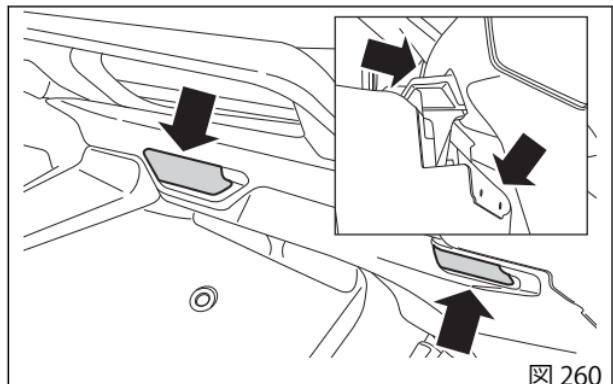


図 259

フックが取り付け位置に確実にはまるようにして、バッグを正しい位置に取り付けます。



取り付け位置の奥までバッグを押し込みます(フロントホイールに向かって押します)。バッグがこの位置にあるときしか、バッグのハンドルを倒して取り付け位置に固定することはできません。これによりバッグがロック位置に確実に固定されます。

キーを反時計回りに回してハンドルをロックし、キーを抜き取ります。

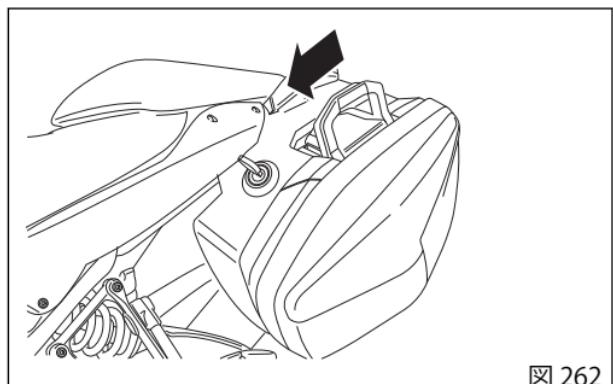


図 262

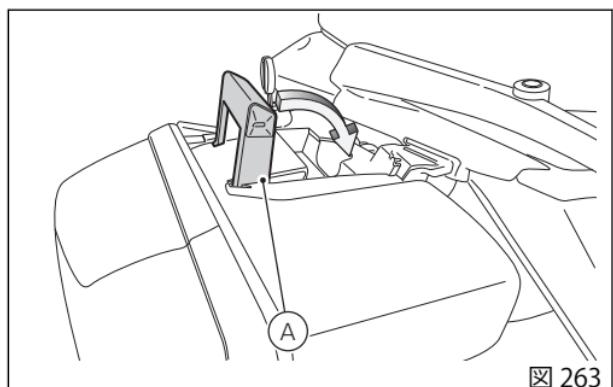


図 263

取り付け位置からのバッグの取り外し

バッグのロックにキーを差し込み、時計回りに回します。
バッグのハンドルを引き上げ、バッグのロック機構を後ろに下げます。

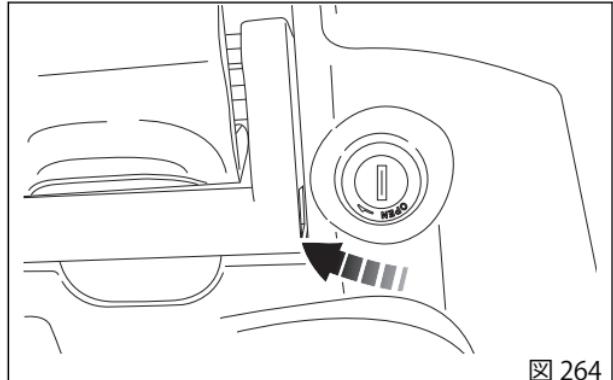


図 264

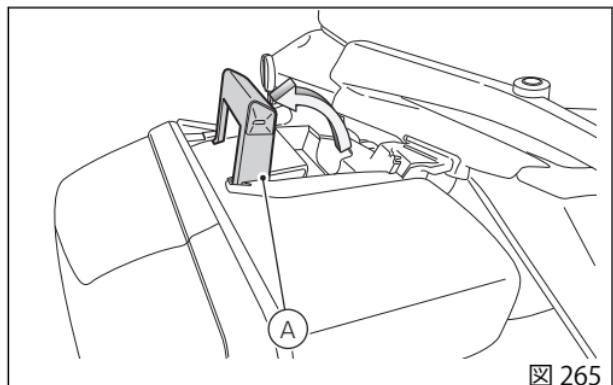


図 265

バッグをリアホイールに向かって完全に後ろまで引き
ます(1)。このときバッグは上に引き上げません。
この位置でバッグを上に引き上げて(2)、取り付け位
置から両方のフックを外します。
バッグを運転席方向に引き(3)、取り付け位置からフ
ックを完全に外します。

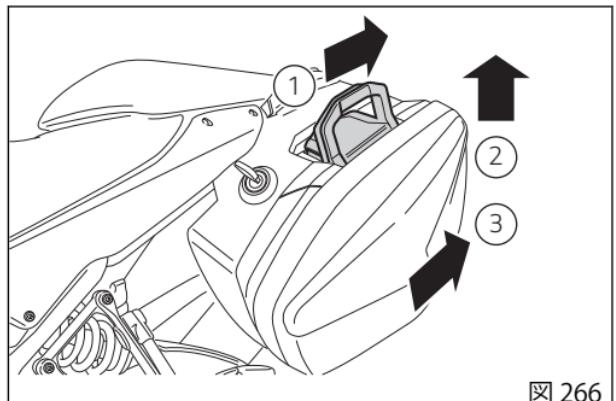


図 266

サイドバッグの使用

開け方

以下の手順でサイドバッグを開きます。
バッグのロックにキーを差し込み、時計回りに回します。

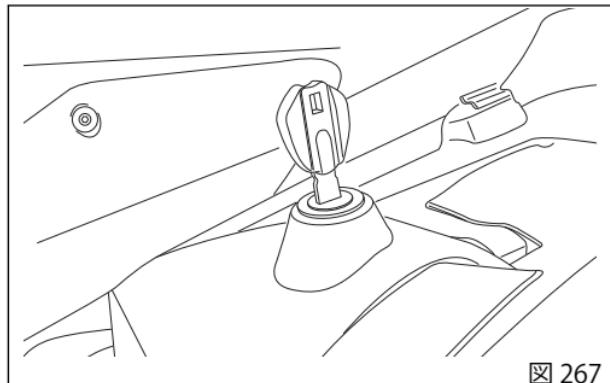


図 267

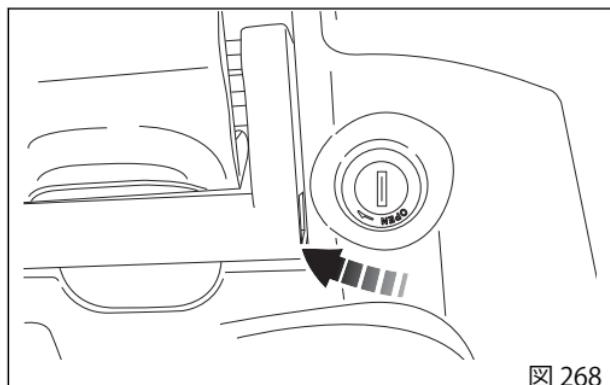


図 268

開閉タグ (A)を持ち上げてバッグを開きます。



警告

サイドバッグは軽い荷物専用です。それぞれのバッグには最大 10 kg (22 lb) まで収納することができます (K)。規定重量を超えた荷物を入れると、車両の制御がきかなくなるおそれがあります。



図 269



図 270

固定側のバッグには、荷物を保持するためのベルト(C)が付属しています。



警告

車両のバランスが崩れないよう、重い物はバッグ内側に詰めるようにして均等に収納します。

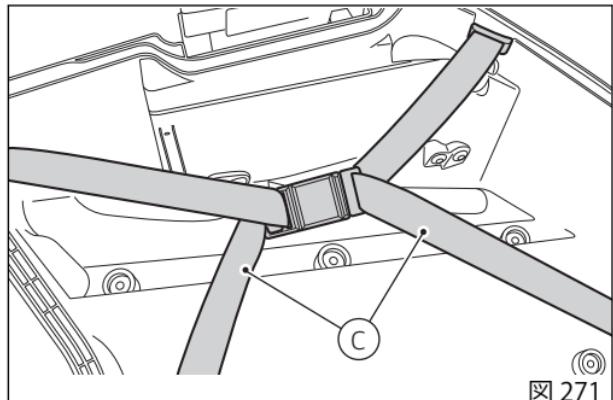


図 271

閉じ方

以下の手順でサイドバッグを閉じます。

アウターカバーを持ち上げ、縁を固定側バッグの溝にはめて閉じます。この状態でのみバッグを閉じることができます。

開閉タグ(A)をバッグのアウターカバーに差し込み、下に向けて押します。

キーを反時計回りに回します。

この状態でのみ、キーをロックから抜き取ることができます。



USB コネクター

モーターサイクルには 5V USB コネクターが装備されています。USB コネクターは最大 1A の電流をサポートします。

USB コネクター(1)はパッセンジャーシート下に位置し、カバーで保護されています。カバーを持ち上げてコネクターを使用します。

重要

Key-ON 状態でエンジンを停止している時は、車両のバッテリーが上がるおそれがありますので、長時間装置を USB コネクターに接続したままにしないでください。

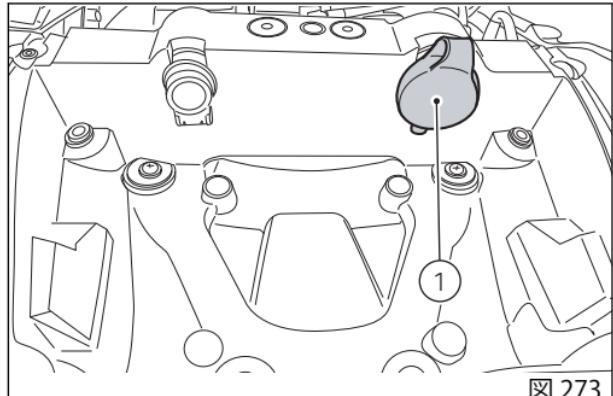


図 273

警告

USB コネクターを使用していないときは、USB コネクター保護キャップをいつも必ず閉じてください。

警告

雨天の場合は、決して USB ソケットを使用しないでください。

ウィンドスクリーン調節

ウィンドスクリーンの高さを調節するにはレバー(1)を操作します。

上に押すとウィンドスクリーンが上がり、逆に下に押すと下がります。



警告

走行中のウィンドスクリーンの調節は事故を招くおそれがあります。ウィンドスクリーンの調節は停車した状態で行ってください。

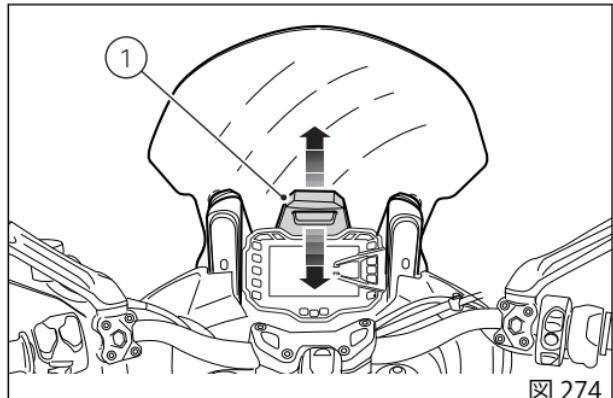


図 274

フロントフォーク調整

車両のフォークは、リバウンドダンピング(リターン)、コンプレッションダンピング、およびスプリングプリロードの調整が可能です。

フロントフォークのリバウンドダンピングおよびコンプレッションダンピング調整は、インストルメントパネルからフォークリレッグ内部の調整装置に送信される電気パルスによって行われます。スプリングプリロードの調整は右レッグに設けられたアジャスター(1)を手動で操作して行います。



警告
スプリングプリロードの調整は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

フォークの調整は、「ライディングモードのパーソナライズ：DSS サスペンション調整」の記載に従ってください。

フォークおよび DSS システム (Ducati SkyHook System) の機能原理の詳細については、「DDS」を参照してください。

スプリングプリロードの初期設定：

- すべて緩めた状態から 8 回転

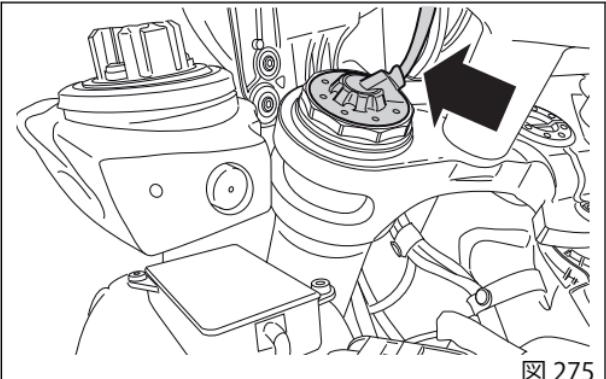


図 275

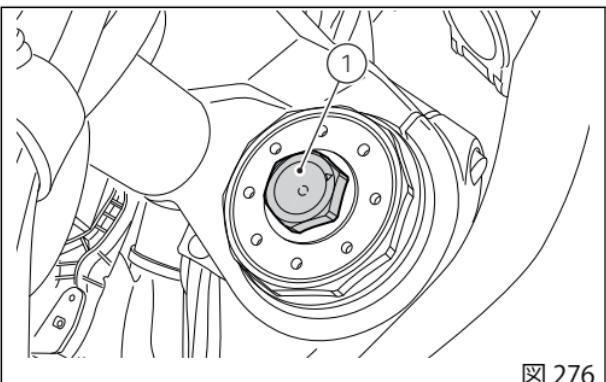


図 276

リアショックアブソーバーの調整

リアショックアブソーバーは荷重に合わせてバランスを調整できるようアジャスターを装備しています。

リアショックアブソーバーの調整は、「ライディングモードのパーソナライズ：DSS サスペンション調整」の記載に従ってください。

DSS システム (Ducati SkyHook System) のリアショックアブソーバー機能原理の詳細については、「DDS」を参照してください。

警告

ショックアブソーバーには高圧のガスが充填されています。未経験者による分解作業は重大な損傷の原因となる恐れがあります。

パッセンジャーと荷物を載せる場合は、リアショックアブソーバーのスプリングプリロードを最大に調整してください。これによりハンドリングを向上させ、車両が地面に接触するのを防ぎます。この場合、リバウンドダンピングの再調整が必要になることがあります。ショックアブソーバーの調整はインストルメントパネルからショックアブソーバー内部の調整装置に送信される電気パルスによって行われます。

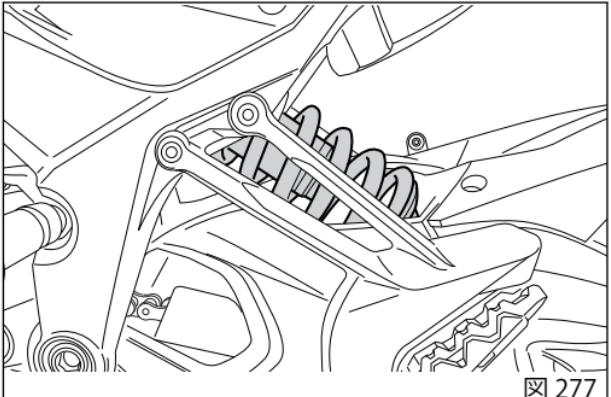
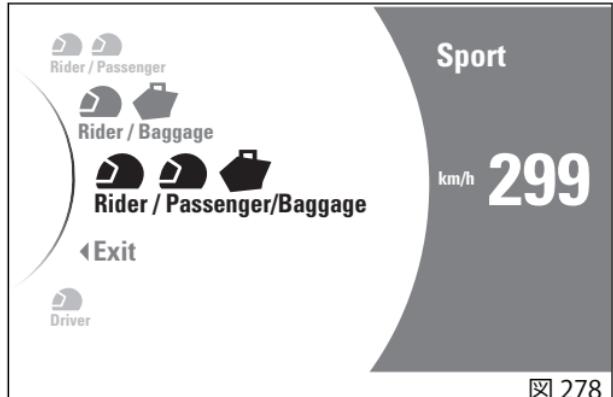


図 277

車両設定の変更

モーターサイクルのセットアップは、ドゥカティの技術者が多様な条件下で実施した数多くのテストにおける最良の結果をもとに決定されています。インストルメントパネルを通じて、ライダーは4通りの異なるセットアップを設定することができます。

- ライダーのみ (Rider)
- ライダー + 荷物 (Rider / Baggage)
- ライダー + パッセンジャー (Rider / Passenger)
- ライダー + パッセンジャー + 荷物 (Rider / Passenger / Baggage)



上記のいずれの設定も、それぞれ4通りのライディングモード (SPORT、TOURING、URBAN、ENDURO) から選択することができます。さらに各ライディングモード内で、トラクションコントロール (DTC)、ウィリーコントロール (DWC)、エンジン出力、サスペンションダンピングコントロール、ABS レベル、DQS の起動/解除の各初期設定を変更することができます。車両セットアップを変更するには、「車両のセットアップ調整 (Load Mode)」の記載に従って実施してください。

運転のしかた

慣らし運転の方法

エンジン最高許容回転数

慣らし運転期間中および通常使用においてのエンジン

最高許容回転数：

- 1) 1,000 km (621 mi) まで
- 2) 1,000 km (621 mi) ~ 2,500 km (1,553 mi)

1,000 km (621 mi) まで：

最初の 1,000 km (621 mi) まではタコメーターに注意し、5,500 ~ 6,000 rpm を決して超えないようにしてください。

最初の数時間は、規定回転数の範囲内でエンジン負荷と回転数を色々変えて走行することをお勧めします。エンジン、ブレーキ、サスペンションのより効果的な慣らしには、カーブが多く起伏に富んだ場所を走行することが理想的です。

最初の 100 km (62 mi) は、ブレーキディスクにパッドをよく慣らすために、優しくブレーキをかけ、急なブレーキングや長いブレーキングは避けてください。

すべての機械部分を互いに馴染ませるため、またエンジンの主要部分の寿命に悪影響を及ぼさないために、急な加速や、特に上り坂での長時間にわたるエンジン高回転は避けてください。

定期的にチェーンを点検し、必要であれば潤滑してください。

1,000 km (621 mi) ~ 2,500 km (1,553 mi) :

この間エンジンからよりパワーを引き出す事は可能ですが、7,000 rpmを決して超えないようにしてください。

重要

慣らし運転期間は、保証書に指定されている点検、整備を必ず受けてください。この条件が遵守されなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮については、Ducati モーター・ホールディング社はいかなる責任も負うものではありません。

慣らし運転の方法を守ることでエンジンの寿命を延ばし、調整やオーバーホールの回数を抑えることができます。

走行前の点検事項



警告

走行前にこれらの点検を怠ると、車両に損傷を与える、ライダーやパッセンジャーを危険に晒すおそれがあります。

走行前に以下の点検を実施してください。

- タンク内の燃料量
タンク内の燃料の残量を確認します。必要であれば給油してください(ページ0)。
- エンジンオイル量
クランクケースの点検窓でオイルレベルを確認します。必要に応じて充填してください(ページ0)。
- ブレーキおよびクラッチフルード量
各リザーバータンクのフルードレベルを確認します(ページ0)。
- クーラント量
リザーバータンクのクーラントレベルを確認します。必要であれば補充してください(ページ327)。
- タイヤコンディション
空気圧と摩耗度を点検します(ページ347)。

- コマンド機能
ブレーキ、クラッチ、スロットルグリップ、ギアチェンジレバーまたはペダルを作動させて機能を確認します。
- ランプ類、インジケーター
ランプ、インジケーター、警告ホーンが正しく機能するかを確認します。電球が切れている場合は交換してください(ページ0)。
- ロック類
フィラープラグ(ページ282)およびシート(ページ284)のロックを確認します。
- サイドスタンド
サイドスタンドがスムーズに作動し、適切な位置にあるかを確認します(ページ0)。

ABS ランプ

Key-ON 後も ABS ランプ (10) は点灯し続けます。走行速度が 5 km/h (3 mph) を越えた時点でランプが消灯して、ABS システムが正常に作動していることを示します。



警告

異常が見つかった場合は車両の使用を中止し、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

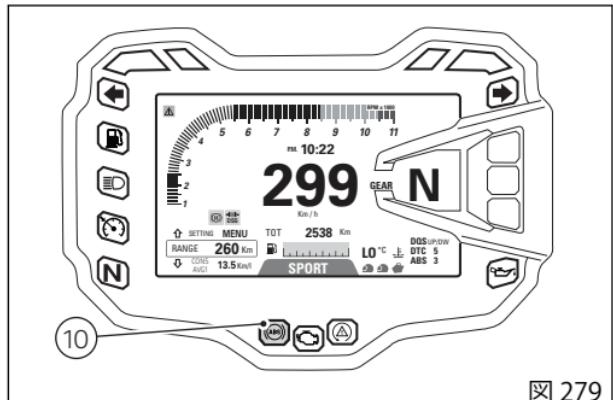


図 279

ABS 装置

フロントフォニックホイール(1)とリアフォニックホイール(2)が汚れていないことを確認します。

!**警告**

汚れなどが付着して読み取り窓が詰まっていると、システムが正常に機能しないおそれがあります。泥道を走行する時にはABSシステムがうまく機能しない場合があります。システムをOFFにしておくことをお勧めします。

!**警告**

ウィリー走行を長く続けると、ABSシステムが停止してしまうおそれがあります。

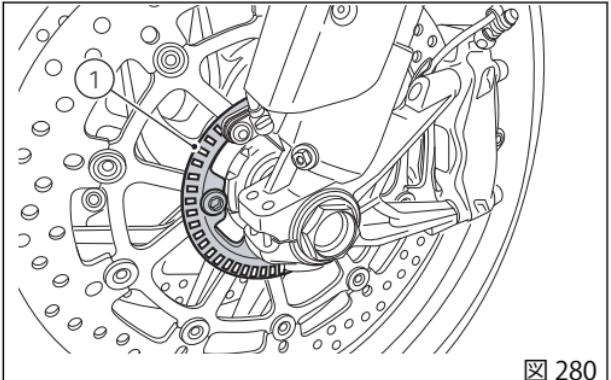


図 280

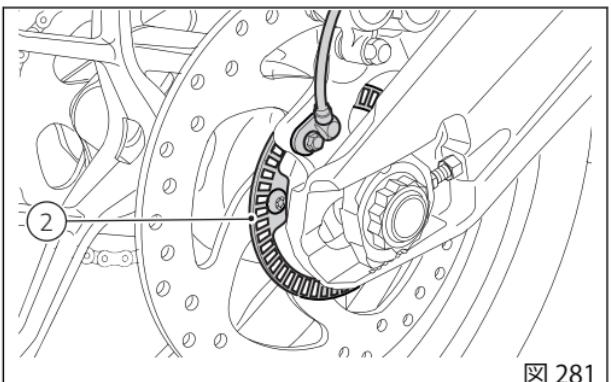


図 281

エンジンの始動 / 停止



警告

エンジンを始動する前に、運転に必要なコマンド類の取り扱いに十分慣れておいてください。



警告

屋内では絶対にエンジンをかけないでください。排出ガスは有毒です。短時間で意識を失ったり、さらには死に至る危険性があります。

アクティブキーまたはパッシブキーがあることを確認します。ハンドル右側の赤色スイッチ(1)を上に動かして車両を "Key-ON" (Hands Free システムとすべての電子デバイスの起動) し、ボタン(2)を押します。インストルメントパネルは初期化と車載システムの点検を開始し、下から上の順に全ての警告ランプを数秒間点灯します。この点検の後、緑色のランプ(3)と赤色のランプ(4)のみが点灯します。

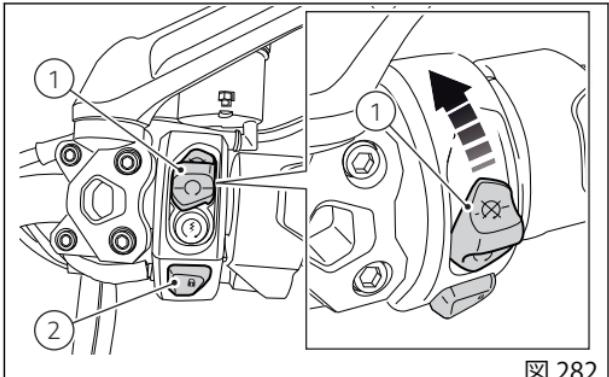


図 282

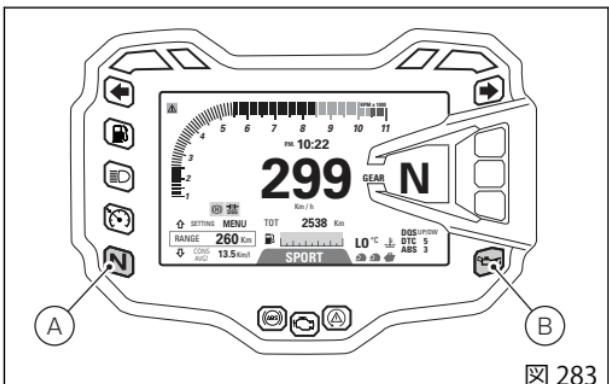


図 283

!**警告**

サイドスタンドが完全に上げられて(水平)いない場合は、安全センサーが作動してエンジンを始動することはできません。

Key-ON してもエンジンを始動していない状態で 10 秒間アクティピキーが感知できないと、システムは自動的に Key-OFF します。

!**参考**

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動させることができます。または、ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いたままの状態で始動させてください(この時サイドスタンドは上がっていないければなりません)。

ボタン(5)が見えるように、赤色スイッチ(1)を上に動かします。ボタン(5)を押してエンジンを始動します。

!**重要**

エンジン冷間時は回転数を上げすぎないください。潤滑が必要なすべての部分にオイルを行き渡らせるために、エンジンが温まるまで待ってください。

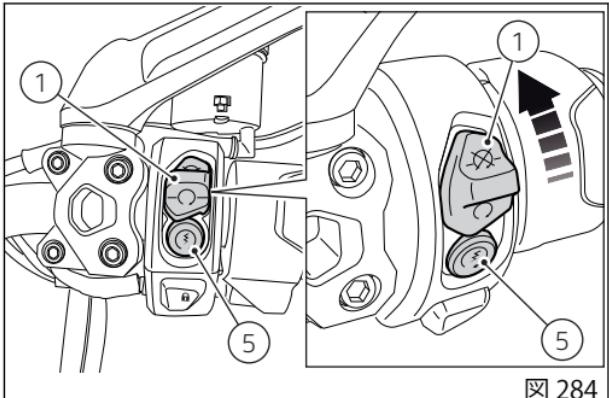


図 284

オイル圧警告灯の赤色ランプ(4)はエンジン始動後数秒で消灯します。

ハンドルの赤色スイッチ(1)をRUN OFFに合わせてエンジンを停止します。Hands Freeシステムとすべての車載電子デバイスの起動については、「Hands Freeシステム」の章も参照してください。

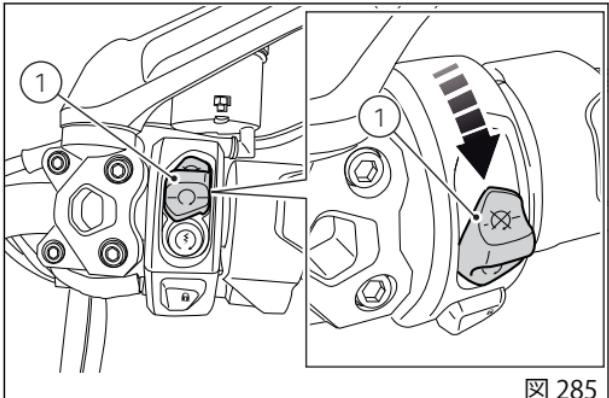


図 285

図に示すように、USAバージョンは他のバージョンと異なり、Hands Free ブロック上のボタン(6)を回転する(USAバージョンのみ)ためにアクセスが必要な保護カバー(7)が取り付けられています。

重要

Hands Free システムの正常な機能に影響を与える状況。

以下に記載する状況においては、リモコンが適切に機能しない場合があります。

- テレビ塔、ラジオ局、発電所、ガソリンスタンドなど強い電波を発する場所が近くにある時。
- 携帯ラジオや携帯電話などワイヤレス通信機器を持ち運んでいる時。
- 複数のワイヤレスキーが近くにある時。
- ワイヤレスキーに触れるか金属製の物におおわれた時。
- 電波を発するワイヤレスキーが近くで使用された時。
- パソコンなどの電気機器の近くにワイヤレスキーが置かれている時。

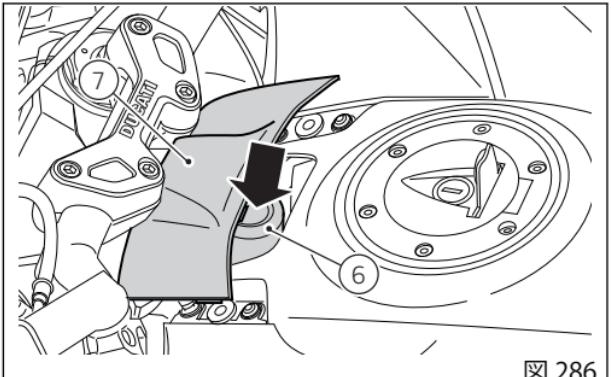


図 286

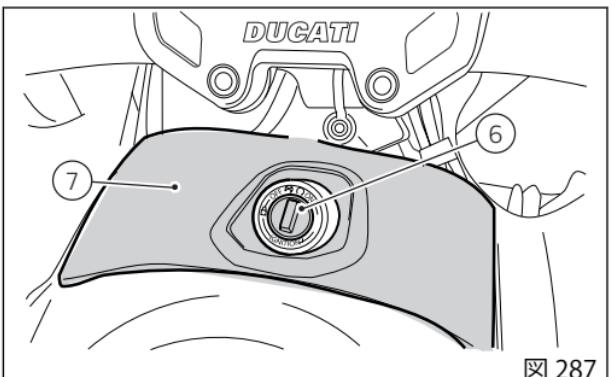


図 287

Hands Free システムのアンテナ(8)は、図に示すように右ダッシュボード下に設置されています。

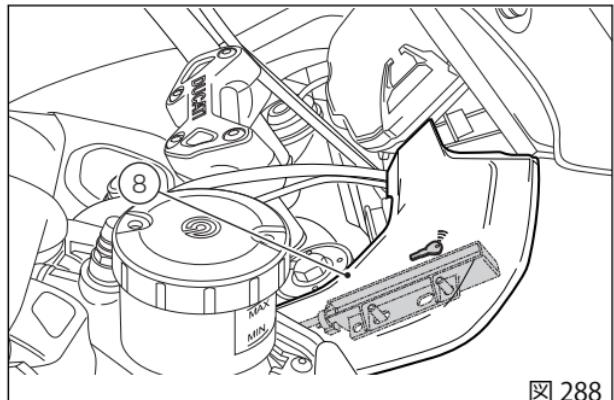


図 288

車両の発進

- 1) クラッチレバーを引いてクラッチを切れます。
- 2) ギアチェンジペダルをつま先でしっかりと押し下げてギアを1速に入れます。
- 3) スロットルグリップを回してエンジンの回転数を上げ、同時にクラッチレバーを徐々につなぐと車両は発進し始めます。
- 4) クラッチレバーを完全に放し、エンジンの回転数を上げます。
- 5) シフトアップするには、スロットルを戻してエンジン回転を落とします。クラッチを切り、ギアチェンジペダルを上げ、クラッチをつなぎます。シフトダウンは次のように行います。スロットルグリップを放し、クラッチレバーを引いてから、ギアを同調させやすくするためにエンジンを軽くふかしてシフトダウンし、クラッチレバーを放します。

これらの操作は適切に素早く行ってください。上り坂を走行する際には、車速が落ちてきたら直ちにシフトダウンし、車両への異常なストレスやエンジンのノッキングを避けてください。



警告

急な加速操作は、オーバーフローやトランスマッション機構のスナッチングを招くおそれがありますので避けてください。走行中にクラッチレバーを引いた状態が続くと、摩擦機構の過熱や異常な摩耗を引き起こすおそれがありますので避けてください。



警告

ウィリー走行を長く続けると、ABSシステムが停止してしまうおそれがあります。

ブレーキ操作

時間に余裕を持って減速し、シフトダウンしてエンジンブレーキを使用し、両方のブレーキを操作してブレーキをかけます。車両が停止する前にクラッチを握り、エンジンが急に切れないようにします。

ABS システム

困難な条件下でのブレーキ操作は、非常に慎重に行わなければなりません。ブレーキ操作は二輪車の運転で最も難しく危険な瞬間です。ブレーキ操作中に転んだり事故を起こす可能性が統計的に最も高くなっています。フロントホイールがロックされると、グリップによるバランス力を失うため車両のコントロールを失います。

アンチロックブレーキシステム(ABS)は、緊急時や悪路、悪天候下での走行時にブレーキ性能を最も効果的に発揮させるために開発されたものです。

ABSは電子制御油圧システムです。ホイールがロックしそうになると、ホイールのセンサーからコントロールユニットに信号が送られ、ブレーキ回路内の油圧を制御します。

一時的に油圧が下がることで、タイヤは理想的なグリップを維持したまま回転を続けることができます。コントロールユニットはブレーキ回路内の油圧を再び上げてブレーキを作動させます。ホイールロックのリスクが完全になくなるまでこのサイクルを繰り返しま

す。ブレーキング時ABSが作動状態に入ると、ブレーキレバーとブレーキペダルに軽く振動する抵抗を感じられます。

フロントブレーキシステムとリアブレーキシステムの操作と制御は個別に行われません。本車両が装備するABSシステムは、フロントブレーキを操作するとリアブレーキシステムがフロントブレーキシステムと連動するインテグラルブレーキ動作を行います。ただし逆の動作は実行されません。すなわち、リアブレーキ操作はフロントブレーキシステムには作用しません。

インストルメントパネルを操作し、システムを解除したいライディングモード内でレベルOFFを選択すれば、システムの解除が可能です。

⚠ 警告

たとえ連動ブレーキ機能(フロントブレーキを操作するとリアブレーキも作動)が装備されていても、二つのうち片方のブレーキを独立して使用すると車両のブレーキ性能は低くなります。

過度の力をかける急激なブレーキ操作はしないでください。後輪が浮き上がり(リフトアップ)、車両のコントロールを失うおそれがあります。

雨天時や滑りやすい路面の走行ではブレーキ力が著しく低下します。このようなコンディションでは慎重に優しくブレーキ操作をしてください。急ブレーキを掛けると車両のコントロールを失う危険があります。長く急な下り坂を走行する際にはシフトダウンしてエンジンブレーキを使用し、ブレーキは短く断続的に使用するようにしてください。ブレーキを長時間連続して使用すると、ブレーキパッドの過熱を招き、ブレーキ性能の著しい低下の原因となります。規定空気圧に満たないタイヤ、もしくは規定空気圧を超えるタイヤでの走行はブレーキ性能を低下させるだけでなく、正確な運転とカーブでの安定性を損ないます。

車両の停止

スロットルグリップを緩めると、車両は徐々にスピードを落とし始めます。シフトダウンしながら1速まで落とし、最後にニュートラルに入れます。

ブレーキをかけると、車両を完全に停止することができます。

赤色スイッチ(1)を下に動かし、エンジンを停止します。

ボタン(2)を押して車両をKey-OFFします。

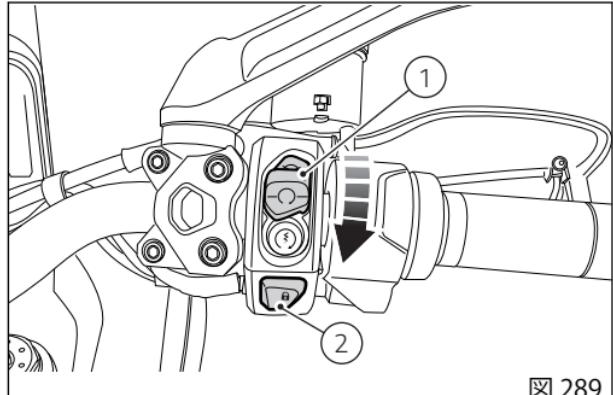


図 289

パーキング

停止車両をサイドスタンドで支えて駐車します。ハンドルを左か右にいっぱいに切ります。エンジンを切つてから60秒以内にこの動作を行うと、ステアリングロックを起動することができます。

ステアリングロックを起動させたい場合は、ステアリングを左か右にいっぱいに切った状態でボタン(1)を3秒間押し続けます。1秒後、インストルメントパネルには"KEEP PRESSED TO LOCK"のメッセージが2秒間表示され、その後ステアリングロックがかかります。3秒後にステアリングロックが正常にかかると、インストルメントパネルには"STEERING LOCKED"のメッセージが表示されます。

ロックがかからない場合は、ドゥカティ正規サービスセンターにご連絡ください。

!**警告**

エンジン停止後でもエキゾーストユニットは高温の場合があります。身体が触れないよう十分注意し、車両を木材や木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにしてください。

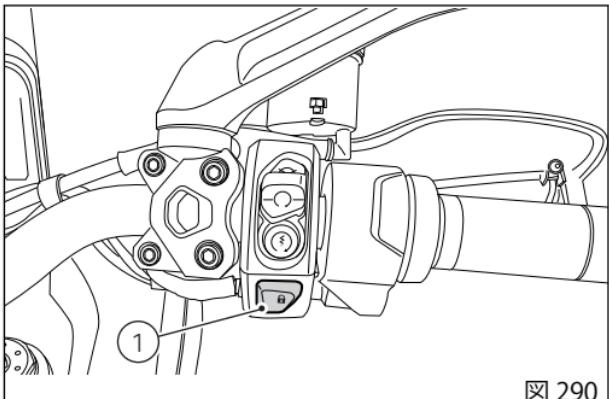


図 290



警告

発進を妨げるタイプの盗難防止用ロック(ディスクロック、リアスプロケットロック等)は大変危険です。車両の機能だけでなく、ライダーとパッセンジャーの安全をも損なうおそれがあります。

燃料の補給

給油の際、燃料の入れすぎに注意してください。燃料レベルはフィラープラグが収まる給油口より低くなければなりません。



警告

オクタン価が95以上の鉛含有量の低い燃料を使用してください。



警告

この車両にはエタノール含量が10%以下の燃料(E10)のみ使用することができます。

エタノール含量が10%以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が10%以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

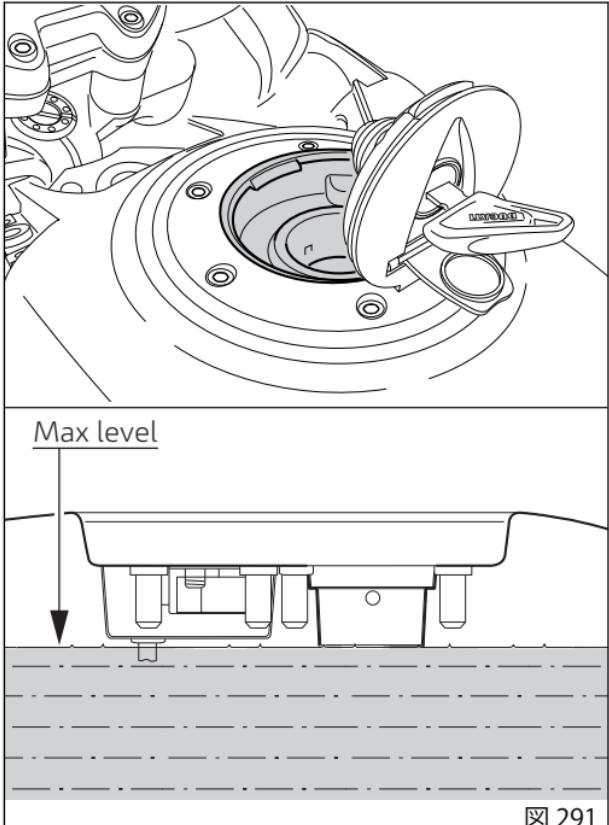


図 291

付属アクセサリー

パッセンジャーシート下のボックス(1)には、オーナーズマニュアル、ツールキット(2)が収納されています。ツールキットには次のものが含まれています。

- プラス/マイナスドライバー
- ドライバーのハンドル
- 六角レンチ 8 mm (0.31 in)
- 六角レンチ 5 mm (0.20 in)
- ヒューズ用ピンセット
- 両口スパナ 8/10
- パイプレンチ用ロッド 直径 6 mm (0.24 in)
- スパークプラグ用パイプレンチ
- 六角レンチ 4 mm (0.16 in)
- 六角レンチ 6 mm (0.24 in)

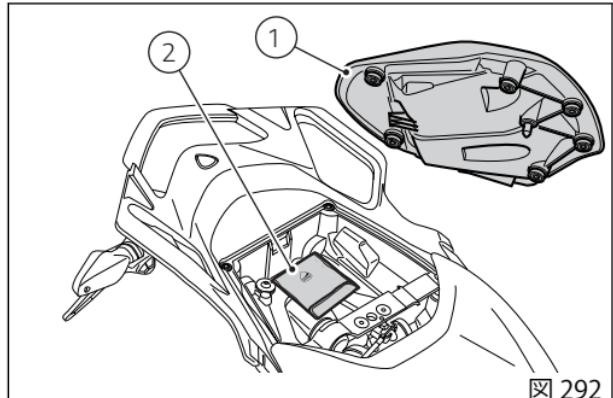


図 292

ボックスで作業を行うには、パッセンジャーシートを取り外してください。

主な整備作業とメンテナンス

クーラントレベルの点検および補充

ステアリングチューブ右側にあるリザーバータンク内のクーラントレベルを点検します。

ハンドルを左に振り切り、クーラントレベルがリザーバータンク脇にある MIN および MAX の目盛の間にありますことを確認します。

クーラントレベルが MIN より下の場合は補充します。フィラープラグ (1) を緩め、不凍液 ENI Agip

Permanent Spezial を薄めずに MAX のレベルになるまで補充します。

キャップ (1) を閉めます。

上記の混合液を使用することで最良のコンディションを保つ事ができます (-20° C/-4° F から凍結し始めます)。冷却回路の容量 : 2.5 リットル (0.66 ガロン)

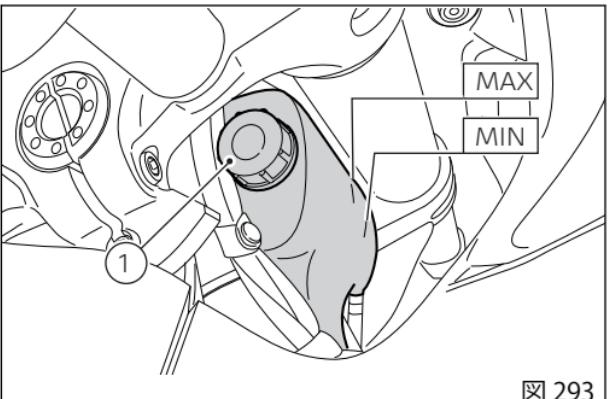


図 293



警告

この作業はエンジンが冷えた状態で実施します。
エンジンが熱い状態で作業をおこなうと、クーラント
や蒸気が吹き出して深刻なやけどを負うおそれがあり
ます。

ブレーキ/クラッチフルードレベルの点検

フロントブレーキ(1)/リアブレーキ(2)、クラッチ(3)の各フルードタンクのレベルは、絶対に各リザーバータンクのMIN目盛以下になってはいけません。

フルードレベルが下がりすぎると、回路内にエアが混入し、システムの作動に悪影響を及ぼします。

また、保証書内の定期点検表で指定されているブレーキ/クラッチフルード補充および交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

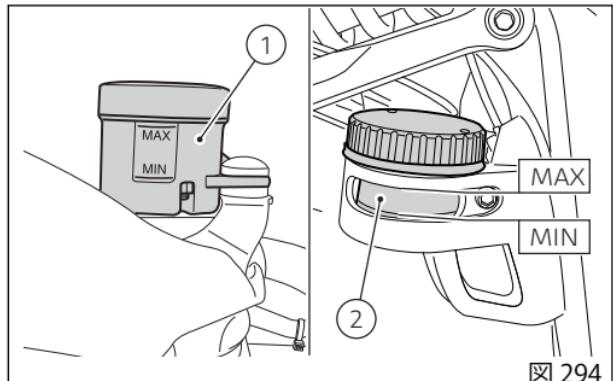


図 294

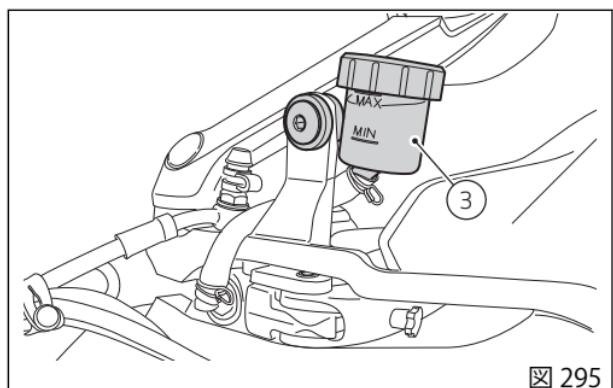


図 295

ブレーキシステム

ブレーキパッドが磨耗していないのにブレーキレバー、ブレーキペダルに過度の遊びがある場合は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡いただき、システムの点検とエア抜きを行ってください。



警告

ブレーキ/クラッチフルードはプラスチック製部品や塗装部分に損傷を与えるので、これらの部分にフルードが触れないよう注意してください。これらの液体は腐食性ですの損傷やケガを引き起こすおそれがあります。異なる品質のオイルを混ぜないでください。ガスケットの状態を点検してください。

クラッチシステム

クラッチレバーに過度の遊びがあり、ギアチェンジの際にエンジンがノッキングしたり止まったりする時は、システム内にエアが混入している事があります。システムを点検とエア抜きを行う必要があるため、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。



警告

クラッチフルードレベルはクラッチディスクの磨耗材が消耗すると上昇する傾向があります。規定レベルを超えないようにしてください(最低レベルの 3 mm (0.12 in) 上)。

ブレーキパッドの摩耗点検

キャリパー間の開口部からパッドの摩耗を点検します。
どちらか片方でもパッドの厚さが約1 mm になっている場合は、両方のパッドを交換します。



警告

パッドが消耗しすぎると、ブレーキディスクと金属製サポートが接触することでブレーキ性能、ディスクの正常な状態、またライダーの安全を損なうおそれがあります。



重要

ブレーキパッドの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

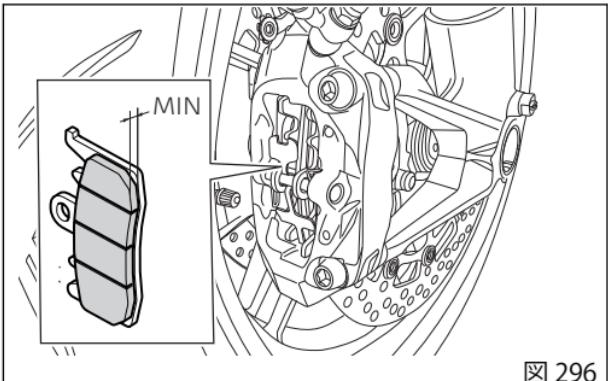


図 296

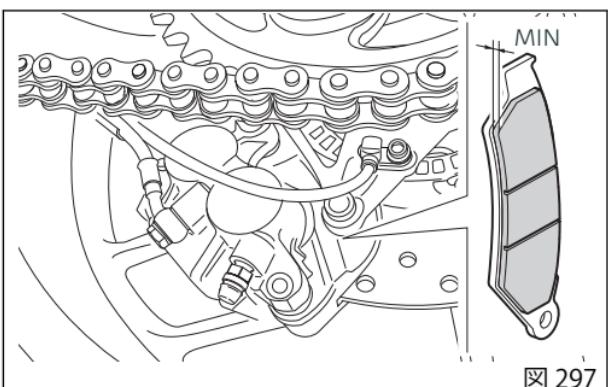


図 297

バッテリーの充電

バッテリーを充電する際は、バッテリーを車両から取り外してください。

ライダーシートを取り外します。スクリュー(1)を緩めて外し、固定ブラケット(2)を取り外します。スクリュー(3)を緩めて外し、プラスケーブル(4)およびプラスケーブル(ABS)(5)をプラス端子から、マイナスケーブル(6)をマイナス端子から取り外します。切り離しは必ずマイナス(-)から始めてください。バッテリーを上方向に引き抜きます。



警告

バッテリーは爆発性のガスを放出します。火花や炎、タバコを近づけないでください。バッテリー充電中、作業エリアが適切に換気されていることを確認してください。

充電は換気の良い場所で行ってください。
端子に充電器のコンダクターを接続します。赤い端子がプラス(+)、黒い端子がマイナス(-)です。

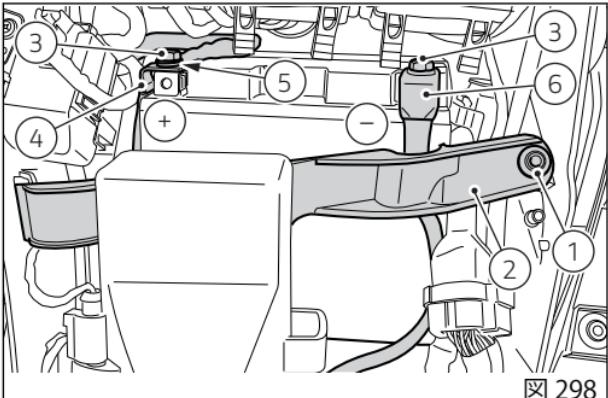


図 298



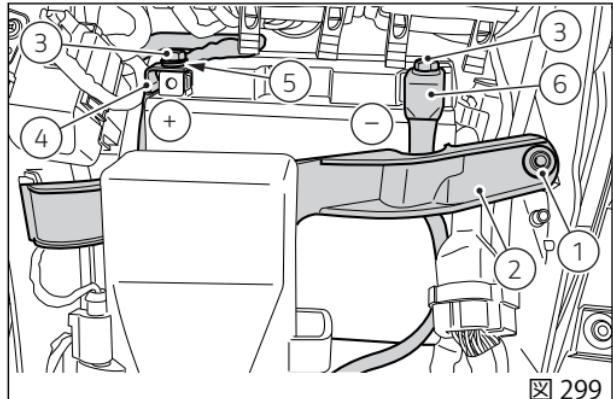
重要

バッテリーを充電器に接続する前に充電器の電源を入れないでください。接続する際に火花が発生し、セル内の可燃性ガスに引火する恐れがあります。接続は常に赤のプラス(+)端子から行ってください。

スクリュー(3)にグリースを塗布します。サポートにバッテリーを置き、プラスケーブル(4)およびABSプラスケーブル(5)をプラス端子に、マイナスケーブル(6)をバッテリーのマイナス端子に接続します。接続は必ず陽極(+)から始めてください。スクリュー(3)を差し込みます。バッテリー固定ブラケット(2)を取り付け、スクリュー(1)で締め付けます。

警告

バッテリーはお子様の手の届かないところに置いてください。



バッテリーを 0.9A で 5~10 時間充電します。

冬季のバッテリー充電およびメンテナンス

本車両のシート下にはコネクター(1)が装備されています。このコネクターには専用バッテリーチャージャー(2)(バッテリーメンテナーメンテナスキット(部品番号: 69924601A)(各国)またはバッテリーメンテナーキット(部品番号: 69924601AX)(日本、中国、オーストラリアのみ))を接続することができます。専用バッテリーチャージャーは当社販売店にてお求めいただけます。



本モデルのエレクトリカルシステムはエンジン停止状態での消費電力を非常に低く抑えるよう設計されています。ただし、バッテリーは自然に放電しており、放電量は使用していない期間や環境条件によって変化します。



所定のメンテナーを介してバッテリー電力の最低値が維持されないと、修理が不可能なバッテリーの劣化を招くサルフェーション現象が生じます。

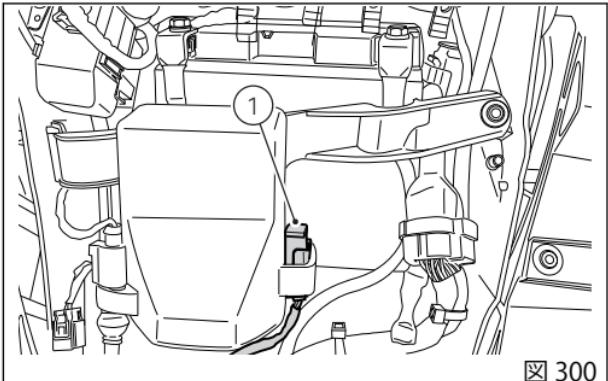


図 300

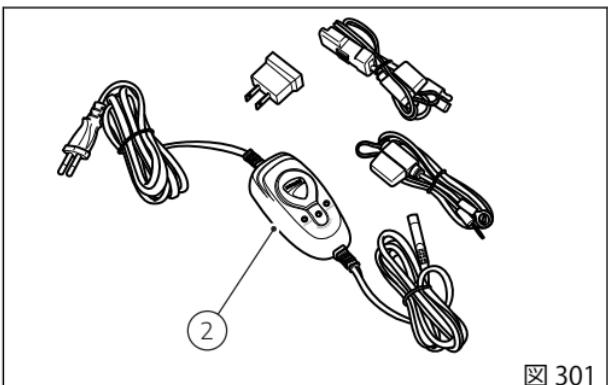


図 301



参考

車両を使用しない期間(およそ30日以上)、Ducatiバッテリーメンテナー(バッテリーメンテナーキット、部品番号:69924601A-多くの国、バッテリーメンテナーキット、部品番号:69924601AX-日本、中国、オーストラリアのみ)の使用をお勧めします。電力をモニターする内部エレクトロニクスが搭載されており、充電電流は最大1.5A/hです。メンテナーを車両後部にある診断ソケットに接続します。



参考

Ducatiが認可していないバッテリーメンテナーを使用すると、車両のエレクトリカルシステムに損傷を与えるおそれがあります。上記の理由でバッテリーが損傷した場合には、不適切なメンテナンスとみなしが保証の対象にはなりません。

トランスミッションチェーン張力の点検



重要

チェーン張力の調整は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

リアホイールを回転させ、チェーンが最も張る位置を探します。サイドスタンドで車両を支えて駐車します。チェーンの測定位置を指で下に押して放します。チェーンピンの中心とスイングアームのアルミニウムとの間の距離(A)を測定します。A=50~52 mm(1.97 ~ 2.05 in)でなければなりません。



重要

この手順は、納車時と同じ標準設定の車両に対してのみ有効です。



警告

ドライブチェーンが張りすぎ、もしくは緩みすぎている場合は、測定値が指定の値になるように調整します。

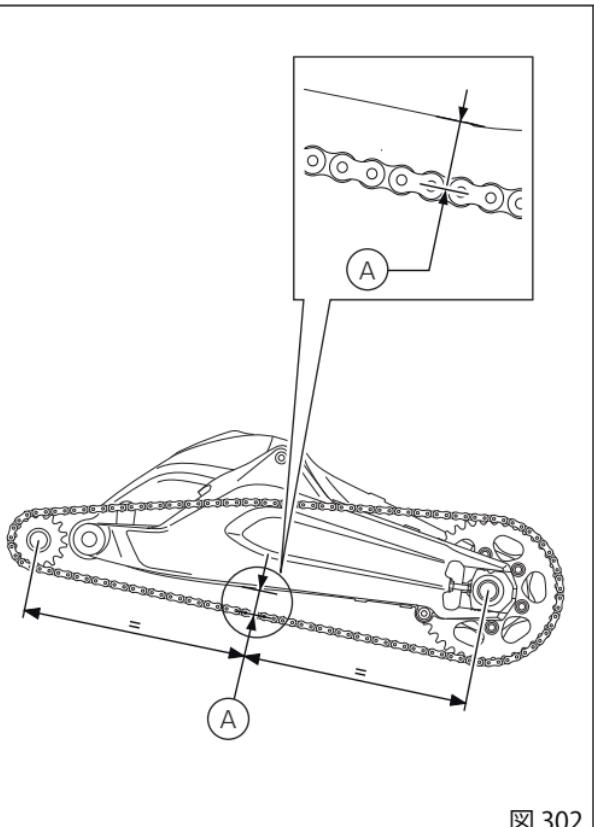


図 302

!**警告**

安全な走行状態を維持するには、スイングアームのスクリュー(1)の正しい締め付けが重要です。

!**重要**

チェーンの張りが不適切だとトランスマッショングループの磨耗を早めます。

!**重要**

チェーンが常に最高レベルの性能を維持し、かつ長持ちするようにするために、チェーンの洗浄、チェック、張りに関する情報に従うことを推奨します。

スイングアーム両側の位置決めマーキング(2)が合っていることを確認します。これにより正確なホイールアライメントを取ることができます。

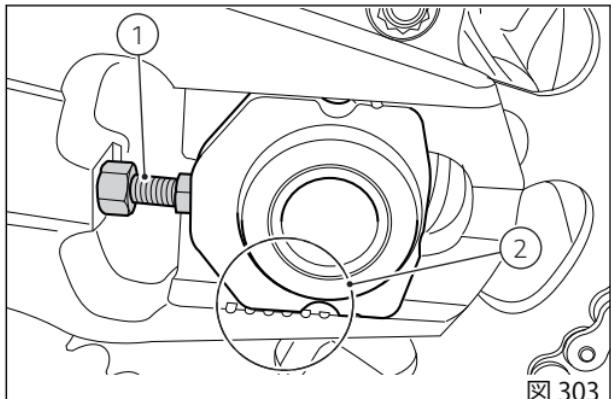


図 303

チェーンの潤滑



重要

ドライブチェーンの清掃は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

ドライブチェーンの清掃および潤滑

本車両には、泥などの侵入を防ぎ、潤滑状態を長く保つOリングガスケット付きチェーンが装着されています。

チェーンの潤滑を行う前に、チェーンを正しく洗浄し、清掃することが重要です。

チェーンの清掃は、その寿命を伸ばすために非常に重要なことです。従って、チェーン上に泥や土、砂、その他一般的な汚れが見られる場合は、それらの汚れをウォータージェットで取り除き、その後すぐに30cm(11.81インチ)以上離れたところから圧縮空気で乾燥させてください。

! 警告

蒸気やガソリン、溶剤、硬いブラシやその他、Oリングを傷つけるものは使用しないでください。さらにバッテリー電解液との接触を避けてください。図のように、リンクに小さなひび割れができるおそれがあります。

! 警告

特にバイクをオフロードで使用する場合は、チェーンガイドスライダーとの接触により、リンクが過度に摩耗することがあります。摩擦によりチェーンが過熱し、チェーンの熱処理が損なわれ、その結果特にリンクがもろくなるおそれがあります。

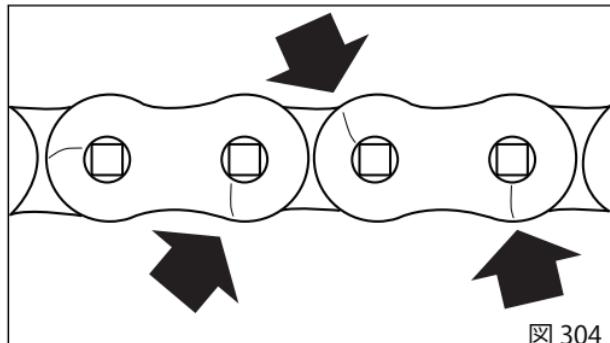


図 304

ドライブチェーンの潤滑



重要

ドライブチェーンの清掃は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。



警告

潤滑には SHELL Advance Chain を使用してください。規定以外の潤滑剤を使用すると O リングや、それに伴ってトランスミッションシステム内部を損傷することがあります。

チェーンの潤滑は、新しい潤滑剤がリンク間の内外に染み込み、保護作用がより効果的に発揮されるよう、バイクの使用後、車両が冷えるのを待たずに行ってください。

リアパドックスタンドに車両を駐車します。リアホイールを進行方向とは逆の方向に速く回転させてください。

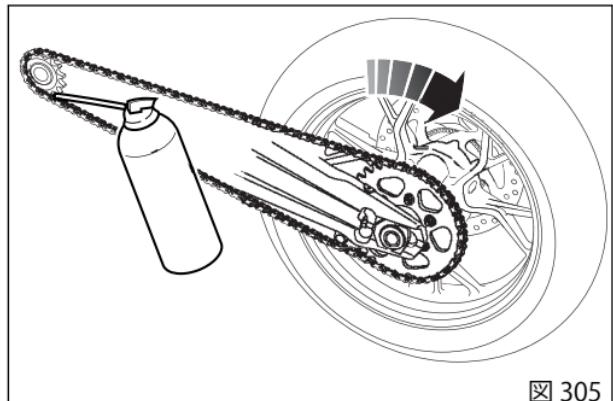


図 305

チェーン内部のリンクの内側と外側に、スプロケットとのかみ合わせの直前の箇所(2)で、潤滑剤(1)のジェットを噴射します。

遠心力によりスプレーの中身が液状になり、潤滑剤がピンとブッシュの間の作動部分に行き渡り、完璧な潤滑を保証します。

潤滑剤のジェットをチェーンの中央部(5)に配置して作業を繰り返し、図のようにニードルベアリング(4)および外側のプレート(6)を潤滑します。

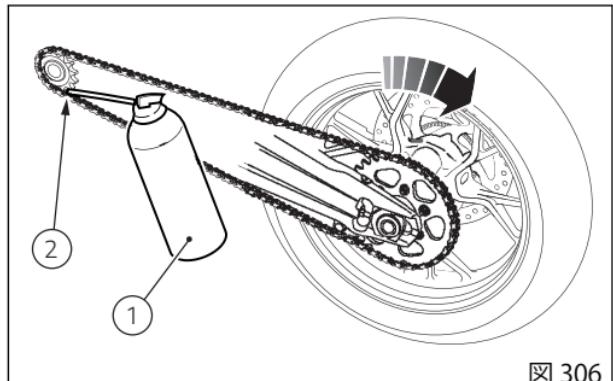


図 306

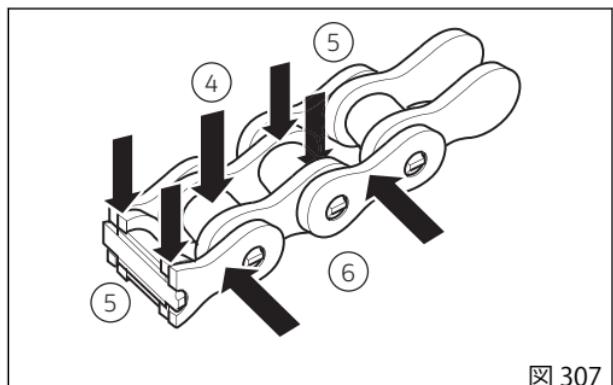


図 307

潤滑の終了後 10～15 分待ち、チェーンの内側と外側表面に潤滑剤を行き渡らせ、その後余分な潤滑剤を布でふき取ります。

!**重要**

チェーンの潤滑後、すぐにバイクを使用しないでください。潤滑の直後は潤滑剤がまだ流れやすく、外側に向かって飛び散り、後輪やライダーフットペグを汚す可能性があります。

!**重要**

チェーンのチェックを頻繁に行い、プログラムされた表に従って、少なくとも 1000 km (621 マイル) 每に行ってください。外気温度が高い(40° C) 土地での使用時、または長距離における高速道路での走行の後は、より頻繁(約 400 km (248 マイル) 每) に潤滑を行ってください。

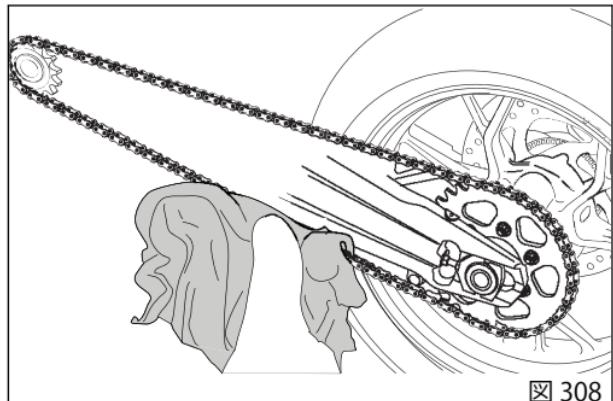


図 308

ナンバープレートランプ

ナンバープレートランプはLED電球ですのでメンテナ
ンスの必要はありません。

ヘッドライトの光軸調整



参考 ヘッドライトには左右の光軸調整用に2つのアジャスターが付いています。

正しいタイヤ空気圧に調整し、乗員1名がシートに乗った状態で、車両を壁面またはスクリーンの前10メートルの場所で縦軸に対して垂直に立て、ヘッドライトが正しい向きになっていることを確認します。壁にヘッドライトの中心と同じ高さで水平に線を引き、車体の縦軸に対応する垂直線も引きます。この点検は薄暗い場所で行ってください。ロービームランプを点灯し、左右の光軸調整を行います。照射領域の上限が、床面からヘッドライトの中心までの高さの9/10以下でなければなりません。



参考 この方法は、光軸の高さに関するイタリアの規則に準拠したものです。車両を使用する国、地域の法律に従い光軸調整を行ってください。

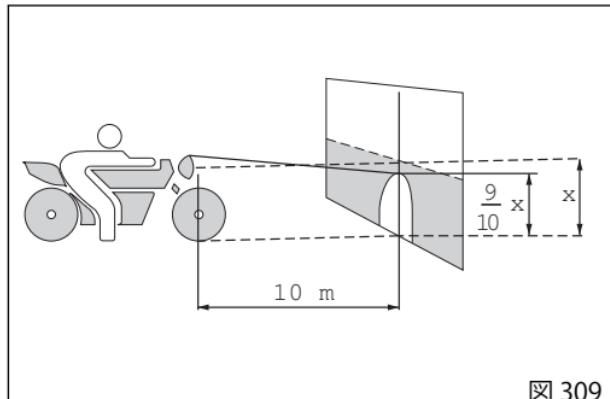


図 309

ロービーム/ハイビームランプの光軸高さ調整方法

- 1) ロービームの光軸を点灯します。
- 2) いずれか片方(右側または左側)のロービーム光軸を完全に覆います。
- 3) 対応する調整スクリュー(2)を操作して覆われていない光軸の垂直方向を調整します。ヘッドランプのスクリュー(2)を時計回りに回すと、光軸は下に移動します。反対方向に回すと上に移動します。
- 4) 調整を終えた光軸を覆います。もう片方の覆いを取り、作業3を繰り返します。
- 5) ハイビームを点灯し、調整スクリュー(1)を操作してハイビームの光軸を調整します。ヘッドランプのスクリュー(1)を時計回りに回すと、ハイビーム光軸は下に移動します。反対方向に回すと上に移動します。

!**警告**

雨天時または洗車後に車両を使用する際は、ランプレンズが曇っている場合があります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

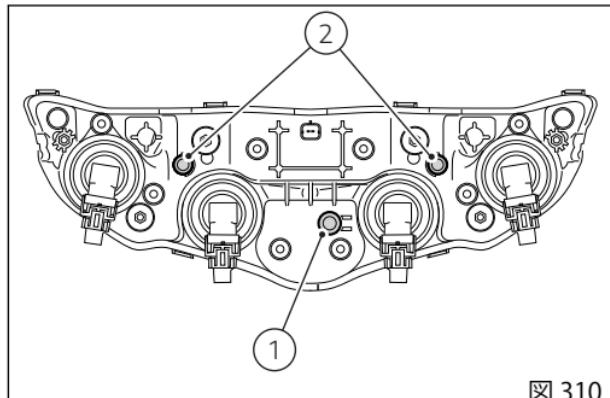


図 310

リアビューミラーの調整

ポイント(A)を押しながらミラーを手動で調整します。

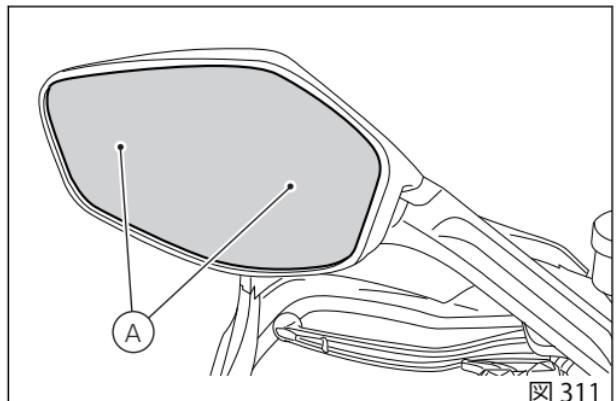


図 311

チューブレスタイヤ

Scorpion Trail II タイヤを装備する車両

フロントタイヤ空気圧：

2.4 bar (ライダーのみ) - 2.4 bar (最大積載時)

リアタイヤ空気圧：

2.5 bar (ライダーのみ) - 2.9 bar (最大積載時)

タイヤの空気圧は外気温や高度によっても変化します。標高の高い場所や気温差のある場所を走行する時は、その都度点検と調整を行ってください。

重要

タイヤの空気圧の測定、調整はタイヤ冷間時に行ってください。フロントリムがダメージを受けないように、悪路を走行する時はタイヤの空気圧を 0.2~0.3 bar 上げてください。

タイヤの修理、交換(チューブレス)

タイヤに穴が開いた場合、チューブレスタイヤは空気の減り方が遅いため、気付くまでに時間がかかることがあります。タイヤの空気圧が下がってきた場合は、パンクの可能性をチェックします。

警告

パンクしたタイヤは交換してください。交換する際は、標準装備タイヤと同じメーカー、タイプを指定してください。走行中のエア漏れを防ぐため、タイヤのバルブキャップがしっかりと締まっていることを確認してください。チューブタイプのタイヤは絶対に装着しないでください。突然タイヤが破裂し、ライダー、パッセンジャーに重大な危険を及ぼすおそれがあります。

タイヤ交換の後には、必ずホイールバランスの点検を行ってください。

警告

ホイールのバランスウェイトを外したり、移動させたりしないでください。

参考

タイヤの交換ではホイールを正しく着脱することが重要です。タイヤ交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。ホイールにはセンサー、フォニックホイールなどのABSシステム部品が装着されており、特別の調整が必要になります。

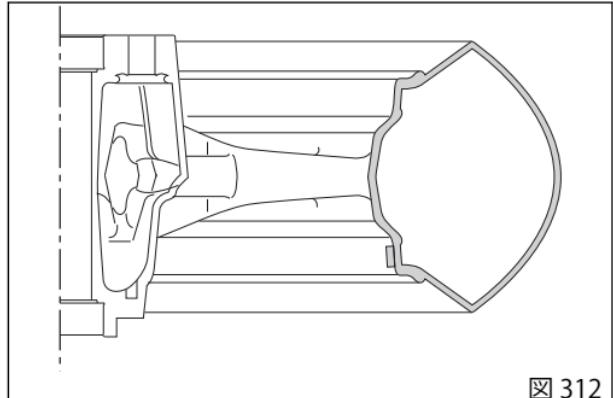


図 312

タイヤの摩耗限度

タイヤのトレッド面が一番摩耗している箇所(S)の溝の深さを測定します。溝の深さは2mm以上でなければならず、また現地法で定められた規定値以下であってはなりません。



重要

タイヤは定期的に点検し、特に側面に傷やヒビがないか、突起、広範囲のシミ、内部の損傷を表すような箇所がないかチェックしてください。損傷が著しい場合はタイヤを交換してください。トレッドに入り込んだ石や異物は取り除いてください。

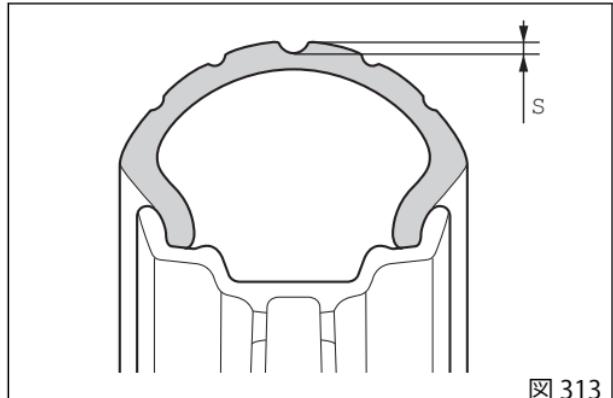


図 313

エンジンオイルレベルの点検

エンジンオイルの量は、エンジンブロック左側にある点検窓(1)から見ることができます。

オイル液面は、点検窓の横に指示された目盛の間になければなりません。オイル量が不足している場合は、エンジンオイルを補充してください。

ドゥカティ社推奨オイルは Shell Advance 4T Ultra 15W-50 です (JASO : MA2、API : SN)。

車両右側にあるフィラーキャップ(2)を外し、指定オイルを規定のレベルまで補充してください。フィラーキャップ(2)を取り付けます。



重要

保証書に記載されている定期点検表に従い、エンジンオイルとオイルフィルターの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

オイルレベルの正確な点検を実施するには、以下に記載する作業をよく読んで指示に従ってください。

1) ヘッドに溜まったオイルがオイルパンに戻るには時間が必要です。そのため、オイルレベルの点検はエンジンを切ってから少なくとも 2 時間が経過した後に実施してください。

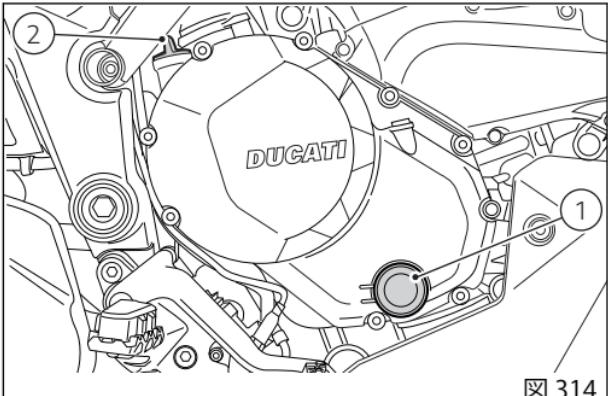


図 314

- 2) 平坦な場所に両方の車輪を地面に着け、直立に駐車します。
- 3) この時点で、エンジンオイル点検窓からオイルレベルを点検します。
- 4) オイルレベルが MIN と MAX 目盛りの中央より下であれば、MAX 目盛りまでオイルを補充してください。



警告

MAX 目盛りは絶対に超えないようにしてください。

オイルに関する推奨事項

以下を満たすオイルの仕様が推奨されます。

- 粘度分類 SAE 15W-50
- API 規格 : SN
- JASO 規格 : MA2。

SAE 15W-50 は英数字のコード番号で、粘度を基にオイルの分類を特定し、W で分けられた 2 つの数字であらわされます。最初の数字は低温でのオイルの粘度を表し、二番目の数字は高温での粘度を表します。API (米国での分類) および JASO (日本標準) は、オイルが有する特徴を表します。

スパークプラグの清掃と交換

スパークプラグはエンジンの重要な部品ですので、定期的な点検が必要です。

スパークプラグの交換は、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

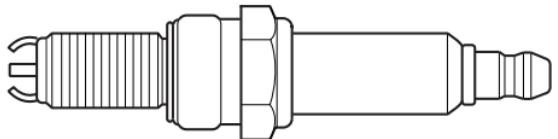


図 315

車両の清掃

塗装部分と金属部分の本来の艶を長期間保つため、使用状態や走行する道路の状態に合わせて、定期的に車両の清掃、洗車を行ってください。強力な洗剤や溶剤の使用は避け、可能であれば生分解性の専用洗剤を使用してください。

プレキシガラス部分やシートのお手入れには、水と中性洗剤を使用してください。

アルミニウム製部品は定期的に手作業で清掃してください。研磨剤や水酸化ナトリウムが含まれていないアルミニウム専用洗剤を使用してください。

参考

研磨材付きスポンジやスチールワールは使用せず、柔らかい布のみを使用してください。

十分なメンテナンスが行われていない車両は保証の対象なりません。

重要

走行直後のボディがまだ熱い状態にあるときは、水染み等を防ぐため洗車は行わないでください。洗車には温水ジェットや高压洗浄機を使用しないでください。

洗浄機の使用は、フォーク、ホイールハブ、電装システム、フォークガスケット、エアインテーク、エキゾーストサイレンサーの故障や不具合、ランプ内部の結露(くもり)を引き起こし、結果として車両の安全性を損ねるおそれがあります。

エンジンに著しい汚れや油脂汚れが見られる場合は、脱脂剤を使用して洗浄してください。その際、トランスミッション系統(チェーン、フロント/リアスプロケット等)に脱脂剤が付着しないように注意してください。

車両をぬるま湯で良くすすぎ、表面全体をセーム革で拭いて乾かします。

警告

洗車後は、ブレーキ性能が低下することがあります。ブレーキディスクには絶対にグリースや潤滑剤を塗布しないでください。ブレーキ性能が失われるおそれがあります。ディスクは非油性の溶剤で清掃してください。

警告

洗浄、雨、湿気などにより、ヘッドラランプレンズにくもりが生じることがあります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

ABSシステムが効率よく作動するように、フォニックホイールを入念に清掃してください。ホイールやセンサーを傷めますので、強力な洗剤や溶剤の使用は避けしてください。

警告

インストルメントパネルのクリアカバーにオイルや燃料が直接付着しないようにしてください。シミや損傷の原因となり情報を読み取りにくくなるおそれがあります。この部分の清掃にはアルコール系洗剤、溶剤や研磨剤入りの洗剤を使用しないでください。表面の硬いザラついたスポンジや布はキズが付くおそれがありますので使用しないでください。

参考

インストルメントパネルのクリアカバーは、やわらかい布を使用して水と中性洗剤、もしくはクリアプラスチック部品専用の洗剤で清掃してください。

重要

ドライブチェーンの清掃や潤滑は、「ドライブチェーンの潤滑」を参照してください。

長期間の保管

車両を長期間使用しない場合は、保管する前に以下の作業を行うようお薦めします。

- 車両を清掃します。
- 燃料タンクを空にします。
- スパークプラグの穴からシリンダー内に少量のエンジンオイルを注入し、エンジンを手で数回転させてシリンダー内壁に保護膜を形成させます。
- 車両をスタンドに立てかけて停車します。
- ケーブルを外し、バッテリーを取り外します。

1ヶ月以上車両を使用しなかった場合には、バッテリーの点検を実施し、必要であればバッテリーの充電または交換を行ってください。

結露を防止し塗装を保護するため、車体をカバーで覆います。

車体カバーは Ducati Performance にて取り扱っております。

重要注意事項

国によっては(フランス、ドイツ、イギリス、スイス等)排気ガス、騒音規制の基準を設けている場合があります。

法律で義務付けられている定期点検を実施し、交換が必要な部品については各国の規制に適合する Ducati 純正パーツと交換してください。

メンテナンスプログラム

メンテナンスプログラム：ディーラーで行うメンテナンス

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル毎、または経過時間*)	Km x1000	1	15	30	45	60	期間(月)
	マイル x1000	0.6	9	18	27	36	
DDS 2による不具合メモリーの読み取り、およびコントロールユニットのソフトウェアバージョンの更新確認		●	●	●	●	●	12
テクニカルアップデートおよびリコールの有無の確認		●	●	●	●	●	12
エンジンオイルおよびフィルターの交換		●	●	●	●	●	12
エンジンオイルインテークフィルター清掃		●		●		●	-
バルブクリアランスの点検と調整				●		●	-
タイミングベルトの交換				●		●	60
スパークプラグの交換				●		●	-
エアフィルターの清掃			●		●		12
エアフィルターの交換				●		●	-
ブレーキ / クラッチフルードレベルの点検		●	●	●	●	●	12
ブレーキ/クラッチフルードの交換							36
ブレーキパッドおよびディスクの摩耗点検必要な場合は交換		●	●	●	●	●	12

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル毎、または経過時間*)	Km x1000 マイル x1000	1	15	30	45	60	期間(月)
		0.6	9	18	27	36	
ワイヤースポークホイールのワークショップマニュアルに準拠する点検(ワイヤースポークホイール搭載バージョンのみ)		●	●	●	●	●	-
フロント/リアブレーキキャリパースクリュー、フロントブレーキディスクフランジスクリューの締め付け点検		●	●	●	●	●	12
リアブレーキディスクおよびフォニックフォイールのスクリュー締め付け点検			●	●	●	●	12
フロント、リアホイールナットの締め付け点検		●	●	●	●	●	12
エンジンへのフレーム固定部品の締め付け点検			●	●	●	●	12
フロント、リアホイールハブベアリングの点検			●	●	●	●	12
リアホイールシャフトの点検と潤滑				●		●	-
リアスプロケットのダンパーの点検				●		●	-
ファイナルドライブのリアスプロケットのナット、フロントスプロケットのナット締め付け目視点検		●	●	●	●	●	12
ファイナルドライブ(チェーン、フロントスプロケット、リアスプロケット)、およびチェーンスライダーの磨耗点検			●	●	●	●	12
ドライブチェーン張力の点検と潤滑		●	●	●	●	●	12
ステアリングベアリングの点検				●		●	-

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル毎、または経過時間*)	Km x1000 マイル x1000	1	15	30	45	60	期間(月)
		0.6	9	18	27	36	
フロントフォークオイルの交換					●		-
フロントフォーク、リアショックアブソーバーのシーリング部品の目視点検	●	●	●	●	●		12
サイドスタンド、センタースタンドの動作および締め付け点検(装備している場合)	●	●	●	●	●		12
フューエルホースの目視点検			●		●		-
フレキシブルケーブルと配線ケーブルの摩擦部分、遊びと動作、取り付け位置の目視点検	●	●	●	●	●		12
ハンドルレバー、ペダルコマンドの潤滑		●	●	●	●		12
クーラントの交換				●			48
クーラントレベルの目視点検、冷却回路の密閉状態の点検	●	●	●	●	●		12
タイヤ空気圧、磨耗点検	●	●	●	●	●		12
バッテリー充電レベルの点検(インストルメントパネルのメニューから)	●	●	●	●	●		12
電気安全装置の作動点検(サンドスタンドセンサー、フロント/リアブレーキスイッチ、エンジン停止スイッチ、ギア/ニュートラルセンサー)	●	●	●	●	●		12

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル毎、または経過時間*)	Km x1000 マイル x1000	1	15	30	45	60	期間(月)
		0.6	9	18	27	36	
ランプ、インジケーター類、警告ホーン、コマンド類の点検		●	●	●	●	●	12
DDS 2.0 を介したサービスインジケーターのリセット		●	●	●	●	●	12
安全装置(ABS、DTCなど)、エレクトリックファン、アイドリングの機能点検を兼ねた路上での走行テスト		●	●	●	●	●	12
車両のソフトクリーニング		●	●	●	●	●	12
定期点検実施の車載書類(サービスブック)への記入		●	●	●	●	●	12

* 走行距離 (km、mi) または経過時間 (月) のうち、どちらか先に到達した時点で点検を実施してください。

オフロードで車両を使用する場合は、規定の点検間隔よりも短い間隔で点検を実施してください。

メンテナンスプログラム：お客様が行うメンテナンス



重要

ぬかるみや乾燥したほこりっぽい環境など過酷な状況でモーターサイクルを使用すると、トランスマッシュョン、ブレーキシステム、エアフィルター等の部品の摩耗を早める可能性があります。エアフィルターが汚れていると、エンジンが損傷するおそれがあります。そのため規定されている定期点検の間隔より早く、定期点検や摩耗しやすい部品の交換が必要な場合があります。

メンテナンス項目/作業内容 (km/mile 毎、または経過時間 *)	Km x1000	1
	マイルx1000	0.6
月	月	6
エンジンオイルレベルの点検		●
ブレーキオイルレベル点検		●
タイヤ空気圧、磨耗点検		●
チェーン張力の点検と潤滑		●
ブレーキパッドの点検必要であれば、ディーラーにて交換してください。		●

* 走行距離 (km、mi) または経過時間 (月) のうち、どちらか先に到達した時点で点検を実施してください。

テクニカル仕様

重量

車両重量 (燃料 90% を含むすべての液体類を装備 - 93/93/CE ガイドラインに準拠) :

- (S) 230 kg (507.06 lb)
- (SW) 235 kg (518.09 lb)

車両重量 (液体類およびバッテリーを除く) :

- (SW) 212 kg (467.38 lb)
- (S) 207 kg (456.36 lb)

車両総重量 (最大負荷重量) : 465 kg (1025.15 lb)

!**警告**

重量制限を遵守しない場合、操縦性と性能の低下を招き、車両のコントロールを失う原因となります。

!**警告**

サイドバッグ、トップケース、およびタンクバッグ装着時の最高速度は 180 km/h (112 mph) を超えないでください。いずれの場合も法定速度を遵守してください。

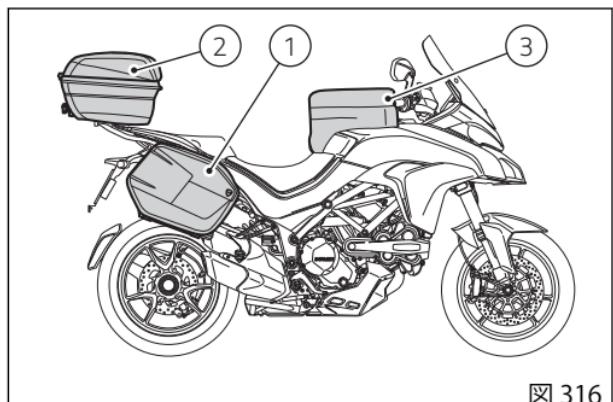


図 316

!**警告**

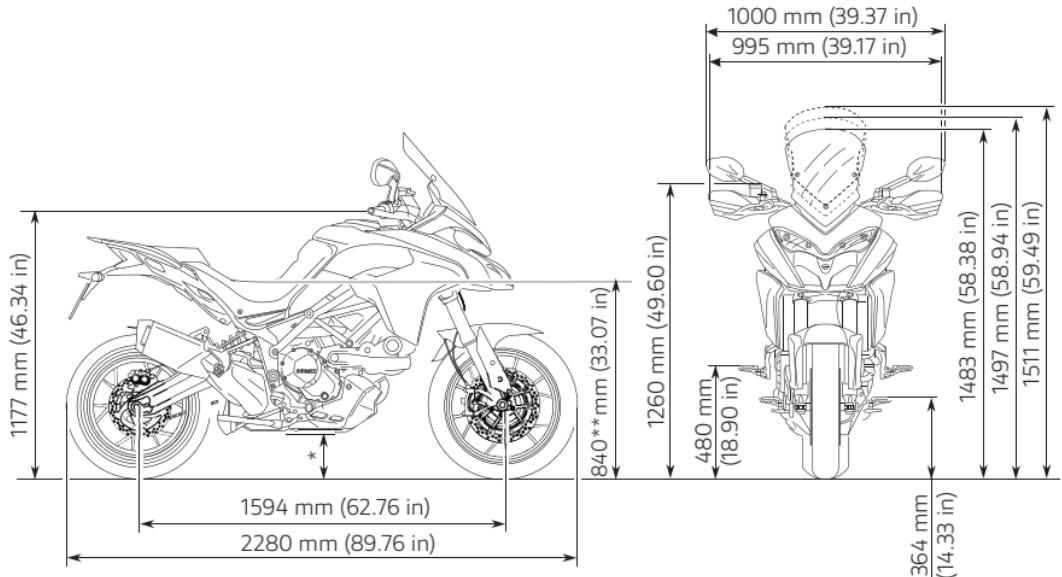
サイドバッグ、トップケース、タンクバッグの総重量が 30 kg (66 lb) を超えないようにしてください。重量配分は以下のとおりです。

各サイドバッグ (1) につき最大 10 kg (22 lb)

トップケース (2) は最大 5 kg (11 lb)

タンクバック (3) は最大 5 kg (11 lb)

サイズ



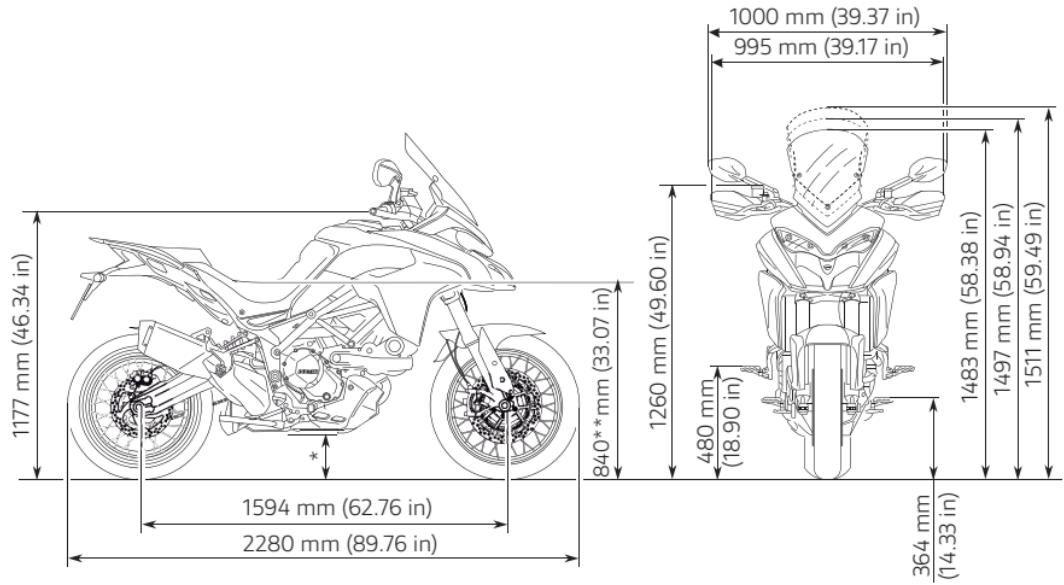
Sバージョン

* ポリマー製/アルミニウム製オイルパンガード：188 mm (7.40 in) / 170 mm (6.69 in)

** ローシート(オプション)/ハイシート(オプション)：

820 mm (32.28 in) / 860 mm (33.86 in)

図 317



SW バージョン

* ポリマー製 / アルミニウム製 オイルパンガード : 188 mm (7.40 in) / 170 mm (6.69 in)

** ローシート(オプション) / ハイシート(オプション) :

820 mm (32.28 in) / 860 mm (33.86 in)

図 318

補給

補給	タイプ	
燃料タンク、リザーブ 4 リットル (0.88 gal) を含む	V-Power を使用してください。	(4.40 ガロン)
エンジンクランクケースおよびフィルタ 一	ドゥカティ社推奨オイルは SHELL Advance 4T Ultra 15W-50 (JASO: MA2、API : SN) です。	3.4 リットル (0.74 ガロン)
フロント/リアブレーキシステム、クラッ チ	-	-
電極保護液	電気系統の保護スプレー	-
フロントフォーク	SHELL Donax TA	右レッグ $765 \pm 5 \text{ cm}^3$ (46.68 ± 0.3 in ³) $650 \pm 5 \text{ g}$ (1.43 ± 0.011 lb) 左レッグ $265 \pm 5 \text{ cm}^3$ (16.17 ± 0.3 in ³) $313 \pm 5 \text{ g}$ (0.69 ± 0.011 lb)
冷却システム	不凍液 ENI Agip Permanent Spezial (薄めずに使用)	2.4 リットル (0.53 ガロン)

! 重要

燃料、潤滑液等には絶対に添加剤を加えないでください。このような燃料を使用すると、エンジンや車両の部品に重大な損傷をきたすおそれがあります。

! 警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。
エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

エンジン

ドゥカティテスタストレッタ、"L"型2気筒、シリンダーごとに4バルブのデスマドロミックタイミングシステム、水冷式。

ボア：94 mm (3.7 in)

ストローク：67.5 mm (2.66 in)

総排気量：937 cm³ (57.18 cuin)

圧縮比：(12.6±0.5):1

潤滑方式：バイパスバルブ内蔵オイルロープポンプおよびオイルクーラー。

クランクシャフト最高出力、規制(EU)No.134/2014

添付 X、kW /HP :

83 kW/113 HP / 9000 rpm

クランクシャフト最大トルク、規制(EU)No.134/2014

添付 X :

96 Nm/9.8 Kgm / 7750 rpm

最大回転数：

10200 rpm



重要

走行中いかなる状況においても、決して最高回転数を超えてはいけません。



警告

記載されている出力/トルクデータは、基準適合規則に従って静的テストベンチを使用して測定されたもので、認証時に測定され車両登録証に記載されているデータと同じになります。

タイミングシステム

8個のロッカーアーム、およびダブルオーバーヘッドカムシャフトで制御されるシリンダーごとに4バルブのデスマドロミックシステム。スパーギア、プーリー、コグドベルトを介してクラランクシャフトで制御されます。

デスマドロミックタイミングシステム

- 1) オープニング(アッパー)ロッカーアーム
- 2) オープニングロッカーシム
- 3) クロージング(ロア)ロッカーシム
- 4) クロージングロッカーアームリターンスプリング
- 5) クロージング(ロア)ロッカーアーム
- 6) カムシャフト
- 7) バルブ

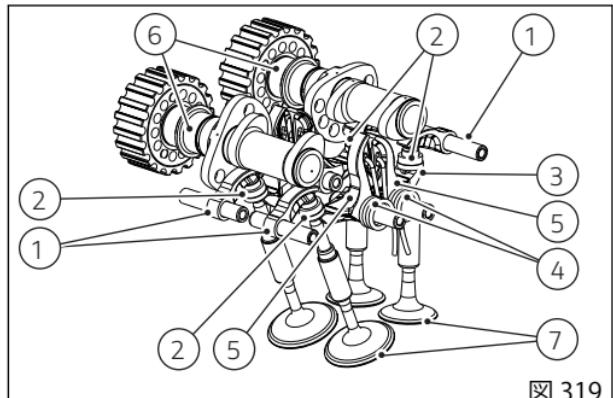


図 319

性能データ

各ギアにおける最高速度は、決められた慣らし期間を正しく守り、適切な定期点検整備を受けた場合にのみ出すことができるようになります。

! 重要

これらの条件が守られなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮について、Ducati モーターホールディング社は一切責任を負うものではありません。

スパークプラグ

メーカー：NGK

タイプ：MAR9A-J

燃料供給

BOSCH 製エレクトロニックインジェクションシステム。

スロットルボディタイプ：フルライドバイワイヤシステムを備えた円筒状

スロットルボディ直径：53 mm (2.09 in)。

インジェクター数 (各吸気ポート) : 1

インジェクター孔数：10

ガソリン燃料：95-98 RON



警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁止されています。このような燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたすおそれがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用すると保証の対象外になります。

ブレーキ

各ブレーキのアンチロックシステムは、両タイヤに装備されたホール効果センサーで制御されます。ABS の解除が可能です。

フロント

穴付きセミフローティングダブルディスク

ブレーキシュー材質：ステンレススチール

ハウジング材質：ステンレス

ディスク径：320 mm (12.60 in)。

フロントブレーキディスク厚：4.5 mm (0.18 in)。

ディスク厚 (摩耗限界) : 4 mm (0.16 in)。

ブレーキング面積：265 cm² (41.07 in²)

右側ハンドルレバーによる油圧コントロール

ブレーキキャリパーメーカー：BREMBO、モノブロッククラジアルマウント

キャリパーピストン径：32 mm (1.26 in)。
キャリパーのピストン数：4
フロントブレーキタイプ：M4.32 B (4x32)
ブレーキパッド材質：BRM11E HH
ブレーキポンプタイプ：ラジアル
ポンプシリンダー径：18 mm (0.71 in)。

リア

穴付き固定ディスク、スチール製
ディスク径：265 mm (10.43 in)。
リアブレーキディスク厚：6 mm (0.24 in)
ディスク厚(摩耗限界)：5.4 mm (0.21 in)。
ブレーキング面積：210 cm² (32.55 in²)
車体右側ペダルによる油圧コントロール
ブレーキキャリパーメーカー：BREMBO 2 ピストン、
フローティング、コーナリング ABS 標準装備
直径 28 mm (1.10 in) 2 ピストン固定キャリパー
ブレーキパッド材質：TT 2182 FF
ブレーキポンプ：PF 2x28 D

警告

ブレーキフルードは腐食性があります。
万一目に入ったり肌に触れたりした場合は、流水でし
っかりと洗い流してください。

トランスマッション

湿式多板クラッチ、油圧式制御、セルフサーボ機構お
よびスリッパークラッチ機構付き
エンジンとギアボックスメインシャフト間の駆動伝
達。

エンジンスプロケット/クラッチスプロケット比：
33/61

スパーギア付きトランスマッション、ギア比 1.84:1
6速コンスタントギア、車体左側ペダルによる操作

ギアスプロケット/リアスプロケット比：15/43

変速比：

1速 37/15

2速 30/17

3速 28/20

4速 26/22

5速 24/23

6速 23/24

チェーンによるギアボックスとリアホイール間の駆動
伝達

メーカー：DID 525 HV3

リンク数：114

リンク数 (ROK-TWN バージョン)：112

! 重要

上記のギア比は認可時の値ですので、いかなることであっても変更してはいけません。

本車両の競技用仕様への変更をご希望のお客様には、Ducati モーター・ホールディング社から特別なギア比に関する情報をご提供することが可能です。Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

! 警告

リアスプロケットの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

この部品の誤った交換は、ライダーおよびパッセンジャーの安全に深刻な危険をもたらし、車両に修復不能な損傷を与える恐れがあります。

フレーム

スチール製トレリスパイプフレーム。

スチール製トレリスパイプリアサブフレーム

エンジン上にピボットする軽合金製ダイキャスト接続

サイドプレート

キャスター角：25°

トレール：106 mm (4.17 in)。

ステアリングアングル：左側 40° / 右側 40°

シート数：2

ホイール

フロント

(S) 軽合金铸造リム

(SW) アルミニウム合金製ワイヤースポークホイール、チューブレス

寸法：MT3.00x19"

リア

(S) 軽合金铸造リム

(SW) アルミニウム合金製ワイヤースポークホイール、チューブレス

寸法：4.50x17"

タイヤ

フロント

チューブレスラジアルタイヤ

寸法：120/70 ZR19 M/C 60W

メーカーおよびタイプ：Pirelli Scorpion Trail II

リア

チューブレスラジアルタイヤ

寸法：170/60 ZR17 M/C 72W

メーカーおよびタイプ：Pirelli Scorpion Trail II

サスペンション

フロント

SACHS 製倒立フォーク、リバウンド/コンプレッショ
ンダンピングおよびスプリングプリロードの調整が可
能なフルアジャスタブル、ドゥカティスカイフックサ
スペンションEvo (DSS)による電子制御。

バイク設定タイプ：ライダーのみ、ライダー+荷物、
ライダー+パッセンジャー、ライダー+パッセンジ
ヤー+荷物。

インナーチューブ径：48 mm (1.89 in)。

ホイールトラベル：170 mm (6.69 in)。

リア

SACHS 製フルアジャスタブルモノショックアブソーバ
ー付きプログレッシブサスペンション、コンプレッシ
ョンダンピング、リバウンドダンピング、スプリング
プリロードの調整が可能なフルアジャスタブル、ドゥ
カティスカイフックサスペンションEVO (DSS)による
電子制御。

バイク設定タイプ：ライダーのみ、ライダー+荷物、
ライダー+パッセンジャー、ライダー+パッセンジ
ヤー+荷物。

ショックアブソーバーストローク：69 mm (2.72 in)。
ホイールトラベル：170 mm (6.69 in)。

エキゾーストシステム

レイアウト 2 in 1 膨張室式プリサイレンサー、ラムダ
センサー 2 個および触媒 1 個付き。

ストレート構造。

適合規格 Euro 4

排出量および燃費：排出量 129 g/km Euro 4

カラーバリエーション

Multistrada 950 S / Multistrada S-SW

ドゥカティレッド

- 1) ベース(プライマー)アクリフレックス、ホワイト
ベースまたはデュアルプライマーレッド VM、供
給元 Lachler、コード：L0040652 または
LDS20067
- 2) ベース(ベースコート)ドゥカティレッド、供給元
PPG、コード：473.101
- 3) クリア(クリアコート)Tixo Klarlack 09、供給元
Lechler、コード：96230

グロッシーグレー

- 1) ベース(プライマー)ベース 2K ホワイト、供給元
Palinal、コード：873AC001
- 2) ベース(ベースコート)グロッシーグレー、供給元
Palinal、コード：928K791

3) クリア(クリアコート)アクリルクリア2KTixo、
供給元Palinal、コード:923I1826

フレームカラー:ブラック

リムカラー:ブラック

エレクトリカルシステム

主要構成部品は以下の通りです。

バッテリー：密閉型、12V - 10 Ah

ジェネレーター：14V - 490W - 35A

スターターモーター：12V - 0.7kW

LCD ディスプレイ付きデジタルインストルメントパネル

ヘッドライト

LED ロービームランプ：OSRAM OSLON GW

CSSRM1.PC 8 個

LED ハイビームランプ：OSRAM OSTAR LE UW U1A4
01 2 個

LED コーナリングランプ：OSRAM OSLON GW
CSSRM1.PC 2 個

LED パーキングランプ：LED STW8Q14C 2 個

ターンインジケーター

LED フロントランプ(ヨーロッパ / USA)：LED
Dominant Primax NAZY-BHG-MN3-1 12 個

LED リアランプ(ヨーロッパ)：LED PC AMBER PHILIPS
LXM2 - PL01 1 個

リアランプ(USA)：電球 RY10W 12V - 10W (オレンジ)
1 個

テールランプ

LED パーキングランプ：LED Osram LA-W5SM-JYKY-24-1 2 個

LED ストップランプ：LED Osram LA-E6SF-BBCB-24-1 10 個

LED ナンバープレートランプ：LED CREE CLA1A-WKW-CXAYB453 3 個

フォグランプ

LED フォグランプ(Enduro カスタマイズ)：LED
OSRAM KW H3L531.TE 1 個

ヒューズ

電装品の保護ヒューズはフロントヒューズボックスと
リアヒューズボックス内に 12 個、スターターコンタクター上に 1 個あります。各ヒューズボックス内には
予備ヒューズが 1 個あります。

ヒューズが保護する装置、アンペア値については表を
参照してください。

フロントヒューズボックス(A)は左ダッシュボード内側に位置し、点検窓を外すとアクセスが可能になります。ヒューズを交換するには、各ヒューズの配置と定格が表記された保護カバーを外します。3つの予備ヒューズ(7.5 A、15 A、25 A)が横側に配置されています。

リアヒューズボックス(B)およびABSヒューズ(C)は、ABSコントロールユニット横、リアサブフレームの右側フレーム上に位置します。リアヒューズボックスおよびABSヒューズボックスで作業を行うには、ライダーシートを取り外す必要があります。「シートロック」を参照してください。ヒューズを交換するには、各ヒューズの配置と定格が表記されている保護カバーを外します。3つの予備ヒューズ(10 A、15 A、25 A)が横側に配置されています。

フロントヒューズボックス凡例(A)		
配置	保護装置	容量
1	KEY EMS / ABS / IMU	5 A
2	KEY DSB / BBS	15 A
3	KEY ランプ	15 A
4	-	-
5	KEY アクセサリー	10 A

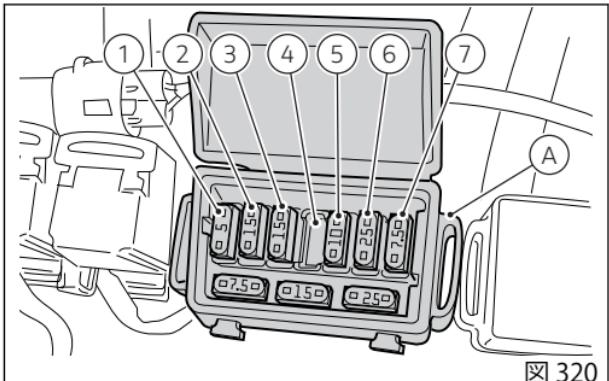


図 320

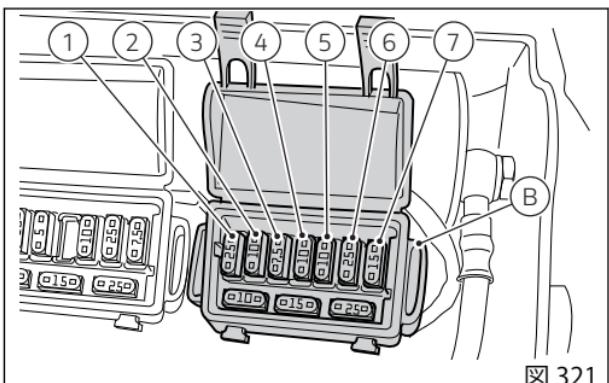


図 321

フロントヒューズボックス凡例 (A)		
6	KEY Hands Free	25 A
7	+30 診断 / 充電	7.5 A

リアヒューズボックス凡例 (B)		
配置	保護装置	容量
1	EMS 負荷リレー	25 A
2	燃料ポンプリレー	10 A
3	スターターリレー	7.5 A
4	インストルメントパネル	10 A
5	Black Box システム (BBS)	10 A
6	ABS UBMR	25 A
7	ABS UBVR	15 A

メインヒューズ(C)(30A)はスターターコンタクター上に設置されています。メインヒューズを交換するには、保護キャップを取り外してください。切れたヒューズは、インナーフィラメント(F)が溶断しているかどうかで確認することができます。

重要

回路のショートを防止するために、ヒューズ交換の前にイグニッションキーをOFFにしてください。

警告

表示されている規定以外のヒューズは決して使用しないでください。上記事項を守らなかった場合、エレクトリカルシステムの損傷や火災を引き起こすことがあります。

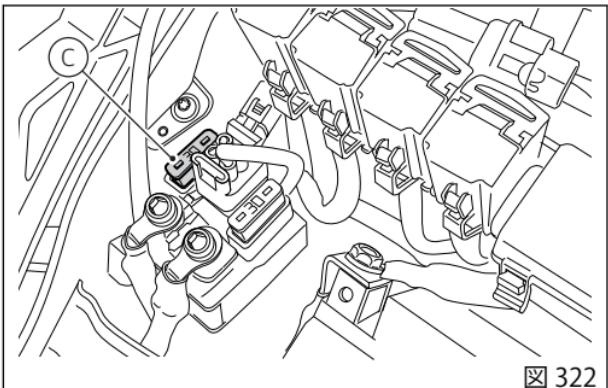


図 322

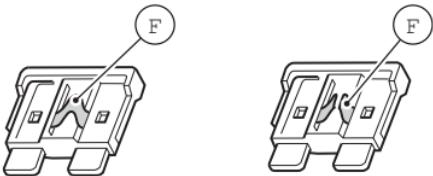


図 323

インジェクション/エレクトリカルシステム配線 図凡例

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| 1) 温度センサー | 24) リア配線 |
| 2) 12V フロント電源ソケット | 25) IMU コントロールユニット |
| 3) ナビゲーター接続 (装備している場合) | 26) インジェクター |
| 4) Bluetooth (装備している場合) | 27) ホリゾンタルメインインジェクター |
| 5) ハンドルバー左側スイッチ | 28) (ETV) ホリゾンタル |
| 6) ハンドルバー右側スイッチ | 29) バーチカルラムダセンサー |
| 7) イモビライザー | 30) ホリゾンタルラムダセンサー |
| 8) イグニッションスイッチ | 31) エンジン回転数/タイミングセンサー |
| 9) 配線アース | 32) バーチカルメインコイル |
| 10) バッテリー | 33) ホリゾンタルメインコイル |
| 11) ヒューズコンタクター | 34) オイル圧センサー |
| 12) 左ファン | 35) ブリードバルブ (ページバルブ) |
| 13) 右ファン | 36) STOP スイッチ |
| 14) ジェネレーター | 37) クラッチスイッチ |
| 15) レギュレーター | 38) サイドスタンドスイッチ |
| 16) USB ソケット | 39) エンジン温度センサー |
| 17) 12V リア電源ソケット | 40) 気温センサー |
| 18) データ取得/診断 | 41) バーチカル MAP センサー |
| 19) 盗難防止アラーム | 42) ホリゾンタル MAP センサー |
| 20) テールライト | 43) セカンダリーエアセンサー |
| 21) 右リアターンインジケーター | 44) 左フロントターンインジケーター |
| 22) ナンバープレートランプ | 45) インストルメントパネル |
| 23) 左リアターンインジケーター | 46) 右フロントターンインジケーター |
| | 47) フォグランプ (オプション) |
| | 48) 左ロービームランプ |
| | 49) 左ハイビームランプ |

- 50) フロントパーキングランプ
- 51) 右ハイビームランプ
- 52) 右ロービームランプ
- 53) 警告ホーン
- 54) 左ヒーテッドグリップコネクター(装備している場合)
- 55) 右ヒーテッドグリップコネクター(装備している場合)
- 56) イモビライザリレー
- 57) ヒューズボックス(2)
- 58) ヒューズボックス(1)
- 59) 車両コントロールユニット(BBS)
- 60) リアストップ
- 61) エキゾーストバルブモーター
- 62) 燃料レベル
- 63) リアスピードセンサー
- 64) ABS
- 65) フロントスピードセンサー
- 66) フューエルポンプ
- 67) コントロールユニットメインリレー
- 68) 燃料ポンプリレー
- 69) スターターリレー
- 70) インジェクションコントロールユニットコネクター(A)(EMS)
- 71) インジェクションコントロールユニットコネクター(B)(EMS)

- 72) グリップポジションセンサー(APS)
- 73) ギアセンサー

配線カラー表

- B 青
- W 白
- V 紫
- Bk 黒
- Y 黄
- R 赤
- Lb ライトブルー
- Gr グレー
- G 緑
- Bn 茶
- O オレンジ
- P ピンク



参考

配線図はマニュアルの最後部にあります。

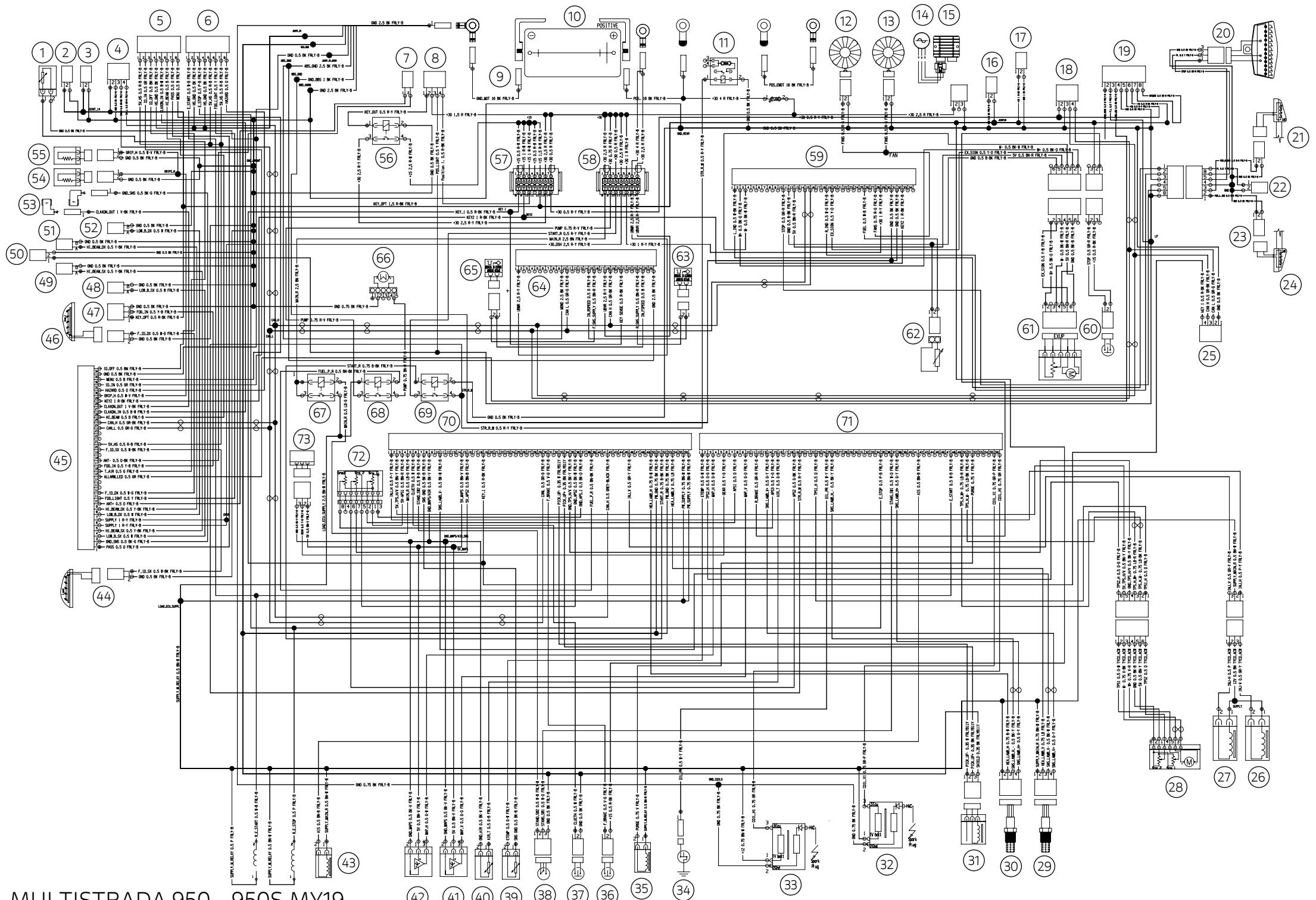
定期点検メモ

定期点検メモ

キロ	マイル	ドゥカティサービス名	走行距離	日付
1,000	600			
15,000	9000			
30,000	18,000			
45000	27000			
60000	36,000			

Stampato 02/2019

Cod. 913.7.419.1B



MULTISTRADA 950 - 950S MY19

cod. 913.7.419.1B

Ducati Motor Holding spa
ducati.com

Via Cavalieri Ducati, 3
40132 Bologna, Italy
Ph. +39 051 6413111
Fax +39 051 406580

A Sole Shareholder Company
A Company subject to the Management
and Coordination activities of AUDI AG